

vSphere Update Manager インストールおよび管理ガイド

Update 2

変更日：2021年8月11日

VMware vSphere 6.7

vSphere Update Manager 6.7

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>)

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴィエムウェア株式会社
〒108-0023 東京都港区芝浦 3-1-1
田町ステーションタワー N 18 階
www.vmware.com/jp

Copyright © 2009-2022 VMware, Inc. All rights reserved. 著作権および商標情報。

目次

VMware vSphere Update Manager のインストールと管理について 9

更新情報 11

1 Update Manager について 13

- Update Manager クライアント インターフェイスの概要 14
 - vSphere Client の Update Manager クライアント インターフェイス 15
 - vSphere Web Client の Update Manager クライアント インターフェイス 16
- Update Manager の処理について 17
 - Update Manager のダウンロード ソースの構成 18
 - 更新および関連するメタデータのダウンロード 19
 - ESXi イメージのインポート 21
 - ベースラインおよびベースライン グループの作成 21
 - vSphere オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付 23
 - 選択された vSphere オブジェクトのスキャン 24
 - スキャン結果の確認 25
 - ホストへのパッチおよび拡張機能のステージング 25
 - 選択された vSphere オブジェクトの修正 25

2 Windows オペレーティング システムでの Update Manager のインストール、アップグレード、アンインストール 28

- システム要件 29
 - Update Manager のハードウェア要件 29
 - サポート対象の Windows オペレーティング システムおよびデータベース フォーマット 30
 - Update Manager の vCenter Server、vCenter Server Appliance、vSphere Web Client、vSphere Client との互換性 30
 - 必要なデータベース権限 31
- Update Manager データベースの準備 31
 - 64 ビットの DSN の作成 32
 - バンドルされている Microsoft SQL Server 2012 Express データベース パッケージについて 33
 - Update Manager データベースのメンテナンス 33
 - Microsoft SQL Server データベース接続の構成 33
 - Oracle データベースの構成 35
- Windows での Update Manager のインストール 37
 - Windows に Update Manager サーバをインストールする前提条件 38
 - Update Manager インストーラの取得 40
 - Update Manager サーバのインストール 41
 - Update Manager クライアント インターフェイスと、Windows 上で動作する Update Manager サーバの併用 44

Windows 上で実行する Update Manager のアップグレード	45
Update Manager サーバのアップグレード	45
Update Manager Java コンポーネントのアップグレード	47
Windows 上で実行する Update Manager のアンインストール	48
Windows 上で実行されている Update Manager サーバのアンインストール	48
Update Manager 環境のベスト プラクティスと推奨事項	49
Update Manager の導入モデルおよびその使用	50

3 vCenter Server Appliance の Update Manager 51

vCenter Server Appliance と Update Manager のシステム要件	52
Update Manager クライアント インターフェイスと、vCenter Server Appliance 上で動作する Update Manager サービスの併用	52
vSphere Web Client での Update Manager サービスの開始、停止、または再起動	52
vSphere Client での Update Manager サービスの開始、停止、または再起動	53

4 Update Manager と vCenter Server Appliance ログバンドルの収集 55

5 Update Manager の Windows から vCenter Server Appliance 6.7 への移行 56

ソース Update Manager マシンでの VMware Migration Assistant のダウンロードと実行	57
Update Manager を使用した vCenter Server Appliance の移行のロールバック	58

6 Update Manager の構成 59

Update Manager のネットワーク接続の設定	60
Update Manager のネットワーク設定の変更	61
vSphere Web Client での Update Manager ネットワーク設定の変更	62
Update Manager のダウンロード ソースの構成	63
ダウンロード元としてのインターネットの使用	65
vSphere Web Client でのダウンロード元としてのインターネットの使用	66
新しいダウンロード元の追加	67
vSphere Web Client での新しいダウンロード元の追加	68
共有リポジトリのダウンロード ソースとしての使用	69
vSphere Web Client での共有リポジトリのダウンロード ソースとしての使用	70
手動によるパッチ インポート	72
vSphere Web Client での手動によるパッチのインポート	73
Update Manager プロキシの設定	74
vSphere Web Client での Update Manager プロキシ設定	74
アップデート チェックの設定	75
vSphere Web Client でのアップデート チェックの設定	76
通知の設定および表示	78
通知の確認の設定	79
vSphere Web Client での通知の確認の設定	80
通知の表示と手動による通知チェック タスクの実行	81

vSphere Web Client での通知の表示と手動による通知チェック タスクの実行	81
Update Manager の通知の種類	82
ホストおよびクラスタの設定の構成	82
ホストの修正の設定	84
vSphere Web Client でのホストおよびクラスタ修正の設定	86
修正中に Quick Boot を使用するためのシステム要件	87
vSphere Web Client でのホスト修正中の Quick Boot の使用の構成	88
vSphere Web Client でのホストのメンテナンス モードの設定	88
vSphere Web Client での PXE ブートを使用する ESXi ホストの修正を有効化	90
修正前のスナップショット作成	91
vSphere Web Client での修正前のスナップショットの作成	92
vSphere Web Client でのスマート リブートの設定	93
Update Manager のパッチ リポジトリの場所の設定	94
VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクの実行	94
Update Manager の権限	95

7 Update Manager Download Service のインストール、設定、および使用 96

vSphere Update Manager Download Service (UMDS) と Update Manager サーバの互換性	97
Windows オペレーティング システムへの UMDS のインストール	97
Windows オペレーティング システムへの UMDS のインストール	97
Linux ベースのオペレーティング システムへの UMDS のインストールとアップグレード	100
UMDS のインストールがサポートされている Linux ベースのオペレーティング システム	100
Linux OS への UMDS のインストール	100
UMDS の Linux OS からのアンインストール	101
UMDS の設定と使用	102
vSphere Update Manager Download Service (UMDS) でダウンロードするデータの設定	102
vSphere Update Manager Download Service (UMDS) パッチ リポジトリの場所の変更	103
ホストの URL アドレスの設定	104
vSphere Update Manager Download Service (UMDS) での指定したデータのダウンロード	105
ダウンロードしたデータのエクスポート	106

8 ベースラインおよびベースライン グループの操作 108

ベースラインの作成と管理	110
パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインの作成および編集	110
ホスト アップグレード ベースラインの作成および編集	120
vSphere Web Client でのベースラインの削除	128
ベースライン グループの作成および管理	128
ホスト ベースライン グループの作成	129
vSphere Web Client でのホスト ベースライン グループの作成	130
vSphere Web Client での仮想マシン ベースライン グループの作成	131
ベースライン グループの編集	131

vSphere Web Client でのベースライン グループの編集	132
ベースライン グループへのベースラインの追加	133
ベースライン グループからのベースラインの削除	133
vSphere Web Client でのベースライン グループの削除	134
オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付	134
vSphere Web Client のオブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付	135
オブジェクトからのベースラインおよびベースライン グループの分離	136
vSphere Web Client でのオブジェクトからのベースラインおよびベースライン グループの分離	136
ベースラインおよびベースライン グループの削除	137
ベースラインおよびベースライン グループの複製	137

9 vSphere オブジェクトのスキャンおよびスキャン結果の表示 139

手動による ESXi ホストのスキャンの開始	139
手動による仮想マシンのスキャンの開始	140
コンテナ オブジェクトのスキャンを手動で開始	141
スキャンのスケジュール設定	141
vSphere オブジェクトのスキャン結果とコンプライアンス状態の参照	142
vSphere インベントリ オブジェクトのコンプライアンスの確認	143
vSphere Web Client での vSphere オブジェクトのコンプライアンス情報の表示	144
vSphere の各オブジェクトのコンプライアンスの表示	145
コンプライアンス状態の表示	146
アップデートのコンプライアンス状態	148
ベースラインおよびベースライン グループのコンプライアンス状態	150
バッチの詳細の表示	151
エクステンションの詳細の表示	151
アップグレードの詳細の表示	152
Update Manager でのホストのアップグレード スキャン メッセージ	154
Cisco Nexus 1000V が存在する場合の、ホストのアップグレード スキャン メッセージ	156
vSphere Client の VMware Tools ステータス	156
vSphere Web Client の VMware Tools ステータス	157

10 vSphere オブジェクトの修正 159

ESXi ホストへのパッチおよび拡張機能のステージング	159
ESXi ホストへのパッチおよび拡張機能のステージング	160
vSphere Web Client 内の ESXi ホストへのパッチおよび拡張機能のステージング	161
修正の事前チェック レポート	162
ホストの修正	163
ESXi ホストの修正の詳細	166
サードパーティ製ソフトウェアを含むホストの修正	167
ESXi 6.7 イメージを基準にした ESXi 6.0 ホストまたは ESXi6.5 ホストの修正	167
単一または複数のベースラインを基準にした ESXi ホストの修正	168

vSphere Web Client でのパッチ ベースラインまたは拡張機能ベースラインを基準にしたホストの修正	171
vSphere Web Client でのアップグレード ベースラインを基準にしたホストの修正	174
vSphere Web Client でのベースライン グループを基準にしたホストの修正	177
vSAN クラスタに含まれるホストの修正の特性	181
vSAN システム ベースライン グループを基準にした vSAN クラスタの修正	182
vSAN クラスタのファームウェアの更新	183
仮想マシンのアップグレードおよび修正	189
旧バージョンへのロールバック	189
仮想マシンの仮想マシン ハードウェア互換性のアップグレード	189
仮想マシンの VMware Tools のアップグレード	191
再起動時の VMware Tools の自動アップグレード	192
vSphere Web Client での仮想マシンの修正	192
vSphere Web Client の電源の入れ直し時の VMware Tools のアップグレード	194
ホストおよび仮想マシンの修正のスケジュール設定	194
ホストと仮想マシンの組織的なアップグレード	195

11 Update Manager イベントの表示 197

Update Manager のイベント	197
----------------------	-----

12 Update Manager パッチ リポジトリ 209

ベースラインからのパッチの追加または削除	209
----------------------	-----

13 トラブルシューティング 211

Update Manager サーバをアンインストールした後に Update Manager クライアント インターフェイスが vSphere Web Client に残る	211
Update Manager サーバとの接続の切断、または単独 vCenter Server システムでの vCenter Server との接続の切断	212
Update Manager ログ バンドルの収集	213
Update Manager および vCenter Server ログ バンドルの収集	213
ログ バンドルが生成されない	214
要件が満たされていないためにホスト エクステンションの修正またはステージングが失敗する	214
適用可能なベースラインのアップデートがない	215
コンプライアンス レポートで、アップデートすべてが「該当なし」	215
コンプライアンス レポートで、アップデートすべてが「不明」	216
VMware Tools がインストールされていないと VMware Tools のアップグレードが失敗する	216
ESXi ホストのスキャンの失敗	216
ESXi ホストのアップグレードの失敗	217
Update Manager リポジトリを削除できない	217
コンプライアンス状態が「互換性なし」になる	218
アップデートが競合または競合する新規モジュールの状態にある	219
アップデートがパッケージの不足状態にある	220

アップデートがインストール不能状態にある 220

アップデートがサポートされていないアップグレード状態にある 221

14 データベース ビュー 222

VUMV_VERSION 222

VUMV_UPDATES 223

VUMV_HOST_UPGRADES 223

VUMV_PATCHES 224

VUMV_BASELINES 224

VUMV_BASELINE_GROUPS 225

VUMV_BASELINE_GROUP_MEMBERS 225

VUMV_PRODUCTS 225

VUMV_BASELINE_ENTITY 226

VUMV_UPDATE_PATCHES 226

VUMV_UPDATE_PRODUCT 226

VUMV_ENTITY_SCAN_HISTORY 226

VUMV_ENTITY_REMEDIATION_HIST 227

VUMV_UPDATE_PRODUCT_DETAILS 227

VUMV_BASELINE_UPDATE_DETAILS 228

VUMV_ENTITY_SCAN_RESULTS 228

VUMV_VMTOOLS_SCAN_RESULTS 229

VUMV_VMHW_SCAN_RESULTS 229

VMware vSphere Update Manager のインストールと管理について

『VMware vSphere Update Manager のインストールと管理』では、VMware[®] vSphere Update Manager をインストールおよび設定し、vSphere 環境のオブジェクトをスキャンおよび修正する方法について説明します。また、添付されたベースラインおよびベースライン グループに準拠させるため、vSphere インベントリ オブジェクトにアップデート適用するタスクについても説明します。

スキャンと修正については、Update Manager の次の ESXi のバージョンで動作します。

- VMware Tools および仮想マシン ハードウェアのアップグレード操作については、Update Manager は 6.0、ESXi 6.5、および ESXi 6.7 で動作します。
- ESXi ホスト パッチ操作については、Update Manager は ESXi 6.0、ESXi 6.5、および ESXi 6.7 で動作します。
- ESXi ホスト アップグレード操作については、Update Manager は ESXi 6.0、ESXi 6.5、およびそれぞれのアップデート リリースで動作します。

対象読者

この情報は、Update Manager をインストール、アップグレード、移行、または使用するすべてのユーザーを対象にしています。記載されている情報は、Windows または Linux のシステム管理者としての経験があり、仮想マシン テクノロジーおよびデータセンターの運用に詳しい方を対象としています。

vSphere Client および vSphere Web Client

本書の説明は、vSphere Client (HTML5 ベースの GUI) に対応しています。ここに記載のガイダンスは、vSphere Web Client (Flex ベースの GUI) を使用したタスクで使用できます。

vSphere Client と vSphere Web Client でワークフローが大きく異なるタスクでは、各クライアント インターフェイスに応じたステップが提供され、手順が重複しています。vSphere Web Client に関連する手順は、タイトルに vSphere Web Client が含まれています。

注： vSphere 6.7 Update 1 では、vSphere Web Client 機能のほぼすべてが vSphere Client に実装されています。サポート対象外の残りの機能を記載した最新のリストについては、「[vSphere Client の機能の更新](#)」を参照してください。

Adobe Flash Player の提供終了

Adobe Flash Player は 2020 年 12 月 31 日に提供を終了 (EOL) しました。Flash Player の廃止は、以前の vSphere リリースで Flash ベースの vSphere Web Client のみを使用できる Windows 上の Update Manager のインストールに影響します。

ただし、vSphere 6.7 Update 3m 以降は、Windows 上で実行される Update Manager と vSphere Client を併用できます。インストール プロセス、システム要件、およびすべての前提条件に変更はありません。

Adobe Flash Player の廃止と、各 VMware 製品への影響の詳細については、<https://kb.vmware.com/s/article/78589> にある VMware ナレッジベースの記事を参照してください。

更新情報

このセクションは、製品のリリースごと、または必要に応じて更新されます。

『vSphere Update Manager インストールおよび管理ガイド』の更新履歴については、次の表をご確認ください。

リビジョン	説明
8月11日	<ul style="list-style-type: none">■ 更新された手順については、仮想マシンの仮想マシンハードウェア互換性のアップグレードおよび仮想マシンのVMware Toolsのアップグレードを参照してください。■ 6章 Update Managerの構成のトピックを再編成し、vSphere Web ClientとvSphere Clientの2つのWebクライアントで修正トピックの構成に関連する手順を見つけやすくしました。ホストの修正の設定とvSphere Web Clientでのホストおよびクラスタ修正の設定を参照してください。
2021年6月28日	<ul style="list-style-type: none">■ Update Managerリポジトリを削除できないで、Update Managerがホストの更新を保存するフォルダのパスを更新しました。■ vCenter Server Appliance内のUpdate Managerログファイルの場所に関する情報を追加しました。Update Managerでのホストのアップグレードスキャンメッセージを参照してください。■ Linux OSへのUMDSのインストールでUMDSインストールファイルのアーカイブ解除に使用されるコマンドを指定しました。■ Update Managerでファームウェアを更新できるすべてのI/Oコントローラのリストを含むナレッジベース記事のリンクを追加しました。vSANクラスタのファームウェアの更新とvSANクラスタ内のソフトウェアおよびファームウェアのアップデートを参照してください。■ Update Managerインストーラの取得の手順を更新しました。
2021年6月23日	UMDSのインストールがサポートされているLinuxベースのオペレーティングシステムのサポート対象LinuxベースのオペレーティングシステムのリストにRed Hat Enterprise Linux 8.3を追加しました。
2021年4月15日	サポート対象のWindowsオペレーティングシステムおよびデータベースフォーマット、WindowsにUpdate Managerサーバをインストールする前提条件、および新規データソース(ODBC)の作成のVMware製品の相互運用性マトリックスの使用に関する情報を調整しました。
2021年4月06日	Update Managerのネットワーク接続の設定 にポート80に関する情報を追加しました。
2021年3月18日	<ul style="list-style-type: none">■ vSphere 6.7 Update 3m以降は、Windows上で実行されるUpdate ManagerインスタンスとvSphere Clientを併用できるという情報を追加しました。■ 修正の事前チェックレポートの修正の事前チェックと問題に関する情報を更新しました。■ Update Managerサービスを再起動すると、DNSの代わりにIPアドレスを使用する構成は保持されないという情報を追加しました。Update Managerのネットワーク設定の変更とUpdate Managerのネットワーク接続の設定を参照してください
2020年8月13日	VMwareでは、多様性の受け入れを尊重しています。弊社のお客様、パートナー、内部コミュニティにおいてこの原則を推進するため、弊社のコンテンツに含まれている用語の見直しを行っています。不適切な表現を削除するため、このガイドを更新しました。
2020年7月10日	UMDSのインストールがサポートされているLinuxベースのオペレーティングシステムのサポート対象LinuxベースのオペレーティングシステムのリストにUbuntu 20.04 LTSを追加しました。
2020年5月20日	UMDSのインストールがサポートされているLinuxベースのオペレーティングシステムのサポート対象Linuxベースのオペレーティングシステムのリストを更新しました。

リビジョン	説明
2019 年 9 月 03 日	vSAN クラスターのファームウェアの更新 および ベンダーのファームウェア ツールのダウンロード のファームウェア ツールを推奨するベンダーに関する情報を更新しました。
2019 年 6 月 21 日	<ul style="list-style-type: none">■ Windows オペレーティング システムへの UMDS のインストール の UMDS を Windows にインストールするために必要なシステム要件を更新しました。■ Update Manager サービスの開始と停止に関する新しいトピック、vSphere Client での Update Manager サービスの開始、停止、または再起動 を追加しました。■ vCenter Server Appliance ログの収集に関する新しいトピック、4 章 Update Manager と vCenter Server Appliance ログ バンドルの収集 を追加しました。■ vCenter Server Appliance のシステム要件に関する新しいトピック、vCenter Server Appliance と Update Manager のシステム要件 を追加しました。■ 単一または複数のベースラインを基準にした ESXi ホストの修正 の手順を調整しました。■ Update Manager 6.5 以降のデータベース互換性を確認する方法を説明する注意事項を サポート対象の Windows オペレーティング システムおよびデータベース フォーマット に追加しました。■ 5 章 Update Manager の Windows から vCenter Server Appliance 6.7 への移行 のバージョン情報を更新しました。■ 8 章 ベースラインおよびベースライン グループの操作 のシステム管理ベースラインに関する情報を更新しました。
2019 年 4 月 11 日	初期リリース。

Update Manager について

1

Update Manager では、VMware vSphere のパッチおよびバージョンを自動的に統合管理でき、VMware ESXi ホストおよび仮想マシンをサポートします。

Update Manager を使用して、次のタスクを実行できます。

- ESXi ホストのアップグレードとパッチ適用。
- ホストへのサードパーティ製ソフトウェアのインストールと更新。
- 仮想マシン ハードウェアおよび VMware Tools のアップグレード。

Update Manager には、VMware vCenter Server とのネットワーク接続が必要です。Update Manager のインストールごとに、1つの vCenter Server インスタンスに関連付ける（登録する）必要があります。

Update Manager モジュールは、サーバ コンポーネントとクライアント コンポーネントから構成されています。

Update Manager は、Windows で実行されている vCenter Server か vCenter Server Appliance と使用できます。

Update Manager を vCenter Server とともに使用する場合は、Update Manager を Windows マシンにインストールする必要があります。Update Manager サーバ コンポーネントは、vCenter Server がインストールされているのと同じ Windows サーバにインストールすることも、別のマシンにインストールすることもできます。Update Manager をインストールするには、Update Manager のインストール先コンピュータの Windows 管理者認証情報が必要です。

すでに vCenter Server システムがあり、共通の vCenter Single Sign-On ドメインによって vCenter Server システムが相互に接続されていて、各 vCenter Server に対して Update Manager を使用する場合は、必要な数の Update Manager インスタンスをインストールして、vCenter Server システムに登録する必要があります。Update Manager インスタンスは、登録先の vCenter Server システムとのみ使用することができます。

vSphere 6.5 以降では、Windows マシンに Update Manager サーバをインストールする際に Update Manager が vCenter Server Appliance に登録されなくなりました。

vCenter Server Appliance では、Update Manager はサービスとして提供されます。Update Manager は vCenter Server Appliance にバンドルされています。

Update Manager クライアント コンポーネントは、vSphere Web Client (Flex) および vSphere Client (HTML5) 上で動作するプラグインです。Update Manager サーバ コンポーネントが Windows にインストールされるか、vCenter Server Appliance がデプロイされると、Update Manager クライアント コンポーネントが自動的に有効になります。

Adobe Flash Player の廃止後は、Flash ベースの vSphere Web Client の使用は推奨およびサポートされません。そのため、vSphere 6.7 Update 3m 以降では、Windows マシンに Update Manager サーバ コンポーネントをインストールした場合でも、Update Manager クライアント コンポーネントを vSphere Client で使用できます。以前のリリースでは、Windows 上で動作する Update Manager サーバを使用している場合、vSphere Web Client でのみ Update Manager クライアント コンポーネントを表示できます。Update Manager を vCenter Server Appliance で使用している場合、Update Manager クライアント コンポーネントは vSphere Web Client と vSphere Client のどちらでも使用できます。Adobe Flash Player の提供終了 (EOL) と、各 VMware 製品への影響の詳細については、<https://kb.vmware.com/s/article/78589> にある VMware ナレッジベースの記事を参照してください。

Update Manager はインターネットにアクセスしないセキュアなネットワークにデプロイできます。その場合は、VMware vSphere Update Manager Download Service (UMDS) を使用して、メタデータのアップデートをダウンロードしてバイナリを更新することができます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [Update Manager クライアント インターフェイスの概要](#)
- [Update Manager の処理について](#)

Update Manager クライアント インターフェイスの概要

Update Manager サーバには、vSphere Web Client 用と vSphere Client 用のクライアント インターフェイスがあります。

Update Manager クライアント インターフェイスは、インストール作業なしで使用できます。Windows に Update Manager サーバ コンポーネントをインストールした後、または vCenter Server Appliance を展開した後、vSphere Web Client でも vSphere Client でも自動的に有効になります。

vSphere 6.7 Update 3m 以降では、Update Manager サーバ コンポーネントが Windows マシンにインストールされている場合でも、vSphere Client に Update Manager クライアント インターフェイスが表示されます。以前のリリースでは、Windows 上で動作する Update Manager サーバを使用している場合、vSphere Web Client でのみ Update Manager クライアント コンポーネントを表示できます。Update Manager を vCenter Server Appliance で使用している場合、Update Manager クライアント コンポーネントは vSphere Web Client と vSphere Client のどちらでも使用できます。ただし、Adobe Flash Player の廃止のため、Flash ベースの vSphere Web Client の使用は推奨されません。Adobe Flash Player の提供終了 (EOL) と、各 VMware 製品への影響の詳細については、<https://kb.vmware.com/s/article/78589> にある VMware ナレッジベースの記事を参照してください。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインによって他の vCenter Server システムに接続されていて、複数の Update Manager インスタンスがインストールされて登録されている場合は、Update Manager インスタンスごとに設定を行うことができます。変更した構成プロパティは、指定した Update Manager インスタンスのみに適用され、グループ内の他のインスタンスには伝達されません。Update Manager インスタンスを指定するには、Update Manager インスタンスが登録されている vCenter Server システムの名前をナビゲーション バーで選択します。vSphere 6.7 での構成の変更は、vSphere Web Client で Update Manager クライアント インターフェイスを使用した場合にのみ実行できます。

vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインによって他の vCenter Server システムに接続されている場合は、ベースラインとベースライン グループの管理ができるほか、Update Manager が登録されている vCenter Server システムによって管理されているインベントリ オブジェクトのみスキャンと修正を実行できます。

Update Manager クライアント インターフェイスには、管理ビューとコンプライアンス ビューという 2 つのメイン ビューがあります。

- **vSphere Client の Update Manager クライアント インターフェイス**

vSphere Client では、Update Manager クライアント インターフェイスは [アップデート] タブに表示されます。[アップデート] タブは第 1 レベルのタブで、vSphere Client の第 1 レベル タブの行の中で最後にあります。このタブの前には、[サマリ]、[監視]、[構成]、[権限]などのタブがあります。

- **vSphere Web Client の Update Manager クライアント インターフェイス**

vSphere Web Client では、Update Manager クライアント インターフェイスは [Update Manager] タブとして表示されます。[Update Manager] タブは第 1 レベルのタブで、第 1 レベル タブの行の中で最後にあります。このタブの前には、[サマリ]、[監視]、[設定]、[権限]などのタブがあります。

vSphere Client の Update Manager クライアント インターフェイス

vSphere Client では、Update Manager クライアント インターフェイスは [アップデート] タブに表示されます。[アップデート] タブは第 1 レベルのタブで、vSphere Client の第 1 レベル タブの行の中で最後にあります。このタブの前には、[サマリ]、[監視]、[構成]、[権限]などのタブがあります。

vSphere Client での Update Manager インターフェイスの概要



vSphere Client での Update Manager インターフェイスの概要

(https://vmwaretv.vmware.com/embed/secure/iframe/entryId/1_cegbmkxp/uiConfId/49694343/)

vSphere Client の Update Manager ホーム ビューは、vSphere Web Client の Update Manager 管理ビューに相当します。vSphere Client で Update Manager ホーム ビューにアクセスするには、[ホーム] - [Update Manager] の順に移動します。Update Manager のホーム ビューに移動するもう 1 つの方法として、Update Manager のコンプライアンス ビューで [Update Manager ホーム] をクリックすることもできます。

Update Manager ホーム ビューには、次の最上位レベルのタブがあります。[ホーム]、[監視]、[ベースライン]、[アップデート]、[ESXi イメージ]、および [設定] です。

Update Manager のホーム ビューでは、次のタスクを実行できます。

- vSphere 環境内の非準拠ホスト、クラスタ、添付されたベースラインに関する統計情報の表示。
- 通知の確認。
- ベースラインおよびベースライン グループの作成と管理。
- パッチ リポジトリの確認、パッチのアップロード。
- ESXi イメージのインポート。
- Update Manager の設定。

vSphere Client で Update Manager のコンプライアンス ビューにアクセスするには、データセンター、クラスター、ホストなどのインベントリ オブジェクトを選択し、[アップデート] タブをクリックします。

Update Manager のコンプライアンス ビューでは、次のタスクを実行できます。

- ホストおよびクラスターのコンプライアンスとスキャン結果の確認。
- ベースラインおよびベースライン グループのホストおよびクラスターへの接続と分離。
- 修正を確実に成功させるための推奨アクションが示されている修正の事前チェック レポートの生成。
- 選択したインベントリ オブジェクトのスキャン。
- パッチまたは拡張機能をホストにステージングできます。
- VMware Tools および仮想マシンのハードウェア バージョンのアップグレード。
- パッチ、拡張機能、アップグレード ベースラインを基準にしたホストの修正。
- システム管理のベースラインを基準にした、vSAN クラスターの一部であるホストの修正。
- vSAN クラスター内のホスト ファームウェアのアップグレード。

vSphere Web Client の Update Manager クライアント インターフェイス

vSphere Web Client では、Update Manager クライアント インターフェイスは [Update Manager] タブとして表示されます。[Update Manager] タブは第 1 レベルのタブで、第 1 レベル タブの行の中で最後にあります。このタブの前には、[サマリ]、[監視]、[設定]、[権限] などのタブがあります。

vSphere Web Client で Update Manager クライアント インターフェイスを表示するには、コンプライアンス 状態の表示権限が必要です。

vSphere Web Client で Update Manager の管理ビューにアクセスするには、vSphere Web Client[ホーム] メニューをクリックし、[Update Manager] をクリックします。[オブジェクト] タブで、管理する Update Manager インスタンスの IP アドレスをクリックします。Update Manager の管理ビューに移動するもう 1 つの方法として、Update Manager のコンプライアンス ビューで [管理ビューに移動] をクリックすることもできます。

vSphere Web Client の Update Manager の管理ビューには、最上位レベルのタブとして、[はじめに]、[監視]、[管理] があります。

[監視] タブでは、次のタスクを実行できます。

- Update Manager のイベントの表示。
- 通知の確認。

[管理] タブでは、次のタスクを実行できます。

- Update Manager の設定。
- ベースラインおよびベースライン グループの作成と管理。
- パッチ リポジトリの確認。
- ESXi イメージのインポート。

vSphere Web Client で Update Manager のコンプライアンス ビューにアクセスするには、データセンター、クラスター、ホスト、仮想マシン、vApp などのインベントリ オブジェクトを選択し、[Update Manager] タブをクリックします。

Update Manager のコンプライアンス ビューでは、次のタスクを実行できます。

- 選択したインベントリ オブジェクトそれぞれのコンプライアンスとスキャン結果の表示。
- 選択したインベントリ オブジェクトに対するベースラインおよびベースライン グループの添付と分離。
- 選択したインベントリ オブジェクトのスキャン。
- パッチまたは拡張機能をホストにステージングできます。
- 事前定義済みの仮想マシン ツールおよび仮想マシン ハードウェア ベースラインを基準にした仮想マシンの修正。
- パッチ、拡張機能、アップグレード ベースラインを基準にしたホストの修正。
- システム管理のベースラインを基準にした、vSAN クラスターの一部であるホストの修正。

Update Manager の処理について

Update Manager を使用した vSphere オブジェクトのアップグレードおよびパッチまたは拡張機能の適用は、特定の順序で手順を実行しなければならない多段階処理です。推奨される処理を実行することで、システムのダウンタイムを最小限に抑えた円滑なアップデートが確実に行えます。

Update Manager の処理は、一連のパッチと拡張機能に関する情報（メタデータ）のダウンロードから始まります。これらのパッチまたは拡張機能の1つ以上を集めてベースラインを作成します。ベースライン グループに複数のベースラインを追加できます。ベースライン グループは、競合のない一群のベースラインで構成される複合オブジェクトです。ベースライン グループを使用して、異なる種類のベースラインを組み合わせ、それらのベースラインすべてを使用してインベントリ オブジェクトを一括でスキャンし、修正できます。ベースライン グループに、アップグレードとパッチ ベースライン、またはアップグレードと拡張機能ベースラインが含まれている場合は、アップグレードが最初に実行されます。

仮想マシン、ESXi ホストまたは個々のインベントリ オブジェクトの集合体に対して、ベースラインまたはベースライン グループを使用して準備をスキャンし、あとで修正できます。これらの処理は手動またはスケジュール設定タスクにより開始できます。

■ Update Manager のダウンロード ソースの構成

Update Manager サーバがインターネットまたは共有リポジトリのいずれかからパッチおよび拡張機能をダウンロードするように構成できます。また、ZIP ファイルから手動でパッチと拡張機能をインポートすることもできます。

■ 更新および関連するメタデータのダウンロード

ホストのパッチ、拡張機能、および関連するメタデータのダウンロードは、事前定義された変更可能な自動プロセスです。デフォルトでは、Update Manager は、構成可能な間隔で定期的に VMware またはサードパーティのソースに問い合わせ、使用可能なアップグレード、パッチ、または拡張機能に関する最新情報（メタデータ）を収集します。

■ ESXi イメージのインポート

使用環境内のホストを ESXi6.7 にアップグレードするには、ホスト アップグレード ベースラインを使用します。ホスト アップグレード ベースラインを作成するには、最初に少なくとも1つの ESXi6.7.iso イメージを Update Manager リポジトリにアップロードする必要があります。

■ ベースラインおよびベースライン グループの作成

ベースラインには1つ以上のパッチ、拡張機能、サービスパック、バグ フィックス、またはアップグレードの集合が含まれており、パッチ ベースライン、拡張機能 ベースライン、またはアップグレード ベースラインに分類されます。ベースライン グループは既存のベースラインを集めたものです。

■ vSphere オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付

ベースラインおよびベースライン グループを使用するためには、選択したインベントリ オブジェクト（コンテナ オブジェクト、仮想マシン、ホストなど）にそれらを添付する必要があります。

■ 選択された vSphere オブジェクトのスキャン

スキャンは、選択したスキャン タイプに応じて、一連のホストまたは仮想マシンの属性を、接続されているベースラインまたはベースライン グループからのすべてのパッチ、拡張機能、およびアップグレードを基準に評価する処理です。

■ スキャン結果の確認

Update Manager は vSphere オブジェクトをスキャンし、添付したベースラインやベースライン グループに対する準拠状態を判定します。スキャン結果は、テキスト検索、グループ選択、ベースライン選択、およびコンプライアンス状態の選択により絞り込めます。

■ ホストへのパッチおよび拡張機能のステージング

修正前にパッチや拡張機能をステージングして、それらのパッチや拡張機能がホストに確実にダウンロードされるようにすることができます。パッチおよび拡張機能のステージングは任意の手順で、ホストがメンテナンス モードになる期間を短縮できます。

■ 選択された vSphere オブジェクトの修正

修正とは、スキャンが完了した後に、ESXi ホストおよび仮想マシンに対して、Update Manager がパッチ、拡張機能、およびアップグレードを適用する処理のことです。

Update Manager のダウンロード ソースの構成

Update Manager サーバがインターネットまたは共有リポジトリのいずれかからパッチおよび拡張機能をダウンロードするように構成できます。また、ZIP ファイルから手動でパッチと拡張機能をインポートすることもできます。

Update Manager のダウンロード元の構成はオプションの手順です。

システムがインターネットに接続されている場合は、デフォルト設定とリンクを使用して、Update Manager リポジトリにアップグレード、パッチ、および拡張機能をダウンロードできます。また、URL アドレスを追加して、サードパーティ製のパッチおよび拡張機能をダウンロードすることもできます。サードパーティ製のパッチおよび拡張機能は、ESXi 6.0 以降を実行しているホストにのみ適用可能です。

システムがインターネットに接続されていない場合は、Update Manager Download Service (UMDS) を使用してアップグレード、パッチ、および拡張機能をダウンロードしたあとで、共有リポジトリを使用できます。

UMDS の詳細については、7 章 [Update Manager Download Service のインストール、設定、および使用](#) を参照してください。

Update Manager では、オフラインバンドルと呼ばれる ZIP ファイルから、VMware とサードパーティの両方のパッチまたは拡張機能を手動でインポートできます。オフラインバンドルのインポートは、ESXi 6.0 以降を実行しているホストでのみサポートされます。オフラインバンドルの ZIP ファイルをインターネットからダウンロード、またはメディアドライブからコピーして、ローカルドライブまたは共有ネットワークドライブに保存します。あとで Update Manager パッチリポジトリにパッチまたは拡張機能をインポートできます。オフラインバンドルは、当社の Web サイト、またはサードパーティベンダーの Web サイトからダウンロードできます。

注： オフラインバンドルは、ホストのパッチ処理にのみ使用できます。ESXi 6.0 および ESXi6.5 から ESXi6.7 へのホストアップグレードの場合、サードパーティのオフラインバンドルあるいはカスタム VIB セットから生成したオフラインバンドルを使用することはできません。

この手順の詳細な説明については、[Update Manager のダウンロードソースの構成](#) を参照してください。

更新および関連するメタデータのダウンロード

ホストのパッチ、拡張機能、および関連するメタデータのダウンロードは、事前定義された変更可能な自動プロセスです。デフォルトでは、Update Manager は、構成可能な間隔で定期的に VMware またはサードパーティのソースに問い合わせ、使用可能なアップグレード、パッチ、または拡張機能に関する最新情報（メタデータ）を収集します。

VMware は、ESXi ホストのパッチに関する情報を提供します。

Update Manager がダウンロードする情報の種類は次のとおりです。

- 該当するバージョンのホストがユーザーの環境内にあるかどうかに関係なく、すべての ESXi6.x パッチに関するメタデータ。
- サードパーティベンダーの URL アドレスからの、ESXi6.x パッチおよび拡張機能に関するメタデータ。
- ESXi6.x ホストに関する通知、アラート、およびパッチのリコール。

すべての更新情報をダウンロードする場合でも、ディスク容量およびネットワーク帯域幅の点では比較的低いコストで処理できます。定期的に更新されるメタデータを入手できることで、ホストのタスクのスキャンをいつでも追加できます。

Update Manager では、ESXi 6.0 以降が実行されているホストに対して、パッチのリコールがサポートされています。パッチがリコールされるのは、リリースされたパッチに問題（潜在的な問題を含む）がある場合です。ご利用の環境でホストをスキャンした後、リコールされたパッチがいずれかのホストにインストールされると、Update Manager によってアラートが通知されます。Update Manager を使って、リコールされたパッチをホストにインストールすることはできません。また、リコールされたすべてのパッチが、Update Manager によって Update Manager パッチリポジトリから削除されます。問題が修正されたパッチがリリースされると、Update Manager は、新しいパッチをパッチリポジトリにダウンロードします。問題のあるパッチがすでにインストールされている場合は、修正がリリースされたことが Update Manager から通知され、新しいパッチを適用するよう求められます。

Update Manager がアップグレード、パッチ、または拡張機能をダウンロードできない場合、たとえば、インターネットに接続できない内部ネットワーク セグメントにデプロイされている場合は、vSphere Update Manager Download Service (UMDS) を使用して、UMDS がインストールされているマシンにデータをダウンロードし、保存する必要があります。UMDS がダウンロードしたアップグレード、パッチ、および拡張機能は、エクスポート後に Update Manager が使用できるようになります。

UMDS の詳細については、[7 章 Update Manager Download Service のインストール、設定、および使用](#)を参照してください。

Update Manager は、インターネット プロキシを使用して、アップグレード、パッチ、拡張機能、および関連するメタデータをダウンロードするように構成できます。

Update Manager が更新をダウンロードする、または通知を確認する間隔は変更できます。その手順の詳細については、[vSphere Web Client でのアップデート チェックの設定](#)および[vSphere Web Client での通知の確認の設定](#)を参照してください。

ソフトウェア更新の種類と関連用語

Update Manager は、ソフトウェア更新とメタデータを、インターネット デポまたは UMDS 作成共有リポジトリからダウンロードします。オフライン バンドルとホスト アップグレードのイメージを、ローカル ストレージ デバイスからローカルの Update Manager リポジトリにインポートできます。

通知

1 つ以上の VIB のグループ。通知は、メタデータ内で定義されます。

デポ

オンラインで公開された VIB の論理グループと関連するメタデータ。

ホスト アップグレード イメージ

Update Manager リポジトリにインポートし、ESXi 6.0 または ESXi6.5 のホストを ESXi6.7 にアップデートするときに使用できる ESXi イメージ。

拡張機能

オプション コンポーネントを ESXi ホストに追加するために VIB のグループを定義する通知。通常は、サードパーティが拡張機能と、その拡張機能のパッチまたは更新を提供します。

メタデータ

依存関係情報、テキストの説明、システム要件、および通知を定義する追加データ。

オフライン バンドル ZIP

VIB および対応するメタデータが自己完結型パッケージにカプセル化されたアーカイブで、オフラインでのパッチ適用に役立ちます。ESXi 6.0 または ESXi6.5 から ESXi6.7 へのホスト アップデートの場合、サードパーティのオフライン バンドルあるいはカスタム VIB セットから生成したオフライン バンドルを使用することはできません。

パッチ

1 つ以上の VIB をまとめて、特定の問題または強化機能に対応する通知。

ロールアップ

ダウンロードおよびデプロイしやすくするためにグループ化されたパッチのコレクション。

VIB

VIB は、1つのソフトウェア パッケージです。

ESXi イメージのインポート

使用環境内のホストを ESXi6.7 にアップグレードするには、ホスト アップグレード ベースラインを使用します。ホスト アップグレード ベースラインを作成するには、最初に少なくとも1つの ESXi6.7.iso イメージを Update Manager リポジトリにアップロードする必要があります。

Update Manager 6.7 を使用して、ESXi 6.0 または ESXi6.5 が実行されているホストを ESXi6.7 にアップグレードできます。ESXi5.x、ESXi 6.0、または ESXi6.5 へのホストのアップグレードは、サポートされていません。

ESXi イメージをアップロードする前に、VMware の Web サイトまたは別のソースからイメージ ファイルを入手します。vSphere ESXi Image Builder を使用すると、サードパーティ製の VIB を含んだカスタム ESXi イメージを作成できます。詳細については、『vSphere ESXi Image Builder を使用したインストールのカスタマイズ』を参照してください。

ESXi イメージは、Update Manager の管理ビューにある [ESXi イメージ] タブからアップロードおよび管理できます。

インポートした ESXi イメージは、Update Manager リポジトリに保持されます。ホスト アップグレード ベースラインに ESXi イメージを含めることができます。ESXi イメージを Update Manager リポジトリから削除するには、そのイメージが含まれるアップグレード ベースラインを最初に削除する必要があります。ベースラインの削除後、[ESXi イメージ] タブからイメージを削除できます。

ESXi イメージのインポートおよびホスト アップグレード ベースラインの作成の詳細については、[vSphere Web Client](#) での [ホスト アップグレード ベースラインの作成](#) を参照してください。

ベースラインおよびベースライン グループの作成

ベースラインには1つ以上のパッチ、拡張機能、サービス パック、バグ フィックス、またはアップグレードの集合が含まれており、パッチ ベースライン、拡張機能 ベースライン、またはアップグレード ベースラインに分類されます。ベースライン グループは既存のベースラインを集めたものです。

ホスト ベースライン グループには、単一のアップグレード ベースライン、およびさまざまなパッチや拡張機能のベースラインを含めることができます。

仮想マシン ベースライン グループには、最大で2つのアップグレード ベースラインを含めることができます。1つは VMware Tools アップグレード ベースラインで、もう1つは仮想マシン ハードウェア アップグレード ベースラインです。

ホストと仮想マシンをスキャンする際には、これらのベースラインおよびベースライン グループを基準に評価して、その仮想マシンのコンプライアンス レベルを判断します。

Update Manager には、2 つの事前定義済みのパッチ ベースラインと 2 つの事前定義済みのアップグレード ベースラインが含まれています。事前定義済みの仮想マシン ベースラインを編集または削除することはできません。事前定義済みのベースラインを使用するか、基準を満たすパッチ ベースライン、拡張機能 ベースライン、およびアップグレード ベースラインを作成できます。作成するベースラインと、事前定義済みのベースラインは、ベースライングループにまとめることができます。ベースラインおよびベースライン グループの作成と管理の詳細については、[8 章 ベースラインおよびベースライン グループの操作](#)を参照してください。

ベースライン タイプ

Update Manager は、インベントリ内のオブジェクトをスキャンおよび修正するときに使用できる、さまざまなタイプのベースラインをサポートしています。

Update Manager では、アップグレード ベースライン、パッチ ベースライン、および拡張機能ベースラインが提供されます。

アップグレード ベースライン

ベースライン	説明
ホスト アップグレード ベースライン	環境内のホストをどのバージョンにアップグレードするかを定義します。Update Manager 6.7 では、ESXi ホストをバージョン 6.0 および 6.5 から ESXi 6.7 にアップデートできます。
仮想マシン アップグレード ベースライン	仮想ハードウェアまたは VMware Tools をどのバージョンにアップグレードするかを定義します。Update Manager 6.7 を使用すると、ESXi 6.7 を実行しているホスト上での、ハードウェア バージョン vmx-15 および最新の VMware Tools バージョンへのアップグレードができます。

パッチ ベースライン

パッチ ベースラインは、所定のホストに適用する必要がある複数のパッチを定義します。パッチ ベースラインは、動的または固定のどちらかに設定できます。

ベースライン	説明
動的パッチ ベースライン	動的ベースラインの内容は、指定された基準に適合する適用可能なパッチに基づきます。適用可能なパッチのセットが変化すると、動的ベースラインも同様にアップデートされます。明示的に任意のパッチをベースラインに含めたり除外したりできます。
固定パッチ ベースライン	Update Manager リポジトリから入手できるパッチのすべてのセットから、固定パッチ ベースラインにどのパッチを含めるかを手動で指定します。

拡張機能ベースライン

ベースライン	説明
拡張機能ベースライン	所定のホストに適用する必要がある拡張機能（サードパーティ製デバイス ドライバなどの追加のソフトウェア）を含みます。このようなソフトウェアがインストールされていないホストで拡張機能がインストールされ、すでにインストールされているホストではパッチが適用されます。ESXi ホストのすべてのサードパーティ製ソフトウェアはホスト拡張機能として分類されますが、ホスト拡張機能はサードパーティ製ソフトウェアだけに限られたものではありません。

Update Manager デフォルト ベースライン

Update Manager にはデフォルトのベースラインが用意されています。これらを使用して、任意の仮想マシンまたはホストをスキャンし、環境内のホストに最新のパッチが適用されているかどうか、または仮想マシンが最新バージョンにアップグレードされているかどうかを判断できます。

重要度の高いホスト パッチ（事前定義済み）

重要度の高いパッチすべてに対して、ESXi ホストのコンプライアンス状態をチェックします。

重要度の低いホスト パッチ（事前定義済み）

オプションのパッチすべてに対して、ESXi ホストのコンプライアンス状態をチェックします。

ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード（事前定義済み）

ホスト上の最新バージョンの VMware Tools に対する仮想マシンのコンプライアンス状態を確認します。Update Manager は、ESXi 6.0.x 以降を実行しているホスト上の仮想マシンに対する VMware Tools のアップグレードをサポートします。

ホストと整合するように仮想マシン ハードウェアをアップグレード（事前定義済み）

ホストがサポートする最新バージョンに対する仮想マシンの仮想ハードウェアのコンプライアンス状態をチェックします。Update Manager は、ESXi6.7 を実行しているホスト上での、仮想ハードウェア バージョン vmx-15 へのアップグレードをサポートします。

ベースライン グループ

ベースライン グループには、パッチ、拡張機能、およびアップグレード ベースラインを含めることができます。ベースライン グループに追加するベースラインに競合がないようにする必要があります。

ベースライン グループはパッチ、拡張機能、およびアップグレードの組み合わせに制限されます。ベースライン グループを構成できるベースラインの有効な組み合わせを次に示します。

- 複数ホストのパッチ ベースラインと拡張機能ベースライン。
- 1つのアップグレード ベースラインと、複数のパッチ ベースラインおよび拡張機能ベースライン。
例：1つの ESXi アップグレード ベースラインと、複数の ESXi パッチ ベースラインまたは拡張機能ベースライン。
- 複数のアップグレード ベースライン。ただし、アップグレード タイプ（VMware Tools、仮想マシン ハードウェア、ホストなど）あたりのアップグレード ベースラインは1つのみ。
例：「ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード」ベースラインと、「ホストと整合するように仮想マシン ハードウェアをアップグレード」ベースライン。

vSphere オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付

ベースラインおよびベースライン グループを使用するためには、選択したインベントリ オブジェクト（コンテナ オブジェクト、仮想マシン、ホストなど）にそれらを添付する必要があります。

ベースラインおよびベースライン グループは個々のオブジェクトに添付することもできますが、フォルダ、vApp、クラスタ、データセンターなどのコンテナ オブジェクトに添付する方が効率的です。各 vSphere オブジェクトは、その親コンテナ オブジェクトに添付されたベースラインを継承します。あるオブジェクトをコンテナから削除すると、そのオブジェクトから継承したベースラインは削除されます。

この手順の詳細な説明については、[vSphere Web Client のオブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付](#)を参照してください。

選択された vSphere オブジェクトのスキャン

スキャンは、選択したスキャン タイプに応じて、一連のホストまたは仮想マシンの属性を、接続されているベースラインまたはベースライン グループからのすべてのパッチ、拡張機能、およびアップグレードを基準に評価する処理です。

ホストのインストールをスキャンして最新のパッチまたは拡張機能が適用されているかどうかを判定したり、仮想マシンをスキャンして最新の仮想ハードウェアまたは VMware Tools バージョンで更新する必要があるかどうかを判定したりできます。

Update Manager は、次のスキャン タイプをサポートします。

ホストのパッチのスキャン

ESXi 6.0 以降で、スキャンでパッチを検索できます。

ホストの拡張機能のスキャン

ESXi 6.0 以降をスキャンして、拡張機能（追加のソフトウェア モジュール）を検索できます。

ホストのアップグレードのスキャン

ESXi 6.0 および ESXi6.5 をスキャンして、ESXi 6.5 へのアップグレードを検索できます。

VMware Tools のスキャン

Windows または Linux を実行している仮想マシンをスキャンして、最新の VMware Tools バージョンを検索できます。オフラインの仮想マシンやテンプレートだけでなく、VMware Tools のスキャンはオンラインでも実行できます。VMware Tools のスキャンを実行する前に、仮想マシンを少なくとも 1 回パワーオンする必要があります。

仮想マシン ハードウェアのアップグレードのスキャン

Windows または Linux を実行している仮想マシンをスキャンして、ホストでサポートされている最新の仮想ハードウェアを検索できます。オフラインの仮想マシンやテンプレートだけでなく、ハードウェアのアップグレードのスキャンはオンラインでも実行できます。

VMware Studio 2.0 以降を使用すると、事前設定されたアプリケーション ソフトウェアおよびオペレーティング システムを使用して、すぐにデプロイできる vApp の作成を自動化できます。VMware Studio では、最小限の作業で vApp が起動できるように、ネットワーク エージェントをゲストに追加します。vApp 用に指定された構成パラメータは、vCenter Server のデプロイ ウィザードで、OVF プロパティとして表示されます。VMware Studio の詳細については、VMware Studio 用の VMware SDK および API のドキュメントを参照してください。vApp の詳細については、VMware のブログ サイトも参照できます。VMware Studio は VMware の Web サイトからダウンロードできます。

データセンター、クラスタ、フォルダなどのコンテナ オブジェクトでスキャンを開始して、そのコンテナ オブジェクト内のすべての ESXi ホストまたは仮想マシンをスキャンできます。

ベースラインおよびベースライン グループを基準に仮想マシンおよび ESXi ホストのスキャンを手動で開始するか、スキャンをスケジュール設定するように Update Manager を構成して、コンプライアンス情報を生成できます。スキャン タスクをデータセンターまたは vCenter Server システム レベルでスケジュールリングして、必ず最新の状態でスキャンを実行してください。

手動によるスキャンの手順、およびスキャンのスケジュール設定の手順については、[9 章 vSphere オブジェクトのスキャンおよびスキャン結果の表示](#)を参照してください。

スキャン結果の確認

Update Manager は vSphere オブジェクトをスキャンし、添付したベースラインやベースライン グループに対する準拠状態を判定します。スキャン結果は、テキスト検索、グループ選択、ベースライン選択、およびコンプライアンス状態の選択により絞り込めます。

コンテナ オブジェクトを選択すると、グループとして添付されているベースラインに対して、コンテナの全体的なコンプライアンス状態を確認できます。全体的なベースラインに対して、選択したコンテナ内にあるオブジェクトの個々のコンプライアンス状態も確認できます。コンテナ オブジェクトに添付されている個々のベースラインを選択すると、選択したベースラインに対して、コンテナのコンプライアンス状態が表示されます。

仮想マシン、アプライアンス、またはホストをそれぞれ選択すると、添付されているすべてのベースラインを基準に、選択したオブジェクト全体のコンプライアンス状態とアップデートの数が表示されます。このオブジェクトに添付されている各ベースラインを選択すると、そのベースラインのコンプライアンス状態ごとにグループ化された更新の数が表示されます。

コンプライアンス情報は、[Update Manager] タブに表示されます。コンプライアンス情報の表示についての詳細は、[vSphere オブジェクトのスキャン結果とコンプライアンス状態の参照](#)を参照してください。

ホストへのパッチおよび拡張機能のステージング

修正前にパッチや拡張機能をステージングして、それらのパッチや拡張機能がホストに確実にダウンロードされるようにすることができます。パッチおよび拡張機能のステージングは任意の手順で、ホストがメンテナンス モードになる期間を短縮できます。

ホストへのパッチおよび拡張機能のステージングでは、パッチおよび拡張機能が Update Manager リポジトリから ESXi ホストにダウンロードされ、これらのパッチおよび拡張機能はすぐには適用されません。パッチおよび拡張機能のステージングを行うと、ホストでパッチおよび拡張機能がローカルに使用できるため、修正時間が短縮されます。

重要： Update Manager は PXE ブートの ESXi ホストにパッチをステージングできます。

パッチのステージングの詳細については、[ESXi ホストへのパッチおよび拡張機能のステージング](#)を参照してください。

選択された vSphere オブジェクトの修正

修正とは、スキャンが完了した後に、ESXi ホストおよび仮想マシンに対して、Update Manager がパッチ、拡張機能、およびアップグレードを適用する処理のことです。

修正により、選択された vSphere オブジェクトは、バッチ、拡張機能、およびアップグレード ベースラインに準拠した状態になります。

スキャンと同様に、単一のホストまたは仮想マシンを修正することができます。フォルダ、クラスタ、またはデータセンター レベルでの修正を開始することもできます。

Update Manager は、次のインベントリ オブジェクトの修正をサポートします。

- VMware Tools と仮想マシン ハードウェアのアップグレードの場合は、パワーオン、サスペンド、またはパワーオフ状態の仮想マシンおよびテンプレート。
- バッチ、拡張機能、およびアップグレードの修正の場合は、ESXi ホスト。

手動による修正またはスケジュール設定された修正を使用して、vSphere インベントリ内のオブジェクトを修正できます。手動およびスケジュール設定された修正についての詳細は、10 章 [vSphere オブジェクトの修正](#) を参照してください。

ホストの修正

Update Manager 6.7 は、ESXi 6.0.x および ESXi6.5.x から ESXi6.7 へのアップグレードをサポートします。

重要： [構成] タブの [ESX ホスト/クラスタ設定] ページまたは [修正] ウィザードから設定を有効にすると、PXE ブート ESXi ホストにパッチを適用できます。

ESXi イメージのアップロード後は、ESXi ホストへのアップグレードは、ベースラインおよびベースライン グループ経由で管理されます。

通常、アップデート時に必要な場合、ホストは修正の前にメンテナンス モードに入ります。ホストがメンテナンス モードのときには、仮想マシンは実行できません。ユーザー環境の一貫性を確保するために、vCenter Server は、ホストがメンテナンス モードに切り替わる前にクラスタ内のほかのホストに仮想マシンを移行します。vCenter Server が仮想マシンを移行できるのは、クラスタが vMotion 用に構成されている場合と、VMware DRS (Distributed Resource Scheduler) および VMware EVC (Enhanced vMotion Compatibility) が有効である場合です。EVC は、vMotion では必須ではありません。EVC を有効にすると、ホストの CPU の互換性が保障されます。ほかのコンテナ、またはクラスタにない個々のホストでは、vMotion での移行は実行できません。

重要： ホストを ESXi6.7 にアップグレードすると、バージョン ESXi 6.0.x または ESXi6.5.x のソフトウェアにロールバックできません。ホストのアップグレードを実行する前に、ホストの構成をバックアップしてください。アップグレードに失敗した場合は、アップグレード元の ESXi 6.0.x または ESXi6.5.x ソフトウェアを再インストールし、ホスト構成をリストアできます。ESXi 構成のバックアップとリストアの詳細については、『vSphere のアップグレード』を参照してください。

ESXi 6.0 および 6.5 ホストからそれぞれの ESXi アップデート リリースへの修正はパッチ処理、バージョン 6.0 または 6.5 から 6.7 への ESXi ホストの修正はアップグレード処理です。

仮想マシンの修正

VMware Tools および仮想マシンの仮想ハードウェアを新しいバージョンにアップグレードできます。仮想マシンのアップグレードは、Update Manager のデフォルトの仮想マシン アップグレード ベースラインで管理します。

組織的なアップグレード

Update Manager では、ホストおよび仮想マシンを組織的にアップグレードできます。組織的なアップグレードにより、ベースライン グループを使用して、vSphere インベントリ内のホストおよび仮想マシンをアップグレードできます。

単一のホスト アップグレード ベースラインと、複数のパッチ ベースラインまたは拡張機能ベースラインを含むベースライン グループを使用すると、ホストを組織的にアップグレードできます。Update Manager は、最初にホストをアップグレードして、そしてパッチ ベースラインおよび拡張機能ベースラインを適用します。

次のベースラインを含む仮想マシン ベースライン グループを使用して、仮想マシンの組織的なアップグレードを行います。

- ホストと整合するように仮想マシン ハードウェアをアップグレード
- ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード

組織的なアップグレードを使用して、仮想ハードウェアとインベントリ内の仮想マシンの VMware Tools を同時にアップグレードできます。VMware Tools のアップグレード ベースラインが最初に実行され、続いて仮想マシンのハードウェアのアップグレード ベースラインが実行されます。

組織的なアップグレードは、クラスタ、フォルダ、またはデータセンター レベルで実行できます。

Windows オペレーティング システム での Update Manager のインストール、 アップグレード、アンインストール

2

Update Manager サーバを、Windows 仮想マシンまたは物理マシンにインストールし、Windows 上で実行されている vCenter Server インスタンスに接続できます。Update Manager サーバは、後でアンインストールすることができます。以前のバージョンの Update Manager サーバを実行している場合は、バージョン 6.7 にアップグレードすることができます。

■ システム要件

Update Manager サーバを実行および使用するには、環境が特定の条件を満たしていることを確認する必要があります。また、vCenter Server および Update Manager がそれぞれ互換性のあるバージョンであることも確認します。

■ Update Manager データベースの準備

Update Manager サーバと、Windows にインストールする Update Manager Download Service (UMDS) には、サーバ データを保存して整理するためのデータベースが必要です。Update Manager では、Oracle、Microsoft SQL Server データベースがサポートされます。

■ Windows での Update Manager のインストール

Update Manager サーバは 64 ビット アプリケーションです。Windows 用 Update Manager サーバは 64 ビット Windows マシンにのみインストールできます。

■ Windows 上で実行する Update Manager のアップグレード

Update Manager 6.7 へのアップグレードは、64 ビット Windows オペレーティング システムにインストールされている Update Manager バージョン 6.0 または 6.5 からのみ行うことができます。

■ Windows 上で実行する Update Manager のアンインストール

Update Manager がディスク容量などのコンピューティング リソースに与える影響は比較的小さいです。Update Manager を削除する必要がある場合を除き、既存のインストールをそのまま残します。

■ Update Manager 環境のベスト プラクティスと推奨事項

vCenter Server が実行中されているサーバまたは別のサーバに、Update Manager をインストールできません。

システム要件

Update Manager サーバを実行および使用するには、環境が特定の条件を満たしていることを確認する必要があります。また、vCenter Server および Update Manager がそれぞれ互換性のあるバージョンであることも確認します。

Update Manager を Windows にインストールする前に、Oracle または Microsoft SQL Server データベースを設定する必要があります。比較的小規模なデプロイで、最大 5 台のホストと 50 台の仮想マシンで構成される場合は、バンドルされている Microsoft SQL Server 2012 Express データベースを使用できます。これは、Update Manager インストール ウィザードからインストールできます。

Update Manager は、物理サーバまたは仮想マシンにインストールできます。Update Manager サーバ コンポーネントは、同じ Windows マシンに vCenter Server としてインストールするか、異なるマシンにインストールできます。Update Manager サーバ コンポーネントのインストール後、Update Manager を使用するために、Update Manager クライアントは vSphere Web Client で自動的に有効になります。

vCenter Server システムが、共通の vCenter Single Sign-On ドメインによって他の vCenter Server システムに接続されている場合は、各 vCenter Server システムに Update Manager インスタンスをインストールして登録します。

Update Manager のハードウェア要件

Update Manager は、ハードウェアの最小要件を満たすあらゆるシステムで動作できます。

Update Manager のハードウェア最小要件は、Update Manager の導入方法によって異なります。Update Manager と同じマシンにデータベースをインストールする場合、メモリ サイズとプロセッサ速度に求められる条件が高くなります。許容可能なパフォーマンスを実現するには、システムがハードウェア最小要件を満たしていることを確認してください。

表 2-1. ハードウェア最小要件

ハードウェア	要件
プロセッサ	2 個以上の論理コアを持つ Intel または AMD の x86 プロセッサ（それぞれ速度が 2 GHz）
ネットワーク	10/100 Mbps 最良のパフォーマンスを得るには、Update Manager と ESXi ホストの間にギガビット接続を使用します。
メモリ	2 GB RAM（Update Manager と vCenter Server のマシンが異なる場合） 8GB RAM（Update Manager と vCenter Server のマシンが同一の場合）

Update Manager は、SQL Server または Oracle データベースを使用します。Update Manager と共有されるデータベースではなく、vCenter Server 専用のデータベースを使用し、定期的にデータベースをバックアップする必要があります。データベースは、Update Manager と同じコンピュータまたはローカル ネットワーク内のコンピュータに配置することがベスト プラクティスです。

導入の規模によって、Update Manager は、データベースの使用のために 1 か月ごとに最小限の空き容量を必要とします。容量の要件の詳細については、『VMware vSphere Update Manager Sizing Estimator』を参照してください。

サポート対象の Windows オペレーティング システムおよびデータベース フォーマット

Update Manager は特定のデータベースおよびオペレーティング システムと連携します。

Update Manager サーバには、64 ビットの Windows システムが必要です。

Update Manager サーバと vSphere Update Manager Download Service (UMDS) をインストールできるサポート対象の Windows オペレーティング システムのリストについては、[VMware vCenter Server インストール用にサポート対象のホスト オペレーティング システム](#)を参照してください。記事にリストされている vCenter Server インストール用にサポートされている Windows オペレーティング システムは、Update Manager サーバおよび Update Manager ダウンロードサービス (UMDS) の各バージョンのインストールにも適用されます。

注： Update Manager サーバのインストール先の Windows システムが Active Directory ドメイン コントロールではないことを確認してください。

Windows にインストールする Update Manager サーバには、SQL Server または Oracle データベースが必要です。Update Manager では、インストーラにバンドルされている SQL Server 2012 Express データベースを使用して小規模な環境を処理できます。5 台以上のホストと 50 台以上の仮想マシンがある環境では、Update Manager 用に Oracle または SQL Server データベースを作成してください。大規模な環境では、Update Manager サーバおよび vCenter Server データベースとは別のコンピュータに、Update Manager データベースをセットアップします。

Update Manager サーバおよび UMDS と互換性のあるデータベース フォーマットについては、VMware 製品の相互運用性マトリックス (http://www.vmware.com/resources/compatibility/sim/interop_matrix.php) の [ソリューション/データベースの相互運用性] タブをクリックします。[ソリューションの選択] ドロップダウンメニューで VMware vSphere Update Manager を選択し、[互換性の確認] ボタンをクリックします。

Update Manager の vCenter Server、vCenter Server Appliance、vSphere Web Client、vSphere Client との互換性

Update Manager 6.7 は、vCenter Server 6.7 およびそのコンポーネントとのみ互換性があります。

Windows 上で動作する Update Manager サーバは、Windows および vSphere Web Client 上で動作する vCenter Server とのみ互換性があります。

vCenter Server Appliance は Update Manager サーバと共にパッケージングされ、展開の後、Update Manager をサービスとして実行します。vCenter Server Appliance は、vSphere Client と vSphere Web Client の両方で Update Manager クライアント インターフェイスをサポートします。

vSphere Client と vSphere Web Client では、Update Manager ユーザー インターフェイスに相違があります。たとえば、vSphere Client では、Update Manager の設定の変更、修正ウィザードのデフォルトの修正オプションの変更、または仮想マシンの修正を行うことはできません。これらの操作には、vSphere Web Client を使用します。

必要なデータベース権限

Update Manager のインストールとアップグレードに必要なデータベース権限セットは、Update Manager の管理に必要な権限セットとは異なります。

Update Manager をインストールまたはアップグレードする前に、必要な権限をデータベース ユーザーに付与する必要があります。

表 2-2. Update Manager のインストールまたはアップグレードに必要なデータベース権限

データベース	権限
Oracle	Update Manager Oracle データベース ユーザーに DBA ロールを割り当てるか、次の権限セットを付与します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 接続 ■ dbms_lock での実行 ■ ビューの作成 ■ プロシージャの作成 ■ テーブルの作成 ■ シーケンスの作成 ■ 任意のシーケンスの作成 ■ 任意のテーブルの作成 ■ タイプの作成 ■ 無制限のテーブル スペース
Microsoft SQL Server	データベース ユーザーに、Update Manager データベースと MSDB データベースにおける、sysadmin サーバ ロールまたは db_owner 固定データベース ロールのいずれかが付与されていることを確認します。db_owner ロールはアップグレードに必要ですが、SQL ジョブが、Update Manager インストールまたはアップグレードの一部として作成されていません。

Update Manager を実行するには、一連の最小権限をデータベース ユーザーに付与する必要があります。

表 2-3. Update Manager の使用に必要なデータベース権限

データベース	権限
Oracle	Oracle データベース ユーザーに最小限必要な権限は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ■ セッションの作成 ■ 任意のテーブルの作成 ■ 任意のテーブルのドロップ
Microsoft SQL Server	データベース ユーザーに、Update Manager データベースと MSDB データベースにおける、sysadmin サーバ ロールまたは db_owner 固定データベース ロールのいずれかが必要です。

Update Manager データベースの準備

Update Manager サーバと、Windows にインストールする Update Manager Download Service (UMDS) には、サーバ データを保存して整理するためのデータベースが必要です。Update Manager では、Oracle、Microsoft SQL Server データベースがサポートされます。

Update Manager サーバを Windows マシンにインストールする前に、データベース インスタンスを作成し、すべての Update Manager データベース テーブルを確実に作成できるように、そのインスタンスを構成する必要があります。Update Manager で組み込みの Microsoft SQL Server 2012 Express データベースをインストールして構成できます。Microsoft SQL Server 2012 Express は、最大 5 台のホストと 50 台の仮想マシンで構成される小規模なデプロイにお勧めします。

Update Manager 6.7 サーバは 64 ビット アプリケーションなので、64 ビット マシンにしかインストールできません。Update Manager には 64 ビット DSN が必要です。

Microsoft SQL Server データベースおよび Oracle データベースを使用するには、64 ビット システム DSN を構成し、ODBC でテストする必要があります。

使用する Update Manager データベースは、vCenter Server データベースと同じにできます。また、分離型データベースや、既存のデータベース クラスタを使用することもできます。大規模環境で最適な結果を得るためには、vCenter Server システム データベースとは別のマシンで実行される専用の Update Manager データベースを使用します。

Update Manager サーバでデータベースに接続するには、管理者の認証情報が必要です。Update Manager サーバまたは vSphere Update Manager Download Service (UMDS) を Windows にインストールした後、データベース ユーザー名とパスワードが変更されている場合は、Update Manager と UMDS を再構成できます。再インストールする必要はありません。『VMware vSphere Update Manager の再構成』ドキュメントを参照してください。

データベースのセットアップを開始する前に、サポートされているデータベースを確認してください。サポートされていないデータベース サーバへの ODBC 接続を確立すると、Update Manager インストール ウィザードのドロップダウン メニューに、サポートされていないデータベースの DSN が表示される場合があります。サポート対象データベース パッチの詳細については、『VMware 製品の相互運用性マトリックス』(http://www.vmware.com/resources/compatibility/sim/interop_matrix.php) のソリューション/データベースの相互運用性オプションを参照してください。データベースの準備が不適切だと、Update Manager インストーラによって、エラー メッセージまたは警告メッセージが表示される場合があります。

64 ビットの DSN の作成

Update Manager 6.7 システムには、64 ビットの DSN が必要です。この要件は、サポートされているすべてのデータベースに適用されます。

手順

- 1 Windows の [スタート] メニューで、[コントロール パネル] - [管理ツール] - [データソース (ODBC)] を選択します。
- 2 システム DSN を作成します。
Microsoft SQL データベースを使用している場合は、SQL Native Client バージョン 10 または 11 を使用してシステム DSN を作成します。
- 3 接続をテストします。

結果

これでシステムが Update Manager と互換性のある DSN を持つようになります。Update Manager のインストーラで DSN の入力を求めるプロンプトが表示されたら、64 ビットの DSN を選択します。

バンドルされている Microsoft SQL Server 2012 Express データベース パッケージについて

Update Manager のインストール時またはアップグレード時にデータベースとして Microsoft SQL Server 2012 Express を選択すると、Microsoft SQL Server 2012 Express データベース パッケージのインストールと構成が行われます。

その他の構成は必要ありません。

Update Manager データベースのメンテナンス

Update Manager データベース インスタンスと Update Manager サーバをインストールして運用可能になったら、標準的なデータベース メンテナンスを実施します。

Update Manager データベースのメンテナンスを実施するには、次の作業を行います。

- ログ ファイルの増大の監視と必要に応じたデータベース ログ ファイルの圧縮。使用しているデータベース タイプのドキュメントを参照してください。
- データベースの定期的なバックアップ スケジュールの設定。
- Update Manager のアップグレード前のデータベースのバックアップ。

データベースのバックアップについては、使用しているデータベースのドキュメントを参照してください。

Microsoft SQL Server データベース接続の構成

Update Manager をインストールするときに、SQL Server データベースとの ODBC 接続を確立できます。

Update Manager で SQL Server を使用する場合は、マスター データベースを使用しないでください。

SQL Server の ODBC 接続の具体的な構成方法については、Microsoft SQL ODBC のドキュメントを参照してください。

手順

- 1 SQL Server で SQL Server Management Studio を使用して、SQL Server データベースを作成します。

Update Manager インストーラで、すべてのテーブル、プロシージャ、およびユーザー定義関数 (UDF) が、Update Manager に使用するデータベース ユーザーのデフォルトのスキーマ内に作成されます。このデフォルトのスキーマは、必ずしも DBO スキーマである必要はありません。

- 2 データベース オペレータ (DBO) 権限を持つ SQL Server データベース ユーザーを作成します。

データベース ユーザーに、Update Manager データベースと MSDB データベースに対する sysadmin サーバ ロールまたは db_owner 固定データベース ロールがあることを確認します。

MSDB データベースの db_owner ロールは、インストールとアップグレードにのみ必要です。

新規データ ソース (ODBC) の作成

Update Manager と連携して動作する Microsoft SQL Server データベースを準備するには、データ ソース (ODBC) を作成する必要があります。

手順

- 1 Update Manager サーバ システムで、[コントロール パネル] - [管理ツール] - [データ ソース (ODBC)] を選択します。
- 2 [システム DSN] タブをクリックします。
- 3 ODBC システム データ ソースを作成または編集します。

オプション	操作
ODBC システム データ ソースの作成	<ol style="list-style-type: none"> a [追加] をクリックします。 b Microsoft SQL Server 2008、Microsoft SQL Server 2008 R2 Express、Microsoft SQL Server 2012、または Microsoft SQL Server 2014 の場合は、[SQL Native Client] を選択して、[完了] をクリックします。
既存の ODBC システム データ ソースの編集	編集する ODBC システム データ ソースをダブルクリックします。

Update Manager サーバおよび vSphere Update Manager Download Service (UMDS) と互換性のある Microsoft SQL Server データベースのバージョンの詳細なリストを表示するには、VMware 製品の相互運用性マトリックス (http://www.vmware.com/resources/compatibility/sim/interop_matrix.php) の [ソリューション/データベースの相互運用性] タブをクリックします。[ソリューションの選択] ドロップダウンメニューで VMware vSphere Update Manager を選択し、[互換性の確認] ボタンをクリックします。

- 4 [Microsoft SQL Server 用の DSN の構成] ウィンドウで必要な情報を入力し、[次へ] をクリックします。
 - a [名前] フィールドに、ODBC DSN を入力します。
たとえば、**VUM** と入力します。
 - b (オプション) [説明] フィールドに、ODBC DSN の説明を入力します。
 - c [サーバ] ドロップダウンメニューから SQL Server 名を選択します。
ドロップダウンメニューで SQL Server マシン名が見つからない場合は、テキスト フィールドにマシン名を直接入力します。
- 5 SQL Server の認証方式を設定し、[次へ] をクリックします。
 - ローカルの SQL Server を使用する場合は、[統合 Windows NT 認証] を選択できます。
 - リモートの SQL Server を使用する場合は、SQL Server 認証方式を使用する必要があります。

SQL Server 認証方式を使用する場合は、[Update Manager のインストール] ウィザードで、ODBC の設定に使用したものと同一ユーザー名、パスワード、および ODBC DSN を指定する必要があります。

重要： データベースが別のマシンに配置されている場合、Update Manager はローカル システム アカウントの問題によりデータベースの Windows 認証をサポートしません。Update Manager データベースがリモートマシンに配置されている場合は、データベースとシステム DSN が SQL Server 認証を使用していることを確認します。

- 6 [既定のデータベースを以下のものに変更する] ドロップダウン メニューでデータベースを選択し、ANSI 設定を指定して、[次へ] をクリックします。
- 7 言語と翻訳の設定、およびログ ファイルの保存先を指定して、[完了] をクリックします。

次のステップ

データ ソースをテストするには、[ODBC Microsoft SQL Server セットアップ] ウィンドウで、[データ ソースのテスト] をクリックし、[OK] をクリックします。システム トレイの SQL Server アイコンをダブルクリックして SQL エージェントがデータベース サーバで確実に実行されていることを確認します。

SQL Server の認証タイプの確認

SQL Server で Windows NT 認証と SQL Server 認証のどちらが使用されているかを確認できます。

手順

- 1 SQL Server Enterprise Manager を開きます。
- 2 [プロパティ] タブをクリックします。
- 3 接続タイプを確認します。

Oracle データベースの構成

Update Manager で Oracle データベースを使用するには、最初にデータベースの設定を行う必要があります。

手順

- 1 Oracle の Web サイトから Oracle 11g または Oracle 12c をダウンロードし、インストールして、データベース (VUM など) を作成します。
TNS Listener が動作中であることを確認し、データベース サービスが動作しているかどうかをテストします。
- 2 Oracle の Web サイトから Oracle ODBC をダウンロードします。
- 3 Oracle Universal Installer を使用して対応する Oracle ODBC ドライバをインストールします。
- 4 データベースのオープン カーソル数を増やします。

`ORACLE_BASE\ADMIN\VUM\pfile\init.ora` ファイルに `open_cursors = 300` というエントリを追加します。

この例では、`ORACLE_BASE` の部分を Oracle ディレクトリ ツリーのルートに置き換えてください。

ローカルで動作させるための Oracle 接続の構成

Oracle 接続が Update Manager とローカルで連携するように設定できます。

前提条件

使用する ODBC データ ソースが、64 ビット システム DSN であることを確認します。64 ビットの DSN の作成を参照してください。

手順

- 1 次の SQL 文を使用して、Update Manager 専用のテーブル スペースを作成します。

```
CREATE TABLESPACE "VUM" DATAFILE 'ORACLE_BASE\ORADATA\VUM\VUM.dat' SIZE 1000M AUTOEXTEND
ON NEXT 500K;
```

この例では、*ORACLE_BASE* の部分を Oracle ディレクトリ ツリーのルートに置き換えてください。

- 2 ODBC 経由でテーブル スペースにアクセスするユーザー (vumAdmin など) を作成します。

```
CREATE USER vumAdmin IDENTIFIED BY vumadmin DEFAULT TABLESPACE "vum";
```

- 3 このユーザーに dba 権限を付与するか、次の特定の権限を付与します。

```
grant connect to vumAdmin
grant resource to vumAdmin
grant create any job to vumAdmin
grant create view to vumAdmin
grant create any sequence to vumAdmin
grant create any table to vumAdmin
grant lock any table to vumAdmin
grant create procedure to vumAdmin
grant create type to vumAdmin
grant execute on dbms_lock to vumAdmin
grant unlimited tablespace to vumAdmin
# To ensure space limitation is not an issue
```

- 4 データベースへの ODBC 接続を作成します。

次の設定例を参照してください。

```
Data Source Name: VUM
TNS Service Name: VUM
User ID: vumAdmin
```

リモートで動作させるための Oracle データベースの構成

Update Manager とリモートで連携するように Oracle データベースを構成できます。

前提条件

- 使用する ODBC データ ソースが、64 ビット システム DSN であることを確認します。[64 ビットの DSN の作成](#)を参照してください。
- [Oracle データベースの構成](#)に記載されている方法で、データベースを設定します。

手順

- 1 Update Manager サーバ マシンに Oracle クライアントをインストールします。
- 2 Net Configuration Assistant ツールを使用して、管理対象ホストに接続するための次の項目を追加します。

```
VUM =
(DESCRIPTION =
```

```
(ADDRESS_LIST =
  (ADDRESS=(PROTOCOL=TCP) (HOST=host_address) (PORT=1521))
)
(CONNECT_DATA =(SERVICE_NAME = VUM)
)
)
```

この例の *host_address* は、クライアントが接続する必要がある管理対象ホストです。

- 3 (オプション) 必要に応じて、*ORACLE_HOME*\network\admin\ にある *tnsnames.ora* ファイルを編集します。

この場合の *ORACLE_HOME* は *C:\ORACLE_BASE* 下にあり、Oracle ソフトウェアの実行ファイルとネットワーク ファイル用のサブディレクトリが含まれています。

- 4 データベースへの ODBC 接続を作成します。

次に設定例を示します。

```
Data Source Name: VUM
TNS Service Name: VUM
User Id: vumAdmin
```

Windows での Update Manager のインストール

Update Manager サーバは 64 ビット アプリケーションです。Windows 用 Update Manager サーバは 64 ビット Windows マシンにのみインストールできます。

Update Manager サーバ コンポーネントは、vCenter Server がインストールされているのと同じマシンにインストールすることも、別のマシンにインストールすることもできます。特に大規模環境で、パフォーマンスを最適にするには、Update Manager サーバ コンポーネントを異なる Windows マシンにインストールします。

Update Manager 6.7 の Windows 用インストーラは、2,048 ビットのキーと自己署名証明書を生成します。インストール後に自己署名された SSL 証明書を置き換えるには、Update Manager Utility を使用します。

vCenter Server および Update Manager サーバは、IPv6 を使用して構成されている仮想マシンと IPv4 を使用して構成されている仮想マシンが混在するネットワーク環境にインストールできます。

Update Manager を実行および使用するには、Update Manager がインストールされているマシンのローカルシステムのアカウントを使用する必要があります。

インストール中には、Windows サーバにインストールした Update Manager サーバを vCenter Server Appliance に接続することはできません。vCenter Server Appliance では、Update Manager サーバをサービスとして活用できます。

Update Manager サーバ コンポーネントをインストールした後、Update Manager クライアント インターフェイスが vSphere Web Client 上で自動的に有効になります。

注： Adobe Flash Player の廃止後は、Flash ベースの vSphere Web Client の使用は推奨されません。ただし、vSphere 6.7 Update 3m 以降では、Windows マシンに Update Manager サーバ コンポーネントをインストールすると、クライアント インターフェイスが vSphere Client で自動的に有効になります。

VMware では、通信に指定のポートが使用されます。Update Manager サーバは、vCenter Server、ESXi ホスト、および vSphere Web Client に、指定されたポートで接続します。これらのいずれかの構成要素の間にファイアウォールが存在し、かつ Windows ファイアウォール サービスが使用中の場合は、インストール時にインストーラによってポートが開かれます。カスタマイズされたファイアウォールの場合は、必要なポートを手動で開く必要があります。

SRM を使用して保護しているデプロイ環境で Update Manager を実行できます。Update Manager サーバを SRM サーバが接続されている vCenter Server インスタンスに接続する際には十分に注意してください。SRM と同じ vCenter Server インスタンスに Update Manager サーバを接続すると、SRM または vSphere をアップグレードするとき、または日常のタスクを実行するときに問題が生じる可能性があります。Update Manager サーバをインストールする前に、Update Manager の SRM との互換性と相互運用性を確認してください。

Windows に Update Manager サーバをインストールする前提条件

Update Manager サーバをインストールする前に、インストールの前提条件を確認します。

Update Manager データベースの要件

Update Manager Oracle データベースまたは SQL Server データベースが必要です。Update Manager は、バンドルされている Microsoft SQL Server 2012 Express を使用することで、小規模環境に対応できます。5 台を超えるホストと 50 台を超える仮想マシンがある環境では、Oracle または SQL Server データベースを作成する必要があります。

Update Manager サーバおよび vSphere Update Manager Download Service (UMDS) と互換性のあるデータベース フォーマットについては、VMware 製品の相互運用性マトリックス (http://www.vmware.com/resources/compatibility/sim/interop_matrix.php) の [ソリューション/データベースの相互運用性] タブに移動します。[ソリューションの選択] ドロップダウン メニューで VMware vSphere Update Manager を選択し、[互換性の確認] ボタンをクリックします。

大規模環境の場合は、Update Manager サーバがインストールされ、vCenter Server データベースが配置されているマシンとは別のマシンにデータベースをセットアップします。Update Manager データベースの設定の詳細については、[Update Manager データベースの準備](#)を参照してください。

- バンドルされている Microsoft SQL Server 2012 Express を使用しない場合は、データベースと 64 ビット DSN を作成します。
- Update Manager データベースがリモート マシンに配置されている場合は、データベースとシステム DSN が SQL Server 認証を使用していることを確認します。

データベースが別のマシンに配置されている場合、ローカル システム アカウントの問題が生じるため、Update Manager ではデータベースの Windows 認証をサポートしません。

- バンドルされている Microsoft SQL Server 2012 Express データベースを使用する場合は、システムに Microsoft Windows インストーラ バージョン 4.5 (MSI 4.5) がインストールされていることを確認します。
- データベース権限が、[必要なデータベース権限](#)に記載された要件を満たしていることを確認します。
- サポートされているデータベース クライアント バージョンを使用して、サポートされているデータベース サーババージョンへの 64 ビット ODBC 接続を作成します。

サポートされているデータベース クライアント バージョンを使用して、サポートされていないバージョンのデータベース サーバへの ODBC 接続を作成した場合は、サポートされていないデータベースの DSN が Update Manager インストール ウィザードのドロップダウン メニューに表示されることがあります。

vCenter Server インストール

- vCenter Server をインストールします。

求められた場合は、vCenter Server がインストールされているマシンを再起動する必要があります。再起動しなかった場合、Update Manager を vCenter Server に登録できず、Update Manager のインストールが失敗する可能性があります。

vCenter Server のインストールの詳細については、『vSphere のインストールとセットアップ』を参照してください。

- vCenter Server システムに関する次のネットワーク情報を収集します。

- vCenter Server システムのユーザー名とパスワード。

Update Manager のインストール プロセス中に、Update Manager サーバを vCenter Server システムに登録する必要があります。Update Manager を vCenter Server に登録するには、拡張機能の登録権限を持つ vCenter Server ユーザーの認証情報を指定する必要があります。ユーザー、グループ、ロール、および権限の詳細については、vSphere のセキュリティを参照してください。

- ポート番号。ほとんどの場合、デフォルトの Web サービス ポート 80 が使用されます。

- IP アドレス。

vCenter Server システムまたは Update Manager の IP アドレスが変更された場合は、Update Manager サーバを vCenter Server システムに再登録します。インストール後の Update Manager サーバの構成の詳細については、VMware vSphere Update Manager の再構成を参照してください。

Update Manager のシステム要件

- システムがシステム要件で指定されている要件を満たしていることを確認します。

重要： Update Manager 6.7 サーバ コンポーネントは 64 ビット マシンにのみインストールできます。Update Manager サーバのインストール先の Windows システムが Active Directory ドメイン コントロールではないことを確認してください。

- ローカル管理者、または管理者グループのメンバーになっているドメイン ユーザーとしてログインします。
- Update Manager 環境に Microsoft .NET Framework 4.7 をインストールする必要があります。インストールに進む前に、次の点を検討してください。
 - Microsoft Windows Server 2008 Service Pack 2 (64 ビット版) では、Microsoft .NET Framework 4.7 のインストールはサポートされていません。
 - Microsoft .NET Framework 4.7 をインストールするには、いくつかの Windows アップデートを追加でインストールしなければならない可能性があります。Windows アップデートの関連リンクは、Microsoft .NET Framework 4.7 の実行中に表示されます。
 - Microsoft .NET Framework 4.7 をインストールするには、ホスト OS の再起動が必要になることがあります。

- vCenter Server が実行されている Windows マシン（通常はインストール）に Update Manager サーバをインストールするときに、.NET Microsoft .NET Framework 4.7 インストールによってシステム上で再起動が呼び出された場合、vCenter Server サービスは一時的に切断されることがあります。
- Microsoft .NET Framework 4.7 をインストールまたはアップグレードした後に、Update Manager サーバまたは UMDS インストール ウィザードのプロンプトに従います。
- vCenter Server サーバの VMware Site Recovery Manager[®] との互換性および相互運用性を確認します。Site Recovery Manager サーバが接続されている vCenter Server インスタンスに Update Manager サーバを接続する際には十分に注意してください。Site Recovery Manager と同じ vCenter Server インスタンスに Update Manager サーバを接続すると、Site Recovery Manager または vCenter Server をアップグレードするとき、または日常の操作を実行するときに問題が生じる可能性があります。

Update Manager インストーラの取得

Windows 用の Update Manager サーバは、Windows 用の vCenter Server インストーラからインストールします。

Update Manager for Windows は、64 ビットの Windows オペレーティング システムでのみ実行できます。

前提条件

<https://my.vmware.com/web/vmware/> で VMware Customer Connect アカウントを作成します。

手順

- 1 VMware の Web サイト (<https://my.vmware.com/web/vmware/downloads>) から vCenter Server のインストーラをダウンロードします。

vCenter Server は、VMware vCloud Suite および VMware vSphere の一部であり、データセンターとクラウド インフラストラクチャの下に表示されます。

- a [データセンターおよびクラウド インフラストラクチャ] の下で、[VMware vSphere] を選択し、[製品のダウンロード] をクリックします。
- b [バージョンの選択] ドロップダウン メニューから、目的のバージョンを選択します。



- c そのページで VMware vCenter Server を探し、[ダウンロードする] を選択します。

- d [バージョンの選択] ドロップダウンメニューから、目的のアップデートまたはパッチ リリースのバージョン



ンを選択します。

- e VMware vCenter Server <product version> および Windows 用モジュールの ISO ファイルをダウンロードします。

- 2 md5sum が正しいことを確認します。

VMware Web サイトで、MD5 チェックサムの使用に関するトピック (<http://www.vmware.com/download/md5.html>) をご覧ください。

- 3 Update Manager サーバまたは UMDS をインストールする Windows 仮想マシンまたは物理サーバに ISO イメージをマウントします。

Update Manager サーバのインストール

Update Manager のインストールは、単一の vCenter Server インスタンスに関連付ける必要があります。

Update Manager は、vCenter Server と同じコンピュータにインストールするか、異なるコンピュータにインストールすることができます。

vSphere 6.7 Update 3m 以降では、Windows マシンに Update Manager サーバ コンポーネントをインストールすると、Update Manager クライアント インターフェイスが vSphere Client で自動的に有効になります。以前のリリースでは、Windows 上で動作する Update Manager サーバを使用している場合、vSphere Web Client でのみ Update Manager クライアント コンポーネントを表示できます。ただし、Adobe Flash Player の廃止後は、Flash ベースの vSphere Web Client の使用は推奨されません。Adobe Flash Player の提供終了 (EOL) と、各 VMware 製品への影響の詳細については、<https://kb.vmware.com/s/article/78589> にある VMware ナレッジベースの記事を参照してください。

前提条件

- [Windows に Update Manager サーバをインストールする前提条件](#)のインストールの前提条件を参照してください。
- vCenter Server サーバの VMware Site Recovery Manager[®] との互換性および相互運用性を確認します。Site Recovery Manager サーバが接続されている vCenter Server インスタンスに Update Manager サーバを接続する際には十分に注意してください。Site Recovery Manager と同じ vCenter Server インスタンスに Update Manager サーバを接続すると、Site Recovery Manager または vCenter Server をアップグレードするとき、または日常の操作を実行するときに問題が生じる可能性があります。
- Update Manager 環境に Microsoft .NET Framework 4.7 をインストールする必要があります。インストールに進む前に、次の点を検討してください。
 - Microsoft Windows Server 2008 Service Pack 2 (64 ビット版) では、Microsoft .NET Framework 4.7 のインストールはサポートされていません。

- Microsoft .NET Framework 4.7 をインストールするには、いくつかの Windows アップデートを追加でインストールしなければならない可能性があります。Windows アップデートの関連リンクは、Microsoft .NET Framework 4.7 の実行中に表示されます。
- Microsoft .NET Framework 4.7 をインストールするには、ホスト OS の再起動が必要になることがあります。
- vCenter Server が実行されている Windows マシン（通常はインストール）に Update Manager サーバをインストールするときに、.NET Microsoft .NET Framework 4.7 インストールによってシステム上で再起動が呼び出された場合、vCenter Server サービスは一時的に切断されることがあります。
- Microsoft .NET Framework 4.7 をインストールまたはアップグレードした後に、Update Manager サーバまたは UMDS インストール ウィザードのプロンプトに従います。

手順

- 1 Update Manager サーバをインストールする Windows 仮想マシンまたは物理サーバに vCenter Server インストーラの ISO イメージをマウントします。
- 2 マウントされたディレクトリで、VMware vCenter Server インストーラの autorun.exe ファイルをダブルクリックし、[vSphere Update Manager] - [サーバ] を選択します。
- 3 (オプション) [組み込みデータベースとしての Microsoft SQL Server 2012 Express の使用] オプションを選択し、[インストール] をクリックします。

注： この手順は、サポート対象の別の Oracle または SQL Server データベースを使用する場合のみスキップしてください。

以前の Update Manager 環境で Microsoft SQL Server 2012 Express を使用していない場合、Microsoft SQL Server 2012 Express のインストール ウィザードが開きます。

- 4 Microsoft .NET Framework 4.7 のインストール オプションを選択します。

注： Microsoft .NET Framework 4.7 をインストールすることを選択しなかった場合、Update Manager サーバのインストールは失敗し、エラー メッセージが表示されます。

- 5 [VMware vCenter インストーラ] で [インストール] をクリックします。
[VMware vCenter インストーラ] ウィザードが開いたまま、言語選択のダイアログ ボックスが開きます。
- 6 vSphere Update Manager インストーラの言語を選択し、[OK] をクリックします。
- 7 VMware vCenter Server インストーラで選択したデータベースに応じて、次の手順のいずれかを実行します。
 - 組み込みの Microsoft SQL Server 2012 を使用することを選択した場合は、Microsoft .NET Framework 4.7 と Microsoft SQL Server 2012 のインストール プロセスが完了するのを待ちます。次に、VMware vCenter Server インストーラの [インストール] を再度クリックします。
VMware vSphere Update Manager インストーラが開きます。
 - 別のサポートされているデータベースを使用していて、組み込みの Microsoft SQL Server 2012 を使用することを選択しなかった場合、VMware vSphere Update Manager インストーラが開き、次の手順を続行できます。

- 8 ようこそページで [次へ] をクリックします。
- 9 使用許諾契約書を読んで同意し、[次へ] をクリックします。
- 10 サポート情報を確認し、インストール後すぐにデフォルトのダウンロード ソースからアップデートをダウンロードするかどうかを選択して、[次へ] をクリックします。

[インストールの直後に、デフォルト ソースからアップデートをダウンロード] の選択を解除した場合は、デフォルトのダウンロード スケジュールのとおり Update Manager が毎日 1 回アップデートをダウンロードします。また、[ダウンロード設定] ページの [今すぐダウンロード] ボタンをクリックするとすぐにアップデートがダウンロードされます。デフォルトのダウンロード スケジュールは、インストール完了後に変更できます。

- 11 Update Manager サーバが vCenter Server システムへの接続に使用する vCenter Server の IP アドレスまたは名前、HTTP ポート、および管理アカウントを入力し、[次へ] をクリックします。

vCenter Server Appliance に IP アドレスを入力することができます。Update Manager サーバは vCenter Server Appliance と全面的に連携しており、vCenter Server Appliance は Update Manager をサービスとして実行します。

デフォルトの管理者ユーザー アカウントは administrator@vsphere.local です。

- 12 (オプション) データベースを選択して、[次へ] をクリックします。

組み込みの Microsoft SQL Server 2012 Express データベースの使用を選択した場合、このページはインストール ウィザードで表示されません。

- a サポート対象の既存のデータベースを使用する場合は、DSN のリストから選択します。DSN が Windows NT 認証を使用していない場合、DSN のユーザー名とパスワードを入力し、[次へ] をクリックします。

重要： DSN は、64 ビットの DSN である必要があります。

- 13 (オプション) データベース オプションを選択します。

- 指定するシステム DSN が現在のスキーマを持つ既存の Update Manager データベースを示す場合は、既存のデータベースを保持するか、空のデータベースで置き換えるかを選択します。
- 指定するシステム DSN が別のスキーマを持つ既存の Update Manager データベースを示す場合は、データベースのアップグレード ページで、[はい、Update Manager データベースをアップグレードします] および [既存の Update Manager データベースをバックアップしました] を選択し、[次へ] をクリックします。

- 14 ドロップダウン メニューから、Update Manager インスタンスの IP アドレスまたはホスト名を選択します。

Update Manager をインストールするコンピュータの NIC が 1 つの場合、Update Manager のインストーラは自動的に IP アドレスを検出します。コンピュータに NIC が複数ある場合は、正しい IP アドレスを選択するか、DNS 名を使用する必要があります。DNS 名は、この Update Manager インスタンスが管理するすべてのホストから解決できる必要があります。

- Update Manager のポート設定を指定し、プロキシ設定の構成を行うかどうかを選択して、[次へ] をクリックします。

注： Update Manager のポートの設定はインストール後には変更できないため、指定する際には十分に注意してください。

SOAP ポートの場合は、競合がないかぎり、使用するポートの範囲に制限事項はありません。

サーバポートの場合は、80、9000 ~ 9100 の範囲を使用できます。Update Manager はこの範囲の ESXi ファイアウォールポートを自動的に開いて、パッチストアへの送信 HTTP トラフィックを許可します。

- (オプション) プロキシサーバとポートの情報を入力し、プロキシの認証を行うかどうかを指定して、[次へ] をクリックします。

- Update Manager のインストールディレクトリとパッチダウンロード用ディレクトリを選択して、[次へ] をクリックします。

デフォルトの場所を使用しない場合は、[変更] をクリックして、別のディレクトリを参照できます。

- (オプション) ディスクの空き容量に関する警告メッセージに対し、[OK] をクリックします。

このメッセージは、空き容量が 120 GB 未満のコンピュータに、Update Manager をインストールしようとすると表示されます。

- [インストール] をクリックして、Update Manager サーバのインストールを開始します。

- [終了] をクリックして Update Manager インストールウィザードを閉じます。

結果

Update Manager サーバコンポーネントがインストールされます。Update Manager クライアントインターフェイスが vSphere Web Client で自動的に有効になります。

注： Windows 上で実行される Update Manager サーバインスタンスを使用する場合は、vSphere Web Client でのみ Update Manager を使用できます。Windows で実行される Update Manager サーバが登録されている vCenter Server インスタンスに vSphere Client を使用して接続する場合、Update Manager インターフェイスは表示されません。

Update Manager クライアントインターフェイスと、Windows 上で動作する Update Manager サーバの併用

Update Manager サーバをインストールすると、Update Manager クライアントインターフェイスは自動的に vSphere Client で有効になります。以前のリリースでは、Windows に Update Manager サーバコンポーネントをインストールすると、Update Manager クライアントインターフェイスは vSphere Web Client で自動的に有効になりました。ただし、Adobe Flash Player の廃止後は、Flash ベースの vSphere Web Client の使用は推奨されません。したがって、vSphere 6.7 Update 3m 以降は、Windows で Update Manager を使用する場合は、vSphere Client から Update Manager クライアントインターフェイスにアクセスする必要があります。

Adobe Flash Player の提供終了 (EOL) と、各 VMware 製品への影響の詳細については、<https://kb.vmware.com/s/article/78589> にある VMware ナレッジベースの記事を参照してください。

Update Manager クライアント インターフェイスの詳細については、[Update Manager クライアント インターフェイスの概要](#)を参照してください。

Windows 上で実行する Update Manager のアップグレード

Update Manager 6.7 へのアップグレードは、64 ビット Windows オペレーティング システムにインストールされている Update Manager バージョン 6.0 または 6.5 からのみ行うことができます。

Windows 上で実行されているバージョン 6.0 またはバージョン 6.5 の vCenter Server システムを vCenter Server Appliance 6.7 に切り替えるのは移行プロセスになります。Update Manager の移行プロセスの詳細については、[5 章 Update Manager の Windows から vCenter Server Appliance 6.7 への移行](#)を参照するか、または『vSphere のアップグレード』ドキュメントの移行に関する章を参照してください。

バージョン 5.5 より前の Update Manager または、32 ビット プラットフォームで動作する Update Manager を実行している場合は、Update Manager 6.7 への直接アップグレードを行うことはできません。Update Manager 5.0 インストール メディアに同梱されているデータ移行ツールを使用して、Update Manager システムを、64 ビット オペレーティング システムで動作する Update Manager 5.0 にアップグレードし、さらにバージョン 5.0 またはバージョン 5.1 からバージョン 5.5 へのアップグレードを実行した後で、6.7 にアップグレードする必要があります。データ移行ツールの使用方法の詳細については、Update Manager 5.0 に関する『VMware vSphere Update Manager のインストールと管理』ドキュメントを参照してください。

Update Manager をアップグレードするときに、インストール パスとパッチのダウンロード場所を変更することはできません。これらのパラメータを変更するには、アップグレードではなく、新しいバージョンの Update Manager をインストールする必要があります。

以前のバージョンの Update Manager は 512 ビットのキーと自己署名証明書を使用しますが、これらはアップグレード時に置き換えられません。よりセキュリティの高い 2,048 ビットのキーが必要な場合は、Update Manager 6.7 を新規インストールするか、Update Manager Utility を使用して既存の証明書を置き換えます。Update Manager Utility の使用方法の詳細については、『VMware vSphere Update Manager の再構成』ドキュメントを参照してください。

仮想マシン バッチ スキャンや修正のスケジュール設定タスクは、アップグレード時に保持されます。アップグレードの終了後、以前のリリースのスケジュール設定スキャン タスクを編集して削除できます。既存のスケジュール設定修正タスクは削除できますが、編集はできません。

Update Manager データベースは、Update Manager のアップグレード時にアップグレードする必要があります。アップグレード時に、データベース内の既存のデータを残すか、置き換えるかを選択できます。

Update Manager をインストールまたはアップグレードすると、Update Manager で必要な Java コンポーネント (JRE) がシステムにサイレントでインストールまたはアップグレードされます。Update Manager のアップグレード手順とは別に、Java コンポーネントのバージョンを Update Manager のリリースとは非同期にリリースされるバージョンにアップグレードすることができます。

Update Manager サーバのアップグレード

64 ビットのマシンにインストールされている Update Manager のインスタンスをアップグレードするには、まず vCenter Server を互換性のあるバージョンにアップグレードする必要があります。

Update Manager 6.7 リリースでは、Update Manager 6.0 以降からのアップグレードが可能です。

前提条件

- データベース ユーザーに必要な権限セットを付与します。詳細については、[Update Manager データベースの準備](#)を参照してください。
- Update Manager サービスを停止し、Update Manager データベースをバックアップします。インストーラがデータベース スキーマをアップグレードするため、データベースは以前の Update Manager バージョンとの互換性を持たなくなります。これを元に戻すことはできません。
- Oracle データベースを使用する Update Manager インスタンスをアップグレードする場合は、[64 ビットの DSN の作成](#)。Microsoft SQL データベースを使用する Update Manager インスタンスをアップグレードしている場合は、64 ビット DSN の作成はインストーラによって管理されます。
- [Update Manager の vCenter Server、vCenter Server Appliance、vSphere Web Client、vSphere Client との互換性](#)に関する情報を参照してください。

手順

- 1 vCenter Server を互換性のあるバージョンにアップグレードします。

注： vCenter Server のインストール ウィザードでは、vCenter Server をアップグレードすると Update Manager との互換性がなくなることが警告されます。

プロンプト メッセージが表示された場合は、vCenter Server を実行しているマシンを再起動する必要があります。再起動しないと、Update Manager をアップグレードできない可能性があります。

- 2 ソフトウェア インストーラのディレクトリで、autorun.exe ファイルをダブルクリックして、[vSphere Update Manager] - [サーバ] を選択します。

autorun.exe を実行できない場合は、UpdateManager フォルダを参照して VMware-UpdateManager.exe を実行します。

- 3 インストーラの言語を選択して、[OK] をクリックします。
- 4 アップグレードに関する警告するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
- 5 ようこそページで [次へ] をクリックします。
- 6 使用許諾契約書を読んで同意し、[次へ] をクリックします。
- 7 サポート情報を確認し、インストール後すぐにデフォルトのダウンロード ソースからアップデートをダウンロードするかどうかを選択して、[次へ] をクリックします。

[インストールの直後に、デフォルト ソースからアップデートをダウンロード] の選択を解除した場合は、デフォルトのダウンロード スケジュールに従って Update Manager が毎日 1 回アップデートをダウンロードするか、ダウンロード設定ページの [今すぐダウンロード] をクリックするとすぐにアップデートがダウンロードされます。デフォルトのダウンロード スケジュールは、インストール完了後に変更できます。

- 8 vCenter Server システムの認証情報を入力し、[次へ] をクリックします。

元の vCenter Server システムへの Update Manager の登録を有効にしておく場合は、元のインストールの vCenter Server システムの IP アドレスを保持し、認証情報を入力します。

- 9 Update Manager データベースのデータベース パスワードを入力し、[次へ] をクリックします。
データベース パスワードは、DSN で Windows NT 認証を使用していない場合にのみ必要です。
- 10 データベース アップグレード ページで、[はい、Update Manager データベースをアップグレードします] と [既存の Update Manager データベースをバックアップしました] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 11 (オプション) 既存のリモート データベースが既に最新のスキーマにアップグレードされている場合は、データベースの再初期化警告ページで、そのデータベースを保持するように選択します。
既存のデータベースを空のデータベースで置き換えると、既存のデータはすべて失われます。
- 12 Update Manager のポート設定を指定し、プロキシ設定の構成を行うかどうかを選択して、[次へ] をクリックします。
Update Manager がインストールされているコンピュータがインターネットにアクセスできる場合は、プロキシ設定を構成します。
- 13 (オプション) プロキシ サーバとポートの情報、プロキシの認証を行うかどうかを指定して、[次へ] をクリックします。
- 14 [インストール] をクリックして、アップグレードを開始します。
- 15 [終了] をクリックします。

結果

Update Manager サーバがアップグレードされました。

Update Manager Java コンポーネントのアップグレード

Update Manager をインストールまたはアップグレードすると、必要な Update Manager の Java コンポーネント (JRE) がサイレントでインストールまたはアップグレードされます。vCenter Server Java コンポーネント パッチを使用して、Update Manager Java コンポーネントを Update Manager インストーラとは別にアップグレードすることもできます。

個別のインストーラを使用すると、JRE を Update Manager リリースとは非同期的にリリースされるバージョンにアップグレードできます。JRE の以前のバージョンがシステムに存在する場合、この手順によって既存のバージョンがアップグレードされます。

Update Manager を vCenter Server と同じシステム上で実行するときに以前のバージョンの vCenter Server tc Server がそのシステムに存在する場合、この手順によって vCenter Server tc Server コンポーネントもアップグレードされます。

パッチ プロセスの実行中、vCenter Server Java コンポーネントのパッチによって Update Manager サービスが再起動されるため、Update Manager のダウンタイムが発生します。

前提条件

- 当社のダウンロード ページ (<https://my.vmware.com/web/vmware/downloads>) から vCenter Server Java コンポーネント パッチをダウンロードします。名前の形式は、VMware-VIMPatch-6.7.0-build_number-YYYYMMDD.iso です。
- 実行中の Update Manager 操作 (スキャン、ステージング、修正など) をすべて停止します。

手順

- 1 Update Manager がインストールされているシステムで、vCenter Server Java Components パッチの ISO をマウントします。
- 2 Windows Explorer で *ISO_mount_directory/autorun.exe* ファイルをダブルクリックします。
[vCenter Server Java Components Update] ウィザードが開きます。
- 3 [すべてをパッチ] をクリックします。

Update Manager システム上の Java コンポーネントが最新の場合、それを確認するステータス メッセージが表示されます。

Update Manager システム上の Java コンポーネントが最新でない場合、サイレントでアップグレードされます。

[すべてをパッチ] ボタンをクリックすると、Update Manager がインストールされているシステムに、vCenter Server、vCenter Single Sign-On、vCenter Inventory Service、または vSphere Web Client もインストールされている場合、これらすべての vCenter Server コンポーネントもサイレントでアップグレードされます。

結果

Java コンポーネントは、Update Manager システム上でアップグレードされます。

Windows 上で実行する Update Manager のアンインストール

Update Manager がディスク容量などのコンピューティング リソースに与える影響は比較的小さいです。Update Manager を削除する必要がある場合を除き、既存のインストールをそのまま残します。

Update Manager サーバをアンインストールすると、Update Manager クライアント インターフェイスは自動的に vSphere Web Client から削除されます。

注： vSphere 6.7 Update 3m 以降では、Update Manager サーバが Windows マシンで実行されている場合でも、vSphere Client を使用して Update Manager クライアント インターフェイスにアクセスします。Update Manager サーバをアンインストールしても、Update Manager クライアント インターフェイスは自動的に vSphere Client から削除されません。vSphere Client では、Update Manager に関連したユーザー インターフェイス要素が引き続きすべて表示されますが、エラーが返されます。これらのエラー メッセージの表示を停止するには、Update Manager のアンインストール後、VMware vSphere Update Manager Client Plugin を無効にするか、vsphere-ui サービスを再開する必要があります。

VMware vSphere Update Manager Client Plugin は、vSphere Client の [クライアント プラグイン] ビューから無効にできます。

vsphere-ui サービスを再開する方法の詳細については、<https://kb.vmware.com/s/article/2109881> にある VMware ナレッジベースの記事を参照してください。

Windows 上で実行されている Update Manager サーバのアンインストール

Update Manager サーバ コンポーネントをアンインストールすることができます。

システムから Update Manager をアンインストールしても、ダウンロードされたすべてのメタデータ、バイナリ、およびログ データは、Update Manager サーバがインストールされていたマシンに残ります。

手順

- 1 Windows の [スタート] メニューから、[設定] - [コントロール パネル] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
- 2 [VMware vSphere Update Manager] を選択して、[削除] をクリックします。

結果

Update Manager サーバ コンポーネントがシステムからアンインストールされます。

Update Manager クライアント インターフェイスは、vSphere Web Client から自動的に削除されます。

vSphere Client では、Update Manager が正常にアンインストールされた場合でも、Update Manager は表示されたままになります。Update Manager ユーザー インターフェイスを削除するには、VMware vSphere Update Manager Client Plugin を無効にするか、vsphere-ui サービスを再起動します。vsphere-ui サービスを再開する方法の詳細については、<https://kb.vmware.com/s/article/2109881> にある VMware ナレッジベースの記事を参照してください。

Update Manager 環境のベスト プラクティスと推奨事項

vCenter Server が実行中されているサーバまたは別のサーバに、Update Manager をインストールできます。

Update Manager サーバとクライアント プラグインが同じバージョンである必要があります。Update Manager と vCenter Server、および vSphere Web Client は互換性のあるバージョンである必要があります。互換性の詳細については、[Update Manager の vCenter Server、vCenter Server Appliance、vSphere Web Client、vSphere Client との互換性](#)を参照してください。

Update Manager には 2 つのデプロイ モデルがあります。

インターネット接続モデル

Update Manager サーバは、VMware パッチ リポジトリおよびサードパーティ パッチ リポジトリ (ESXi 6.x ホスト用) に接続されます。Update Manager は vCenter Server と連携して仮想マシン、ホスト、およびテンプレートのスキャンと修正を行います。

エアギャップ モデル

Update Manager がインターネットに接続されていないため、パッチ メタデータをダウンロードできません。このモデルでは、vSphere Update Manager Download Service (UMDS) を使用してパッチ メタデータとパッチ バイナリを共有リポジトリにダウンロードして保存することができます。インベントリ オブジェクトのスキャンと修正を行うには、UMDS データの共有リポジトリをパッチ データストアとして使用するよう Update Manager サーバを設定する必要があります。UMDS の使用方法については、[7 章 Update Manager Download Service のインストール、設定、および使用](#)を参照してください。

修正中には仮想マシンのサスペンドやシャットダウンを行えないため、DRS クラスタの外部では Update Manager または vCenter Server 仮想マシンを実行しているホストを同じ vCenter Server インスタンスを使用して修正できない場合があります。このようなホストを修正するには、別のホスト上にある別の vCenter Server および Update Manager インスタンスを使用します。DRS クラスタの内部では、vCenter Server または Update Manager 仮想マシンを実行しているホストで修正タスクを開始すると、DRS は修正が正常に行われるように仮想マシンを別のホストに移行しようとします。DRS が Update Manager または vCenter Server を実行している仮想マシンを移行できない場合、修正が失敗します。また、修正前に仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするオプションを選択した場合も修正が失敗します。

Update Manager の導入モデルおよびその使用

使用しているシステムの規模によって、状況に応じたさまざまな Update Manager 導入モデルを使用できます。

Update Manager サーバには、次に示すいくつかの一般的なホスト導入モデルのいずれかを使用できます。

オールインワン モデル

vCenter Server と Update Manager サーバは 1 台のホストにインストールされ、それぞれのデータベースインスタンスは同じホスト上に配置されます。このモデルは、システムが比較的小規模な場合に最も信頼性が高くなります。

中規模の導入モデル

vCenter Server と Update Manager サーバは 1 台のホストにインストールされ、それぞれのデータベースインスタンスは別々のホスト上に配置されます。このモデルは、300 台を超える仮想マシンまたは 30 台を超えるホストがある中規模の導入でお勧めします。

大規模の導入モデル

vCenter Server と Update Manager サーバが異なるホスト上で実行され、それぞれに専用のデータベースサーバがあります。このモデルは、データセンターに 1,000 台を超える仮想マシンまたは 100 台を超えるホストがある大規模の導入でお勧めします。

vCenter Server Appliance の Update Manager

3

Update Manager 6.7 は、vCenter Server Appliance 6.7 のサービスとして使用できます。Update Manager サーバおよびクライアント コンポーネントは、vCenter Server Appliance の一部です。

vCenter Server Appliance をデプロイすると、VMware vSphere Update Manager Extension サービスが自動的に開始されます。

Windows オペレーティング システムにインストール中、vCenter Server Appliance に Update Manager サーバを接続しようとする、障害が発生します。vSphere 6.5 以降のリリースでは、Windows 上で動作する Update Manager サーバ インスタンスの vCenter Server Appliance への登録はサポートされていません。

vCenter Server Appliance の Update Manager 拡張機能では、Appliance にバンドルされた PostgreSQL データベースが使用されます。Update Manager と vCenter Server Appliance は同じ PostgreSQL データベース サーバを共有しますが、使用するデータベース インスタンスは異なります。Update Manager データベースをリセットする必要がある場合でも、vCenter Server Appliance データベースはそのまま変更されません。

vCenter Server Appliance を展開した後、Update Manager ユーザー インターフェイスは vSphere Client と vSphere Web Client の両方で自動的に有効になります。ただし、2 つの vSphere クライアントの間では、使用可能な Update Manager 機能に違いがあります。詳細については、[Update Manager クライアント インターフェイスの概要](#)を参照してください。

Windows で実行されている Update Manager インスタンスとは異なり、vCenter Server Appliance で実行されている Update Manager インスタンスを使用すると、一部の構成変更は vSphere Web Client から直接行うことができます。サービス開始時のダウンロード パッチ、ログ レベル、SOAP ポート、Web サーバ ポート、および Web SSL ポートの値を変更できます。これらの設定には、[システム構成] - [サービス] の [vSphere Web Client の管理] からアクセスします。これらの設定を変更したら、変更を有効にするために VMware vSphere Update Manager サービスを再起動します。

Update Manager が vCenter Server Appliance で実行されている場合、vSphere Web Client から変更できないのは、Update Manager が vCenter Server への認証に使用する証明書の構成だけです。この証明書を変更するには、Update Manager ユーティリティを使用します。

Update Manager ユーティリティも vCenter Server Appliance にバンドルされています。Update Manager ユーティリティには、vCenter Server Appliance の bash シェルからアクセスできます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [vCenter Server Appliance と Update Manager のシステム要件](#)
- [Update Manager クライアント インターフェイスと、vCenter Server Appliance 上で動作する Update Manager サービスの併用](#)

- [vSphere Web Client](#) での Update Manager サービスの開始、停止、または再起動
- [vSphere Client](#) での Update Manager サービスの開始、停止、または再起動

vCenter Server Appliance と Update Manager のシステム要件

vCenter Server Appliance 6.5 以降をデプロイすると、Update Manager がアプライアンスでサービスとして自動的に実行を開始します。

Update Manager でアップグレードできるホストと仮想マシンの数は、vCenter Server Appliance が適している vSphere 環境のサイズによって異なります。

vCenter Server Appliance の vSphere 環境のサイズと対応するシステム要件の関係については、vCenter Server のインストールとセットアップドキュメントの「vCenter Server Appliance と Platform Services Controller Appliance のシステム要件」を参照してください。

Update Manager クライアント インターフェイスと、vCenter Server Appliance 上で動作する Update Manager サービスの併用

Update Manager クライアント インターフェイスは、インストールを一切必要としません。vCenter Server Appliance を展開した後、vSphere Web Client でも vSphere Client でも自動的に有効になります。

vSphere Web Client の Update Manager クライアント インターフェイスでは、Update Manager によって提供されるすべての操作を実行できます。ベースラインの作成と管理、ホストおよび仮想マシンとの接続と分離、コンプライアンスのスキャン、ホストに対するアップグレード操作と環境内の仮想マシンに対するアップデート操作の実行、Update Manager 設定の管理ができます。

vSphere Client の Update Manager クライアント インターフェイスを使用すると、Update Manager 操作の制限されたセットを実行できます。ベースラインを作成して接続および分離できるほか、ホストおよびクラスタのコンプライアンスを監視し、ホストとクラスタを修正できます。vSphere Client 6.7 では、Update Manager の設定の変更、仮想マシンの修正、修正ウィザードによる修正プロセスのデフォルト オプションの変更はできません。制限された機能については常に、vSphere Web Client を使用する必要があります。

詳細については、[Update Manager クライアント インターフェイスの概要](#)を参照してください。

vSphere Web Client での Update Manager サービスの開始、停止、または再起動

Update Manager 設定に対して構成変更を行う場合、vCenter Server Appliance で Update Manager サービスの再起動が必要になる場合があります。

注： vSphere 6.5 以降では、すべての vCenter Server サービスと一部の Platform Services Controller サービスが、VMware Service Lifecycle Manager サービスの子プロセスとして実行されます。

前提条件

vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザーが、vCenter Single Sign-On ドメインの SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server にログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ページで、[管理] をクリックします。
- 3 [デプロイ] で、[システム構成] を選択し、[サービス] をクリックします。
- 4 [サービス] リストから、VMware vSphere Update Manager サービスを選択します。
- 5 [アクション] メニューから、操作名を選択します。
 - [再起動]
 - [開始]
 - [停止]

vSphere Client での Update Manager サービスの開始、停止、または再起動

Update Manager 設定に対して構成変更を行う場合、Update Manager サービスの再起動が必要になる場合があります。

vCenter Server Appliance で vCenter Server サービスを開始、停止、および再起動するには、vCenter Server 管理インターフェイスを使用します。

注： vSphere 6.5 以降では、すべての vCenter Server サービスが、VMware Service Lifecycle Manager サービスの子プロセスとして実行されます。

前提条件

root として vCenter Server 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server 管理インターフェイスで、[サービス] をクリックします。

[サービス] ペインに、すべてのサービスの表が表示されます。これらのサービスを名前、開始タイプ、健全性、および状態で並べ替えることができます。
- 2 [VMware vSphere Update Manager] サービスを選択して、アクションを選択します。

使用可能なアクションは、Update Manager サービスがすでに実行されているかどうかによって異なります。

 - サービスを再起動するには、[再起動] をクリックします。

サービスを再起動するには確認が必要です。また、Update Manager 機能が一時的に使用できなくなる可能性があります。
 - サービスを開始するには、[開始] をクリックします。

- サービスを停止するには、[停止] をクリックします。
サービスを停止するには確認が必要です。

Update Manager と vCenter Server Appliance ログバンドルの収集

4

vCenter Server システム上の Update Manager サービスと最近のイベントに関する診断情報を収集できます。

Update Manager は vCenter Server Appliance でサービスとして実行されるため、Update Manager ログは vCenter Server Appliance ログの一部です。サポートバンドルを vCenter Server Appliance から収集して、Update Manager ログを表示し、使用する必要があります。

注： vCenter Server Appliance で、Update Manager サービスの起動時に生成されるログは `/var/log/vmware/vmware-updatemgr/` にあります。Update Manager ランタイム ログは、`/var/log/vmware/vmware-updatemgr/vum-server/` にあります。

手順

- 1 vCenter Server Appliance シェルにアクセスします。
- 2 スーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。
スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。
- 3 `vc-support` コマンドを実行します。

結果

Update Manager ログと vCenter Server ログを含む vCenter Server Appliance サポートバンドルは、`/storage/log/` にある ZIP パッケージです。

Update Manager の Windows から vCenter Server Appliance 6.7 への移行

5

VMware は、Update Manager を Windows オペレーティング システムから vCenter Server 6.7 インスタンスに移行するためのパスをサポートしています。

vSphere 6.0 以前のリリースについては、Update Manager でサポートされるホスト オペレーティング システムは 64 ビット Windows オペレーティング システムのみです。

vSphere 6.5 では、Update Manager を 64 ビットの Windows オペレーティング システムにインストールできますが、Update Manager も vCenter Server Appliance のオプションのサービスとして提供されます。

次の vCenter Server デプロイから Update Manager を移行することができます。

表 5-1. Windows で実行されている Update Manager から vCenter Server Appliance へのサポートされている移行パス

移行前の構成	移行後の構成
同じ Windows マシンで実行されている vCenter Server と Update Manager	Update Manager とバンドルされている vCenter Server 6.7
異なる Windows マシンで実行されている vCenter Server と Update Manager	Update Manager とバンドルされている vCenter Server 6.7
Windows マシンで実行され、vCenter Server Appliance に接続されている Update Manager	Update Manager とバンドルされている vCenter Server 6.7

GUI または CLI を使用して、外部の vCenter Server インスタンスを使用する Update Manager デプロイをアップグレードまたは移行できます。GUI を使用する場合、Update Manager Windows システム上で手動による手順を実行する必要があります。CLI を使用する場合、Update Manager に関する構成パラメータを JSON テンプレートに追加する必要があります。

GUI を使用方法または CLI のアップグレードまたは移行構成パラメータの詳細については、『vCenter Server のアップグレード』のドキュメントを参照してください。

重要： Update Manager ソース マシンが、移行対象外の vCenter Server システムに接続されている追加の拡張機能で実行されていないことを確認します。

移行前、Update Manager が、サポートされている Microsoft SQL Server データベース、Oracle、または組み込みのデータベース ソリューションを使用していることがあります。vCenter Server Appliance への移行後、Update Manager はアプライアンスが使用するものと同じ PostgreSQL データベースの使用を開始します。

移行後は、Update Manager マシンをシャットダウンするか、またはロールバック目的のために保持することができます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- ソース Update Manager マシンでの VMware Migration Assistant のダウンロードと実行
- Update Manager を使用した vCenter Server Appliance の移行のロールバック

ソース Update Manager マシンでの VMware Migration Assistant のダウンロードと実行

Windows で実行されている vCenter Server からの移行、または外部の Update Manager を使用している vCenter Server Appliance のアップグレードを行う前に、Update Manager が実行されているソース Windows 物理サーバまたは Windows 仮想マシンで VMware Migration Assistant をダウンロードして実行する必要があります。VMware Migration Assistant を利用すると、Update Manager サーバおよびデータベースを容易に vCenter Server Appliance 6.5 に移行できるようになります。

また、CLI 方式で vCenter Server Appliance のアップグレードや Windows が実行されている vCenter Server の移行を行う場合は、この手順を省略し、`source.vum section section` と `run.migration.assistant subsection` を JSON テンプレートに追加することができます。CLI アップグレードまたは移行の構成パラメータについては、『vSphere のアップグレード』ドキュメントを参照してください。

注意： VMware Migration Assistant をソース Update Manager マシン上で実行してから、その他の vCenter Server コンポーネントを移行することが重要です。

前提条件

- vCenter Server Appliance のインストーラをダウンロードします。詳細については、『vCenter Server のインストールとセットアップ』ドキュメントを参照してください。
- ソース Update Manager マシンに管理者としてログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance インストーラ パッケージから、`migration-assistant` フォルダをソース Update Manager マシンにコピーします。
- 2 `migration-assistant` ディレクトリで `VMware-Migration-Assistant.exe` をダブルクリックし、vCenter Single Sign-On 管理者パスワードを入力します。

注： 移行プロセス中は、移行アシスタントのウィンドウを開いた状態にしておきます。移行アシスタントを閉じると、移行プロセスが停止します。

アップグレードの開始前に、VMware Migration Assistant によってアップグレード前のチェックが実行され、発見されたすべてのエラーの解決を求めるプロンプトが表示されます。

結果

事前チェックが完了し、すべてのエラーが解決されると、ソース Update Manager システムを vCenter Server Appliance に移行する準備が整います。

次のステップ

VMware Migration Assistant を使用し、vCenter Server とそのすべてのコンポーネントを vCenter Server Appliance 6.5 に移行します。

Update Manager を使用した vCenter Server Appliance の移行のロールバック

移行後に、Update Manager を使用して vCenter Server Appliance をロールバックできます。

アップグレードまたは移行の前に vCenter Server バージョンにロールバックするには、新しいアプライアンスをシャットダウンし、ソース アプライアンスに戻すか、または Windows 上の vCenter Server に戻す必要があります。

前提条件

- ソース vCenter Server Appliance へのアクセス権が必要です。
- Windows 上の Update Manager ソース マシンへのアクセス権が必要です。

手順

- 1 新しくアップグレードまたは移行した vCenter Server Appliance をパワーオフします。
- 2 移行の前に Update Manager が接続されていた vCenter Server Appliance をパワーオンします。
- 3 移行の前に、Update Manager が実行されていた Windows ソース マシンを起動し、Active Directory ドメインに再度参加させます。
 - ソース マシンが Active Directory ドメインに接続されていて、ネットワークの移行前に移行が失敗した場合は、追加の手順を行う必要ありません。
 - ソース マシンが Active Directory ドメインに接続されていて、ネットワークの移行後に移行が失敗した場合は、マシンがパワーオンした後でローカル管理者権限を使用してログインし、Active Directory ドメインにマシンを再度参加させます。

Update Manager の構成

6

インストール時に構成プロパティを変更していない限り、Update Manager はデフォルトの構成プロパティを使用します。vSphere Web Client と vSphere Client の両方の設定を変更できます。

Update Manager の設定およびサービスを構成する権限がある場合のみ、Update Manager を設定および変更できます。Update Manager が登録されている vCenter Server システムに権限を割り当てる必要があります。ユーザー、グループ、ロール、および権限の管理の詳細については、『vCenter Server およびホストの管理』を参照してください。Update Manager の権限とその説明のリストについては、「[Update Manager の権限](#)」を参照してください。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインによって他の vCenter Server システムに接続されていて、複数の vCenter Server インスタンスが Update Manager を使用している場合は、Update Manager インスタンスごとに設定を行うことができます。変更した構成プロパティは、指定した Update Manager インスタンスのみに適用され、ドメイン内の他のインスタンスには伝達されません。

vSphere Web Client で Update Manager の特定の設定を変更するには、[ホーム] - [Update Manager] の順に選択して、Update Manager サーバが登録されている vCenter Server システムの名前を選択します。Update Manager は、[管理] タブで設定できます。

vSphere Client で Update Manager の特定の設定を変更するには、[ホーム] - [Update Manager] の順に選択して、[設定] タブをクリックします。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [Update Manager のネットワーク接続の設定](#)
- [Update Manager のネットワーク設定の変更](#)
- [vSphere Web Client での Update Manager ネットワーク設定の変更](#)
- [Update Manager のダウンロード ソースの構成](#)
- [Update Manager プロキシの設定](#)
- [vSphere Web Client での Update Manager プロキシ設定](#)
- [アップデート チェックの設定](#)
- [vSphere Web Client でのアップデート チェックの設定](#)
- [通知の設定および表示](#)
- [ホストおよびクラスタの設定の構成](#)
- [修正前のスナップショット作成](#)

- vSphere Web Client での修正前のスナップショットの作成
- vSphere Web Client でのスマート リブートの設定
- Update Manager のパッチ リポジトリの場所の設定
- VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクの実行
- Update Manager の権限

Update Manager のネットワーク接続の設定

Update Manager のインストール時にポート、IP アドレス、および DNS を設定できます。これらの設定はデブ
ロイ モデルに依存しません。

デフォルトのネットワーク ポート

ネットワーク ポートはインストール中に設定するか、同じ物理マシンにインストールされている他のアプリケーションとの競合を回避するため、後で変更することができます。

表 6-1. Update Manager のデフォルトのネットワーク ポート

TCP ポート番号	説明
80	Update Manager が vCenter Server に接続するために使用するポートです。 これは、Update Manager が ESXi ホストに接続するために使用するポートでもあります。
9084	ESXi ホストが HTTP 経由でホスト パッチのダウンロードに使用するポートです。
902	Update Manager がホストのアップグレード ファイルをプッシュするために使用するポートです。
8084	Update Manager Client プラグインが Update Manager SOAP サーバに接続するために使用するポートです。
9087	Update Manager Client プラグインがホストのアップグレード ファイルのアップロードに使用する HTTPS ポートです。

IP アドレスおよび DNS 名

Update Manager のネットワーク設定には、IP アドレスまたは DNS 名が含まれます。これは、ホスト上のアップ
デートユーティリティが、Update Manager サーバからパッチのメタデータとバイナリを HTTP 経由で取得す
るために使用されます。IP アドレスはインストール中に設定するか、後で変更することができます。

重要： DNS 解決の問題を回避するため、可能な場合は IP アドレスを使用します。IP アドレスではなく DNS 名
を使用する場合は、指定した DNS 名が、Update Manager および vCenter Server で管理されるすべてのホス
トで解決できることを確認してください。このネットワーク構成は、Update Manager サービスの再起動または再
開後には保持されません。

Update Manager は、IPv6（インターネット プロトコル バージョン 6）環境での、ESXi 6.0 以降を実行するホストのスキャンおよび修正に対応しています。Update Manager は、IPv6 環境での仮想マシンのスキャンおよび修正には対応していません。

vCenter Server、Update Manager、および使用する ESXi ホストが、IPv6 と IPv4 が混在するネットワーク環境に置かれている場合があります。そのような環境で IP アドレスを使用しており、デュアル スタックの IPv4 または IPv6 DNS サーバを配置していない場合は、IPv4 アドレスのみを使用するように設定された ESXi ホストが、IPv6 ネットワーク リソースにアクセスすることはできません。また、IPv6 のみを使用するよう設定されたホストは、IPv4 ネットワークのリソースにアクセスすることはできません。

Update Manager は、IPv4 と IPv6 の両方が有効になっている物理マシンにインストールできます。スキャン、ステージング、修正などのホストの処理で、Update Manager は、パッチ ストアのアドレスを ESXi ホストに通知します。Update Manager が IP アドレスを使用するように設定されている場合は、IPv4 または IPv6 のいずれかのタイプの IP アドレスを 1 つ通知するため、アクセスできるのは一部のホストのみです。たとえば、Update Manager が IPv4 アドレスを通知する場合、IPv6 アドレスのみを使用するホストは、Update Manager のパッチ ストアにアクセスできません。その場合は、以下の設定を検討してください。

表 6-2. Update Manager 設定

ホストの IP バージョン	操作
IPv4	IPv4 アドレスまたはホスト名を使用するように Update Manager を設定します。ホスト名を使用すると、すべてのホストが DNS サーバを信頼し、IPv4 アドレスを解決します。
IPv6	IPv6 アドレスまたはホスト名を使用するように Update Manager を設定します。ホスト名を使用すると、ホストが DNS サーバを信頼し、IPv6 アドレスを解決します。
IPv4 および IPv6	IPv4 または IPv6 を使用するように Update Manager を設定します。

Update Manager のネットワーク設定の変更

ネットワーク ポートは Update Manager のインストール時に設定されます。インストール後に編集できるのは、Update Manager パッチ ストアに IP アドレスとホスト名のどちらを使用するか指定することのみです。

DNS 解決で問題が発生することを避けるため、できるかぎり IP アドレスを使用してください。IP アドレスではなく DNS 名を使用する場合は、指定した DNS 名が、Update Manager および vCenter Server で管理されるすべてのホストで解決できることを確認してください。

ポートを変更するには、vCenter Server のシステム構成を編集します。詳細については、『vCenter Server およびホストの管理』の「サービス設定の編集」を参照してください。

前提条件

- すべての修正またはスキャン タスクをキャンセルするか、終了するまで待機します。
- Update Manager に <https://www.vmware.com> へのアクセス権があることを確認します。
- 送信ポート 80 および 443 が開いていることを確認します。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
- 3 [設定] タブをクリックします。
- 4 [管理設定] - [ネットワーク接続] の順に選択します。
- 5 [編集] をクリックし、パッチ ストアの IP アドレスまたはホスト名を選択します。

重要： この構成は、Update Manager サービスの再起動または再開後には保持されません。

オプション	説明
SOAP ポート	Update Manager クライアントはこのポートを使用して Update Manager サーバと通信します。
サーバ ポート (範囲：80、9000-9100)	ESXi ホストのパッチ デポへのアクセスを提供する Web サーバのリスニング ポート。
パッチ ストアの IP アドレスまたはホスト名	パッチをダウンロードして保存するホストの IP アドレスまたは名前。

- 6 [[保存]] をクリックします。

vSphere Web Client での Update Manager ネットワーク設定の変更

ネットワーク ポートはインストール時に設定されます。インストール後に編集できるのは、Update Manager パッチ ストアに IP アドレスとホスト名のどちらを使用するか指定することのみです。

前提条件

- すべての修正またはスキャン タスクをキャンセルするか、終了するまで待機します。
- Update Manager に <https://www.vmware.com> へのアクセス権があることを確認します。
- 送信ポート 80 および 443 が開いていることを確認します。

手順

- 1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 3 [管理] タブをクリックします。
- 4 [設定] をクリックして、[ネットワーク接続] を選択します。

5 Update Manager のネットワーク接続設定に関する情報を確認します。

オプション	説明
SOAP ポート	Update Manager クライアントはこのポートを使用して Update Manager サーバと通信します。
サーバ ポート (範囲: 80、9000-9100)	ESXi ホストのパッチ デポへのアクセスを提供する Web サーバのリスニング ポート。
パッチ ストアの IP アドレスまたはホスト名	パッチをダウンロードして保存するホストの IP アドレスまたは名前。

注: 編集できるのはパッチ ストアの IP アドレスまたはホスト名のみです。ポートはインストール時に定義されます。

vCenter Server Appliance で実行される Update Manager を使用している場合、vCenter Server システム構成からポートを変更できます。詳細については、『vCenter Server およびホストの管理』の「サービス設定の編集」を参照してください。

6 [編集] をクリックし、パッチ ストアの IP アドレスまたはホスト名を選択します。

重要: DNS 解決で問題が発生することを避けるため、できるかぎり IP アドレスを使用してください。IP アドレスではなく DNS 名を使用する必要がある場合は、指定した DNS 名が vCenter Server、および Update Manager で管理されているホストから確実に解決可能であることを確認してください。

7 [OK] をクリックします。

次のステップ

Update Manager サービスを再起動して、ネットワークの変更を有効にします。

Update Manager のダウンロード ソースの構成

Update Manager サーバは、インターネットまたは UMDS データの共有リポジトリのいずれかから、ESXi ホスト用のパッチおよび拡張機能をダウンロードするように構成できます。また、ZIP ファイルから手動で、ESXi ホスト用のパッチと拡張機能をインポートすることもできます。

システムがインターネットに接続されている場合は、デフォルト設定とリンクを使用して、Update Manager リポジトリにアップグレード、パッチ、および拡張機能をダウンロードできます。また、URL アドレスを追加して、サードパーティ製のパッチおよび拡張機能をダウンロードすることもできます。サードパーティ製のパッチおよび拡張機能は、ESXi 6.0 以降を実行しているホストにのみ適用可能です。

ホストパッチは VMware の Web サイトから安全にダウンロードできます。

- パッチは、VMware のプライベート キーによって暗号で署名されます。パッチはホストによって署名が検証されてから、そのホストにインストールされます。この署名によって、端末間でパッチが保護され、パッチのダウンロードに伴う問題に対処できます。

- Update Manager では、パッチ メタデータとパッチ バイナリを SSL 接続を介してダウンロードします。SSL 証明書と証明書の共通名の両方の有効性が確認された場合に限り、パッチ メタデータとパッチ バイナリが Update Manager にダウンロードされます。証明書の共通名が、Update Manager がパッチをダウンロードするサーバの名前と一致する必要があります。

システムがインターネットに接続されていない場合は、Update Manager Download Service (UMDS) を使用してアップグレード、パッチ、および拡張機能をダウンロードしたあとで、共有リポジトリを使用できます。

UMDS の詳細については、7 章 [Update Manager Download Service のインストール、設定、および使用](#) を参照してください。

共有リポジトリとインターネット間のダウンロード ソースを変更すると、Update Manager の設定が変更されます。2 つのオプションは相互に排他的です。インターネットと共有リポジトリから、同時にアップデートをダウンロードすることはできません。新しいデータをダウンロードするには、VMware vSphere Update Manager のダウンロード タスクを実行する必要があります。

新しい設定の適用時に VMware vSphere Update Manager のアップデートをダウンロードするタスクが実行されている場合、このタスクが完了するまで引き続き古い設定が使用されます。次回、アップデートをダウンロードするためにこのタスクが開始されたときには、新しい設定が使用されます。

Update Manager では、オフライン バンドルと呼ばれる ZIP ファイルから、VMware とサードパーティの両方のパッチまたは拡張機能を手動でインポートできます。オフライン バンドルのインポートは、ESXi 6.0 以降を実行しているホストでのみサポートされます。オフライン バンドルの ZIP ファイルをインターネットからダウンロード、またはメディア ドライブからコピーして、ローカル ドライブまたは共有ネットワーク ドライブに保存します。あとで Update Manager パッチ リポジトリにパッチまたは拡張機能をインポートできます。オフライン バンドルは、当社の Web サイト、またはサードパーティ ベンダーの Web サイトからダウンロードできます。

注： オフライン バンドルは、ホストのパッチ処理にのみ使用できます。ESXi 6.0 および ESXi6.5 から ESXi6.7 へのホスト アップグレードの場合、サードパーティのオフライン バンドルあるいはカスタム VIB セットから生成したオフライン バンドルを使用することはできません。

オフライン バンドルには、1 つの metadata.zip ファイルと 1 つ以上の VIB ファイルのほかに、オプションの 2 つの .xml ファイル (index.xml および vendor-index.xml) が含まれます。

ユーザーが Update Manager パッチ リポジトリにオフライン バンドルをインポートすると、Update Manager はオフライン バンドルを展開して、metadata.zip ファイルがすでにインポートされているかどうかを確認します。metadata.zip が一度もインポートされていない場合、Update Manager はサニティアー テストを実行してから、ファイルを正常にインポートします。ユーザーがインポートを確認したあと、Update Manager は Update Manager データベースにそのファイルを保存し、Update Manager パッチ リポジトリに metadata.zip ファイル、VIB、および .xml ファイル (ある場合) をコピーします。

- [ダウンロード元としてのインターネットの使用](#)

デプロイ済みのシステムがインターネットに接続されている場合は、ESXi のパッチと拡張機能を直接ダウンロードできます。

- [vSphere Web Client でのダウンロード元としてのインターネットの使用](#)

デプロイ済みのシステムがインターネットに接続されている場合は、ESXi のパッチと拡張機能を直接ダウンロードできます。

■ 新しいダウンロード元の追加

アップデートのダウンロード元としてインターネットを使用する場合は、パッチおよび ESXi 6.0 以降を実行しているホスト用の拡張機能をダウンロードできるサードパーティの URL アドレスを追加できます。

■ vSphere Web Client での新しいダウンロード元の追加

アップデートのダウンロード元としてインターネットを使用する場合は、パッチおよび ESXi 6.0 以降を実行しているホスト用の拡張機能をダウンロードできるサードパーティの URL アドレスを追加できます。

■ 共有リポジトリのダウンロード ソースとしての使用

Update Manager は、ESXi のパッチ、拡張機能、通知をダウンロードするためのソースとして共有リポジトリを使用するように設定できます。

■ vSphere Web Client での共有リポジトリのダウンロード ソースとしての使用

Update Manager は、ESXi のパッチ、拡張機能、通知をダウンロードするためのソースとして共有リポジトリを使用するように設定できます。

■ 手動によるパッチ インポート

共有リポジトリまたはインターネットをパッチおよび拡張機能のダウンロード ソースとして使用する代わりに、オフラインバンドルを使って、パッチや拡張機能を手動でインポートできます。

■ vSphere Web Client での手動によるパッチのインポート

共有リポジトリまたはインターネットをパッチおよび拡張機能のダウンロード ソースとして使用する代わりに、オフラインバンドルを使って、パッチや拡張機能を手動でインポートできます。

ダウンロード元としてのインターネットの使用

デプロイ済みのシステムがインターネットに接続されている場合は、ESXi のパッチと拡張機能を直接ダウンロードできます。

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
- 3 [設定] タブをクリックします。
- 4 [管理設定] - [パッチのセットアップ] の順に選択します。
- 5 [ダウンロード元の変更] ボタンをクリックします。
[ダウンロード元のタイプの変更] ダイアログ ボックスが開きます。
- 6 [インターネットから直接パッチをダウンロードします] オプションを選択します。
- 7 [[保存]] をクリックします。

- 8 (オプション) [ダウンロード ソース] リストからアイテムを選択し、[有効] または [無効] をクリックして、ダウンロード元からアップデートをダウンロードするかどうかを指定します。

ホストのパッチと拡張機能をダウンロードするよう選択できます。デフォルトの ESXi パッチと機能拡張の場合は、ダウンロード元の場所を編集できません。ダウンロードを有効にするか無効にするかのみを選択できます。

- 9 (オプション) ESXi 6.0 以降を実行しているホストについては、サードパーティのダウンロード元を追加します。

次のステップ

すべてのアップデートをすぐにダウンロードするには、[管理設定] - [パッチ ダウンロード] の順に選択して、[今すぐダウンロード] をクリックします。

vSphere Web Client でのダウンロード元としてのインターネットの使用

デプロイ済みのシステムがインターネットに接続されている場合は、ESXi のパッチと拡張機能を直接ダウンロードできます。

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成

手順

- 1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 3 [管理] タブをクリックします。
- 4 [設定] をクリックして、[ダウンロード設定] を選択します。
- 5 [ダウンロード ソース] ペインの [編集] をクリックします。
[ダウンロード ソースの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
- 6 [インターネットへの直接接続を使用する] オプションを選択します。
- 7 リストからダウンロード元を選択し、[有効にする] または [無効にする] をクリックして、それぞれのダウンロード元からアップデートをダウンロードするかどうかを指定します。
ホストのパッチと拡張機能をダウンロードするよう選択できます。デフォルトの ESXi パッチと機能拡張の場合は、ダウンロード元の場所を編集できません。ダウンロードを有効にするか無効にするかのみを選択できます。
- 8 (オプション) ESXi 6.0 以降を実行しているホストについては、サードパーティのダウンロード元を追加することもできます。
- 9 [OK] をクリックして、[ダウンロード ソースの編集] ダイアログ ボックスを閉じます。

- 10 [ダウンロード ソース] ペインの [今すぐダウンロード] をクリックして、パッチ定義のダウンロード タスクを実行します。

すべての通知とアップデートは直ちにダウンロードされます。[管理] - [通知確認スケジュール] または [管理] - [ダウンロード スケジュール] で [スケジュール設定されたダウンロードの有効化] チェック ボックスが選択されていたとしても同様です。

新しいダウンロード元の追加

アップデートのダウンロード元としてインターネットを使用する場合は、パッチおよび ESXi 6.0 以降を実行しているホスト用の拡張機能をダウンロードできるサードパーティの URL アドレスを追加できます。

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
- 3 [設定] タブをクリックします。
- 4 [管理設定] - [パッチのセットアップ] の順に選択します。
- 5 [新規] をクリックします。

[ダウンロード元の作成] ダイアログ ボックスが開きます。

- 6 新しいダウンロード元の URL アドレスを入力します。

Update Manager では HTTP URL アドレスと HTTPS URL アドレスの両方がサポートされています。データを安全にダウンロードするには、HTTPS URL アドレスを使用します。この URL アドレスは完全な形式で、index.xml ファイルを含めて入力する必要があります。このファイルにはベンダーおよびベンダー インデックスのリストが含まれています。

- 7 (オプション) URL に関する短い説明を入力します。
- 8 [[保存]] をクリックします。
- 9 (オプション) プロキシ設定は [プロキシ設定] ペインで行います。

Update Manager のプロキシ設定は、サードパーティ URL アドレスにも適用されます。

結果

指定した場所がインターネット ダウンロード元のリストに追加されます。

次のステップ

すべてのアップデートをすぐにダウンロードするには、[管理設定] - [パッチ ダウンロード] の順に選択して、[今すぐダウンロード] をクリックします。

vSphere Web Client での新しいダウンロード元の追加

アップデートのダウンロード元としてインターネットを使用する場合は、パッチおよび ESXi 6.0 以降を実行しているホスト用の拡張機能をダウンロードできるサードパーティの URL アドレスを追加できます。

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成

手順

1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。

2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。

また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。

3 [管理] タブをクリックします。

4 [設定] をクリックして、[ダウンロード設定] を選択します。

5 [ダウンロード ソース] ペインの [編集] をクリックします。

[ダウンロード ソースの編集] ダイアログ ボックスが開きます。

6 [インターネットへの直接接続を使用する] オプションを選択します。

7 [追加] をクリックします。

[ダウンロード元の追加] ダイアログ ボックスが開きます。

8 新しいダウンロード元の URL を入力します。

Update Manager では HTTP URL アドレスと HTTPS URL アドレスの両方がサポートされています。データを安全にダウンロードできるように HTTPS URL アドレスを使用してください。この URL アドレスは完全な形式で、index.xml ファイルを含めて入力する必要があります。このファイルにはベンダーおよびベンダー インデックスのリストが含まれています。

注： Update Manager のプロキシ設定は、サードパーティ URL アドレスにも適用されます。プロキシ設定は [プロキシ設定] ペインで編集できます。

9 URL に関する短い説明を入力して、[OK] をクリックします。

vSphere Web Client で URL の検証が行われます。

10 [OK] をクリックして、[ダウンロード ソースの編集] ダイアログ ボックスを閉じます。

11 [ダウンロード ソース] ペインの [今すぐダウンロード] をクリックして、パッチ定義のダウンロード タスクを実行します。

すべての通知とアップデートは直ちにダウンロードされます。[管理] - [通知確認スケジュール] または [管理] - [ダウンロード スケジュール] で [スケジュール設定されたダウンロードの有効化] チェック ボックスが選択されていたとしても同様です。

結果

指定した場所がインターネット ダウンロード元のリストに追加されます。

共有リポジトリのダウンロード ソースとしての使用

Update Manager は、ESXi のパッチ、拡張機能、通知をダウンロードするためのソースとして共有リポジトリを使用するように設定できます。

前提条件

- vSphere Update Manager Download Service (UMDS) を使用して共有リポジトリを作成し、Web サーバまたはローカル ディスクでホストします。UMDS は、Update Manager 環境と互換性のあるバージョンを使用する必要があります。互換性の詳細については、[vSphere Update Manager Download Service \(UMDS\) と Update Manager サーバの互換性](#)を参照してください。アップグレード、パッチ バイナリ、パッチ メタデータ、通知をエクスポートするための詳しい手順については、「[ダウンロードしたデータのエクスポート](#)」を参照してください。
- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
- 3 [設定] タブをクリックします。
- 4 [管理設定] - [パッチのセットアップ] の順に選択します。
- 5 [ダウンロード元の変更] ボタンをクリックします。
[ダウンロード元のタイプの変更] ダイアログ ボックスが開きます。
- 6 [UMDS 共有リポジトリからパッチをダウンロードします] オプションを有効にします。
- 7 共有リポジトリへのパスまたは URL を入力します。

例 : `C:\repository_path\`、`https://repository_path/`、`http://repository_path/`

この例では、`repository_path` はダウンロードしたアップグレード、パッチ、拡張機能、通知をエクスポートしたフォルダへのパスです。Update Manager サーバがインターネットに直接アクセスはできないが、インターネットにアクセス可能な物理マシンに接続されている環境では、Web サーバ上のフォルダを使用できます。

HTTP アドレス、HTTPS アドレス、または Update Manager がインストールされているディスク上の場所を指定できます。認証なしの HTTPS アドレスがサポートされます。

重要： ネットワーク ドライブ上にあるフォルダを共有リポジトリとして使用することはできません。Update Manager では、Microsoft Windows Uniform Naming Convention 形式 (例 : `\Computer_Name_or_Computer_IP\Shared`) のネットワーク共有にあるフォルダや、マッピングされたネットワーク ドライブ (例 : `Z:\`) にあるフォルダからは、アップデートをダウンロードできません。

8 [[保存]] をクリックします。

vSphere Client によって URL が検証されます。

重要： 指定したフォルダからアップデートをダウンロードする際に、使用している Update Manager のバージョンと互換性のない UMDS バージョンを使用すると、検証に失敗し、エラー メッセージが表示されます。

必ず、検証が正常に終了したことを確認してください。検証に失敗すると、Update Manager によって失敗の原因が報告されます。検証が正常に終了しない場合、共有リポジトリへのパスは使用できません。

結果

これで、この共有リポジトリが、アップグレード、パッチ、通知をダウンロードするためのソースとして使用されません。

例：共有リポジトリとしてのフォルダまたはサーバの使用

フォルダまたは Web サーバを共有リポジトリとして使用できます。

- フォルダを共有リポジトリとして使用する場合は、UMDS からエクスポートされたパッチや通知が保存されているトップレベル ディレクトリを *repository_path* に指定します。

たとえば、UMDS を使用してパッチや通知を E:\ ドライブにエクスポートしたとします。このドライブは、UMDS がインストールされている物理マシンに接続された USB デバイスにマッピングされたドライブです。この USB デバイスを Update Manager がインストールされた物理マシンに接続すると、デバイスは E:\ としてマッピングされ、Update Manager 内の共有リポジトリとして設定するフォルダは E:\ になります。

- Web サーバを共有リポジトリとして使用する場合は、UMDS からエクスポートされたパッチが保存されている Web サーバのトップレベル ディレクトリを *repository_path* に指定します。

たとえば、UMDS から C:\docroot\exportdata にパッチや通知をエクスポートしているとします。このフォルダが Web サーバ上に設定されていて、URL https://umds_host_name/exportdata が他の物理マシンからアクセスできる場合、Update Manager に共有リポジトリとして設定する URL は、https://umds_host_name/exportdata になります。

次のステップ

すべてのアップデートをすぐにダウンロードするには、[管理設定] - [パッチ ダウンロード] の順に選択して、[今すぐダウンロード] をクリックします。

vSphere Web Client での共有リポジトリのダウンロード ソースとしての使用

Update Manager は、ESXi のパッチ、拡張機能、通知をダウンロードするためのソースとして共有リポジトリを使用するように設定できます。

前提条件

- vSphere Update Manager Download Service (UMDS) を使用して共有リポジトリを作成し、Web サーバまたはローカル ディスクでホストします。UMDS は、インストールされている Update Manager と互換性

のあるバージョンを使用してください。互換性に関する詳細は、「[vSphere Update Manager Download Service \(UMDS\) と Update Manager サーバの互換性](#)」を参照してください。アップグレード、パッチ バイナリ、パッチ メタデータ、通知をエクスポートするための詳しい手順については、「[ダウンロードしたデータのエクスポート](#)」を参照してください。

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成。

手順

1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。

2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。

また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。

3 [管理] タブをクリックします。

4 [設定] をクリックして、[ダウンロード設定] を選択します。

5 [ダウンロード ソース] ペインの [編集] をクリックします。

[ダウンロード ソースの編集] ダイアログ ボックスが開きます。

6 [共有リポジトリの使用] オプションを選択します。

7 共有リポジトリへのパスまたは URL を入力します。

例 : `C:\repository_path\`、`https://repository_path/`、`http://repository_path/`

これらの例の `repository_path` は、ダウンロードしたアップグレード、パッチ、拡張機能、通知をエクスポートしたフォルダへのパスです。Update Manager サーバが、それ自身はインターネットに直接アクセスできないが、インターネットにアクセス可能なマシンに接続されている環境では、Web サーバ上のフォルダを使用できます。

HTTP アドレス、HTTPS アドレス、または Update Manager がインストールされているディスク上の場所を指定できます。認証なしの HTTPS アドレスがサポートされます。

重要： ネットワーク ドライブ上にあるフォルダを共有リポジトリとして使用することはできません。Update Manager では、Microsoft Windows Uniform Naming Convention 形式 (例 : `\Computer_Name_or_Computer_IP\Shared`) のネットワーク共有にあるフォルダや、マッピングされたネットワーク ドライブ (例 : `Z:\`) にあるフォルダからは、アップデートをダウンロードできません。

8 [OK] をクリックして、[ダウンロード ソースの編集] ダイアログを閉じます。

vSphere Web Client で URL の検証が行われます。

重要： 指定したフォルダからアップデートをダウンロードする際に、使用している Update Manager のバージョンと互換性のない UMDS バージョンを使用すると、検証に失敗し、エラー メッセージが表示されます。

必ず、検証が正常に終了したことを確認してください。検証に失敗すると、Update Manager によって失敗の原因が報告されます。検証が正常に終了しない場合、共有リポジトリへのパスは使用できません。

- 9 [ダウンロード ソース] ペインの [今すぐダウンロード] をクリックして、パッチ定義のダウンロード タスクを実行します。

すべての通知とアップデートは直ちにダウンロードされます。[管理] - [通知確認スケジュール] または [管理] - [ダウンロード スケジュール] で [スケジュール設定されたダウンロードの有効化] チェック ボックスが選択されていたとしても同様です。

結果

これで、この共有リポジトリが、アップグレード、パッチ、通知をダウンロードするためのソースとして使用されません。

例：共有リポジトリとしてのフォルダまたはサーバの使用

フォルダまたは Web サーバを共有リポジトリとして使用できます。

- フォルダを共有リポジトリとして使用する場合は、UMDS からエクスポートされたパッチや通知が保存されているトップレベル ディレクトリを *repository_path* に指定します。

たとえば、UMDS を使用してパッチや通知を E:\ ドライブにエクスポートしたとします。このドライブは、UMDS がインストールされているマシンに接続された USB デバイスにマッピングされたドライブです。この USB デバイスを Update Manager がインストールされたマシンに接続すると、マシン上ではデバイスが E:\ としてマッピングされます。この場合、Update Manager に共有リポジトリとして設定するフォルダは、E:\ になります。

- Web サーバを共有リポジトリとして使用する場合は、UMDS からエクスポートされたパッチが保存されている Web サーバのトップレベル ディレクトリを *repository_path* に指定します。

たとえば、UMDS から C:\docroot\exportdata にパッチや通知をエクスポートしているとします。このフォルダが Web サーバ上に設定されていて、URL https://umds_host_name/exportdata で他のマシンからアクセスできる場合、Update Manager に共有リポジトリとして設定する URL は、https://umds_host_name/exportdata になります。

手動によるパッチ インポート

共有リポジトリまたはインターネットをパッチおよび拡張機能のダウンロード ソースとして使用する代わりに、オフラインバンドルを使って、パッチや拡張機能を手動でインポートできます。

オフラインバンドルをインポートできるのは、ESXi 6.0 以降が実行されているホストのみです。

前提条件

- インポートするパッチや拡張機能は ZIP 形式にする必要があります。
- 必須権限：VMware vSphere Update Manager.ファイルのアップロード.ファイルのアップロード。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
- 3 [設定] タブをクリックします。

- 4 [管理設定] - [パッチのダウンロード] の順に選択します。
- 5 [パッチのダウンロード] ペインで、[ファイルからアップロード] をクリックします。
[パッチのインポート] ダイアログ ボックスが開きます。
- 6 [参照] をクリックし、.zip ファイルを選択するか、インポートするパッチの URL を入力します。
アップロードが失敗した場合は、.zip ファイルの構造が正しいかどうか、および Update Manager ネットワークが正しく設定されているかどうかを確認します。
ローカル パッチがすぐにインポートされます。
[最近のタスク] ペインにオフライン パッチのアップロード タスクが表示されます。
- 7 (オプション) URL からパッチをインポートするには、[インポート] をクリックします。

結果

Update Manager パッチ リポジトリにパッチがインポートされました。インポートされたパッチは、Update Manager の [アップデート] タブに表示されます。

vSphere Web Client での手動によるパッチのインポート

共有リポジトリまたはインターネットをパッチおよび拡張機能のダウンロード ソースとして使用する代わりに、オフライン バンドルを使って、パッチや拡張機能を手動でインポートできます。

ESXi 6.0 以降が実行されているホストについてのみ、オフライン バンドルをインポートできます。

前提条件

- インポートするパッチや拡張機能は ZIP 形式にする必要があります。
- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.ファイルのアップロード.ファイルのアップロード。

手順

- 1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 3 [管理] タブをクリックします。
- 4 [設定] をクリックして、[ダウンロード設定] を選択します。
- 5 [ダウンロード ソース] ペインで、[パッチのインポート] をクリックします。
[パッチのインポート] ウィザードが開きます。
- 6 [パッチのインポート] 画面で、インポートするパッチが含まれる .zip ファイルを探して選択します。

7 [ファイルのアップロード] をクリックして、ファイルのアップロードが正常に完了するまで待ちます。

アップロードが失敗した場合は、.zip ファイルの構造が正しいかどうか、または Update Manager ネットワークが正しく設定されているかどうかを確認します。

8 [設定の確認] ページで、リポジトリにインポートする選択済みパッチを確認します。

9 [終了] をクリックします。

結果

Update Manager パッチ リポジトリにパッチがインポートされました。Update Manager の [パッチ リポジトリ] タブで、インポートしたパッチを表示できます。

Update Manager プロキシの設定

Update Manager は、プロキシ サーバ経由でインターネットからアップデートをダウンロードするように設定できます。

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成

手順

1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。

2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。

3 [設定] タブをクリックします。

4 [管理設定] - [パッチのセットアップ] の順に選択します。

5 [プロキシ設定] ペインで [編集] ボタンをクリックします。

6 [プロキシを使用する] チェック ボックスを選択して、プロキシ サーバのアドレスおよびポートを入力します。

7 プロキシで認証が必要な場合は、[プロキシで認証が必要] チェック ボックスを選択して、ユーザー名とパスワードを入力します。

8 (オプション) [接続をテスト] をクリックして、プロキシ経由でインターネットに接続できることを確認します。

9 [[保存]] をクリックします。

結果

これで、プロキシ サーバを使用してインターネットからアップグレード、パッチ、機能拡張、および関連メタデータをダウンロードするように Update Manager が設定されました。

vSphere Web Client での Update Manager プロキシ設定

Update Manager では、プロキシ サーバを使用してインターネットからアップデートをダウンロードするように設定できます。

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成

手順

- 1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 3 [管理] タブをクリックします。
- 4 [設定] をクリックして、[ダウンロード設定] を選択します。
- 5 [プロキシ設定] ペインで [編集] をクリックします。
- 6 [プロキシの使用] を選択してプロキシ情報を変更します。
- 7 プロキシで認証が必要な場合は、[プロキシで認証が必要] を選択し、ユーザー名とパスワードを入力します。
- 8 (オプション) [接続をテスト] をクリックして、プロキシ経由でインターネットに接続できるかどうかをテストします。
- 9 [OK] をクリックします。

結果

これで、インターネット プロキシを使用してアップグレード、パッチ、機能拡張、および関連メタデータをダウンロードするように Update Manager が設定されます。

アップデート チェックの設定

Update Manager は、ホストのパッチと拡張機能が入手可能かどうかを定期的に確認します。デフォルトのスケジュール設定でもアップデート チェックは頻繁に行われますが、アップデート チェックの頻度を変更するようにスケジュールを設定できます。

ホストの最新のパッチおよび拡張機能が必要な場合は、アップデート チェックの間隔を短くすることができます。同様に、最新のアップデートを適用する必要がない場合、ネットワークトラフィック量を削減したい場合、またはアップデート サーバにアクセスできない場合は、アップデート チェックの間隔を長くすることができます。

デフォルトでは、アップデートのメタデータおよびバイナリのダウンロードは有効になっていて、それぞれのタスクは VMware vSphere Update Manager のアップデート ダウンロード タスクと呼ばれています。タスクの設定は変更/修正できます。

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成

アップデート データをダウンロードするには、Update Manager がインストールされているマシンがインターネットにアクセスできる必要があります。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
- 3 [設定] タブをクリックします。
- 4 [管理設定] - [パッチのダウンロード] の順に選択します。
- 5 [自動ダウンロードの設定] ペインで [編集] ボタンをクリックします。

[自動パッチ ダウンロードの設定の編集] ダイアログ ボックスが表示されます。[パッチのダウンロード] チェック ボックスはデフォルトで選択されています。このチェック ボックスを選択解除した場合は、通知を確認する自動タスクが無効になります。

- 6 ダウンロード タスクを設定します。
 - a [パッチのダウンロード] チェック ボックスを有効にします。
 - b (オプション) 新しいタスク名を入力します。

タスクの詳細は、[説明] テキスト ボックスに入力できます。
 - c タスクが完了した後に通知 E メールを受信するには、1 つ以上のメール アドレスを入力します。

このオプションを使用できるように vSphere Client のメール設定を行う必要があります。詳細については、『vCenter Server およびホストの管理』を参照してください。
 - d [[保存]] をクリックします。

結果

タスクが、指定した時間に依じて実行されます。

次のステップ

すべてのアップデートをすぐにダウンロードするには、[管理設定] - [パッチ ダウンロード] の順に選択して、[今すぐダウンロード] をクリックします。

vSphere Web Client でのアップデート チェックの設定

Update Manager は、ホストのパッチ、拡張機能などが入手可能かどうかを定期的に確認します。通常はデフォルトのスケジュール設定でも問題ありませんが、アップグレード チェックの頻度を変更するようにスケジュールを設定できます。

アップデート チェックの間隔を短くしたほうがよい場合があります。また、最新のアップデートを気にする必要がなくネットワーク トラフィック量の削減を優先する場合や、アップデート サーバにアクセスできない場合は、アップデート チェックの間隔を長くすることもできます。

デフォルトでは、アップデート メタデータとバイナリをダウンロードするタスクは有効になっています。このタスクは、VMware vSphere Update Manager 更新ダウンロード タスクと呼ばれます。このタスクを変更して、アップデートの確認を構成できます。VMware vSphere Update Manager 通知確認タスクは、次のいずれかの方法で変更できます。

- Update Manager 管理ビューの [構成] タブ
- vSphere Web Client の [監視] タブで [タスクおよびイベント] タブを選択し、[スケジュール設定タスク] を選択します。

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成

アップデート データをダウンロードするには、Update Manager がインストールされているマシンがインターネットにアクセスできる必要があります。

手順

- 1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 3 [管理] タブをクリックします。
- 4 [設定] をクリックして、[ダウンロード スケジュール] を選択します。
- 5 [編集] をクリックします。
[ダウンロード スケジュールの編集] ウィザードが開きます。
- 6 [スケジュール設定されたタスクを有効にする] チェックボックスを選択し、[次へ] をクリックします。
このチェック ボックスを選択解除した場合は、通知を確認するスケジュール設定タスクが無効になります。ただし、[ダウンロード設定] ペインにある [今すぐダウンロード] ボタンをクリックすると、通知の確認およびダウンロードを強制実行できます。
- 7 タスクの名前と必要に応じて説明を指定するか、デフォルトの設定をそのまま使用します。
- 8 [変更] をクリックして通知確認を実行する時間を指定し、[OK] をクリックします。
[スケジュールラの設定] ダイアログ ボックスが開きます。

オプション	説明
このアクションを今すぐ実行する	通知確認をすぐに実行します。
このオプションをあとで実行するようスケジュール設定する	通知確認タスクの実行時刻をスケジュール設定します。
このアクションの繰り返し実行をスケジュール設定する	通知確認タスクの頻度、間隔、開始時刻をスケジュール設定して定期的に実行します。

- 9 (オプション) パッチのリコールに関する通知と E メール アラートの送信先となるメール アドレス (複数可) を指定し、[次へ] をクリックします。

このオプションを有効にするには、vSphere Web Client システムのメール設定を行う必要があります。詳細については、『vCenter Server およびホストの管理』を参照してください。

- 10 [設定の確認] ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

結果

タスクが、指定した時間に応じて実行されます。

通知の設定および表示

Update Manager は、パッチのリコールと、新しい修正およびアラートに関する通知を定期的に VMware に問い合わせダウンロードします。

問題 (潜在的な問題も含む) のあるパッチが公開された場合、パッチ メタデータが更新され、Update Manager はそれらのパッチをリコールされたものとしてマークします。リコールされたパッチをユーザーがインストールしようとする、Update Manager はそのパッチがリコールされたことをユーザーに通知し、ホストにパッチをインストールしません。リコールされたパッチが一部のホストにすでにインストールされている場合、Update Manager はユーザーに通知します。また、Update Manager は、リコールされたすべてのパッチをパッチ リポジトリから削除します。

問題を解決するパッチが公開されると、Update Manager は新しいパッチをダウンロードします。そして、リコールされたパッチによって発生する問題を修正するため、新しいパッチをインストールするように求めます。リコールされたパッチがすでにインストールされている場合、Update Manager はパッチがリコールされており、提供されている修正をインストールする必要があることをアラートで通知します。

Update Manager では、インポート済みのオフライン バンドルからパッチをリコールできます。新しいオフライン バンドルをインポートするときに、インポート済みのオフライン バンドルからパッチがリコールされます。metadata.zip ファイルには、リコールする必要があるパッチに関する情報が含まれています。Update Manager は、リコールされたパッチをパッチ リポジトリから削除します。修正を含むバンドルをユーザーがインポートすると、Update Manager はユーザーにその修正について通知し、E メール通知が有効になっている場合は E メールで通知を送信します。

パッチおよび通知をダウンロードするためのソースとして共有リポジトリを使用する場合、Update Manager はリコールの通知をその共有リポジトリから Update Manager パッチ リポジトリにダウンロードしますが、リコールの E メール アラートは送信しません。共有リポジトリの使用の詳細については、「[共有リポジトリのダウンロード ソースとしての使用](#)」または「[vSphere Web Client での共有リポジトリのダウンロード ソースとしての使用](#)」を参照してください。

注： パッチのリコール通知のダウンロード後、Update Manager でリコール対象のパッチにフラグが設定されますが、それらのパッチのコンプライアンス状態は、自動的に更新されません。リコールの影響を受けたパッチの最新のコンプライアンス状態を表示するには、スキャンを実行する必要があります。

通知の確認の設定

デフォルトでは、Update Manager はパッチのリコール、パッチの修正、アラートに関する通知を定期的を確認します。このスケジュールは変更できます。

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成

通知確認を設定するには、Update Manager がインストールされているマシンにインターネット アクセスが必要です。

手順

1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。

2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。

3 [設定] タブをクリックします。

4 [管理設定] - [リコール通知] の順に選択します。

5 [編集] をクリックします。

[自動通知確認の設定を編集] ダイアログ ボックスが表示されます。[通知の確認] チェック ボックスはデフォルトでオンになっています。このチェック ボックスを選択解除した場合は、通知を確認する自動タスクが無効になります。

6 自動通知の確認を設定します。

a [通知の確認] チェックボックスを有効にします。

b ダウンロード タスクの開始日および頻度を選択します。

c (オプション) 新しいタスク名を入力します。

タスクの詳細は、[説明] テキスト ボックスに入力できます。

d タスクが完了した後に通知 E メールを受信するには、1 つ以上のメール アドレスを入力します。

このオプションを使用できるように vSphere Client のメール設定を行う必要があります。詳細については、『vCenter Server およびホストの管理』を参照してください。

e [[保存]] をクリックします。

7 (オプション) [設定] - [管理設定] - [リコール通知] の順に選択して、[通知の確認] をクリックします。

VMware Web サイトで使用可能なすべての新しい通知がすぐにダウンロードされます。自動通知の確認を無効にした場合でも、通知はダウンロードされます。

結果

タスクが、指定した時間に応じて実行されます。

vSphere Web Client での通知の確認の設定

デフォルトでは、Update Manager はパッチのリコール、パッチの修正、アラートなどに関する通知を定期的に確認します。このスケジュールは変更できます。

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成

通知確認を設定するには、Update Manager がインストールされているマシンにインターネット アクセスが必要です。

手順

1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。

2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。

また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。

3 [管理] タブをクリックします。

4 [設定] をクリックして、[通知確認スケジュール] を選択します。

5 [編集] をクリックします。

[通知確認スケジュールの編集] ウィザードが開きます。

6 [スケジュール設定されたタスクを有効にする] チェックボックスを選択し、[次へ] をクリックします。

このチェック ボックスを選択解除した場合は、通知を確認するスケジュール設定タスクが無効になります。ただし、[ダウンロード設定] ペインにある [今すぐダウンロード] ボタンをクリックすると、通知の確認およびダウンロードを強制実行できます。

7 タスクの名前と必要に応じて説明を指定するか、デフォルトの設定をそのまま使用します。

8 [変更] をクリックして通知確認を実行する時間を指定し、[OK] をクリックします。

[スケジュールの設定] ダイアログ ボックスが開きます。

オプション	説明
このアクションを今すぐ実行する	通知確認をすぐに実行します。
このオプションをあとで実行するようスケジュール設定する	通知確認タスクの実行時刻をスケジュール設定します。
このアクションの繰り返し実行をスケジュール設定する	通知確認タスクの頻度、間隔、開始時刻をスケジュール設定して定期的に実行します。

9 (オプション) パッチのリコールに関する通知と E メール アラートの送信先となるメール アドレス (複数可) を指定し、[次へ] をクリックします。

このオプションを有効にするには、vSphere Web Client システムのメール設定を行う必要があります。詳細については、『vCenter Server およびホストの管理』を参照してください。

10 [設定の確認] ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

結果

タスクが、指定した時間に応じて実行されます。

通知の表示と手動による通知チェック タスクの実行

Update Manager によってダウンロードされる通知は、Update Manager のホームの [通知] タブに表示されません。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
- 3 [監視] タブをクリックします。
- 4 [通知] ボタンをクリックします。
- 5 通知の詳細を表示するには、通知をダブルクリックします。
- 6 [設定] - [管理設定] - [リコール通知] の順に選択して、[通知の確認] をクリックします。

VMware Web サイトで使用可能なすべての新しい通知がすぐにダウンロードされます。自動通知の確認を無効にした場合でも、通知はダウンロードされます。

vSphere Web Client での通知の表示と手動による通知チェック タスクの実行

Update Manager によってダウンロードされる通知は、Update Manager の [管理] ビューの [通知] タブに表示されます。

前提条件

vSphere Web Client を Update Manager が登録された vCenter Server システムに接続し、ホーム ページで [Update Manager] アイコンをクリックします。

手順

- 1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 3 [監視] タブをクリックします。
- 4 [通知] タブをクリックします。
- 5 通知の詳細を表示するには、通知をダブルクリックします。

6 通知をすぐに確認するには、通知リストの右上の [通知の確認] をクリックします。

VMware Web サイトで使用可能なすべての新しい通知がすぐにダウンロードされます。[管理] - [設定] - [通知の確認スケジュール] の [スケジュール ダウンロードの有効化] チェック ボックスが選択されていない場合でも、通知がダウンロードされます。

Update Manager の通知の種類

Update Manager は、VMware の Web サイトで公開されているすべての通知をダウンロードします。通知の中には、アラームをトリガーするものがあります。[アラーム定義] ウィザードを使用して、アラームがトリガーされたときに実行される自動化アクションを構成できます。

通知は、Update Manager 管理ビューの [監視] タブにある [通知] タブに表示されます。

情報通知

情報通知ではアラームはトリガーされません。情報通知をクリックすると、[通知の詳細] ウィンドウが開きます。

警告通知

警告通知はアラームをトリガーします。アラームは vSphere Web Client の [アラーム] ペインに表示されます。警告通知は一般的にパッチのリコールに対する修正に関するものです。警告通知をクリックすると、[パッチのリコールの詳細] ウィンドウが開きます。

アラート通知

アラート通知はアラームをトリガーします。アラームは vSphere Web Client の [アラーム] ペインに表示されます。アラート通知は一般的にパッチのリコールに関するものです。アラート通知をクリックすると、[パッチのリコールの詳細] ウィンドウが開きます。

ホストおよびクラスタの設定の構成

ホストのパッチおよびホストのアップグレード処理中に、Update Manager 動作の整理に使用できる、いくつかのホストおよびクラスタ設定があります。

ホストおよびクラスタの設定

vSphere Distributed Resource Scheduler(DRS)、vSphere High Availability (HA)、および vSphere Fault Tolerance (FT) が有効なクラスタ内の vSphere オブジェクトをアップデートする場合、vSphere Distributed Power Management (DPM)、HA アドミッション コントロール、および FT をクラスタ全体に対して一時的に無効にできます。アップデートの完了後、Update Manager がこれらの機能をリストアします。

アップデートの際、修正中にホストをメンテナンス モードにすることが要求される場合があります。ホストがメンテナンス モードのときには、仮想マシンは実行できません。可用性を確保するために、vCenter Server は、ホストがメンテナンス モードに切り替えられる前に、クラスタ内の他の ESXi ホストに仮想マシンを移行できます。vCenter Server は、クラスタが vSphere vMotion 用に設定されており、DRS が有効な場合に、仮想マシンを移行します。

クラスタ内のホスト間で vSphere vMotion の互換性を確保するには、Enhanced vMotion Compatibility (EVC) を有効にします。EVC によって、ホスト上の実際の CPU が異なる場合でも、1 つのクラスタ内のすべてのホストが確実に同じ CPU 機能セットを仮想マシンに提供できるようになります。EVC を使用すると、CPU の互換性がないことが原因で vSphere vMotion での移行が失敗することがなくなります。EVC は、ホストの CPU が互換性要件を満たしているクラスタでのみ有効にできます。EVC の詳細と、EVC クラスタ内のホストが満たす必要がある要件の詳細については、『vCenter Server およびホスト管理』を参照してください。

ホストに実行中の仮想マシンがない場合、DPM がホストをスタンバイ モードに切り替えて Update Manager の操作を妨げる可能性があります。スキャンおよびステージングの正常な完了を確実にするため、Update Manager は、これらの操作中に DPM を無効にします。正常な修正を確実にを行うため、修正操作の前に、Update Manager に DPM および HA アドミッション コントロールを無効にさせます。処理が完了すると、Update Manager は DPM と HA のアドミッション コントロールをリストアします。Update Manager は、ステージングおよび修正前には HA のアドミッション コントロールを無効にしますが、スキャン前には無効にしません。

DPM がすでにホストをスタンバイ モードに切り替えている場合は、Update Manager はホストをパワーオンしてからスキャン、ステージング、および修正を実行します。スキャン、ステージング、または修正が完了したあと、Update Manager は DPM と HA のアドミッション コントロールをオンにし、必要に応じて DPM がホストをスタンバイ モードに切り替えます。Update Manager は、パワーオフ状態のホストを修正しません。

ホストがスタンバイ モードで、かつ、何らかの理由で DPM が手動で無効になっている場合、Update Manager はこれらのホストを修正またはパワーオンしません。

クラスタ内で、vSphere vMotion を続行するために HA アドミッション コントロールを一時的に無効にします。このアクションにより、修正するホスト上でのマシンのダウンタイムを防ぐことができます。クラスタ全体を修正したあと、Update Manager は HA のアドミッション コントロールの設定をリストアします。

クラスタ内のホスト上にあるいずれかの仮想マシンに対して FT がオンになっている場合、FT を一時的にオフしてから、クラスタで Update Manager の操作を実行します。ホスト上のいずれかの仮想マシンで FT がオンになっている場合、Update Manager はそのホストを修正しません。クラスタ内にあるすべてのホストを同じアップデートで修正し、修正後に FT を再び有効にできるようにします。プライマリ仮想マシンとセカンダリ仮想マシンは、それぞれを ESXi のバージョンとパッチ レベルが異なるホスト上に配置することはできません。

vSAN クラスタで有効なホストおよびクラスタの設定

vSAN クラスタの一部であるホストを修正するときには、次の動作について理解しておいてください。

- ホストの修正プロセスは完了するまでに長い時間がかかることがあります。
- 設計上、vSAN クラスタの 1 台のホストのみをいつでもメンテナンス モードにすることができます。
- Update Manager は、vSAN クラスタの一部であるホストを並行して修正するオプションを設定した場合にも、これらのホストを順次修正します。
- ホストが vSAN クラスタのメンバーであり、さらにそのホスト上の任意の仮想マシンが「許容する障害の数 = 0」の設定の仮想マシン ストレージ ポリシーを使用している場合、そのホストがメンテナンス モードに入るときに異常な遅延が発生する可能性があります。この遅延は、vSAN データストア クラスタにおいて、vSAN が仮想マシンのデータをディスク間で移行するために発生します。遅延は数時間かかる場合があります。これは、仮想マシン ストレージ ポリシーを「許容する障害の数 = 1」に設定することで回避できます。この設定では、vSAN データストアに仮想マシン ファイルのコピーを 2 つ作成することになります。

ホストのパッチおよびホストのアップグレード操作を最適化するための Quick Boot 設定

ESXi ホストの Quick Boot は、Update Manager がホストの修正時間を最適化できる設定であり、ホストにはパッチおよびアップグレード操作が適用されます。パッチまたはアップグレード操作は、ホストのハードウェアに影響しません。Quick Boot 機能が有効になっている場合、Update Manager はハードウェアの再起動 (BIOS または UEFI ファームウェアの再起動) をスキップします。その結果、ESXi ホストがメンテナンス モードに費やす時間が短縮され、修正中の障害のリスクが最小化されます。

ホストの修正の設定

場合によっては、ESXi ホストにアップデートを適用する前に、ホストをメンテナンス モードに切り替える必要があります。Update Manager は ESXi ホストをメンテナンス モードに切り替えてから、これらのアップデートを適用します。Update Manager では、ホストのメンテナンス モードへの切り替えに失敗した場合、どのように対応するかを設定できます。

vMotion を使用して、クラスタ内に存在しない個々のホストまたは複数のホストで実行されている仮想マシンを移行することはできません。Update Manager では、vCenter Server が別のホストに仮想マシンを移行できない場合にどのように対応するかを設定できます。

vSAN クラスタ内にあるホストの場合、同時にメンテナンス モードに切り替えられるホストは 1 台のみです。これは、vSAN クラスタの特性です。

ホストが vSAN クラスタのメンバーであり、さらにそのホスト上の任意の仮想マシンが「許容する障害の数 = 0」の設定の仮想マシン ストレージ ポリシーを使用している場合、そのホストがメンテナンス モードに入るときに異常な遅延が発生する可能性があります。この遅延は、vSAN データストア クラスタにおいて、vSAN が仮想マシンのデータをディスク間で移行するために発生します。遅延は数時間かかる場合があります。これは、仮想マシン ストレージ ポリシーを「許容する障害の数 = 1」に設定することで回避できます。この設定では、vSAN データストアに仮想マシン ファイルのコピーを 2 つ作成することになります。

vSphere Client および vSphere Web Client で構成できる設定。次のホストおよびクラスタの修正設定は、vSphere Client では使用できません。

- Distributed Power Management (DPM) を無効にする
- High Availability のアドミッション コントロールを無効化
- Fault Tolerance (FT) の無効化

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
- 3 [設定] タブをクリックします。
- 4 [修正の設定] - [ホスト] の順に選択します。

- 5 [編集] ボタンをクリックします。

[ホスト修正設定の編集] ダイアログ ボックスが開きます。

- 6 ドロップダウン メニューからオプションを選択して、修正するホストで動作中の仮想マシンの電源状態をどのように変更するかを指定します。

オプション	説明
仮想マシンのパワーオフ	修正前にすべての仮想マシンをパワーオフします。
仮想マシンのサスペンド	修正前に、実行中のすべての仮想マシンをサスペンドします。
仮想マシンの電源状態を変更しない	仮想マシンを現在の電源状態のままにします。これがデフォルトの設定です。

- 7 (オプション) [失敗した場合、メンテナンス モードへの切り替えを再試行する] チェック ボックスを選択し、再試行の間隔と回数を指定します。

修正前にホストをメンテナンス モードに切り替えられなかった場合、Update Manager は、再試行遅延時間の経過後、[再試行回数] テキスト ボックスで指定した回数までホストをメンテナンス モードにすることを試みます。

- 8 (オプション) [PXE ブート ESXi ホストでの追加ソフトウェアのインストールを許可する] チェック ボックスをオンにします。

このオプションをオンにすると、この Update Manager インスタンスで管理できる vSphere インベントリの PXE ブート ESXi ホストのソリューションに対して、ソフトウェアのインストールを有効にできます。

- 9 (オプション) [ホストをメンテナンス モードに切り替える必要がある場合に、パワーオフ状態およびサスペンド状態の仮想マシンをクラスタの他のホストに移行する] チェック ボックスをオンにします。

Update Manager は、サスペンド状態およびパワーオフ状態の仮想マシンを、メンテナンス モードに切り替える必要があるホストから、クラスタ内のほかのホストに移行します。修正を行う前に、[メンテナンス モードの設定] ペインで仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするように選択できます。

- 10 (オプション) [ホストをメンテナンス モードに切り替えるのを妨げる可能性があるリムーバブル メディア デバイスを切断にします] チェック ボックスを選択します。

Update Manager は、CD ドライブ、DVD ドライブまたはフロッピー ドライブが接続されている仮想マシンが配置されたホストを修正しません。ホスト上の仮想マシンに接続されているリムーバブル メディア ドライブは、ホストをメンテナンス モードに切り替える際の妨げになったり、修正が中断される原因となる可能性があります。

- 11 (オプション) [Quick Boot の有効化] チェック ボックスを選択します。

Update Manager で、修正中のホストの再起動時間が大幅に短縮されます。Quick Boot の互換性については、[KB52477](#) を参照してください。

- 12 [[保存]] をクリックします。

結果

これがデフォルトの障害応答の設定になります。個々の修正タスクに、異なる設定を指定することができます。

vSphere Web Client でのホストおよびクラスタ修正の設定

クラスタ内の ESXi ホストの修正プロセスは 1 台ずつ順番に実行することも、同時に実行することもできます。ただし、特定の機能によって修正が失敗する場合があります。VMware DPM、HA アドミッション コントロール、またはフォルト トレランスが有効になっている場合、修正を正常に実行するには、これらの機能を一時的に無効にする必要があります。

注： 複数のホストを同時に修正するとクラスタ全体の修正にかかる時間を節約できるため、パフォーマンスが大幅に向上します。Update Manager では、DRS で設定されたクラスタ リソースの制約に影響を与えずに複数のホストを同時に修正することができます。ただし、vSAN クラスタに含まれるホストを同時に修正することは避けてください。これは、クラスタ内の一部のホストがメンテナンス モードになっている間は、残りのホストをメンテナンス モードに切り替えることができないという vSAN クラスタの特性による制約です。

前提条件

必須権限：VMware vSphere Update Manager.構成

手順

1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。

2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。

また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。

3 [管理] タブをクリックします。

4 [設定] をクリックし、[ホスト/クラスタ設定] を選択します。

5 [編集] をクリックします。

[ホスト/クラスタ設定の編集] ダイアログが開きます。

6 [クラスタ設定] の下で、有効または無効にするオプションのチェック ボックスを選択します。

オプション	説明
DPM (Distributed Power Management)	<p>VMware DPM は、クラスタ内で実行中の仮想マシンのリソース使用状況を監視します。十分なキャパシティがある場合、VMware DPM は仮想マシンをクラスタ内の他のホストに移動し、元のホストをスタンバイ モードにして節電することを推奨します。キャパシティが不足している場合、VMware DPM はスタンバイ モードのホストをパワーオン状態に戻すことを推奨します。</p> <p>DPM を無効にしない場合、Update Manager は VMware DPM が有効なクラスタをスキップします。VMware DPM を一時的に無効にした場合、Update Manager はクラスタ全体で DPM を無効にしてクラスタ内のホストを修正し、修正が完了した後で VMware DPM を再度有効にします。</p>
High Availability (HA) アドミッション コントロール	<p>アドミッション コントロールは vSphere HA が使用するポリシーです。これにより、クラスタ内のフェイルオーバーのキャパシティが確保されます。修正時に HA のアドミッション コントロールが有効になっている場合、クラスタ内の仮想マシンが vMotion で移行されないことがあります。</p> <p>HA アドミッション コントロールを無効にしない場合、Update Manager は HA アドミッション コントロールが有効なクラスタをスキップします。HA アドミッション コントロールを一時的に無効にした場合、Update Manager は HA アドミッション コントロールを無効にしてクラスタを修正し、修正が完了した後に HA アドミッション コントロールを再度有効にします。</p>
Fault Tolerance (FT)	<p>FT を有効にするとプライマリ仮想マシンとまったく同じセカンダリ仮想マシンの作成と管理が自動的に行われ、仮想マシンの継続的な可用性が確保されます。あるホスト上の仮想マシンの FT を無効にしない場合、Update Manager はそのホストの修正を行いません。</p>
クラスタ内のホストの同時修正を有効にする	<p>Update Manager では、クラスタ内にある複数のホストを同時に修正できます。Update Manager は、DRS 設定に影響を与えずに同時に修正できるホストの最大数を継続的に評価します。このオプションを選択しない場合、Update Manager はクラスタ内のホストを 1 台ずつ順番に修正します。</p> <p>設計上、vSAN クラスタの 1 台のホストのみをいつでもメンテナンス モードにすることができます。並行して修正するオプションを選択した場合でも、Update Manager は、vSAN クラスタの一部であるホストを順次修正します。</p>
ホストをメンテナンス モードにする必要がある場合は、パワーオフおよびサスペンド状態の仮想マシンをクラスタ内の他のホストに移行します。	<p>Update Manager は、メンテナンス モードに切り替える必要があるホストから、サスペンド状態およびパワーオフ状態の仮想マシンをクラスタ内の他のホストに移行します。修正を行う前に、[メンテナンス モードの設定] ペインで仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするように選択できます。</p>

7 [OK] をクリックします。

結果

これがデフォルトの障害応答の設定になります。個々の修正タスクに、異なる設定を指定することができます。

修正中に Quick Boot を使用するためのシステム要件

ESXi ホストの Quick Boot は、ホストの物理的な再起動をスキップすることによって Update Manager によるホスト修正の時間を短縮できるオプションです。

Quick Boot の使用は、ハードウェア プラットフォームとドライバの限定的な組み合わせに対してサポートされており、TPM またはパススルー デバイスを使用している ESXi ホストではサポートされません。Quick Boot オプションに関するホストの互換性の詳細については、次のナレッジベースの記事を参照してください：<https://kb.vmware.com/s/article/52477>。

Quick Boot を有効にするオプションは、vSphere Web Client と vSphere Client の両方で使用可能です。

vSphere Web Client でのホスト修正中の Quick Boot の使用の構成

Update Manager を構成して、ホストのパッチまたはホストのアップグレード処理中に修正時間を短縮します。

前提条件

- 必須権限：VMware vSphere Update Manager.構成
- ESXi ホスト環境が、Quick Boot と互換性があることを確認してください。「修正中に Quick Boot を使用するためのシステム要件」を参照してください。

手順

- 1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 3 [管理] タブをクリックします。
- 4 [設定] をクリックし、[ホスト/クラスタ設定] を選択します。
- 5 [編集] をクリックします。
[ホスト/クラスタ設定の編集] ダイアログが開きます。
- 6 [Quick Boot を有効化] チェック ボックスを選択すると、Update Manager での修正中にホストの起動時間を短縮できます。
- 7 [OK] をクリックします。

結果

これがデフォルトの障害応答の設定になります。個々の修正タスクに、異なる設定を指定することができます。

vSphere Web Client でのホストのメンテナンス モードの設定

場合によっては、ESXi ホストにアップデートを適用する前に、ホストをメンテナンス モードに切り替える必要があります。Update Manager は ESXi ホストをメンテナンス モードに切り替えてからアップデートを適用します。Update Manager では、ホストのメンテナンス モードへの切り替えに失敗した場合、どのように対応するかを設定できます。

クラスタ以外のコンテナに含まれるホスト、または独立したホストの場合、vMotion 仮想マシンを移行できません。Update Manager では、vCenter Server が別のホストに仮想マシンを移行できない場合にどのように対応するかを設定できます。

vSAN クラスタに参加しているホストの場合、メンテナンス モードに切り替えることができるのは、一度に 1 台のホストのみです。これは vSAN クラスタの特性です。

ホストが vSAN クラスタのメンバーであり、さらにそのホスト上の任意の仮想マシンが「許容する障害の数 = 0」の設定の仮想マシン ストレージ ポリシーを使用している場合、そのホストがメンテナンス モードに入るときに異常な遅延が発生する可能性があります。この遅延は、vSAN データストア クラスタにおいて、vSAN が仮想マシンのデータをディスク間で移行するために発生します。遅延は数時間かかる場合があります。これは、仮想マシン ストレージ ポリシーを「許容する障害の数 = 1」に設定することで回避できます。この設定では、vSAN データストアに仮想マシン ファイルのコピーを 2 つ作成することになります。

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成

手順

1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。

2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。

また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。

3 [管理] タブをクリックします。

4 [設定] をクリックし、[ホスト/クラスタ設定] を選択します。

5 [編集] をクリックします。

[ホスト/クラスタ設定の編集] ダイアログが開きます。

6 [ホストの設定] で、[仮想マシンのパワー状態] ドロップダウン メニューからオプションを選択し、修正するホストで動作中の仮想マシンの電源状態をどのように変更するかを指定します。

修正を開始する前にホストがメンテナンス モードに切り替わったときの仮想マシンの電源状態は、ここで選択したオプションによって決まります。

オプション	説明
仮想マシンのパワーオフ	修正前にすべての仮想マシンをパワーオフします。
仮想マシンのサスペンド	修正前に、実行中のすべての仮想マシンをサスペンドします。
仮想マシンの電源状態を変更しない	仮想マシンを現在の電源状態のままにします。これがデフォルトの設定です。

7 (オプション) [失敗した場合、メンテナンス モードへの切り替えを再試行する] を選択し、再試行の間隔と回数を指定します。

修正を行う前にホストのメンテナンス モードへの切り替えに失敗した場合、Update Manager は指定された再試行間隔が経過するまで待機し、[再試行回数] で指定された回数を上限としてメンテナンス モードへの切り替えを再試行します。

- 8 (オプション) [ホストをメンテナンス モードに切り替える際に妨げとなる可能性があるリムーバブル メディア デバイスを一時的に無効にする] を選択します。

Update Manager は、CD ドライブ、DVD ドライブまたはフロッピー ドライブが接続されている仮想マシンが配置されたホストを修正しません。ホスト上の仮想マシンに接続されているリムーバブル メディア ドライブは、ホストをメンテナンス モードに切り替える際の妨げになったり、修正が中断される原因となる可能性があります。

修正後に、リムーバブル メディア デバイスが引き続き利用可能な場合、Update Manager はそれらのデバイスを再接続します。

- 9 [OK] をクリックします。

結果

これがデフォルトの障害応答の設定になります。個々の修正タスクに、異なる設定を指定することができます。

vSphere Web Client での PXE ブートを使用する ESXi ホストの修正を有効化

他のソフトウェアが PXE ブートを使用する ESXi ホストの修正を開始できるように、Update Manager を設定できます。修正により、パッチとソフトウェア モジュールがホストにインストールされますが、通常、ホストのアップデートは再起動後に失われます。

Update Manager [構成] タブのグローバル設定を使用すると、ESX Agent Manager、Cisco Nexus 1000V などのソリューションが、PXE ブートを使用する ESXi ホストの修正を開始できるようになります。一方、[修正] ウィザードの [パワーオンされた PXE ブート ESXi ホストのパッチ修正を有効にする] を設定して、Update Manager が PXE ブートを使用するホストにパッチを適用できるようにします。

再起動後、ステートレス ホストのアップデートを保持するには、アップデートが含まれる PXE ブート イメージを使用します。PXE ブート イメージは、Update Manager でアップデートを適用する前に更新できます。したがって、再起動によりアップデートが失われることはありません。また、Update Manager 自体がホストを再起動することはありません。Update Manager では、PXE ブート ESXi ホストでの再起動を必要とするアップデートがインストールされないためです。

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成

手順

- 1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 3 [管理] タブをクリックします。
- 4 [設定] をクリックし、[ホスト/クラスタ設定] を選択します。

5 [編集] をクリックします。

[ホスト/クラスタ設定の編集] ダイアログが開きます。

6 [ホスト設定] で、[PXE ブート ESXi ホストでの追加ソフトウェアのインストールを許可する] を選択します。

このオプションを使用すると、この Update Manager インスタンスで管理できる vSphere インベントリの PXE ブート ESXi ホストのソリューションに対して、ソフトウェアのインストールを有効にできます。

7 [OK] をクリックします。

修正前のスナップショット作成

デフォルトで Update Manager は、仮想マシンのスナップショットを作成してから、仮想マシンにアップデートを適用するように設定されています。修正が失敗した場合は、スナップショットを使用して、仮想マシンを修正前の状態に戻すことができます。

Update Manager では、フォルトトレランスが有効な仮想マシン、および仮想マシンハードウェアバージョン 3 の仮想マシンのスナップショットは作成されません。これらの仮想マシンのスナップショットを作成するように指定すると、修正が失敗する可能性があります。

スナップショットの保持期間には無期限または固定を選択できます。スナップショットを管理するときは、次のガイドラインを実行してください。

- スナップショットを無期限に保持すると、大量のディスク容量が消費され、仮想マシンのパフォーマンスが低下する場合があります。
- スナップショットを保持しなければ、容量を節約でき、仮想マシンのパフォーマンスは最大になり、修正の所要時間が短縮されることがあります。ただし、スナップショットを保持しないと、必要な状態にロールバックできなくなる可能性があります。
- スナップショットを一定期間保持すると、使用可能なディスク容量が少なくなり、バックアップできる期間が短かくなります。

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成

手順

1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。

2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。

3 [設定] タブをクリックします。

4 [修正の設定] - [仮想マシン] の順に選択します。

5 [編集] をクリックします。

[仮想マシン ロールバックのデフォルト設定の編集] ダイアログ ボックスを開きます。

6 仮想マシンのロールバックを設定します。

- a 仮想マシンのスナップショットをアップグレードする前に、これらのスナップショットの作成を有効または無効にするには、[仮想マシンのスナップショットの作成] チェック ボックスを選択または選択解除します。
デフォルトでは、スナップショットを作成するオプションが設定されています。
- b スナップショットを保持する期間を選択します。
 - スナップショットを無期限に維持します。
 - スナップショットを一定期間維持します。

7 [[保存]] をクリックします。

結果

この設定は、仮想マシンのデフォルトのロールバック オプション設定になります。個々の修正タスクに、異なる設定を指定することができます。

vSphere Web Client での修正前のスナップショットの作成

デフォルトで Update Manager は、仮想マシンのスナップショットを作成してから、アップデートを適用するように構成されています。修正が失敗した場合は、スナップショットを使用して、仮想マシンを修正前の状態に戻すことができます。

Update Manager では、フォルトトレランスが有効な仮想マシン、および仮想マシン ハードウェア バージョン 3 が実行されている仮想マシンのスナップショットは作成されません。これらの仮想マシンのスナップショットを作成するように指定すると、修正が失敗する可能性があります。

スナップショットは無期限に、または一定の期間のみ保持するように選択できます。スナップショットを管理するときは、次のガイドラインに従ってください。

- スナップショットを無期限に保持すると、大量のディスク容量が消費され、仮想マシンのパフォーマンスが低下する場合があります。
- スナップショットをまったく保持しなければ、容量の節約になり、仮想マシンのパフォーマンスが最大になり、修正時間が短縮される可能性があります。ただし、ロールバックが可能な範囲が制限されます。
- スナップショットを保持する期間を決めることで、必要となるディスク容量が少なくなり、バックアップ時間を短縮できます。

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成

手順

- 1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。

また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。

- 3 [管理] タブをクリックします。
- 4 [設定] をクリックして、[仮想マシンの設定] を選択します。
- 5 [編集] をクリックします。

[仮想マシン設定の編集] ダイアログ ボックスが開きます。

- 6 仮想マシンを修正する前に、その仮想マシンのスナップショットの作成を有効または無効にするには、[修正前に仮想マシンをスナップショットを作成して、ロールバックを有効にする] チェック ボックスを選択または選択解除します。

デフォルトでは、スナップショットを作成するオプションが設定されています。

- 7 スナップショットを無期限に、または一定の期間のみ保持するように設定します。
- 8 [適用] をクリックします。

結果

この設定は、仮想マシンのデフォルトのロールバック オプション設定になります。個々の修正タスクに、異なる設定を指定することができます。

vSphere Web Client でのスマート リブートの設定

スマート リブート機能を使用すると、依存関係に基づく起動順序に従って、vApp 内の仮想マシンが再起動されます。修正後に vApp 内の仮想マシンのスマート リブートを有効にするかどうかはユーザーが設定できます。

vApp は 1 台以上の仮想マシンとアプリケーションで構成されるビルド済みのソフトウェア ソリューションで、1 つのユニットとして運用、メンテナンス、監視、更新を行えます。

スマート リブートはデフォルトで有効になっています。スマート リブートを無効にした場合、仮想マシンは、既存の依存関係による起動順序に関係なく、個々の修正要件に基づいて再起動されます。

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager.構成

手順

- 1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。

また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。

- 3 [管理] タブをクリックします。
- 4 [設定] をクリックし、[vApp の設定] をクリックします。
- 5 [編集] をクリックします。

[vApp の設定] ダイアログ ボックスが開きます。

- 6 [修正後にスマート リポートを有効にする] チェック ボックスを使用してスマート リポートを有効または無効にします。

Update Manager のパッチ リポジトリの場所の設定

Update Manager をインストールするときに、ダウンロードしたパッチおよびアップグレード バイナリを保存する場所を選択できます。インストール後に場所を変更するには、手動で `vci-integrity.xml` ファイルを編集する必要があります。

手順

- 1 Update Manager サーバが実行されているマシンに管理者としてログインします。
- 2 Update Manager サービスを停止します。
 - a [マイ コンピュータ] を右クリックして [管理] をクリックします。
 - b 左側のペインで、[サービスとアプリケーション] を展開し、[サービス] をクリックします。
 - c 右側のペインで、[VMware vSphere Update Manager Service] を右クリックし、[停止] をクリックします。
- 3 Update Manager のインストール ディレクトリに移動して、`vci-integrity.xml` ファイルを探します。
デフォルトの場所は `C:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructure\Update Manager` です。
- 4 (オプション) 以前の設定に戻す場合、このファイルのバックアップ コピーを作成します。
- 5 次の項目を変更してファイルを編集します。

```
<patchStore>your_new_location</patchStore>
```

パッチ ダウンロードのデフォルトの場所は、`C:\ProgramData\VMware\VMware Update Manager\Data` です。

ディレクトリのパスの最後は `\` にする必要があります。
- 6 UTF-8 形式でファイルを保存し、既存のファイルと置き換えます。
- 7 パッチ ストアの古いディレクトリの内容を新しいフォルダにコピーします。
- 8 [コンピュータの管理] ウィンドウの [VMware vSphere Update Manager サービス] を右クリックし、[開始] を選択することで、Update Manager サービスを開始します。

VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクの実行

パッチ ダウンロード ソース設定を変更する場合は、VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクを実行して、新しい任意のパッチ、拡張機能、および通知をダウンロードする必要があります。

手順

- 1 vSphere Web Client で、インベントリ オブジェクトを選択し、[監視] タブを選択します。
vCenter Server システムが、共通の vCenter Single Sign-On ドメインによって他の vCenter Server システムに接続されている場合は、Update Manager インスタンスを指定して構成します。
- 2 [タスクとイベント] タブをクリックし、[スケジュール設定タスク] を選択します。
- 3 [VMware vSphere Update Manager 更新のダウンロード] タスクを右クリックし、[実行] を選択します。

結果

実行中のタスクは、[最近のタスク] ペインで確認できます。

Update Manager の権限

Update Manager の設定を通じて、ベースライン、パッチ、アップグレードを管理するには、適切な権限が必要です。Update Manager の権限は、vSphere Web Client および vSphere Client から各種ロールに割り当てることができます。

Update Manager の権限は、以下に示すように、さまざまな機能に対応しています。

表 6-3. Update Manager の権限

権限グループ	権限	説明
設定	サービスの設定	Update Manager サービスとスケジュール設定されたパッチのダウンロード タスクを設定できます。
ベースラインの管理	ベースラインの添付	vSphere インベントリのオブジェクトにベースラインおよびベースライン グループを添付できます。
	ベースラインの管理	ベースラインおよびベースライン グループの作成、編集、削除を実行できます。
パッチおよびアップグレードの管理	修正およびパッチ、拡張機能、アップグレードの適用	仮想マシンおよびホストを修正し、パッチ、拡張機能、アップグレードを適用できます。また、コンプライアンスの状態を表示できます。
	適用可能なパッチ、拡張機能、アップグレードのスキャン	仮想マシンおよびホストをスキャンし、適用可能なパッチ、拡張機能、アップグレードを検索できます。
	パッチおよび拡張機能のステージング	パッチまたは拡張機能をホストにステージングできます。また、ホストのコンプライアンスの状態を表示できます。
	コンプライアンス状態の表示	vSphere インベントリにある特定のオブジェクトのベースライン コンプライアンス情報を表示できます。
ファイルのアップロード	ファイルのアップロード	アップグレード イメージとオフライン パッチ バンドルをアップロードできます。

ユーザー、グループ、ロール、権限の詳細については、『vCenter Server and Host Management』を参照してください。

Update Manager Download Service のインストール、設定、および使用

7

VMware vSphere Update Manager Download Service (UMDS) は、Update Manager のオプションのモジュールです。UMDS はパッチ メタデータ、パッチ バイナリ、および通知をダウンロードします。ダウンロードしない場合、Update Manager サーバではこれらを使用できません。

セキュリティ上の理由またはデプロイ上の制約から、ほかのローカル ネットワークおよびインターネットから切断され安全なネットワークに Update Manager などの vSphere をインストールする場合があります。Update Manager が適切に機能するには、パッチ情報を入手する必要があります。このような環境を使用している場合は、インターネットに接続されているコンピュータに UMDS をインストールして、アップグレード、パッチ バイナリ、およびパッチ メタデータをダウンロードします。次に、ダウンロードしたものをポータブル メディア ドライブにエクスポートして、Update Manager サーバがアクセスできるようにします。

Update Manager がインストールされているマシンがインターネットにアクセスできないが、インターネットにアクセス可能なサーバに接続されている導入環境では UMDS がインストールされているマシンにある Web サーバを使用すると、エクスポート処理を自動化して、UMDS から Update Manager サーバにファイルを転送できます。

UMDS6.7 はパッチのリコールおよび通知をサポートしています。パッチがリコールされるのは、リリースされたパッチに問題（潜在的な問題を含む）がある場合です。UMDS を使用してパッチ データおよび通知をダウンロードし、そのダウンロードをエクスポートして Update Manager サーバで使用できるようにすると、Update Manager はリコールされたパッチを削除し、Update Manager[通知] タブに通知を表示します。パッチのリコールおよび通知の詳細については、[通知の設定および表示](#)を参照してください。

Update Manager リリース 6.7 では、Windows および Linux ベースのオペレーティング システムにインストールした場合に UMDS を使用できます。UMDS をインストールするマシンには、インターネット接続が必要です。

Windows 上で実行される UMDS では、管理者または管理者グループに属しているユーザーのみがパッチをダウンロードできます。Linux 上で実行される UMDS の場合、管理者のアクセスはパッチをダウンロードするための要件ではありません。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [vSphere Update Manager Download Service \(UMDS\) と Update Manager サーバの互換性](#)
- [Windows オペレーティング システムへの UMDS のインストール](#)
- [Linux ベースのオペレーティング システムへの UMDS のインストールとアップグレード](#)
- [UMDS の設定と使用](#)

vSphere Update Manager Download Service (UMDS) と Update Manager サーバの互換性

UMDS のバージョンは、Update Manager サーバと同じにする必要があります。

たとえば、UMDS 6.7 と互換性があり、連携が可能なバージョンは、Update Manager 6.7 のみです。6.7 Update リリース バージョンの Update Manager サーバを使用している場合、同じ 6.7 Update リリース バージョンの UMDS を使用する必要があります。

Windows オペレーティング システムへの UMDS のインストール

Update Manager がインターネットに接続していない場合、UMDS をインストールして、パッチ バイナリ、パッチ メタデータ、および通知をダウンロードできます。UMDS をインストールするマシンには、インターネット接続が必要です。

注： UMDS 6.0 または UMDS 6.5 を UMDS 6.7 にアップグレードすることはできません。すべてのシステム要件に従って、UMDS 6.7 のフレッシュ インストールを実行し、UMDS 6.0 または UMDS 6.5 から既存のパッチ ストアを使用できます。UMDS は 64 ビット マシンにのみインストールできます。

Update Manager 6.7 インスタンスのみが含まれる環境への UMDS 6.7 のインストール

Windows 用の UMDS 6.7 のインストール ウィザードで、以前の UMDS 6.0 インストールまたは UMDS 6.5 インストールで作成された既存のダウンロード ディレクトリにするパッチ ストアを選択し、ダウンロードした適切なアップデートを UMDS 6.7 で再利用できます。パッチ ストアを再利用するには、既存の UMDS 6.0 インスタンスまたは UMDS 6.5 インスタンスをアンインストールしておく必要があります。既存のダウンロード ディレクトリを UMDS 6.7 に関連付けると、そのディレクトリは、以前 UMDS バージョンでは使用できなくなります。

既存のダウンロード ディレクトリを使用して UMDS をインストールした場合は、アップデートをエクスポートする前に、UMDS 6.7 を使用して、少なくとも 1 回ダウンロードを実行してください。

Update Manager 6.0 と Update Manager 6.7 の両方のインスタンスが含まれる環境への UMDS 6.7 のインストール

環境に Update Manager 6.5 と Update Manager 6.7 の両方のインスタンスが含まれる場合は、既存の UMDS 6.5 ダウンロード ディレクトリを使用して、UMDS 6.7 をインストールすることはできません。この場合は、Update Manager のそれぞれのバージョンのアップデートをエクスポートできるように、UMDS 6.5 と UMDS 6.7 を 2 台のマシンに個別にインストールする必要があります。

バージョンに関係なく、UMDS は、Update Manager サーバと同じマシンにはインストールしないでください。

Windows オペレーティング システムへの UMDS のインストール

Update Manager がインストールされているマシンがインターネットに接続していない場合は、vSphere Update Manager Download Service (UMDS) をインストールします。

Update Manager Download Service (UMDS) をインストールするシステムは、Update Manager サーバのインストール時と同じシステム要件を満たしている必要があります。

注： vSphere 6.7 Update 1 以降では、UMDS をインストールするためにデータベースを設定する必要がなくなりました。

前提条件

- UMDS がアップグレード、パッチ メタデータ、およびパッチ バイナリをダウンロードできるように、UMDS のインストール先となるマシンがインターネットに接続できることを確認します。
- UMDS の 6.5 以前のインスタンスをアンインストールします。このバージョンの UMDS がインストールされていると、インストール ウィザードでエラー メッセージが表示され、インストールを続行できません。
- UMDS と Update Manager が別のマシンにインストールされていることを確認します。
- [システム要件](#) に記載されている、Update Manager サーバを Windows オペレーティング システムにインストールするためのシステム要件を確認します。
- 記載されている、Update Manager サーバのインストール時と同じシステム要件を満たしているシステムに UMDS をインストールします。
- Update Manager 環境に Microsoft .NET Framework 4.7 をインストールする必要があります。インストールに進む前に、次の点を検討してください。
 - Microsoft Windows Server 2008 Service Pack 2 (64 ビット版) では、Microsoft .NET Framework 4.7 のインストールはサポートされていません。
 - Microsoft .NET Framework 4.7 をインストールするには、いくつかの Windows アップデートを追加でインストールしなければならない可能性があります。Windows アップデートの関連リンクは、Microsoft .NET Framework 4.7 の実行中に表示されます。
 - Microsoft .NET Framework 4.7 をインストールするには、ホスト OS の再起動が必要になることがあります。
 - vCenter Server が実行されている Windows マシン (通常はインストール) に Update Manager サーバをインストールするときに、.NET Microsoft .NET Framework 4.7 インストールによってシステム上で再起動が呼び出された場合、vCenter Server サービスは一時的に切断されることがあります。
 - Microsoft .NET Framework 4.7 をインストールまたはアップグレードした後に、Update Manager サーバまたは UMDS インストール ウィザードのプロンプトに従います。

手順

- 1 vSphere Update Manager Download Service (UMDS) をインストールする Windows 仮想マシンまたは物理サーバに vCenter Server インストーラの ISO イメージをマウントします。
- 2 マウントされたディレクトリで、[VMware vCenter Server インストーラ]の autorun.exe ファイルをダブルクリックし、[vSphere Update Manager] - [ダウンロード サービス] を選択します。

- 3 Microsoft .NET Framework 4.7 のインストール オプションを選択します。

注： Microsoft .NET Framework 4.7 をインストールすることを選択しなかった場合、Update Manager Download Service のインストールは失敗し、エラー メッセージが表示されます。

- 4 [VMware vCenter インストーラ] で [インストール] をクリックします。
[VMware vCenter インストーラ] ウィザードが開いたまま、言語選択のダイアログ ボックスが開きます。
- 5 [vSphere Update Manager Download Service] インストーラの言語を選択し、[OK] をクリックします。
- 6 (オプション) ウィザードでプロンプトが表示されたら、Windows Installer 4.5 など、必要な項目をインストールします。

この手順は、Windows Installer 4.5 がマシンにインストールされていない場合にのみ必要で、vSphere 5.x 製品を初めてインストールするときに実行する必要があります。システムが再起動したら、インストーラが再起動します。

- 7 ようこそページで [次へ] をクリックします。
- 8 使用許諾契約書を読んで同意し、[次へ] をクリックします。
- 9 使用許諾契約書の条項に同意して、[次へ] をクリックします。
- 10 Update Manager Download Service のプロキシ設定を入力し、[次へ] をクリックします。
- 11 Update Manager Download Service のインストール用ディレクトリとパッチ ダウンロード用ディレクトリを選択して、[次へ] をクリックします。

デフォルトの場所を使用しない場合は、[変更] をクリックして、別のディレクトリを参照できます。以前の UMDS 6.0 インストールまたは UMDS 6.5 インストールで作成された既存のダウンロード ディレクトリにするパッチ ストアを選択し、ダウンロードした適用可能なアップデートを UMDS 6.7 で再利用できます。既存のダウンロード ディレクトリは、UMDS 6.7 に関連付けられた時点で、以前の UMDS バージョンでは使用できなくなります。
- 12 (オプション) ディスクの空き容量に関する警告メッセージに対し、[OK] をクリックします。
- 13 [インストール] をクリックして、インストールを開始します。
- 14 .NET Framework 4.7 がインストールされていないという警告メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

UMDS インストーラでは、前提項目のインストール後に、実際の製品がインストールされます。

- 15 [終了] をクリックします。

結果

UMDS がインストールされます。

Linux ベースのオペレーティング システムへの UMDS のインストールとアップグレード

vSphere 6.7 リリースでは、UMDS 6.7 は vCenter Server Appliance6.7 にバンドルされます。vCenter Server Appliance の UMDS バンドルを使用して、UMDS 6.7 を Linux ベースのシステムに個別にインストールすることができます。

UMDS は 64 ビット アプリケーションであり、64 ビットの Linux ベースのシステムが必要です。

Linux ベースのオペレーティング システムで実行されている UMDS をアップグレードすることはできません。現在のバージョンの UMDS アンインストールし、すべてのシステム要件に基づいて UMDS のフレッシュ インストールを実行し、アンインストールした UMDS から既存のパッチ ストアを使用することは可能です。

UMDS のインストールがサポートされている Linux ベースのオペレーティング システム

Update Manager Download Service (UMDS) は、限られた数の Linux ベースのオペレーティング システムで実行できます。

- Ubuntu 14.0.4
- Ubuntu 18.04
- Ubuntu 18.04 LTS
- Ubuntu 20.04 LTS
- Red Hat Enterprise Linux 7.4
- Red Hat Enterprise Linux 7.5
- Red Hat Enterprise Linux 7.7
- Red Hat Enterprise Linux 8.1
- Red Hat Enterprise Linux 8.3

Linux OS への UMDS のインストール

Update Manager が実行する vCenter Server Appliance 6.7 がインターネットにアクセスできない場合、Linux ベースのオペレーティング システムに UMDS をインストールしてパッチ バイナリとメタデータをダウンロードすることができます。

前提条件

- UMDS をインストールする Linux マシンの管理者権限を持っていることを確認します。
- Linux マシンに vCenter Server Appliance6.7 の ISO ファイルをマウントします。

手順

- 1 Linux マシンで、コマンド シェルを開きます。

- 2 Linux マシンにマウントした vCenter Server Appliance ISO から、Linux マシンに VMware-UMDS-6.7.0.-*build_number*.tar.gz ファイルをコピーします。
- 3 `tar -xvzf VMware-UMDS-6.7.0.-build_number.tar.gz` を実行し、新しく抽出された /vmware-umds-distrib ディレクトリに移動して、VMware-UMDS-6.7.0.-*build_number*.tar.gz ファイルをアーカイブ解除します。

たとえば、VMware-UMDS-6.7.0.-*build_number*.tar.gz ファイルを名前 *umds* で作成したディレクトリに解凍した場合、ナビゲーションパスは /*umds*/vmware-umds-distrib になります。

- 4 ファイル UMDS インストール スクリプトを実行します。
スクリプトのファイル名は vmware-install.pl です。
- 5 エンド ユーザー使用許諾契約書 (EULA) を読んで同意します。
- 6 UMDS をインストールするディレクトリを選択します。
- 7 UMDS プロキシ設定を入力します。

また、以下のコマンドを使用して、UMDS をインストールした後でプロキシ構成を変更することもできます。

```
vmware-umds -S --proxy <proxyAddress:port>
```

- 8 パッチを保存するディレクトリを選択します。

重要： パッチ保存ディレクトリは、UMDS のインストール ディレクトリとは別にする必要があります。

結果

UMDS がインストールされます。

UMDS の Linux OS からのアンインストール

最新バージョンの Update Manager Download Service (UMDS) を Linux ベースのシステムで使用するには、まず、現在のバージョンの UMDS をアンインストールする必要があります。Linux ベースのシステム上で実行できる UMDS の新しいバージョンへの直接的なアップグレード パスはありません。

前提条件

- UMDS が実行されている Linux マシンに管理者権限があることを確認します。

手順

- 1 Linux マシンで、コマンド シェルを開きます。
- 2 UMDS のインストール ディレクトリに移動して、vmware-uninstall-umds.pl ファイルを探します。
- 3 次のコマンドを実行します。

```
./vmware-uninstall-umds.pl
```

- 4 UMDS をシステムからアンインストールすることを確認するため、[Yes] と入力します。
UMDS のアンインストール手順が開始されます。

5 (オプション) Linux マシンから PostgreSQL データベースを削除します。

PostgreSQL データベースのアンインストール方法については、公式の PostgreSQL ドキュメントを参照してください。

結果

UMDS が Linux システムからアンインストールされます。

次のステップ

Linux OS をアップグレードし、互換性のある新しいバージョンの UMDS をインストールできます。

UMDS の設定と使用

ESXi ホストのパッチと通知をダウンロードするように UMDS を設定できます。また、ESXi 6.0、ESXi6.5、および ESXi6.7 のパッチ バイナリ、パッチ メタデータ、および通知を、サードパーティ ポータルからダウンロードするように UMDS を設定することもできます。

Windows 上で実行される UMDS では、管理者または管理者グループに属しているユーザーのみがパッチをダウンロードできます。Linux 上で実行される UMDS の場合、管理者のアクセスはパッチをダウンロードするための要件ではありません。

アップグレード、パッチ バイナリ、パッチ メタデータ、および通知のダウンロード後、データを Web サーバまたはポータブル メディア ドライブにエクスポートし、(ローカル ディスクとしてマウントされた) メディア ドライブまたは Web サーバのフォルダを、共有リポジトリとして使用するように Update Manager を設定できます。

また、ESXi 6.0、ESXi6.5、および ESXi6.7 のパッチと通知を、サードパーティ ポータルからダウンロードするように UMDS を設定することもできます。

UMDS を使用するには、その UMDS のインストール先マシンにインターネット アクセスが必要です。必要なデータのダウンロード後、そのデータは、ローカルの Web サーバ、または CD、USB フラッシュドライブなどのポータブルストレージ デバイスにコピーできます。

パッチを手動でダウンロードするスクリプトを作成し、そのスクリプトを、アップグレードとパッチを自動ダウンロードする Windows スケジュール設定タスクとして設定することをお勧めします。

vSphere Update Manager Download Service (UMDS) でダウンロードするデータの設定

UMDS では、ホストのパッチ バイナリ、パッチ メタデータ、および通知がデフォルトでダウンロードされます。どのパッチ バイナリとパッチ メタデータを UMDS でダウンロードするかは指定できます。

手順

- 1 UMDS がインストールされているマシンにログインし、[コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます。
- 2 UMDS がインストールされているディレクトリに移動します。
 - 64 ビット Windows の場合、デフォルトの場所は C:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructure\Update Manager です。

- 64 ビット Linux の場合、デフォルトの場所は `/usr/local/vmware-umds/bin` です。

3 ダウンロードする更新を指定します。

- ESXi ホストのすべてのアップデートをダウンロードするように設定するには、次のコマンドを実行します。

```
vmware-umds -S --enable-host
```

- ホストのアップデートのダウンロードを無効にするには、次のコマンドを実行します。

```
vmware-umds -S --disable-host
```

次のステップ

選択したデータをダウンロードします。

vSphere Update Manager Download Service (UMDS) パッチ リポジトリの場所の変更

UMDS は、アップグレード ファイル、パッチ バイナリ、パッチ メタデータ、通知などをダウンロードし、UMDS のインストール時に指定されたフォルダにこれらのデータを保存します。

Windows マシンの場合、UMDS がダウンロードしたパッチ バイナリとパッチ メタデータはデフォルトで `C:\ProgramData\VMware\VMware Update Manager\Data` フォルダに保存されます。

Linux マシンの場合、UMDS がダウンロードしたパッチ バイナリとパッチ メタデータはデフォルトで `/var/lib/vmware-umds` フォルダに保存されます。

UMDS をインストールした後でも、UMDS がダウンロードしたデータの保存先フォルダを変更できます。

ホストのアップデート ファイルをすでにダウンロードしている場合は、古い保存先から新しいパッチの保存先にすべてのファイルとフォルダをコピーする必要があります。UMDS がダウンロードしたパッチ バイナリとパッチ メタデータの保存先フォルダは UMDS がインストールされているマシン上に存在している必要があります。

手順

- 1 UMDS がインストールされているマシンに管理者としてログインし、[コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます。
- 2 UMDS がインストールされているディレクトリに移動します。
 - 64 ビット Windows の場合、デフォルトの場所は `C:\Program Files\VMware\Infrastructure` です。
 - 64 ビット Linux の場合、デフォルトの場所は `/usr/local/vmware-umds` です。
- 3 次のコマンドを実行してパッチ リポジトリのディレクトリを変更します。

```
vmware-umds -S --patch-store your_new_patchstore_folder
```

この例では、`your_new_patchstore_folder` の部分に、ダウンロードされたパッチ バイナリとパッチ メタデータの新しい保存先フォルダのパスを入力します。

結果

これで、UMDS によってダウンロードされたパッチ データの保存先ディレクトリが正しく変更されます。

次のステップ

UMDS を使用してデータをダウンロードします。

ホストの URL アドレスの設定

サードパーティ ベンダーの Web サイトに接続して ESXi 6.0、ESXi6.5、および ESXi6.7 ホストのパッチと通知をダウンロードするように vSphere Update Manager Download Service (UMDS) を設定できます。

手順

- 1 UMDS が実行されているマシンにログインし、[コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます。
- 2 UMDS がインストールされているディレクトリに移動します。
 - 64 ビット Windows の場合、デフォルトの場所は C:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructure\Update Manager です。
 - 64 ビット Linux の場合、デフォルトの場所は /usr/local/vmware-umds です。
- 3 新しい URL アドレスからデータをダウンロードするように UMDS を設定します。
 - ◆ ESXi 6.0、ESXi6.5、または ESXi6.7 ホストのパッチと通知をダウンロードするための新しい URL アドレスを追加するには、次のコマンドを実行します。

```
vmware-umds -S --add-url https://host_URL/index.xml --url-type HOST
```

- 4 (オプション) 今後 UMDS で以前の URL アドレスからデータがダウンロードされないように、そのアドレスを削除します。

ダウンロード済みのデータは保持され、エクスポートすることもできます。

- Windows マシンに UMDS を使用する場合は、次のコマンドを使用します。

```
vmware-umds.exe -S --remove-url https://URL_to_remove/index.xml
```

- Linux マシンに UMDS を使用する場合は、次のコマンドを使用します。

```
vmware-umds -S --remove-url https://URL_to_remove/index.xml
```

結果

指定された URL アドレスからホストのパッチと通知をダウンロードするように UMDS を設定しました。

次のステップ

UMDS を使用してパッチと通知をダウンロードします。

vSphere Update Manager Download Service (UMDS) での指定したデータのダウンロード

UMDS をセットアップした後は、UMDS がインストールされているマシンにアップグレード、パッチ、および通知をダウンロードできます。

前提条件

- Windows で UMDS を使用している場合は、管理者または管理者グループに属するユーザーとしてログインします。管理者レベルのアクセスは、Linux 上で実行されている UMDS を使用してデータをダウンロードするための要件ではありません。

手順

- 1 UMDS がインストールされているマシンにログインし、[コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます。
- 2 UMDS がインストールされているディレクトリに移動します。
 - 64 ビット Windows の場合、デフォルトの場所は C:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructure\Update Manager です。
 - 64 ビット Linux の場合、デフォルトの場所は /usr/local/vmware-umds です。
- 3 選択したアップデートをダウンロードします。

```
vmware-umds -D
```

このコマンドを初めて実行したときには、設定されているダウンロード元からすべてのアップグレード、パッチ、および通知がダウンロードされます。以後は、UMDS での前回のダウンロード以降にリリースされた新しいパッチと通知がすべてダウンロードされます。

- 4 (オプション) すでにダウンロードされているアップグレード、パッチ、および通知を再びダウンロードする場合は、日時の範囲を指定してダウンロードするデータを絞り込むことができます。

パッチや通知を再ダウンロードするコマンドを実行すると、(存在する場合) 既存のデータをパッチストアから削除してから再ダウンロードが開始されます。

たとえば、2010 年 11 月にダウンロードしたアップグレード、パッチ、および通知を再ダウンロードするには、次のコマンドを実行します。

```
vmware-umds -R --start-time 2010-11-01T00:00:00 --end-time 2010-11-30T23:59:59
```

指定した期間にダウンロードされた既存のデータが削除され、同じデータが再ダウンロードされます。

次のステップ

ダウンロードしたアップグレード、パッチ、および通知をエクスポートします。

ダウンロードしたデータのエクスポート

ダウンロードしたアップグレード、パッチ、および通知を、Update Manager の共有リポジトリとして機能する特定の場所にエクスポートできます。共有リポジトリをパッチ ダウンロード ソースとして使用するよう、Update Manager を構成できます。また、共有リポジトリは、Web サーバでホストすることもできます。

前提条件

- Windows で UMDS を使用している場合は、管理者または管理者グループに属するユーザーとしてログインします。管理者レベルのアクセスは、Linux 上で実行されている UMDS を使用してダウンロードしたデータをエクスポートするための要件ではありません。
- 既存のダウンロード ディレクトリを使用して UMDS をインストールした場合は、アップデートをエクスポートする前に、UMDS 6.7 を使用して、少なくとも 1 回ダウンロードを実行してください。

手順

- 1 UMDS がインストールされているマシンにログインし、[コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます。
- 2 UMDS がインストールされているディレクトリに移動します。
 - 64 ビット Windows の場合、デフォルトの場所は C:\Program Files\VMware\Infrastructure です。
 - 64 ビット Linux の場合、デフォルトの場所は /usr/local/vmware-umds です。
- 3 エクスポート パラメータを指定し、データをエクスポートします。

```
vmware-umds -E --export-store repository_path
```

コマンドで、エクスポート ディレクトリの完全パスを指定する必要があります。

作業しているデプロイのマシンに Update Manager サーバがインストールされており、そのマシンが接続されているマシンに UMDS がインストールされている場合、*repository_path* パスは、共有リポジトリとして機能する Web サーバ上のフォルダへのパスになります。

Update Manager サーバが、切り離された安全な環境にあるマシンにインストールされている場合、*repository_path* には、ポータブル メディア ドライブへのパスを指定できます。ダウンロードをポータブルメディア ドライブにエクスポートして、パッチを、Update Manager がインストールされているマシンに物理的に転送します。

UMDS を使用してダウンロードしたデータは、指定したパスにエクスポートされます。すべてのファイルがエクスポートされたことを確認します。Update Manager が新しいパッチ バイナリとパッチ メタデータを使用できるように、UMDS からのエクスポートを定期的に行い、共有リポジトリを入力します。

- 4 (オプション) 指定した期間にダウンロードした ESXi パッチをエクスポートできます。

たとえば、2010 年 11 月にダウンロードしたパッチをエクスポートするには、次のコマンドを実行します。

```
vmware-umds -E --export-store repository-path --start-time 2010-11-01T00:00:00 --end-time 2010-11-30T23:59:59
```

次のステップ

共有リポジトリをパッチ ダウンロード ソースとして使用するよう、Update Manager を構成します。詳細については、[vSphere Web Client](#) での共有リポジトリのダウンロード ソースとしての使用を参照してください。

ベースラインおよびベースライン グループの操作

8

Update Manager ベースラインには、ホスト ベースラインと仮想マシン ベースラインの 2 つのタイプがあります。vSphere インベントリ内のオブジェクトをアップデートするには、事前定義済みのベースライン、システム管理のベースライン、または自作のカスタム ベースラインを使用できます。

ホストと仮想マシンをスキャンする際には、これらのベースラインおよびベースライン グループを基準に評価して、その仮想マシンのコンプライアンス レベルを判断します。

vSphere Client では、ベースラインおよびベースライン グループが、Update Manager のホーム ビューの [ベースライン] タブに表示されます。

これらを使用する目的に応じて、ホスト ベースラインには 1 つまたは複数のパッチ、拡張機能、またはアップグレードの集合を含めることができます。そのため、ホスト ベースラインはアップグレード、拡張機能、またはパッチのベースラインです。ホストをアップデートまたはアップグレードするには、Update Manager のデフォルト ベースラインまたは自作のカスタム ベースラインを使用できます。

仮想マシン ベースラインは事前定義済みです。カスタムの仮想マシン ベースラインを作成することはできません。デフォルト ベースラインは、事前定義済みおよびシステム管理のベースラインです。

システム管理のベースライン

Update Manager には、vSAN によって生成されたシステム管理のベースラインが表示されます。これらのベースラインは、VMware ESXi 6.0 Update 2 バージョン以降を使用する ESXi ホストで vSAN クラスタを使用する場合、vSphere インベントリにデフォルトで表示されます。vSphere 環境に vSAN クラスタが含まれていない場合は、システム管理のベースラインは作成されません。

システム管理ベースラインでは、コンテンツが定期的に更新されるため、Update Manager に常時インターネット アクセスが必要になります。vSAN システム ベースラインは通常 24 時間ごとに更新されます。

システム管理のベースラインを使用して、推奨される重要なパッチ、ドライバ、アップデート、vSAN でサポートされる最新の ESXi ホスト バージョンに vSAN クラスタをアップデートします。

システム管理のベースラインは編集または削除することができません。システム管理のベースラインは、vSphere 環境内のインベントリ オブジェクトに添付されません。複数のシステムの管理ベースラインのベースライン グループを作成することはできますが、そのグループに他のタイプのベースラインを追加することはできません。同様に、システム管理のベースラインは、アップグレード、パッチ、拡張機能ベースラインを含むベースライン グループに追加することができません。

事前定義済みのベースライン

事前定義済みのベースラインは、編集も削除もできません。各インベントリ オブジェクトに接続または分離することのみ可能です。

Update Manager ホーム ビューの [ベースライン] タブに、次の事前定義済みベースラインが表示されます。

重要度の高いホスト パッチ (事前定義済み)

重要度の高いパッチすべてに対して、ESXi ホストのコンプライアンス状態をチェックします。

重要度の低いホスト パッチ (事前定義済み)

オプションのパッチすべてに対して、ESXi ホストのコンプライアンス状態をチェックします。

Update Manager ホーム ビューの [仮想マシン ベースライン] タブに、次の事前定義済みベースラインが表示されます。

ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード (事前定義済み)

ホスト上の最新バージョンの VMware Tools に対する仮想マシンのコンプライアンス状態を確認します。Update Manager は、ESXi 6.0.x 以降を実行しているホスト上の仮想マシンに対する VMware Tools のアップグレードをサポートします。

ホストと整合するように仮想マシン ハードウェアをアップグレード (事前定義済み)

ホストがサポートする最新バージョンに対する仮想マシンの仮想ハードウェアのコンプライアンス状態をチェックします。Update Manager は、ESXi6.7 を実行しているホスト上での、仮想ハードウェア バージョン vmx-15 へのアップグレードをサポートします。

カスタム ベースライン

カスタム ベースラインは、ユーザーが作成するベースラインです。

vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインによって他の vCenter Server システムに接続され、グループ内の各 vCenter Server システム用に Update Manager インスタンスがある場合、作成および管理するベースラインおよびベースライン グループは、選択した Update Manager インスタンスが実行される vCenter Server システムが管理するインベントリ オブジェクトにのみ適用されます。

ベースライン グループ

既存のベースラインを組み合わせ、ベースライン グループを作成します。1つのベースライン グループには、1つのアップグレード ベースラインと、1つ以上のパッチおよび拡張機能のベースラインが含まれる場合や、複数のパッチおよび拡張機能ベースラインの組み合わせが含まれる場合があります。

ベースラインおよびベースライン グループを作成、編集、または削除するには、ベースラインの管理権限が必要です。ベースラインおよびベースライン グループをターゲットのインベントリ オブジェクトに接続するには、ベースラインの接続権限が必要です。権限は、Update Manager が実行されている vCenter Server システムで割り当てられている必要があります。ユーザー、グループ、ロール、および権限の管理の詳細については、『vCenter Server およびホストの管理』を参照してください。すべての Update Manager の権限とその説明のリストについては、[Update Manager の権限](#) を参照してください。

この章には、次のトピックが含まれています。

- ベースラインの作成と管理
- ベースライン グループの作成および管理
- オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付
- vSphere Web Client のオブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付
- オブジェクトからのベースラインおよびベースライン グループの分離
- vSphere Web Client でのオブジェクトからのベースラインおよびベースライン グループの分離
- ベースラインおよびベースライン グループの削除
- ベースラインおよびベースライン グループの複製

ベースラインの作成と管理

[新規ベースライン] ウィザードを使用して、導入環境の必要に応じてカスタム パッチ、拡張機能、およびアップグレード ベースラインを作成できます。Update Manager クライアント管理ビューでベースラインを作成および管理します。

Update Manager は、編集または削除ができないデフォルトのベースラインも提供します。デフォルトのベースラインは、ホスト用のパッチと、仮想マシン用のアップデートを含む、事前定義されたベースラインです。その他のタイプのデフォルト ベースラインはシステム管理ベースラインで、vSAN クラスタが最新のサポート対象ソフトウェアを実行しているかを確認するために使用できます。

パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインの作成および編集

パッチまたはエクステンションを含むベースラインを基準に、ホストを修正できます。選択したパッチ条件によって、パッチ ベースラインは動的または固定のいずれかにできます。

動的なパッチ ベースラインには一連のパッチが含まれており、利用可能なパッチとユーザーが指定した条件を基準として、自動的にアップデートを行います。固定ベースラインには、新しいパッチがダウンロードされている場合でも、選択したパッチのみが含まれます。

エクステンション ベースラインには、ESXi ホスト用の追加のソフトウェア モジュールが含まれます。この追加のソフトウェアは、VMware ソフトウェアまたはサードパーティ製ソフトウェアです。エクステンション ベースラインを使用すると追加モジュールをインストールすることができ、パッチ ベースラインを使用するとインストールしたモジュールを更新できます。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインによって他の vCenter Server システムに接続されていて、Update Manager インスタンスが複数ある場合、作成したパッチ ベースラインとエクステンション ベースラインは、他の vCenter Server システムによって管理されているインベントリ オブジェクトにはいずれにも適用されません。ベースラインは、選択した Update Manager インスタンス専用です。

前提条件

ベースラインの管理権限を保有していることを確認します。

■ 固定パッチ ベースラインの作成

固定ベースラインは、使用可能なパッチが入れ替わっても変わらないパッチのセットです。

■ vSphere Web Client での固定パッチ ベースラインの作成

固定ベースラインは、使用可能なパッチが変わっても変化しない一群のパッチで構成されます。

■ 動的パッチ ベースラインの作成

動的ベースラインは、特定の条件を満たすパッチのセットです。動的ベースラインの内容は、使用可能なパッチに応じて異なります。ベースラインから特定のパッチを手動で削除したり、追加したりすることができます。

■ vSphere Web Client で動的パッチ ベースラインを作成します。

動的ベースラインは、特定の条件を満たす一群のパッチで構成されます。動的ベースラインの内容は、使用可能なパッチに応じて異なります。特定のパッチを除外したり、追加したりすることもできます。追加または除外するように選択したパッチは、新しいパッチをダウンロードするたびに変化するものではありません。

■ ホスト拡張機能ベースラインの作成

拡張機能ベースラインには、ESXi ホスト用の追加のソフトウェアが含まれます。この追加のソフトウェアは、VMware ソフトウェアまたはサードパーティ製ソフトウェアです。

■ vSphere Web Client でのホスト拡張機能ベースラインの作成

拡張機能ベースラインには、ESXi ホスト用の追加のソフトウェアが含まれます。この追加のソフトウェアは、VMware ソフトウェアまたはサードパーティ製ソフトウェアです。[新規ベースライン] ウィザードを使用して、ホスト拡張機能ベースラインを作成します。

■ 新規ベースライン ウィザードでのパッチまたはエクステンションのフィルタリング

パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインの作成では、Update Manager リポジトリで使用できるパッチおよびエクステンションをフィルタリングして、ベースラインに含めるまたはベースラインから除外する特定のパッチおよびエクステンションを探すことができます。

■ パッチ ベースラインの編集

既存のホスト パッチ ベースラインを編集できます。

■ vSphere Web Client でのパッチ ベースラインの編集

既存のホスト パッチ ベースラインを編集できます。

■ ホスト拡張機能ベースラインの編集

既存の拡張機能ベースラインの名前、説明、および構成を変更できます。

■ vSphere Web Client でのホスト拡張機能ベースラインの編集

既存の拡張機能ベースラインの名前、説明、および構成を変更できます。

固定パッチ ベースラインの作成

固定ベースラインは、使用可能なパッチが入れ替わっても変わらないパッチのセットです。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.ベースラインの管理。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
Update Manager のホームが表示されます。
- 3 [ベースライン] をクリックします。
- 4 [新規] をクリックし、[新規ベースライン] を選択します。
[ベースラインの作成] ウィザードが表示されます。
- 5 [名前と説明] ページに名前を入力し、必要に応じてベースラインの説明を入力します。
- 6 ESXi のパッチ ベースラインを作成するには、[パッチ] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 [パッチの自動選択] ページで、条件に一致するパッチでベースラインを自動的に更新するオプションを選択解除して自動更新を無効にし、[次へ] をクリックします。
- 8 [パッチの手動選択] ページで、ベースラインに含めるパッチを選択し、[次へ] をクリックします。
- 9 [概要] ページで選択内容を確認し、[完了] をクリックします。

結果

新規ベースラインが、[ベースライン] タブのベースライン リストに表示されます。ベースラインは、データセンター、クラスタ、またはホストに添付できます。

次のステップ

ベースラインをデータセンター、クラスタ、またはホストに添付します。

vSphere Web Client での固定パッチ ベースラインの作成

固定ベースラインは、使用可能なパッチが変わっても変化しない一群のパッチで構成されます。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 3 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 4 [管理] タブをクリックします。

- 5 [ホスト ベースライン] タブで、[新規ベースライン] をクリックします。
- 6 ベースラインの名前と説明（説明は任意）を入力します。
- 7 ベースラインのタイプで [ホスト パッチ] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 8 [パッチ オプション] ページで、ベースラインのタイプとして [固定] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 9 ベースラインに含めるパッチを個別に選択します。
- 10 (オプション) [詳細] をクリックして、ベースラインに含める特定のパッチを選択します。
- 11 [次へ] をクリックします。
- 12 [設定の確認] ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

結果

新しいベースラインが、[ベースラインおよびグループ] タブのベースライン ペインに表示されます。

動的パッチ ベースラインの作成

動的ベースラインは、特定の条件を満たすパッチのセットです。動的ベースラインの内容は、使用可能なパッチに応じて異なります。ベースラインから特定のパッチを手動で削除したり、追加したりすることができます。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.ベースラインの管理。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
Update Manager のホームが表示されます。
- 3 [ベースライン] をクリックします。
- 4 [新規] をクリックし、[新規ベースライン] を選択します。
[ベースラインの作成] ウィザードが表示されます。
- 5 [名前と説明] ページに名前を入力し、必要に応じてベースラインの説明を入力します。
- 6 ESXi のパッチ ベースラインを作成するには、[パッチ] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 [パッチの自動選択] 画面で、条件に一致するパッチでベースラインを自動的に更新するオプションを選択します。
- 8 パッチをベースラインに追加するために満たす必要がある条件を指定します。

オプション	説明
パッチ ベンダー	使用するパッチ ベンダーを指定します。
製品	使用するパッチを、選択した製品またはオペレーティング システムに限定します。 製品名の最後のアスタリスクは、任意のバージョン番号を示すワイルドカードです。
重要度	含めるパッチの重要度を指定します。

オプション	説明
カテゴリ	含めるパッチのカテゴリを指定します。
リリース日	パッチ リリースの日付の範囲を指定します。

これらのフィールド間の関係は、ブール演算子 AND で定義されます。

たとえば、製品と重要度オプションを選択すると、パッチは、選択された製品と指定された重要度に該当するパッチに限定されます。

- 9 (オプション) ウィザードの [一致] タブから、条件に一致するパッチを選択解除して、ベースラインから永続的に除外します。[除外] および [選択済み] タブから、どのパッチがベースラインから除外され、どのパッチが含まれているかを確認します。
- 10 [次へ] をクリックします。
- 11 (オプション) [パッチの手動選択] ページで、ベースラインに含めるパッチを個別に選択し、[次へ] をクリックします。
このページに表示されるパッチは、[パッチの自動選択] 画面で設定した条件と一致しないパッチです。
動的ベースラインに手動で追加したパッチは、自動的にダウンロードしたパッチに関係なく、ベースラインに残ります。
- 12 [概要] ページで選択内容を確認し、[完了] をクリックします。

結果

新規ベースラインが、[ベースライン] タブのベースライン リストに表示されます。ベースラインは、データセンター、クラスタ、またはホストに添付できます。

次のステップ

ベースラインをデータセンター、クラスタ、またはホストに添付します。

vSphere Web Client で動的パッチ ベースラインを作成します。

動的ベースラインは、特定の条件を満たす一群のパッチで構成されます。動的ベースラインの内容は、使用可能なパッチに応じて異なります。特定のパッチを除外したり、追加したりすることもできます。追加または除外するように選択したパッチは、新しいパッチをダウンロードするたびに変化するものではありません。

前提条件

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 3 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。

- 4 [管理] タブをクリックします。
- 5 [ホスト ベースライン] タブで、[ベースラインの新規作成].をクリックします。
- 6 ベースラインの名前と説明（説明は任意）を入力します。
- 7 ベースラインのタイプで [ホスト パッチ] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 8 [パッチ オプション] ページで、ベースラインのタイプとして [動的] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 9 基準ページで含めるパッチを定義するために使用する条件を入力して、[次へ] をクリックします。

オプション	説明
パッチ ベンダー	使用するパッチ ベンダーを指定します。
製品	使用するパッチを、選択した製品またはオペレーティング システムに限定します。 製品名の最後のアスタリスクは、任意のバージョン番号を示すワイルドカードです。
重要度	含めるパッチの重要度を指定します。
カテゴリ	含めるパッチのカテゴリを指定します。
リリース日	パッチ リリースの日付の範囲を指定します。

これらのフィールド間の関係は、ブール演算子 AND で定義されます。

たとえば、製品と重要度オプションを選択すると、パッチは、選択された製品と指定された重要度に該当するパッチに限定されます。

- 10 (オプション) [除外するパッチ] ページで、リストから1つ以上のパッチを選択します。
- 11 (オプション) [詳細] をクリックして、ベースラインから除外する特定のパッチを検索します。
- 12 [次へ] をクリックします。
- 13 (オプション) [追加のパッチ] ページでベースラインに含めるパッチを個別に選択し、下矢印をクリックして、追加する固定パッチ リストに移動します。
動的ベースラインに追加したパッチは、新しくダウンロードしたパッチに関係なく、ベースラインに残ります。
- 14 (オプション) [詳細] をクリックして、ベースラインに含めるパッチを検索します。
- 15 [次へ] をクリックします。
- 16 [設定の確認] ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

結果

新しいベースラインが、[ベースラインおよびグループ] タブのベースライン ペインに表示されます。

ホスト拡張機能ベースラインの作成

拡張機能ベースラインには、ESXi ホスト用の追加のソフトウェアが含まれます。この追加のソフトウェアは、VMware ソフトウェアまたはサードパーティ製ソフトウェアです。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager. ベースラインの管理。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
Update Manager のホームが表示されます。
- 3 [ベースライン] をクリックします。
- 4 [新規] をクリックし、[新規ベースライン] を選択します。
[ベースラインの作成] ウィザードが表示されます。
- 5 [名前と説明] ページに名前を入力し、必要に応じてベースラインの説明を入力します。
- 6 拡張機能ベースラインを作成するには、[拡張機能] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 [拡張機能の選択] ページで、ベースラインに含める拡張機能を個別に選択し、[次へ] をクリックします。
- 8 [概要] ページで選択内容を確認し、[完了] をクリックします。

結果

新規ベースラインが、[ベースライン] タブのベースライン リストに表示されます。ベースラインは、データセンター、クラスタ、またはホストに添付できます。

次のステップ

ベースラインをデータセンター、クラスタ、またはホストに添付します。

vSphere Web Client でのホスト拡張機能ベースラインの作成

拡張機能ベースラインには、ESXi ホスト用の追加のソフトウェアが含まれます。この追加のソフトウェアは、VMware ソフトウェアまたはサードパーティ製ソフトウェアです。[新規ベースライン] ウィザードを使用して、ホスト拡張機能ベースラインを作成します。

拡張機能では、追加の機能、ハードウェア用のアップデートされたドライバ、ホストにあるサードパーティ製モジュールを管理する CIM (Common Information Model) プロバイダを提供したり、既存のホスト機能のパフォーマンスまたは可用性を改善したりできます。

作成するホスト拡張機能ベースラインは、常に決まっています。使用している環境内の ESXi ホストに適した拡張機能を慎重に選択する必要があります。

拡張機能の初回インストールを実行するには、拡張機能のベースラインを使用する必要があります。ホストに拡張機能をインストールした後は、パッチ ベースラインまたは拡張機能ベースラインのいずれかを使用して拡張モジュールを更新できます。

注： Update Manager を使用して拡張機能ベースラインを適用する場合は、ホストと新しいモジュールとの機能的な関連性について理解しておく必要があります。拡張機能モジュールによって、ESXi ホストの動作が変更されることがあります。拡張機能のインストール中に、Update Manager はパッケージ レベルのチェックと検証のみを実行します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 3 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 4 [管理] タブをクリックします。
- 5 [ホスト ベースライン] タブで、[新規ベースライン] をクリックします。
- 6 ベースラインの名前と説明（説明は任意）を入力します。
- 7 ベースラインのタイプで [ホスト拡張機能] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 8 拡張機能ページで、ベースラインに含める拡張機能を個別に選択します。
- 9 （オプション）追加の情報を表示するには、拡張機能を選択し、[パッチの詳細を表示] をクリックします。
- 10 [次へ] をクリックします。
- 11 [設定の確認] ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

結果

新しいベースラインが、[ベースラインおよびグループ] タブのベースライン ペインに表示されます。

新規ベースライン ウィザードでのパッチまたはエクステンションのフィルタリング

パッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインの作成では、Update Manager リポジトリで使用できるパッチおよびエクステンションをフィルタリングして、ベースラインに含めるまたはベースラインから除外する特定のパッチおよびエクステンションを探すことができます。

手順

- 1 [新規ベースライン] ウィザードで、[詳細] をクリックします。
 - 固定パッチ ベースラインを作成する場合は、パッチ ページで [詳細] をクリックします。
 - 動的パッチ ベースラインを作成する場合は、除外するパッチ ページまたは追加のパッチ ページで [詳細] をクリックします。
 - ホスト エクステンション ベースラインを作成する場合は、エクステンション ページで [詳細] をクリックします。

- 2 パッチをフィルタ ページまたはエクステンションのフィルタリング ページで、含めるまたは除外する、パッチまたはエクステンションを定義する条件を指定します。

オプション	説明
パッチ ベンダー	使用するパッチまたは拡張機能のベンダーを指定します。
製品	パッチまたは拡張機能のセットを、選択した製品またはオペレーティング システムに限定します。 製品名の最後のアスタリスクは、任意のバージョン番号を示すワイルドカードです。
重要度	含めるパッチまたは拡張機能の重要度を指定します。
カテゴリ	含めるパッチまたは拡張機能のカテゴリを指定します。
リリース日	パッチまたは拡張機能のリリース日を日付範囲で指定します。
テキスト	入力したテキストを含むパッチまたは拡張機能に限定します。

これらのフィールド間の関係は、ブール演算子 AND で定義されます。

- 3 [検索] をクリックします。

結果

[新規ベースライン] ウィザードのパッチまたはエクステンションは、指定した条件に応じてフィルタリングされません。

パッチ ベースラインの編集

既存のホスト パッチ ベースラインを編集できます。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.ベースラインの管理。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
Update Manager のホームが表示されます。
- 3 [ベースライン] をクリックします。
- 4 ベースラインをリストから選択し、[編集] をクリックします。
[ベースラインの編集] ウィザードが表示されます。
- 5 (オプション) [名前と説明] ページで名前を編集し、必要に応じてベースラインの説明を入力します。
- 6 (オプション) [パッチの自動選択] ページでパッチ選択の条件を変更し、[次へ] をクリックします。
- 7 (オプション) [パッチの手動選択] ページで、選択されているパッチを変更し、[次へ] をクリックします。
パッチの選択を解除したり、パッチ ベースラインに含める新しいパッチを選択できます。
- 8 [概要] ページで選択内容を確認し、[完了] をクリックします。

次のステップ

ベースラインをデータセンター、クラスタ、またはホストに添付します。

vSphere Web Client でのパッチ ベースラインの編集

既存のホスト パッチ ベースラインを編集できます。

パッチ ベースラインは、vSphere Web Client の Update Manager の管理ビューで編集します。

前提条件

ベースラインの管理権限を保有していることを確認します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 3 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 4 [管理] タブをクリックします。
- 5 [ホスト ベースライン] をクリックします。
- 6 パッチ ベースラインを選択し、ベースライン ペインの上部にある [編集] をクリックします。
- 7 ベースラインの名前と説明を編集し、[次へ] をクリックします。
- 8 [ベースラインの編集] ウィザードで、基準を変更し、含めるパッチまたは除外するパッチを選択します。
- 9 [設定の確認] ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

ホスト拡張機能ベースラインの編集

既存の拡張機能ベースラインの名前、説明、および構成を変更できます。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.ベースラインの管理。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
Update Manager のホームが表示されます。
- 3 [ベースライン] をクリックします。
- 4 ベースラインをリストから選択し、[編集] をクリックします。
[ベースラインの編集] ウィザードが表示されます。

- 5 (オプション) [名前と説明] ページで名前を編集し、必要に応じてベースラインの説明を入力します。
- 6 (オプション) [拡張機能の選択] ページで、含まれている拡張機能を変更し、[次へ] をクリックします。
- 7 [概要] ページで選択内容を確認し、[完了] をクリックします。

次のステップ

ベースラインをデータセンター、クラスタ、またはホストに添付します。

vSphere Web Client でのホスト拡張機能ベースラインの編集

既存の拡張機能ベースラインの名前、説明、および構成を変更できます。

パッチ ベースラインは、vSphere Web Client の Update Manager の管理ビューで編集します。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.ベースラインの管理.ベースラインの管理。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 3 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 4 [管理] タブをクリックします。
- 5 [ホスト ベースライン] をクリックします。
- 6 拡張機能ベースラインを選択し、ベースライン ペインの上部にある [編集] をクリックします。
- 7 ベースラインの名前と説明を編集し、[次へ] をクリックします。
- 8 [ベースラインの編集]ウィザードで変更を加えます。
- 9 [設定の確認] ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

ホスト アップグレード ベースラインの作成および編集

[新規ベースライン] ウィザードを使用して、ESXi ホスト アップグレード ベースラインを作成できます。ホスト ベースラインは、アップロード済みの ESXi 6.5 イメージを使用して作成できます。

ESXi イメージは、Update Manager の管理ビューにある [ESXi イメージ] タブからアップロードおよび管理できます。

Update Manager 6.7 は、ESXi 6.0.x および ESXi6.5.x から ESXi6.7 へのアップグレードをサポートします。

ESXi イメージをアップロードする前に、VMware の Web サイトまたは別のソースからイメージ ファイルを入手します。vSphere ESXi Image Builder を使用すると、サードパーティ製の VIB を含んだカスタム ESXi イメージを作成できます。詳細については、『vSphere ESXi Image Builder を使用したインストールのカスタマイズ』を参照してください。

vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインによって他の vCenter Server システムに接続され、複数の Update Manager インスタンスがある場合、アップロードしたホスト アップグレード ファイルと、作成したベースラインが、他の vCenter Server システムによって管理されているホストに適用されることはありません。アップグレード ファイルとベースラインは、選択した Update Manager インスタンス専用です。

■ ESXi ホスト アップグレード イメージのインポート

ESXi イメージをインポートして、vSphere インベントリ内のホストをアップグレードするためのアップグレード ベースラインを作成します。

■ ホスト アップグレード ベースラインの作成

Update Manager リポジトリにインポートした ESXi 6.7 イメージ を使用して、ESXi ホストのアップグレード ベースラインを作成できます。

■ vSphere Web Client でのホスト アップグレード イメージのインポートとホスト アップグレード ベースラインの作成

Update Manager リポジトリにインポートした ESXi 6.5 イメージを使用して、ESXi ホストのアップグレード ベースラインを作成できます。

■ vSphere Web Client でのホスト アップグレード ベースラインの作成

vSphere 環境内のホストをアップグレードするためには、ホスト アップグレード ベースラインを作成する必要があります。

■ ホスト アップグレード ベースラインの編集

既存のアップグレード ベースラインの名前を変更できます。ベースラインに対して異なる ESXi イメージを選択することもできます。

■ vSphere Web Client でのホスト アップグレード ベースラインの編集

既存のホスト アップグレード ベースラインの名前、説明、およびアップグレード オプションを変更できます。ホスト アップグレード ベースラインを編集して、ホストのアップグレード イメージを削除することはできません。

■ ESXi イメージの削除

不要になった ESXi イメージは、vCenter Server インベントリから削除できます。

■ vSphere Web Client での ESXi イメージの削除

不要になった ESXi イメージは、Update Manager リポジトリから削除できます。

ESXi ホスト アップグレード イメージのインポート

ESXi イメージをインポートして、vSphere インベントリ内のホストをアップグレードするためのアップグレード ベースラインを作成します。

- 必須権限：VMware vSphere Update Manager. ファイルのアップロード。

ESXi .iso イメージを使用すると、ESXi 6.0.x ホストおよび ESXi6.5.x ホストを ESXi6.7 にアップグレードできます。

ホストをアップグレードするには、VMware から VMware-VMvisor-Installer-6.7.0-build_number.x86_64.iso の名前で配布されている ESXi インストーラ イメージ、または vSphere ESXi Image Builder を使用して作成されたカスタム イメージを使用します。



ESXi イメージのインポートと Update Manager を使用したホストの修正
(https://vmwaretv.vmware.com/embed/secure/iframe/entryId/1_8864clv1/uiConfId/49694343/)

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
Update Manager のホームが表示されます。
- 3 [ESXi イメージ] タブで、[インポート] をクリックします。
[ESXi イメージのインポート] ダイアログ ボックスが開きます。
- 4 ローカル システムからイメージをインポートするには、[参照] ボタンをクリックし、アップロードする ESXi イメージに移動します。
ローカル イメージがすぐにインポートされます。
- 5 (オプション) URL からイメージをインポートするには、[イメージ] テキスト ボックスにアドレスを入力し、[インポート] をクリックして、ESXi イメージのアップロード処理が完了するまで待機します。

結果

アップロードした ISO イメージが、イメージのリストに表示されます。製品、バージョンおよびビルドの詳細、ベンダー、許容レベル、作成日付などの ESXi イメージに関する情報を確認できます。

次のステップ

ホスト アップグレード ベースラインを作成します。

ホスト アップグレード ベースラインの作成

Update Manager リポジトリにインポートした ESXi 6.7 イメージ を使用して、ESXi ホストのアップグレード ベースラインを作成できます。

ESXi .iso イメージを使用すると、ESXi 6.0.x ホストおよび ESXi6.5.x ホストを ESXi6.7 にアップグレードできます。

ホストをアップグレードするには、VMware から VMware-VMvisor-Installer-6.7.0-build_number.x86_64.iso の名前で配布されている ESXi インストーラ イメージ、または vSphere ESXi Image Builder を使用して作成されたカスタム イメージを使用します。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.ベースラインの管理。

- インベントリで使用可能な ESXi6.7 イメージがあることを確認します。詳細については、『[ESXi ホスト アップグレード イメージのインポート](#)』を参照してください。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
Update Manager のホームが表示されます。
- 3 [ベースライン] をクリックします。
- 4 [新規] をクリックし、[新規ベースライン] を選択します。
[ベースラインの作成] ウィザードが表示されます。
- 5 [名前と説明] ページに名前を入力し、必要に応じてベースラインの説明を入力します。
- 6 ESXi のアップグレード ベースラインを作成するには、[アップグレード] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 [イメージの選択] ページで、ESXi イメージを選択し、[次へ] をクリックします。
- 8 [概要] ページで選択内容を確認し、[完了] をクリックします。

結果

新規ベースラインが、[ベースライン] タブのベースライン リストに表示されます。ベースラインは、データセンター、クラスタ、またはホストに添付できます。

次のステップ

ベースラインをデータセンター、クラスタ、またはホストに添付します。

vSphere Web Client でのホスト アップグレード イメージのインポートとホスト アップグレード ベースラインの作成

Update Manager リポジトリにインポートした ESXi 6.5 イメージを使用して、ESXi ホストのアップグレード ベースラインを作成できます。

ESXi .iso イメージを使用すると、ESXi 6.0.x ホストおよび ESXi6.5.x ホストを ESXi6.7 にアップグレードできます。

ホストをアップグレードするには、VMware から VMware-VMvisor-Installer-6.7.0-build_number.x86_64.iso の名前で配布されている ESXi インストーラ イメージ、または vSphere ESXi Image Builder を使用して作成されたカスタム イメージを使用します。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.ファイルのアップロード。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。

- 3 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。

また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。

- 4 [管理] タブをクリックします。

- 5 [ESXi イメージ] > [ESXi イメージをインポート] の順にクリックします。

- 6 [ESXi イメージのインポート] ウィザードの ESXi イメージの選択ページで、アップロードする ESXi イメージを検索して選択します。

- 7 [次へ] をクリックします。

注意： インポート ウィザードは閉じないでください。インポート ウィザードを閉じると、アップロード処理が停止します。

- 8 (オプション) [セキュリティ警告] ウィンドウで、証明書の警告を処理するためのオプションを選択します。

インストール時に vCenter Server および ESXi ホスト用に生成される証明書は、信頼性のある認証局によって署名されていません。そのため、これらのいずれかのシステムへの SSL 接続が確立するたびに、クライアントで警告が表示されます。

オプション	操作
無視	[無視] をクリックすると、現在の SSL 証明書を引き続き使用して、アップロード プロセスを開始します。
キャンセル	[キャンセル] をクリックすると、ウィンドウが閉じ、アップロード プロセスが停止します。
この証明書をインストールし、セキュリティ警告をすべて表示しない	証明書をインストールし、セキュリティ警告が表示されないようにするには、このチェック ボックスを選択し、[無視] をクリックします。

- 9 ファイルがアップロードされたら、[次へ] をクリックします。

- 10 (オプション) ホスト アップグレード ベースラインを作成します。

a [ESXi イメージを使用してベースラインを作成] を選択したままにします。

b ホスト アップグレード ベースラインの名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。

- 11 [終了] をクリックします。

結果

アップロードした ESXi イメージが、インポートされた ESXi イメージ ペインに表示されます。ESXi イメージに含まれているソフトウェア パッケージに関するその他の情報は、ソフトウェア パッケージ ペインで確認できます。

ホスト アップグレード ベースラインも作成した場合、新しいベースラインは、[ベースラインおよびグループ] タブのベースライン ペインに表示されます。

次のステップ

環境内のホストをアップグレードするには、ホスト アップグレード ベースラインを作成する必要があります (まだ作成していない場合)。

vSphere Web Client でのホスト アップグレード ベースラインの作成

vSphere 環境内のホストをアップグレードするためには、ホスト アップグレード ベースラインを作成する必要があります。

前提条件

ESXi イメージを少なくとも 1 つアップロードします。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 3 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 4 [管理] タブをクリックします。
- 5 [ホスト ベースライン] タブで、[新規ベースライン] をクリックします。
- 6 ベースラインの名前と説明（説明は任意）を入力します。
- 7 ベースラインのタイプで [ホストのアップグレード] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 8 ESXi イメージ ページでホストのアップグレード イメージを選択して、[次へ] をクリックします。
- 9 [設定の確認] ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

結果

新しいベースラインが、[ベースラインおよびグループ] タブのベースライン ペインに表示されます。

ホスト アップグレード ベースラインの編集

既存のアップグレード ベースラインの名前を変更できます。ベースラインに対して異なる ESXi イメージを選択することもできます。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.ベースラインの管理。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
Update Manager のホームが表示されます。
- 3 [ベースライン] をクリックします。
- 4 ベースラインをリストから選択し、[編集] をクリックします。
[ベースラインの編集] ウィザードが表示されます。

- 5 (オプション) [名前と説明] ページで名前を編集し、必要に応じてベースラインの説明を入力します。
- 6 (オプション) [ISO の選択] ページで、含まれている ESXi イメージを変更し、[次へ] をクリックします。
- 7 [概要] ページで選択内容を確認し、[完了] をクリックします。

次のステップ

ベースラインをデータセンター、クラスタ、またはホストに添付します。

vSphere Web Client でのホスト アップグレード ベースラインの編集

既存のホスト アップグレード ベースラインの名前、説明、およびアップグレード オプションを変更できます。ホスト アップグレード ベースラインを編集して、ホストのアップグレード イメージを削除することはできません。

vSphere Web Client では、Update Manager Client の管理ビューからアップグレード ベースラインを編集できます。

前提条件

ベースラインの管理権限を保有していることを確認します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 3 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 4 [管理] タブをクリックします。
- 5 [ホスト ベースライン] をクリックします。
- 6 既存のホスト アップグレード ベースラインを選択し、ベースライン ペインの上部にある [編集] をクリックします。
- 7 ベースラインの名前と説明を編集し、[次へ] をクリックします。
- 8 [ベースラインの編集] ウィザードで変更を加えます。
- 9 [設定の確認] ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

ESXi イメージの削除

不要になった ESXi イメージは、vCenter Server インベントリから削除できます。

前提条件

- 削除する ISO イメージが、ベースラインの一部ではないことを確認します。ベースラインに含まれているイメージは削除できません。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
Update Manager のホームが表示されます。
- 3 [ESXi イメージ] をクリックします。
- 4 ESXi イメージをリストから選択し、[削除] をクリックします。

注： ベースラインで使用されている ESXi イメージを削除すると、失敗してエラー メッセージが表示されま
す。ベースラインに含まれる ESXi イメージを削除するには、最初にベースラインを削除する必要があります。

- 5 [はい] をクリックし、削除することを確認します。

結果

ISO イメージが削除され、使用できなくなります。

vSphere Web Client での ESXi イメージの削除

不要になった ESXi イメージは、Update Manager リポジトリから削除できます。

vSphere Web Client を Update Manager が登録された vCenter Server システムに接続し、ホーム ページで [Update Manager] アイコンをクリックします。

前提条件

ESXi イメージがベースラインに含まれていないことを確認してください。ベースラインに含まれているイメージは削除できません。

手順

- 1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 3 [管理] タブをクリックします。
- 4 [ESXi イメージ] タブをクリックします。
- 5 インポートされた ESXi イメージで削除するファイルを選択し、[削除] をクリックします。
- 6 [はい] をクリックし、削除することを確認します。

結果

ESXi イメージが削除され、使用できなくなります。

vSphere Web Client でのベースラインの削除

不要になったベースラインは、Update Manager から削除できます。ベースラインを削除すると、ベースラインの接続先のすべてのオブジェクトから分離されます。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 3 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 4 [管理] タブをクリックします。
- 5 [仮想マシン ベースライン] タブで削除するベースラインを選択し、[ベースライン定義の削除] をクリックします。
- 6 確認ダイアログ ボックスで [はい] をクリックします。

結果

ベースラインが削除されます。

ベースライン グループの作成および管理

ベースライン グループは、競合のない一群のベースラインで構成されます。ベースライン グループを使用すると、一度に複数のベースラインを基準にして、オブジェクトをスキャンし、修正できます。

次のベースラインを含むベースライン グループを基準にして、同一のフォルダまたはデータセンターを修正することで、複数の仮想マシンを組織的にアップグレードできます。

- ホストに適合するよう VMware Tools をアップグレード
- ホストと整合するように仮想マシン ハードウェアをアップグレード

単一のホスト アップグレード ベースラインと、複数のパッチ ベースラインまたは拡張機能ベースラインを含むベースライン グループを使用すると、ホストを組織的にアップグレードできます。

ベースライン グループを適用するオブジェクト タイプに応じて、2 種類のベースライン グループを作成できます。

- ホスト用のベースライン グループ
- 仮想マシン用のベースライン グループ

作成するベースライン グループは、Update Manager Client の管理ビューの [ベースラインおよびグループ] タブに表示されます。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインによって他の vCenter Server システムに接続されていて、Update Manager インスタンスが複数ある場合、作成したベースライン グループは、グループ内の他の vCenter Server システムによって管理されているインベントリ オブジェクトにはいずれにも適用されません。ベースライン グループは、選択した Update Manager インスタンス専用です。

ホスト ベースライン グループの作成

複数の異なる種類のベースラインをベースライン グループに組み合わせることができます。たとえば、1つのホスト アップグレード ベースラインを複数のパッチ ベースラインや拡張機能ベースラインと組み合わせたり、複数のパッチ ベースラインと拡張機能ベースラインを組み合わせることができます。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.ベースラインの管理。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
Update Manager のホームが表示されます。
- 3 [ベースライン] をクリックします。
- 4 [新規] をクリックし、[新規ベースライン グループ] を選択します。
[ベースライン グループの作成] ウィザードが開きます。
- 5 [名前と説明] ページで、ベースライン グループの一意の名前と必要に応じて説明を入力し、[次へ] をクリックします。
- 6 (オプション) ベースライン グループに含めるホスト アップグレード ベースラインを1つ選択して、[次へ] をクリックします。
- 7 (オプション) ベースライン グループに含めるパッチ ベースラインを選択して、[次へ] をクリックします。
- 8 (オプション) ベースライン グループに含める拡張機能ベースラインを選択して、[次へ] をクリックします。
- 9 [概要] ページで選択内容を確認し、[完了] をクリックします。

結果

新しいホスト ベースライン グループが [ベースライン] タブのベースライン リストに表示されます。ベースライン グループをデータセンター、クラスタ、またはホストに添付できます。

次のステップ

ベースライン グループをデータセンター、クラスタ、またはホストに添付します。

vSphere Web Client でのホスト ベースライン グループの作成

ベースライン グループには、1つのホスト アップグレード ベースラインと複数のパッチ ベースラインまたは拡張機能ベースラインを組み合わせるか、複数のパッチ ベースラインおよび拡張機能ベースラインを組み合わせることができます。

注： [新規ベースライン グループ] ウィザードの [終了] をクリックしてベースライン グループを保存し、後の手順でベースラインを追加できます。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 3 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 4 [管理] タブをクリックします。
- 5 [ホスト ベースライン] タブで、ベースライン グループ ペインの上にある [新規ベースライン グループ] をクリックします。
- 6 ベースライン グループの一意の名前を入力し、[次へ] をクリックします。
- 7 ベースライン グループに含めるホスト アップグレード ベースラインを1つ選択します。
- 8 (オプション) アップグレード ページの一番下にある [新規ホスト アップグレード ベースラインの作成] をクリックして新しいホスト アップグレード ベースラインを作成し、[新規ベースライン] ウィザードを完了します。
- 9 [次へ] をクリックします。
- 10 ベースライン グループに含めるパッチ ベースラインを選択します。
- 11 (オプション) パッチ ページの一番下にある [新規ホスト パッチ ベースラインの作成] をクリックして新しいパッチ ベースラインを作成し、[新規ベースライン] ウィザードを完了します。
- 12 [次へ] をクリックします。
- 13 ベースライン グループに含める拡張機能ベースラインを選択します。
- 14 (オプション) [パッチ] ページの下部にある [拡張機能ベースラインの新規作成] をクリックして新しい拡張機能ベースラインを作成し、[新規ベースライン] ウィザードを完了します。
- 15 [設定の確認] ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

結果

ホスト ベースライン グループがベースライン グループ ペインに表示されます。

vSphere Web Client での仮想マシン ベースライン グループの作成

仮想マシンの複数のアップグレード ベースラインとベースライン グループを組み合わせることができます。

注： [新規ベースライン グループ] ウィザードの [終了] をクリックしてベースライン グループを保存し、後の手順でベースラインを追加できます。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 3 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 4 [管理] タブをクリックします。
- 5 [ベースライン] タブで、[ベースライン定義グループの新規作成] をクリックします。
- 6 ベースライン グループの名前を入力し、[次へ] をクリックします。
- 7 アップグレードのタイプ（仮想ハードウェアおよび VMware Tools）ごとに、ベースライン グループに含める使用可能なアップグレード ベースラインを1つ選択します。
- 8 [次へ] をクリックします。
- 9 [設定の確認] ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

結果

新しいベースライン グループがベースライン グループ ペインに表示されます。

ベースライン グループの編集

既存のベースライン グループの名前とタイプを変更できます。アップグレード ベースライン、拡張機能ベースライン、およびパッチ ベースラインを追加または削除することができます。

前提条件

- 必須権限：VMware vSphere Update Manager.ベースラインの管理。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
Update Manager のホームが表示されます。
- 3 [ベースライン] をクリックします。

- 4 ベースライン グループをリストから選択し、[編集] をクリックします。
[ベースライン グループの編集] ウィザードが開きます。
- 5 (オプション) [名前と説明] ページで名前を編集し、必要に応じてベースライン グループの説明を入力します。
- 6 (オプション) ベースライン グループに含めるホスト アップグレード ベースラインを1つ選択して、[次へ] をクリックします。
- 7 (オプション) 含まれているパッチ ベースラインを変更し、[次へ] をクリックします。
- 8 (オプション) 含まれている拡張機能ベースラインを変更し、[次へ] をクリックします。
- 9 [概要] ページで選択内容を確認し、[完了] をクリックします。

次のステップ

ベースライン グループをデータセンター、クラスタ、またはホストに添付します。

vSphere Web Client でのベースライン グループの編集

既存のベースライン グループの名前とタイプを変更できます。ベースライン グループに含まれるアップグレードおよびパッチ ベースラインを追加または削除して、ベースライン グループを編集することもできます。

vSphere Web Client で、Update Manager の管理ビューからベースライン グループを編集します。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.ベースラインの管理.ベースラインの管理。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 3 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 4 [管理] タブをクリックします。
- 5 [仮想マシン ベースライン] をクリックします。
- 6 既存のベースラインを選択し、[既存のベースライン定義の編集] をクリックします。
- 7 ベースライン グループの名前を編集します。
- 8 (オプション) 含まれているアップグレード ベースラインを変更します (該当する場合)。
- 9 (オプション) 含まれているパッチ ベースラインを変更します (該当する場合)。
- 10 (オプション) 含まれている拡張機能ベースラインを変更します (該当する場合)。
- 11 [設定の確認] ページの内容を確認して、[OK] をクリックします。

ベースライン グループへのベースラインの追加

既存のベースライン グループにパッチ、拡張機能、またはアップグレード ベースラインを追加できます。

vSphere Web Client では、Update Manager の管理ビューからベースライン グループにベースラインを追加できます。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.ベースラインの管理.ベースラインの管理。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 3 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 4 [管理] タブをクリックします。
- 5 [仮想マシン ベースライン] タブで既存のベースライン グループを選択し、[既存のベースライン グループ定義の編集] をクリックします。
- 6 アップグレード ページでベースライン グループを選択して展開し、含まれているベースラインを表示します。
- 7 リストからベースラインを選択または選択解除します。

結果

選択したベースライン グループにベースラインが追加されます。

ベースライン グループからのベースラインの削除

既存のベースライン グループからベースラインを個別に削除できます。

vSphere Web Client では、Update Manager の管理ビューからベースライン グループのコンテンツを編集できます。

前提条件

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 3 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。

- 4 [管理] タブをクリックします。
- 5 [仮想マシン ベースライン] タブで、既存のベースライン グループを選択して展開し、含まれているベースラインを表示します。
- 6 右側にあるベースライン グループ ペインからベースラインを選択して、左矢印をクリックします。

結果

選択したベースライン グループからベースラインが削除されます。

vSphere Web Client でのベースライン グループの削除

不要になったベースライン グループは Update Manager から削除できます。ベースライン グループを削除すると、そのベースライン グループは、グループ添付先のすべてのオブジェクトから分離されます。

vSphere Web Client で、Update Manager の管理ビューからベースライン グループを削除できます。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。
- 3 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。
また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。
- 4 [管理] タブをクリックします。
- 5 [仮想マシン ベースライン] タブで既存のベースライン グループを選択し、[削除] をクリックします。
- 6 確認ダイアログ ボックスで [はい] をクリックします。

結果

ベースライン グループが削除されます。

オブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付

コンプライアンス情報を表示し、ベースラインおよびベースライン グループを基準としてインベントリ内のオブジェクトをスキャンするには、最初にそれぞれのベースラインおよびベースライン グループをオブジェクトに添付する必要があります。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.ベースラインの管理.ベースラインの添付。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [ホストおよびクラスタ] の順に移動します。

- 3 インベントリからホストまたはクラスタを選択し、[[更新]] タブをクリックします。
- 4 [ホストの更新] を選択します。
- 5 [添付] - [ベースラインまたはベースライン グループの添付] の順にクリックします。
- 6 [添付] ダイアログ ボックスで、オブジェクトに添付する1つ以上のベースラインまたはベースライン グループを選択します。

ベースライン グループを選択すると、グループ内のすべてのベースラインが選択されます。グループ内のベースラインを個別に選択解除することはできません。

- 7 [添付] をクリックし、選択内容を確認します。

ベースラインが、[添付されたベースライン] リストに表示されます。

次のステップ

添付されたベースラインを基準として選択したオブジェクトをスキャンします。

vSphere Web Client のオブジェクトへのベースラインおよびベースライン グループの添付

コンプライアンス情報を表示し、ベースラインおよびベースライン グループを基準としてインベントリ内のオブジェクトをスキャンするには、最初に既存のベースラインおよびベースライン グループをそれらのオブジェクトに添付する必要があります。オブジェクトにはベースラインおよびベースライン グループを添付できます。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.ベースラインの管理.ベースラインの添付。

手順

- 1 vSphere Web Client オブジェクト ナビゲータでオブジェクトのタイプを選択します。

たとえば、[ホストとクラスタ] または [仮想マシンとテンプレート] を選択し、オブジェクトまたはコンテナ オブジェクトを選択します。
- 2 [Update Manager] タブを選択します。
- 3 [ベースラインまたはベースライン グループの添付] ウィンドウで、オブジェクトに添付する1つ以上のベースラインまたはベースライン グループを選択します。

1つ以上のベースライン グループを選択すると、グループ内のすべてのベースラインが選択されます。グループ内のベースラインを個別に選択解除することはできません。
- 4 (オプション) 既存のベースラインおよびベースライン グループがタスクと一致しない場合は、新規にベースラインまたはベースライン グループを作成し、各ウィザードで残りの手順を完了します。

[ベースラインまたはグループの添付] ウィンドウが [処理中の作業] ペインに折りたたまれ、[新規ベースライングループ] または [新規ベースライン グループ] ウィンドウが開きます。ベースラインまたはベースライン グループの作成手順が完了すると、[ベースラインまたはグループの添付] ウィンドウが再度開きます。
- 5 [OK] をクリックします。

次のステップ

添付されたベースラインを基準として選択したオブジェクトをスキャンします。

オブジェクトからのベースラインおよびベースライン グループの分離

オブジェクトからベースラインおよびベースライン グループを分離できます。vSphere インベントリ オブジェクトがプロパティを継承している場合、ベースラインまたはベースライン グループが接続されているオブジェクトを直接選択するのではなく、そのコンテナ オブジェクトを選択する必要があります。たとえば、ベースラインまたはベースライン グループをクラスタの一部であるホストから切断する場合は、ホストではなくクラスタを選択する必要があります。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager. ベースラインの管理. ベースラインの添付。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [ホストおよびクラスタ] の順に移動します。
- 3 インベントリからホストまたはクラスタを選択し、[[更新]] タブをクリックします。
- 4 [ホストの更新] を選択します。
- 5 ベースラインを選択し、[分離] をクリックします。
- 6 [分離] ダイアログ ボックスで、ベースラインまたはベースライン グループの分離元とするエンティティを選択します。
- 7 [分離] をクリックし、選択内容を確認します。

ベースラインが、[添付されたベースライン] リストから削除されます。

vSphere Web Client でのオブジェクトからのベースラインおよびベースライン グループの分離

ベースラインまたはベースライン グループが直接接続されているオブジェクトから、そのベースラインおよびベースライン グループを分離できます。vSphere オブジェクトはプロパティを継承できるため、ベースラインまたはベースライン グループが接続されているコンテナ オブジェクトを選択してから、そのベースラインまたはベースライン グループを分離することが必要になる場合があります。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager. ベースラインの管理. ベースラインの添付。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。

- 2 vSphere Web Client ナビゲータで、[ホストとクラスタ] または [仮想マシンとテンプレート] を選択します。
- 3 インベントリ内のオブジェクトを選択し、[Update Manager] を選択します。
- 4 オブジェクトに接続されているベースラインまたはベースライン グループを削除します。
 - a ベースラインを削除するには、ベースラインを選択し、[接続されたベースライン] ペインの左上にある [分離] をクリックします。
 - b ベースライン グループを削除するには、[接続されたベースライン グループ] ドロップダウン メニューからベースライン グループを選択し、[接続されたベースライン グループ] ドロップダウン メニューの右上にある [分離] をクリックします。

グループから個々のベースラインを分離することはできません。分離できるのはベースライン グループ全体のみです。
- 5 [ベースライン グループの分離] ダイアログ ボックスで、ベースラインまたはベースライン グループの分離元とするエンティティを選択します。
- 6 [OK] をクリックします。

結果

分離したベースラインまたはベースライン グループは、[接続されたベースライン] ペインや [接続されたベースライン グループ] ドロップダウン メニューに表示されなくなります。

ベースラインおよびベースライン グループの削除

不要になったベースラインおよびベースライン グループを削除できます。ベースラインを削除すると、ベースラインの接続先のすべてのオブジェクトから分離されます。事前定義済みのベースラインとシステム管理のベースラインは削除できません。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.ベースラインの管理。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。

Update Manager のホームが表示されます。
- 3 [ベースライン] をクリックします。
- 4 ベースラインまたはベースライン グループをリストから選択し、[削除] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックし、削除することを確認します。

ベースラインおよびベースライン グループの複製

ベースラインおよびベースライン グループを複製してコピーを編集すれば、元のベースラインを損なう危険がありません。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.ベースラインの管理。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [Update Manager] の順に移動します。
Update Manager のホームが表示されます。
- 3 [ベースライン] をクリックします。
- 4 ベースラインをリストから選択し、[複製] をクリックします。
- 5 新しいベースライン名を入力します。
- 6 [複製] をクリックして確認します。

結果

複製されたベースラインが、[ベースラインおよびベースライン グループ] リストに表示されます。

vSphere オブジェクトのスキャンおよびスキャン結果の表示

9

スキャンは、一連のホストおよび仮想マシンの属性を、添付されているベースラインおよびベースライン グループ内のパッチ、拡張機能、およびアップグレードを基準に評価する処理です。

仮想マシンおよび ESXi ホストのスキャンを手動で開始するか、スキャンをスケジュール設定するように Update Manager を構成して、コンプライアンス情報を生成できます。コンプライアンス情報を生成してスキャン結果を表示するには、スキャンするオブジェクトにベースラインおよびベースライン グループを添付する必要があります。

スキャンを開始またはスケジュール設定するには、適用可能なパッチ、拡張機能、およびアップグレードのスキャン権限が必要です。ユーザー、グループ、ロール、権限の詳細については、『vCenter Server and Host Management』を参照してください。Update Manager の権限およびその説明のリストについては、[Update Manager の権限](#)を参照してください。

Update Manager Client のコンプライアンス ビューから、vSphere オブジェクトをスキャンできます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [手動による ESXi ホストのスキャンの開始](#)
- [手動による仮想マシンのスキャンの開始](#)
- [コンテナ オブジェクトのスキャンを手動で開始](#)
- [スキャンのスケジュール設定](#)
- [vSphere オブジェクトのスキャン結果とコンプライアンス状態の参照](#)

手動による ESXi ホストのスキャンの開始

修正前に、vSphere オブジェクトで、添付されたベースラインおよびベースライン グループのスキャンを実行する必要があります。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 [ホーム] - [ホストおよびクラスタ] の順に選択します。
- 3 ホストを選択します。
- 4 [Update Manager] タブを選択します。

- 5 [スキャンで更新を検索] をクリックします。

[スキャンで更新を検索] ダイアログ ボックスが開きます。

- 6 スキャンで検索する更新の種類を選択します。

スキャンで検索できるのは、[パッチと拡張機能] および [アップグレード] です。

- 7 [OK] をクリックします。

結果

選択されたホスト、つまりコンテナ オブジェクトがスキャンされ、添付されたベースラインのすべてのパッチ、拡張機能、およびアップグレードが検索されます。

次のステップ

vSphere Web Client 内の Update Manager により、スキャンしたインベントリ オブジェクトをステージングして修正します。

手動による仮想マシンのスキャンの開始

vSphere インベントリ内の仮想マシンは、添付されているベースラインやベースライン グループと突き合わせてスキャンすることができます。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。

- 2 インベントリ オブジェクト ナビゲータで、仮想マシンを選択し、[Update Manager] タブをクリックします。

- 3 [スキャンで更新を検索] をクリックします。

[スキャンで更新を検索] ウィザードが開きます。

- 4 スキャンで検索する更新の種類を選択します。

[VMware Tools のアップグレード] と [仮想マシンのハードウェアのアップグレード] をスキャンで検索することができます。

- 5 [OK] をクリックします。

結果

仮想マシンは、選択したオプションに応じて、添付されているベースラインを基準にスキャンされます。

次のステップ

vSphere Web Client 内の Update Manager により、スキャンしたインベントリ オブジェクトをステージングして修正します。

コンテナ オブジェクトのスキャンを手動で開始

データセンターまたはデータセンター フォルダであるコンテナ オブジェクトをスキャンすることで、ホストおよび仮想マシンの同時スキャンを開始します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 インベントリ オブジェクト ナビゲータで、vCenter Server インスタンス、データセンター、クラスタ、または仮想マシン フォルダを右クリックし、[Update Manager] - [スキャンで更新を検索] の順に選択します。
スキャン ウィザードが開きます。
- 3 スキャン操作を実行するアップデートのタイプを選択します。
 - コンテナ オブジェクト内の ESXi ホストの場合は、[バッチおよび拡張機能] および [アップグレード] のスキャンが可能です。
 - データセンター内の仮想マシンの場合は、[VMware Tools のアップグレード] および [仮想マシンのハードウェアのアップグレード] のスキャンが可能です。
- 4 [OK] をクリックします。

結果

選択したインベントリ オブジェクトとすべての子オブジェクトは、選択したオプションに応じて、添付されたベースラインを基準にスキャンされます。仮想インフラストラクチャの規模が大きく、スキャンを開始したオブジェクトがオブジェクト階層の上位にあるほど、スキャンにかかる時間は長くなります。

次のステップ

vSphere Web Client 内の Update Manager により、スキャンしたインベントリ オブジェクトをステージングして修正します。

スキャンのスケジュール設定

vSphere Web Client を構成して、特定の時刻に、または必要に応じた間隔で、仮想マシンおよび ESXi ホストのスキャンを実行できます。

手順

- 1 Update Manager が登録されている vCenter Server システムに vSphere Web Client を接続し、インベントリからオブジェクトを選択します。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続している場合、ナビゲーション バーで該当する vCenter Server システムの名前を選択して、スキャン タスクのスケジュール設定に使用する Update Manager インスタンスを指定します。
- 2 インベントリ ツリーで、スキャンするインベントリ オブジェクトを選択します。

選択したオブジェクトの子オブジェクトもすべてスキャンされます。

- 3 [監視] タブを選択して、[タスクおよびイベント] をクリックします。
- 4 [スケジュール設定タスク] を選択し、[新規タスクのスケジュール] をクリックします。
- 5 表示されるドロップダウン リストから [スキャンで更新を検索] を選択します。
[スキャンで更新を検索] ウィザードが開きます。
- 6 [設定の編集] ページで、インベントリ オブジェクトをスキャンする更新のタイプを選択します。
少なくとも1つのスキャン タイプを選択する必要があります。
- 7 [スケジュール オプション] ページで、スキャン タスクを記述し、スケジュールを設定します。
 - a スキャン タスクに一意の名前と説明（説明はオプション）を入力します。
 - b [変更] をクリックして、スキャン タスクの頻度と開始時刻を設定します。
 - c （オプション） スキャン タスクの完了後に通知を受け取る1つまたは複数のメール アドレスを指定します。
このオプションを有効にするには、vCenter Server システムのメール設定を行う必要があります。
- 8 [OK] をクリックします。

結果

スキャン タスクが vSphere Web Client の[スケジュール設定タスク] ビューに一覧表示されます。

vSphere オブジェクトのスキャン結果とコンプライアンス状態の参照

Update Manager は、オブジェクトをスキャンして、添付されているベースラインやベースライン グループに対するコンプライアンス状態を判定します。単一の仮想マシン、テンプレート、または ESXi ホストと、仮想マシンまたはホストのグループについて結果を調べることによって、コンプライアンス状態を確認できます。

仮想マシンまたは ESXi ホストのサポートされているグループには、フォルダ、vApp、クラスタ、データセンターなど、仮想インフラストラクチャのコンテナ オブジェクトが含まれます。

ベースラインおよびベースライン グループは、仮想マシン、テンプレート、およびホストと次のように関係します。

- オブジェクトには、コンプライアンス情報の検査対象となるベースラインまたはベースライン グループが添付されている必要があります。
- ベースラインおよびベースライン グループに対するコンプライアンスは参照時に評価されます。そのため、最新の情報を収集するために、情報の収集中に短時間の休止が起きることがあります。
- コンプライアンス状態は、権限に基づいて表示されます。あるコンテナの参照権限はあるが、コンテナのコンテンツすべてに対する参照権限がないユーザーの場合、そのコンテナにあるすべてのオブジェクトのコンプライアンス情報を集約したものが表示されます。オブジェクト、オブジェクトのコンテンツ、または特定の仮想マシンに対する参照権限がユーザーにない場合、これらのスキャン結果は表示されません。コンプライアンス状態を参照するには、インベントリ内のオブジェクトに対してコンプライアンス状態を表示する権限も必要です。特定のインベントリ オブジェクトに対して、パッチ、拡張機能、およびアップグレードを基準に修正する権限と、パツ

ちおよび拡張機能をステージングする権限を所有しているユーザーは、コンプライアンス状態を表示する権限がなくても、そのオブジェクトのコンプライアンス状態を参照できます。Update Manager の権限の詳細については、[Update Manager の権限](#)を参照してください。ユーザー、グループ、ロール、権限の詳細については、『vCenter Server and Host Management』を参照してください。

vSphere インフラストラクチャの階層では、コンテナ オブジェクトに添付されたベースラインおよびベースライン グループが子オブジェクトにも添付されます。このため、算出されたコンプライアンス状態も継承されます。たとえば、フォルダに添付されたベースラインまたはベースライン グループは、そのフォルダ（サブフォルダも含む）内のすべてのオブジェクトに継承されますが、継承されたベースラインまたはベースライン グループの状態は、含まれているオブジェクトからフォルダへと伝達されます。オブジェクト A とオブジェクト B が含まれているフォルダにベースライン（ベースライン 1）を添付した場合、A と B の両方がベースライン 1 を継承します。ここで、ベースラインの状態がオブジェクト A については非準拠で、オブジェクト B については準拠の場合、このフォルダに対するベースライン 1 全体としての状態は、非準拠になります。さらに、別のベースライン（ベースライン 2）を B に添付し、ベースライン 2 が B に対して非準拠であると、このフォルダの全体的な状態は非準拠になります。

注： パッチのリコール通知のダウンロード後、Update Manager でリコール対象のパッチにフラグが設定されますが、それらのパッチのコンプライアンス状態は、自動的に更新されません。リコールの影響を受けたパッチの最新のコンプライアンス状態を表示するには、スキャンを実行する必要があります。

vSphere インベントリ オブジェクトのコンプライアンスの確認

Update Manager は、添付されたベースラインに対して vSphere インベントリでコンプライアンス チェックを定期的に行いますが、コンプライアンス チェックは手動でも開始できます。

前提条件

- VMware vSphere Update Manager.パッチおよびアップグレードの管理.コンプライアンス状態の表示

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 インベントリから、オブジェクトまたはコンテナ オブジェクトを選択します。
- 3 インベントリから、ホストまたはコンテナ オブジェクトを選択します。
- 4 [更新] タブを選択します。

Update Manager のコンプライアンス ビューに移動します。

- 5 [コンプライアンスの確認] をクリックします。

Update Manager が、選択したホストに対し、添付されたベースラインおよびベースライン グループと比較してコンプライアンス チェックを前回実行した際の情報を確認できます。

Update Manager は、添付されたベースラインまたはベースライン グループを基準にしてホストまたはクラスターが準拠しているかどうかを検証します。

結果

更新情報を確認します。単一ホストの情報を表示している場合、Update Manager には次の情報が表示されます。

- ホストに添付されている非準拠ベースラインの数。

- ホストにない可能性のあるパッチの数。
- ホストにない可能性のある重要度の高いパッチの数。

コンテナ オブジェクトの情報を表示している場合、Update Manager には次の情報が表示されます。

- 注意が必要なホストに関する情報。
- 非標準ソフトウェアがインストールされているホストの数。

詳細については、[添付されたベースラインおよびベースライン グループ] リストで、ベースラインまたはベースライン グループのコンプライアンス情報を個別に確認します。

次のステップ

オブジェクトの修正の事前チェックを実行します。

vSphere Web Client での vSphere オブジェクトのコンプライアンス情報の表示

添付したベースラインおよびベースライン グループを基準にした仮想マシンおよびホストのコンプライアンス情報を確認できます。

コンテナ オブジェクトを選択すると、添付されているベースラインの全体のコンプライアンスの状態と、個々のコンプライアンスの状態をすべて確認できます。コンテナ オブジェクトに添付されているベースラインをそれぞれ選択すると、ベースラインのコンプライアンスの状態が表示されます。

仮想マシンまたはホストを選択すると、添付されているすべてのベースラインを基準とした選択済みオブジェクト全体のコンプライアンスの状態と、アップデートの数が表示されます。さらに、そのオブジェクトに添付されている各ベースラインを選択すると、そのベースラインのコンプライアンスの状態ごとにグループ化されたアップデートの数が表示されます。

手順

- 1 表示するコンプライアンス情報に応じて、次の手順を実行します。
 - a ホストのコンプライアンス情報を表示するには、[ホーム] - [ホストおよびクラスタ] を選択した後、ホスト、クラスタ、データセンター、または vCenter Server インスタンスを選択します。
 - b 仮想マシンのコンプライアンス情報を表示するには、[ホーム] - [仮想マシンおよびテンプレート] を選択した後、仮想マシンまたはフォルダを選択します。
- 2 [Update Manager] タブをクリックします。
- 3 添付されているベースラインのいずれかを選択すると、そのベースラインを基準に、オブジェクトのコンプライアンス情報が表示されます。

結果

コンプライアンス情報は、オブジェクトに添付されているベースラインの下の表に表示されます。

vSphere の各オブジェクトのコンプライアンスの表示

スキャンの結果として、添付されたベースラインおよびベースライン グループのコンプライアンスの度合いに関する情報が示されます。vSphere の各オブジェクトの情報、また、ベースラインまたはベースライン グループに含まれているパッチ、拡張機能、およびアップグレードの情報を参照できます。

スキャン結果に含まれる情報は次のとおりです。

- このレベルの前のスキャンが完了した日時。
- 非準拠更新、非互換更新、不明更新、準拠更新の合計数。
- ベースラインまたはベースライン グループごとの、適用可能、非準拠、非互換、不明、準拠の状態にある仮想マシンまたはホストの数。
- ベースラインまたはベースライン グループごとの、特定の仮想マシンまたはホストに適用可能なアップデート数。

手順

1 Update Manager が登録されている vCenter Server システムに vSphere Web Client を接続し、[ホーム] - [インベントリ] の順に選択します。

2 スキャン結果を表示するオブジェクトのタイプを選択します。

たとえば、[ホストおよびクラスタ] または [仮想マシンおよびテンプレート] を選択します。

3 インベントリから、仮想マシン、ホストなどのオブジェクトを個別に選択します。

4 [Update Manager] タブをクリックします。

5 ベースライン グループまたはベースラインを選択します。

[添付されたベースライン グループ] ペインの [すべてのグループおよび独立したベースライン]、および [添付されたベースライン] ペインの [すべて] を選択して、添付されているすべてのベースラインおよびベースライン グループの全体的なコンプライアンス状態を表示します。

6 [コンプライアンス] ペインで、[適用可能なすべて] コンプライアンス状態を選択し、選択したオブジェクト全体のコンプライアンス状態を表示します。

選択したオブジェクトと、パッチ、アップグレード、および拡張機能（選択したオブジェクトがホストの場合）の数が、[Update Manager] タブの下部のペインに表示されます。

7 Update Manager タブの下部のペインの数字リンクをクリックすると、更新に関する詳細が表示されます。

列	説明
パッチ	リンクは、選択したコンプライアンス状態のパッチの数を示し、[パッチの詳細] ウィンドウを開きます。
アップグレード	リンクは、選択したコンプライアンス状態のアップグレードの数を示し、[アップグレードの詳細] ウィンドウを開きます。
拡張機能	リンクは、選択したコンプライアンス状態の拡張機能の数を示し、[拡張機能の詳細] ウィンドウを開きます。

コンプライアンス状態の表示

添付したベースラインおよびベースライン グループに対して選択された vSphere インベントリ オブジェクトの準拠状態についての情報が、Update Manager Client の準拠ビューに表示されます。

4 つのペインに情報が表示されます。

表 9-1. Update Manager タブのペイン

ペイン	説明
添付されたベースライン グループ	選択されたオブジェクトに適用されているベースライン グループを表示します。[すべてのグループおよび独立したベースライン] を選択した場合、添付されたベースライン ペインに添付されているベースラインがすべて表示されます。個々のベースライン グループを選択した場合、添付されたベースライン ペインには、そのグループ内のベースラインのみ表示されます。
添付されたベースライン	選択されたオブジェクトに添付されているベースライン、および選択されたベースライン グループに含まれているベースラインを表示します。

表 9-1. Update Manager タブのペイン（続き）

ペイン	説明
コンプライアンス	<p>選択したインベントリ オブジェクト、ベースライン グループ、およびベースラインに応じて動的に変化するコンプライアンス グラフが含まれます。グラフは、選択されたベースラインに対して特定のコンプライアンス状態にある、選択されたコンテナ オブジェクト内の仮想マシンまたはホストの構成比を表しています。</p> <p>ホストまたは仮想マシンを個別に選択すると、グラフの色が一律になり、単一のコンプライアンスの状態を表します。</p> <p>グラフの上部に、次のコンプライアンス状態が表示されます。</p> <p>適用可能なすべて</p> <p>コンプライアンスを計算中のインベントリ オブジェクトの総数。この数は、選択したコンテナ インベントリ オブジェクト内のオブジェクト総数から、選択したベースラインが適用されないオブジェクト数を引いたものです。</p> <p>ベースラインが適用可能かどうかは、ベースラインが仮想マシンまたはホストに直接添付されているか、コンテナ オブジェクトに添付されているかによって異なります。適用の可否は、選択したオブジェクトに適用可能なパッチ、拡張機能、またはアップグレードが、ベースラインに含まれているかによっても異なります。</p> <p>非準拠</p> <p>選択されたベースラインおよびベースライン グループの 1 つ以上のパッチ、拡張機能、またはアップグレードに非準拠の、選択されたコンテナ オブジェクト内の仮想マシンまたはホストの数。</p> <p>互換性なし</p> <p>選択されたベースラインおよびベースライン グループを使用して修正できない、選択されたコンテナ オブジェクト内の仮想マシンまたはホストの数。互換性なしの状態には注意が必要です。また、調査して互換性のない理由を確認する必要があります。互換性なしの詳細については、パッチ、拡張機能、またはアップグレードの詳細を参照してください。</p> <p>不明</p> <p>選択されたベースラインおよびベースライン グループで、1 つ以上のパッチ、拡張機能、またはアップグレードを基準にスキャンされていない、選択されたコンテナ オブジェクト内の仮想マシンまたはホストの数。</p> <p>準拠</p> <p>選択したコンテナ オブジェクト内の準拠している仮想マシンまたはホストの数。</p>
下部のペイン	<p>このペインの情報は、個々のオブジェクトを選択したか、コンテナ オブジェクトを選択したかによって異なります。</p> <p>コンテナ オブジェクトを選択した場合は、[Update Manager] タブの下部のペインに、次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 添付されたベースライン グループ、添付されたベースライン、およびコンプライアンスの各ペインで選択した内容に一致する仮想マシンまたはホストのリスト。 ■ 選択したベースラインおよびベースライン グループに含まれているパッチ、拡張機能、またはアップグレードを基準にした、オブジェクト全体のコンプライアンス。 <p>個々のオブジェクト（たとえば、仮想マシンまたはホスト）を選択した場合は、[Update Manager] タブの下部のペインに、次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 選択したベースラインまたはベースライン グループに含まれているパッチ、拡張機能、またはアップグレードの数。

表 9-1. Update Manager タブのペイン（続き）

ペイン	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ■ ホストにステージングされたパッチまたは拡張機能の数。 ■ 選択したベースラインおよびベースライン グループに含まれているパッチ、拡張機能、またはアップグレードを基準にした、オブジェクト全体のコンプライアンス。

アップデートのコンプライアンス状態

Update Manager では、アップデートはすべてのパッチ、拡張機能、および Update Manager を使用して適用可能なアップグレードを表します。インベントリ内のオブジェクトに添付するベースラインおよびベースライン グループ内のアップデートのコンプライアンス状態は、ターゲット オブジェクトのスキャンの実行後に算出されます。

競合

アップデートが、ホストの既存のアップデートまたは Update Manager のパッチ リポジトリにある別のアップデートのいずれかと競合しています。Update Manager は、競合のタイプを報告します。競合は、ターゲット オブジェクトの問題を示すわけではありません。現在のベースラインを選択することで、競合が発生することのみを示します。ユーザーは、スキャン、修正、およびステージングを実行できます。ほとんどの場合、競合を解決するための操作を実行することが可能です。

競合する新規モジュール

ホストへのアップデートが、初めて提供されるソフトウェアの新しいモジュールですが、ホスト上の既存のアップデートまたは Update Manager リポジトリにある別のアップデートと競合しています。Update Manager は、競合のタイプを報告します。競合は、ターゲット オブジェクトの問題を示すわけではありません。現在のベースラインを選択することで、競合が発生することのみを示します。ユーザーは、スキャン、修正、およびステージングを実行できます。ほとんどの場合、競合を解決するための操作を実行する必要があります。

互換性のないハードウェア

選択したオブジェクトのハードウェアに互換性がないか、またはアップデートのサポートに十分なリソースがありません。たとえば、32 ビットのホストに対してアップグレード スキャンを実行している、またはホストに十分なメモリが搭載されていない場合などです。

インストール済み

インストール済みのコンプライアンス状態は、アップデートがターゲット オブジェクトにインストールされており、これ以降のユーザーの操作は必要ないことを示します。

なし

コンプライアンスなし状態は、アップデートがそのターゲット オブジェクトに適用可能であるが、まだインストールされていないことを示します。このアップデートを使用してターゲット オブジェクトを修正する必要があり、そうすることで、アップデートは準拠状態になります。

パッケージの不足

この状態は、アップデートのメタデータがデポにあるものの、対応するバイナリ ペイロードが存在しない場合に発生します。原因としては、特定のロケールのアップデートが製品に含まれていない、Update Manager のパッチ リポジトリが削除されたか破損している、Update Manager がインターネットにアクセスしてアップデー

トをダウンロードできない、または Update Manager リポジトリからアップグレード パッケージを手動で削除したことが考えられます。

新規モジュール

新規モジュール コンプライアンス状態は、アップデートが新規モジュールであることを示します。このコンプライアンス状態のアップデートがホスト パッチ ベースラインの一部である場合、アップデートをインストールできません。ホスト拡張機能ベースラインの一部である場合、新規モジュール状態は、モジュールがホスト上で見つからず、修正によってプロビジョニングされた可能性があることを示します。ベースラインのコンプライアンス状態は、新規モジュール状態のアップデートを含むベースラインのタイプによって異なります。ベースラインがホスト パッチ ベースラインである場合、ベースライン全体の状態は準拠になります。ベースラインがホスト拡張機能ベースラインである場合、ベースライン全体の状態は非準拠になります。

該当なし

該当なしのコンプライアンス状態は、パッチがそのターゲット オブジェクトに適用可能でないことを示します。パッチは次のいずれかの理由により、該当なしのコンプライアンス状態になることがあります。

- このパッチを古い状態にするその他のパッチが、Update Manager パッチ リポジトリ内にあります。
- アップデートがターゲット オブジェクトに適用されません。

インストール不能

アップデートをインストールできません。ターゲット オブジェクトに対するスキャン操作が成功しても、修正は実行できません。

ホストにサポートされない旧式

このコンプライアンス状態は、主にパッチに当てはまります。ターゲット オブジェクトに、より新しいバージョンのパッチがあります。たとえば、パッチに複数のバージョンがある場合、最新のバージョンをホストに適用したあとは、以前のバージョンのパッチはホストにサポートされない旧式のコンプライアンス状態になります。

ステージング済み

このコンプライアンス状態は、ホスト パッチとホスト拡張機能に当てはまります。アップデートは Update Manager リポジトリからホストにコピーされていますが、まだインストールされていないことを示します。ステージング済みのコンプライアンス状態は、ESXi 6.0 以降が実行されているホストをスキャンした場合にのみ発生する可能性があります。

不明

Update Manager でターゲット オブジェクトを正常にスキャンするまでは、パッチはそのオブジェクトに対して不明な状態になります。ターゲット オブジェクトがサポートされていないバージョンのターゲット オブジェクトである場合、Update Manager にメタデータがない場合、またはパッチ メタデータが破損している場合、スキャンに成功しないことがあります。

サポート対象外のアップグレード

アップグレードパスが正しくありません。たとえば、仮想マシンの現在のハードウェアバージョンが、ホストがサポートするバージョンより高い場合です。

ベースラインおよびベースライン グループのコンプライアンス状態

準拠状態は、インベントリ内のオブジェクトを添付されたベースラインまたはベースライン グループを基準にスキャンしたあとに算出されます。Update Manager は、添付されたベースラインまたはベースライン グループに含まれるパッチ、拡張機能、およびアップグレードが適用可能かどうかを基準にして、準拠状態を算出します。

準拠

準拠状態は、添付されたベースライン グループ内のすべてのベースラインと、添付されたベースライン内のすべてのパッチ、拡張機能、およびアップグレードに vSphere オブジェクトが準拠していることを示します。準拠状態にこれ以降の操作は必要ありません。ベースラインにターゲット オブジェクトと関連付けられていないパッチまたはアップグレード、個別のアップデート、およびそれらが含まれているベースラインまたはベースライン グループが含まれている場合、そのベースラインは適用対象でないと見なされ、準拠と示されます。またホストも、添付されたパッチ ベースライン（サポートされない旧式の状態の拡張機能またはパッチを含む）に準拠していることを示しています。

準拠状態は、次の条件下で発生します。

- ターゲット オブジェクトは、ベースラインまたはベースライン グループ内のすべての更新がターゲット オブジェクトにインストールされている、ホストにサポートされない旧式である、またはターゲット オブジェクトに適用可能でない、いずれかの場合に、ベースラインおよびベースライン グループに準拠します。
- ベースライン内のアップデートは、ターゲット オブジェクト上にインストールされている、またはオブジェクトに適用可能でない場合に準拠しています。

非準拠

非準拠状態は、ベースライン グループ内の1つ以上のベースライン、またはベースライン内の1つ以上のパッチ、拡張機能、またはアップグレードが対象オブジェクトに適用可能であるが、対象マシンにインストールされていない（見つからない）ことを意味します。準拠させるために、ターゲット オブジェクトを修正する必要があります。

ベースラインに非準拠のアップデートがある場合、ベースライン全体の状態が非準拠になります。ベースライン グループに非準拠のベースラインがある場合、そのベースライン グループ全体の状態が非準拠になります。非準拠状態は、互換性なし、不明、または準拠の各状態に優先します。

不明

ベースラインまたはベースライン グループを vSphere オブジェクトに添付し、オブジェクトをスキャンしない場合、ベースラインまたはベースライン グループに対する vSphere オブジェクトの状態は不明になります。この状態は、スキャン操作が必要である、スキャンに失敗した、またはサポートされていないプラットフォーム上でスキャンを開始した（ESX 3.5 ホスト上で実行されている仮想マシンで VMware Tools スキャンを実行したなど）ことを示します。

ベースラインに準拠状態と不明状態のアップデートが含まれている場合、ベースライン全体の状態は不明になります。ベースライン グループに不明なベースラインと準拠のベースラインが含まれている場合、ベースライン グループ全体の状態は不明になります。不明なコンプライアンス状態は、準拠状態に優先します。

互換性なし

互換性なし状態は、注意とその後の対応が必要です。さらに調査して互換性がない理由を判断する必要があります。この状態のオブジェクトは修正できますが、修正操作が成功する保証はありません。ほとんどの場合、Update Manager で互換性がないことに関する十分な詳細を確認できます。互換性なしのコンプライアンス状態の詳細については、[コンプライアンス状態が「互換性なし」になる](#)を参照してください。

ベースラインに互換性なし、準拠、および不明な状態のアップデートが含まれている場合、そのベースライン全体の状態は互換性なしになります。ベースライン グループに互換性なし、不明、および準拠のベースラインが含まれている場合、ベースライン グループ全体の状態は互換性なしになります。互換性なしのコンプライアンス状態は、準拠および不明なコンプライアンス状態に優先します。

パッチの詳細の表示

[パッチの詳細]ウィンドウには、選択された仮想マシンまたはホストに対して、パッチのコンプライアンス状態の順に表示されるパッチの表があります。

[パッチの詳細]ウィンドウの表の上部のコンプライアンスの概要には、適用可能なパッチ、不足しているパッチ（非準拠）、準拠しているパッチ、ステージングされたパッチなどの数が表示されます。互換性なしの状態のパッチがある場合は、コンプライアンスの概要には互換性のないパッチの詳細が表示されます。互換性がない原因としては、競合、更新パッケージの不足などがあります。

[パッチの詳細]ウィンドウでパッチをダブルクリックすると、そのパッチに関する詳細を参照できます。

表 9-2. パッチの詳細ウィンドウ

オプション	説明
パッチ名	アップデートの名前。
ベンダー	アップデートのベンダー。
コンプライアンス	パッチのコンプライアンス状態。状態には、なし（非準拠）、該当なし、不明、インストール済み（準拠）などがあります。
パッチ ID	ベンダーが割り当てた更新の ID コード。
重要度	アップデートの重要度。ホストの場合の重要度の状態には、最重要、全体的、セキュリティなどがあります。仮想マシンの場合の重要度には、最重要、重要、中程度などがあります。
カテゴリ	更新のカテゴリ。カテゴリには、セキュリティ、エンハンスメント、リコール、情報、その他などがあります。
影響	アップデートの適用で行う必要のある操作。この操作には、システムの再起動、またはホストのメンテナンスモードへの切り替えも含まれることがあります。
リリース日	更新のリリース日

エクステンションの詳細の表示

[エクステンションの詳細]ウィンドウには、選択されたホストとともに、コンプライアンス状態の順番でエクステンションの表が表示されます。

エクステンションに関する詳細な情報を取得するには、[エクステンションの詳細]ウィンドウでエクステンションをダブルクリックします。

表 9-3. エクステンションの詳細ウィンドウ

オプション	説明
バッチ名	アップデートの名前。
ベンダー	アップデートのベンダー。
コンプライアンス	バッチのコンプライアンス状態。状態には、なし（非準拠）、該当なし、不明、インストール済み（準拠）などがあります。
バッチ ID	ベンダーが割り当てた更新の ID コード。
重要度	アップデートの重要度。ホストの場合の重要度の状態には、最重要、全体的、セキュリティなどがあります。仮想マシンの場合の重要度には、最重要、重要、中程度などがあります。
カテゴリ	更新のカテゴリ。カテゴリには、セキュリティ、エンハンスメント、リコール、情報、その他などがあります。
影響	アップデートの適用で行う必要のある操作。この操作には、システムの再起動、またはホストのメンテナンスモードへの切り替えも含まれることがあります。
リリース日	更新のリリース日

アップグレードの詳細の表示

[アップグレードの詳細]ウィンドウには、選択した特定のアップグレードに関する情報が表示されます。

表 9-4. ホストのアップグレードの詳細ウィンドウ

オプション	説明
ベースラインの名前	アップグレード ベースラインの名前。
ベースラインのタイプ	ベースライン タイプは、ホストのアップグレードです。
ベースラインの説明	ベースラインの説明。ベースラインに説明がない場合は表示されません。
コンプライアンスの状態	アップグレードのコンプライアンス状態。選択したオブジェクトの状態とアップグレード ベースラインの比較を示します。
ESXi イメージ	ベースラインに含まれる ESXi イメージを表示します。
製品	アップグレードのリリース バージョンを表示します。
バージョン	アップグレード ベースラインのターゲット バージョン。

表 9-4. ホストのアップグレードの詳細ウィンドウ（続き）

オプション	説明
ベンダー	ESXi イメージを提供したベンダー。
許容レベル	<p>ESXi イメージおよび含まれるソフトウェア パッケージの許容レベル。ESXi イメージは、署名付きまたは署名なしのいずれかです。これは、VMware による許容レベルを示します。</p> <p>ESXi イメージに含まれるソフトウェア パッケージには、次の許容レベルがあります。</p> <p>保証された VMware</p> <p>このパッケージは、機能を検証する厳密な認定プログラムを経ており、プライベート キー付きで VMware によって署名されています。VMware は、これらのパッケージ用にカスタム サポートを提供しています。</p> <p>承認された VMware</p> <p>このパッケージは、パッケージがシステムの安全性を損なわないことだけを検証する、厳密性の低い承認のテスト プログラムを経ており、プライベート キー付きで VMware によって署名されています。このテストの手法では、機能の適切な動作は検証されていません。VMware サポートは、パートナーに直接サポート コールを提供します。</p> <p>サポートされているパートナー</p> <p>パートナーは、VMware との契約にサインし、サウンド テスト手法のデモンストレーションを行いました。VMware は、パッケージの自己署名に使用する署名済みプライベート キーおよびパブリック キーのペアを、パートナーに提供します。VMware サポートは、パートナーに直接サポート コールを提供します。</p> <p>サポートされているコミュニティ</p> <p>パッケージは、署名されていないか、VMware によってクロス署名されていないキーによって署名されています。VMware は、このパッケージへのサポートを提供しません。サポートを受けるには、コミュニティを利用するか、パッケージの作成者に連絡する必要があります。</p>

表 9-5. VMware Tools および仮想マシン ハードウェアのアップグレードの詳細ウィンドウ

オプション	説明
ベースラインの名前	アップグレード ベースラインの名前。
ベースラインのタイプ	ベースラインのタイプ。値は VMware Tools アップグレードまたは仮想マシン ハードウェア アップグレードです。
ベースラインの説明	ベースラインの説明。
コンプライアンスの状態	アップグレードのコンプライアンス状態。選択したオブジェクトの状態とアップグレード ベースラインの比較を示します。
VMware Tools のステータス	マシンの VMware Tools のステータス。
現行のハードウェア バージョン	仮想マシンのハードウェア バージョン。
ターゲット ハードウェアのバージョン	仮想マシンのターゲット ハードウェア バージョン。

Update Manager でのホストのアップグレード スキャン メッセージ

アップグレード ベースラインを基準にして ESXi ホストをスキャンする際には、Update Manager で事前チェック スクリプトが実行され、各ホストの [アップグレードの詳細] ウィンドウに情報メッセージが表示されます。これらのメッセージでは、ESXi6.7 へのアップグレードを妨げる可能性がある、ハードウェアやホスト上のサードパーティ製ソフトウェアの潜在的な問題と、構成上の問題が通知されます。

Update Manager で提供されるメッセージは、ホスト アップグレードの事前チェック スクリプトを実行した結果のエラー コードまたは警告コードに対応しています。

ESXi インストーラを使用して実行する対話型のインストールとアップグレードの場合は、事前チェック スクリプトで判明したエラーまたは警告が、インストーラの最後のパネルに表示されます。このパネルで、インストールまたはアップグレードの操作を取り消すかどうかを指定する必要があります。スクリプトを使用したインストールとアップグレードの場合は、エラーや警告がインストール ログに書き込まれます。

Update Manager では、スキャン結果のメッセージが、事前チェック スクリプトで確認されたエラーや警告を表示する [アップグレードの詳細] ウィンドウに表示されます。Update Manager によるホストのアップグレード スキャン操作中に事前チェック スクリプトで返された元のエラーおよび警告は、Update Manager のログ ファイル (C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\VMware\VMware Update Manager\Logs\vmware-vum-server-log4cpp.log) で参照できます。

表 9-6. スキャン結果メッセージおよび対応するエラー コードと警告コード

Update Manager のスキャン結果メッセージ	説明
ホスト CPU はサポートされていません。新しい ESXi バージョンには、LAHF/SAHF 命令を long モードでサポートしている 64 ビットの CPU が必要です。	このメッセージは、ホストのプロセッサが 32 ビットで、要求された機能をサポートしていない場合に表示されます。 対応するエラー コードは 64BIT_LONGMODESTATUS です。
ホストではトラステッド ブートが有効ですが、アップグレードにはソフトウェア パッケージ esx-tboot が含まれていません。ホストをアップグレードすると、トラステッド ブート機能が削除されます。	このメッセージは、ホストのアップグレード スキャンで esx-tboot VIB がアップグレード ISO に見つからなかったことを示します。 対応するエラー コードは TBOOT_REQUIRED です。
VMkernel とサービス コンソールのネットワーク インターフェイスは同じサブネット subnet_name を共有しています。アップグレード後、この構成はサポートされなくなります。1 つのインターフェイスのみがサブネット subnet_name に接続できます。	警告。有効なサービス コンソールの仮想 NIC に IPv4 アドレスが見つかりましたが、対応するアドレスが vmkernel の同じサブネット内にありません。警告は、そのような問題が検出されるたびに表示されます。 対応するエラー コードは COS_NETWORKING です。
新しい ESXi のバージョンでは、最低限 core_count プロセッサ コアが必要です。	ホストには少なくとも 2 つのコアが必要です。 対応するエラー コードは CPU_CORES です。
プロセッサがハードウェアの仮想化をサポートしていないか、BIOS で無効になっています。仮想マシンのパフォーマンスが低下するおそれがあります。	ホストのプロセッサがハードウェアの仮想化をサポートしていないか、ハードウェアの仮想化がホストの BIOS で無効になっていると、ホストのパフォーマンスが低下することがあります。ホストマシンの起動オプションで、ハードウェアの仮想化を有効にします。ハードウェア ベンダーのマニュアルを参照してください。 対応するエラー コードは HARDWARE_VIRTUALIZATION です。
メモリ不足です。アップグレードには size_in_MB MB 以上が必要です。	ホストをアップグレードするには、指定された量のメモリが必要です。 対応するエラー コードは MEMORY_SIZE です。
file_name に関するホスト アップグレードの妥当性検査が失敗しました。	このテストでは、事前チェック スクリプト自体を実行できるかどうかをチェックします。 対応するエラー コードは PRECHECK_INITIALIZE です。

表 9-6. スキャン結果メッセージおよび対応するエラーコードと警告コード（続き）

Update Manager のスキャン結果メッセージ	説明
ホストのパーティション レイアウトがアップグレードに適していません。	アップグレードは、アップグレード対象のディスクに最大で1つの VMFS パーティションがあり、その VMFS パーティションがセクタ 1843200 の後から開始する場合にのみ可能です。 対応するエラーコードは PARTITION_LAYOUT です。
サポートされていない構成です。	ファイル /etc/vmware/esx.conf がホスト上に存在する必要があります。 このメッセージは、/etc/vmware/esx.conf ファイルが見つからない、またはファイルのデータが取得できないか正しく読み取れないことを示します。 対応するエラーコードは SANE_ESX_CONF です。
ホストのローカル VMFS データストアに、現在のホスト構成をバックアップするための十分な空き容量がありません。size_in_MB MB 以上が必要です。	ホスト ディスクには、再起動の間 ESXi 5.x の構成を格納するのに十分な空き容量が必要です。 対応するエラーコードは SPACE_AVAIL_CONFIG です。
アップグレードは、現在のバージョンのホストに対してサポートされていません。	ESXi 6.7 へのアップグレードは、ESXi 6.0 および ESXi6.5 のホストからの場合に限り可能です。 対応するエラーコードは SUPPORTED_ESX_VERSION です。
サポートされていないデバイス device_name がホストで見つかりました。	スクリプトはサポートされていないデバイスをチェックします。一部の PCI デバイスは、ESXi6.7 ではサポートされません。 対応するエラーコードは UNSUPPORTED_DEVICES です。
ホストのソフトウェア構成には再起動が必要です。ホストを再起動してから、アップグレードをやり直してください。	起動バンクの容量を十分に確保してアップグレードを行うには、ホストを再起動してから修正を行う必要があります。 対応するエラーコードは UPDATE_PENDING です。
Cisco Nexus 1000V 分散仮想スイッチを使用する環境の場合は、Update Manager で表示されるメッセージとその状況が異なります。詳細については、Cisco Nexus 1000V が存在する場合の、ホストのアップグレード スキャン メッセージを参照してください。	Cisco の Virtual Ethernet Module (VEM) ソフトウェアがホスト上に見つかった場合は、事前チェック スクリプトで、このソフトウェアもアップグレード対象に含まれるかどうかチェックされます。また、その VEM がホスト上に存在するバージョンと同じバージョンの Virtual Supervisor Module (VSM) をサポートしているのかもチェックされます。このソフトウェアがない場合、またはホスト上に存在するバージョンの VSM と互換性がない場合、スクリプトでは警告が返されます。また、スキャン結果には、アップグレード ISO で検出されるべき VEM ソフトウェアのバージョンと、ISO で実際に見つかったバージョン（見つかった場合）が表示されます。 対応するエラーコードは DISTRIBUTED_VIRTUAL_SWITCH です。
ホストが EMC PowerPath マルチパス モジュール file_name を使用してストレージにアクセスしています。アップグレードすると、ホストはこのようなストレージにアクセスできなくなります。	スクリプトは、CIM モジュールとカーネル モジュールで構成される EMC PowerPath ソフトウェアがインストールされているかどうかをチェックします。これらのコンポーネントのいずれかがホスト上に見つかった場合、スクリプトは、対応するコンポーネント (CIM、VMkernel モジュール) がアップグレードにも存在するかどうかを確認します。存在しない場合、スクリプトは警告を返して、どの PowerPath コンポーネントがアップグレード ISO 上に必要であり、どのコンポーネントが実際に見つかったか（見つかった場合）を示します。 対応するエラーコードは POWERPATH です。

Cisco Nexus 1000V が存在する場合の、ホストのアップグレード スキャン メッセージ

Cisco Nexus 1000V 仮想スイッチで管理されるホストをスキャンする際には、ホストにインストールされている VEM モジュールと ESXi 6.0 イメージで使用可能なモジュールとの間のコンプライアンスの問題に関する情報が、ホストのアップグレード スキャン メッセージによって示されます。

Update Manager は Cisco Nexus 1000V に対応しています。Cisco Nexus 1000V は、2 つのコンポーネントで構成され、VMware vSphere と連携する仮想アクセス ソフトウェア スイッチです。

Virtual Supervisor Module (VSM)

スイッチの制御プレーンであり、NX-OS を実行する仮想マシンです。

Virtual Ethernet Module (VEM)

ESXi ホストに組み込まれた、仮想ライン カードです。

Update Manager は、ホストが Cisco Nexus 1000V で管理されているかどうかを判断します。Update Manager では、ESXi アップグレード イメージ内の Cisco Nexus 1000V VEM VIB とホストを管理している Cisco Nexus 1000V VSM に互換性があるかどうかを確認します。

vSphere ESXi Image Builder を使用すると、修正操作を適切に実行するのに必要なサードパーティ製 VIB が含まれている、カスタム ESXi イメージを作成できます。

表 9-7. Cisco Nexus 1000V ネットワーク スイッチ用の、ホストのアップグレード スキャン メッセージ

ホストのアップグレード スキャン メッセージ	説明
アップグレードには、ホスト上の Cisco Nexus 1000V ソフトウェア パッケージと互換性がある Cisco Nexus 1000V ソフトウェア パッケージが含まれていません。ホストをアップグレードすると、この機能がホストから削除されます。	VEM VIB が ESXi 6.0 アップグレード イメージ上では利用できません。
ホストは現在 Cisco Nexus 1000V 仮想ネットワーク スイッチに追加されています。アップグレードには、Cisco Nexus 1000V VSM との互換性がない Cisco Nexus 1000V ソフトウェア パッケージ VIB_name が含まれています。ホストをアップグレードすると、この機能がホストから削除されます。	ESXi 6.0 アップグレード イメージ上の VEM VIB が、VSM のバージョンとの互換性を持ちません。
ホストは現在 Cisco Nexus 1000V 仮想ネットワーク スイッチに追加されています。アップグレードには、Cisco Nexus 1000V VSM と互換性がある Cisco Nexus 1000V ソフトウェア パッケージが含まれていません。ホストをアップグレードすると、この機能がホストから削除されます。	ホストとイメージに VEM VIB が含まれていませんが、ホストは、Cisco Nexus 1000V で管理されていると vCenter Server にリストされたままになっています。
アップグレードによってホスト上の Cisco Nexus 1000V 仮想ネットワーク スイッチ機能が無効化されるかどうか不明です。ホストにこの機能がない場合は、この警告を無視してください。	ESXi 6.0 アップグレード イメージ上の VEM VIB と VSM との互換性を判断する際に問題が発生しました。ホストを管理している VSM のバージョンが vCenter Server 6.0 および ESXi 6.0 との互換性を持つと認定されているかどうかを確認してください。

vSphere Client の VMware Tools ステータス

[VMware Tools] ペインは、最新バージョンの VMware Tools がインストールされているか、サポートされているか、および利用可能なアップグレードがあるかどうかなどの情報を提供します。

表 9-8. VMware Tools のステータス

VMware Tools のステータス	説明
最新	VMware Tools はインストールされ、サポートされており、バージョンに互換性があります。 VMware Tools はインストールされ、サポートされており、ESXi ホストから入手できるものよりも新しいバージョンです。
利用可能なアップグレード	VMware Tools はインストールされていますが、バージョンが古すぎます。 VMware Tools はインストールされ、サポートされていますが、ESXi ホストにそれよりも新しいバージョンがあります。
サポートされていないバージョン	VMware Tools はインストールされていますが、バージョンが古すぎます。 VMware Tools はインストールされていますが、このバージョンには既知の問題があり、ただちにアップグレードする必要があります。 VMware Tools はインストールされていますが、バージョンが新しすぎるため、現在の仮想マシンでは正しく動作しません。
インストールされていません	VMware Tools がこの仮想マシンにインストールされていません。
管理対象ゲスト	VMware Tools は vSphere によって管理されていません。
不明	仮想マシンがスキャンされていません。

vSphere Web Client の VMware Tools ステータス

VMware Tools については、[アップグレードの詳細] ウィンドウでコンプライアンスの状態とステータスの両方の情報を確認できます。ステータスは、最新バージョンの VMware Tools がインストールされているか、サポートされているか、および利用可能なアップグレードがあるかどうかを示します。

表 9-9. VMware Tools のステータス

VMware Tools のステータス	説明	コンプライアンスの状態
VMware Tools はコンプライアンスを満たしているバージョンです。	VMware Tools は、サポート対象となる最近のバージョンです。 修正は不要です。	準拠
VMware Tools はインストールされ、サポートされており、ホストから入手できるものよりも新しいバージョンです。	VMware Tools は、以前のバージョンの ESXi 上で実行されているマシンにインストールされています。 修正は不要です。	準拠
VMware Tools はインストールされ、サポートされていますが、ホストにそれよりも新しいバージョンがあります。	仮想マシンに以前のバージョンの VMware Tools がインストールされています。 VMware Tools をアップグレードできますが、現在のバージョンもサポートされています。	非準拠
VMware Tools はインストールされていますが、このバージョンには既知の問題があり、ただちにアップグレードする必要があります。	マシンにインストールされている VMware Tools のバージョンには、深刻な問題が発生しています。 VMware Tools のアップグレード ベースラインに合わせて仮想マシンを修正する必要があります。	非準拠

表 9-9. VMware Tools のステータス (続き)

VMware Tools のステータス	説明	コンプライアンスの状態
VMware Tools はインストールされていますが、バージョンが新しすぎるため、現在の仮想マシンでは正しく動作しません。	既存の新しいバージョンは、仮想マシンで問題を引き起こす可能性があります。 VMware Tools のアップグレード ベースラインに合わせて、サポートされているバージョンにダウングレードするように仮想マシンを修正する必要があります。	非準拠
VMware Tools はインストールされていますが、バージョンが古すぎます。	サポートされなくなったバージョンの VMware Tools です。 VMware Tools のアップグレード ベースラインに合わせて仮想マシンを修正する必要があります。	非準拠
VMware Tools はインストールされていません。	VMware Tools は仮想マシン上に存在しません。 vSphere Web Client を使用して VMware Tools をインストールする必要があります。	互換性なし
VMware Tools は vSphere によって管理されていません。	VMware Tools はオペレーティング システム固有のパッケージを使用してインストールされており、Update Manager でアップグレードすることはできません。 Update Manager を使用して VMware Tools をアップグレードするには、vSphere Web Client から VMware Tools をインストールする必要があります。	互換性なし
ステータスは空です。	仮想マシンがスキャンされていません。	不明

仮想マシンおよびホストの修正は、手動で開始したり、修正のスケジュールを設定したりして、いつでも実行できます。

使用している vCenter Server が共通の vCenter Single Sign-On ドメインで他の vCenter Server システムに接続している場合、Update Manager が登録されている vCenter Server システムによって管理されているインベントリ オブジェクトだけを修正することもできます。

vSphere オブジェクトを修正するには、パッチ、拡張機能、およびアップグレードを適用する修正権限が必要です。ユーザー、グループ、ロール、および権限の管理に関する詳細については、『vCenter Server およびホスト管理』を参照してください。Update Manager の権限およびその説明のリストについては、[Update Manager の権限](#)を参照してください。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [ESXi ホストへのパッチおよび拡張機能のステージング](#)
- [修正の事前チェック レポート](#)
- [ホストの修正](#)
- [vSAN クラスタに含まれるホストの修正の特性](#)
- [仮想マシンのアップグレードおよび修正](#)
- [ホストおよび仮想マシンの修正のスケジュール設定](#)
- [ホストと仮想マシンの組織的なアップグレード](#)

ESXi ホストへのパッチおよび拡張機能のステージング

ステージングによって、パッチや拡張機能をただちに適用することなく、それらを vSphere Lifecycle Manager リポジトリから ESXi ホストへダウンロードできます。パッチおよび拡張機能のステージングを行うと、ホストでパッチおよび拡張機能がローカルに使用できるようになっているため、修正時間が短縮されます。

ホストに対してパッチまたは拡張機能をステージングするには、まず、パッチ ベースラインまたは拡張機能ベースライン、あるいはパッチおよび拡張機能が含まれているベースライン グループをホストに接続します。パッチおよび拡張機能のステージングを行う場合、ホストをメンテナンス モードにする必要はありません。

vSphere Client を使用すると、単一のベースライン、複数のベースライン、またはベースライン グループを単一のホストまたはコンテナ オブジェクト内のホストのグループにステージングすることができます。

ステージングするパッチまたは拡張機能のコンプライアンス状態によっては、いくつかの制限があります。

同一のステージング操作のためのベースラインまたはベースライン グループ内の他のパッチからみて、古くなったパッチはステージングできません。vSphere Lifecycle Manager では、ホストの現在のコンプライアンス状態をもとに、あとに続く修正プロセスでインストール可能なパッチだけをステージングします。同一の選択されたパッチ セットにあるパッチからみて、あるパッチが古い場合は、その古いパッチはステージングされません。

vSphere Lifecycle Manager のデポのパッチと競合するパッチがホストと競合しない場合、vSphere Lifecycle Manager はコンプライアンス チェック後にこのパッチを競合パッチとしてレポートします。そのパッチはホストにステージング可能で、ステージング操作後、vSphere Lifecycle Manager はこのパッチをステージング済みとして報告します。

ステージング操作中、vSphere Lifecycle Manager はスキャン前およびスキャン後の操作を実行し、ベースラインのコンプライアンス状態を更新します。

更新によって発生する可能性のあるさまざまなコンプライアンス状態の詳細については、[アップデートのコンプライアンス状態](#)を参照してください。

パッチまたは拡張機能をホストにステージングしたあとで、ステージングされたすべてのパッチまたは拡張機能を基準にしてホストを修正する必要があります。

修正の完了後、ホストは、修正中に適用されたかどうかにかかわらず、ステージングされたすべてのパッチまたは拡張機能をキャッシュから削除します。ステージングされたがホストに適用されていないパッチまたは拡張機能のコンプライアンス状態は、ステージング済みから前の値に戻されます。

重要： ESXi 6.0 以降を実行しているホストでは、パッチおよび拡張機能のステージングがサポートされています。PXE ブートされた ESXi ホストにパッチをステージングできますが、修正前にホストが再起動されると、ステージングされたパッチは失われ、再度ステージングする必要があります。

ESXi ホストへのパッチおよび拡張機能のステージング

Update Manager サーバから ESXi ホストに、パッチおよび拡張機能をダウンロードします。ステージングは、修復中のホストがメンテナンス モードに留まる時間を短縮します。

前提条件

- パッチ ベースラインまたは拡張機能ベースライン、あるいはパッチおよび拡張機能が含まれているベースライン グループをホストに接続します。
- 必須権限：VMware vSphere Update Manager.パッチおよびアップグレードの管理.パッチおよび拡張機能のステージング。

Update Manager の権限とその説明の一覧については、「[Update Manager の権限](#)」を参照してください。

手順

- 1 vSphere Client で [メニュー] - [Update Manager] の順に選択します。
- 2 [メニュー] - [ホストおよびクラスタ] の順に移動します。
- 3 インベントリからホストまたはクラスタを選択し、[[更新]] タブをクリックします。
- 4 [ホストの更新] をクリックします。
- 5 単一または複数のベースラインを選択します。

6 [ステージ] をクリックします。

[パッチのステージング] ダイアログ ボックスが開きます。

7 バッチおよび拡張機能をステージングするホストを選択します。

選択したホストの数がリストの上部に表示されます。

8 選択したホストにダウンロードするパッチまたは拡張機能を表示するには、[ステージング] リストを展開します。

9 [ステージ] をクリックします。

結果

ステージング処理が開始されます。[最近のタスク] ペインでタスクの進行状況を監視できます。

次のステップ

1 台以上のホストを修正します。

修正が完了したあとで、ステージングされたすべてのパッチおよび拡張機能は、修正時にインストールされたかどうかにかかわらず、ホストから削除されます。

vSphere Web Client 内の ESXi ホストへのパッチおよび拡張機能のステージング

Update Manager サーバから ESXi ホストにパッチおよび拡張機能をダウンロードします。ステージングを使用すると、修正中にホストがメンテナンス モードになっている期間を短縮できます。

前提条件

- パッチ ベースラインまたは拡張機能ベースライン、あるいはパッチおよび拡張機能が含まれているベースライングループをホストに接続します。
- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.パッチおよびアップグレードの管理.パッチおよび拡張機能のステージング。

手順

1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。

2 インベントリ オブジェクト ナビゲータで、データセンター、クラスタ、またはホストを選択し、[Update Manager] タブをクリックします。

3 [ステージ] をクリックします。

[ステージ パッチ] ウィザードが開きます。

4 [ステージ] ウィザードの [ベースラインの選択] ページで、ステージングするパッチ ベースラインおよび拡張機能ベースラインを選択します。

5 パッチおよび拡張機能をダウンロードするホストを選択して、[次へ] をクリックします。

単一のホストに対するパッチおよび拡張機能のステージングを選択した場合、これはデフォルトで選択されます。

- 6 (オプション) ステージング操作から除外するパッチおよび拡張機能を選択解除します。
- 7 (オプション) リスト内のパッチおよび拡張機能を検索するには、画面の右上にあるテキスト ボックスに検索基準を入力します。
- 8 [次へ]をクリックします。
- 9 [設定の確認] ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

結果

あるホストに対してステージングされたパッチおよび拡張機能の数は、[Update Manager] タブの下部のペインにあるパッチおよび拡張機能の各列に表示されます。

次のステップ

1 台以上のホストを修正します。

修正が完了したあとで、ステージングされたすべてのパッチおよび拡張機能は、修正時にインストールされたかどうかにかかわらず、ホストから削除されます。

修正の事前チェック レポート

[修正の事前チェック]とは、ホストまたはクラスタで実行されるチェックのことです。これによって表示されるテーブルには、正常な修正の妨げとなる可能性のある問題や、問題の修正方法に関する推奨事項が示されます。

修正の事前チェック レポートを生成すると、Update Manager によって、クラスタ内のホストで正常な修正を確実に実行するために必要な推奨アクションを含むリストが生成されます。

修正の事前チェック レポートは、vSphere Client と vSphere Web Client の両方から生成できます。

vSphere Client で修正の事前チェック レポートを生成するには、インベントリからホストまたはクラスタを選択して、[アップデート] タブに移動します。右上に修正の事前チェック カードがあり、そこでレポートを生成できます。

vSphere Web Client では、クラスタ内に含まれるホストの修正タスクを作成する際に、修正の事前チェック レポートを生成できます。[修正] ウィザードの [クラスタ修正オプション] ページからレポートを生成します。

表 10-1. クラスタの問題

現在の構成/問題	推奨アクション	詳細
DRS がクラスタ上で無効になっている。	クラスタの DRS を有効にします。	DRS を使用すると、vCenter Server は自動的にホスト上に仮想マシンを配置および移行して、クラスタのリソース使用を最適化できます。
事前チェック中に vSAN 健全性チェックが失敗します。	修正を進める前に、[vSAN の健全性] ページに移動し、健全性に関する問題をすべて解決してください。	vSAN 健全性チェックでは、vSAN クラスタ内のホストについて一連のテストを実行します。ホストが正常に修復されたことを確認するには、vSAN の健全性チェックが成功する必要があります。修正タスクを開始した vSAN クラスタが、修正の事前チェック中に vSAN 健全性チェックに失敗している場合、ホストはメンテナンス モードになってアップグレードされますが、メンテナンス モードを終了できないことがあります。修正が最終的に失敗します。
クラスタで DPM が有効になっています。	なし。 Update Manager によって DPM が自動的に無効になります。	ホストに実行中の仮想マシンがない場合、DPM は修正前または修正中にホストをスタンバイ モードにする可能性があります。Update Manager ではこれらを修正できません。

表 10-1. クラスタの問題 (続き)

現在の構成/問題	推奨アクション	詳細
クラスタで HA アドミッション コントロールが有効になっています。	なし。 Update Manager によって HA アドミッション コントロールは自動的に無効になります。	HA アドミッション コントロールによって vSphere vMotion で仮想マシンを移行できなくなるため、ホストをメンテナンス モードに切り替えられません。
クラスタで EVC が無効になっています。	EVC を手動で有効にします。	クラスタで EVC が無効になっている場合、vSphere vMotion による仮想マシンの移行は続行できません。この結果、Update Manager を使用して修正するホスト上のマシンにダウンタイムが生じます。このタスクは vSphere Web Client にのみ表示されます。

表 10-2. ホストの問題

現在の構成/問題	推奨アクション	詳細
CD/DVD ドライブは、ESXi ホスト上の仮想マシンに接続されています。	CD/DVD ドライブの接続を解除してください。	ホストの仮想マシンに CD/DVD ドライブまたは取り外し可能デバイスが接続されていると、そのホストをメンテナンス モードに切り替えることができない場合があります。修正操作を開始するときに、ホスト上の仮想マシンに取り外し可能デバイスが接続されていると、そのホストは修正されません。
フロッピー ドライブは、ESXi ホスト上の仮想マシンに接続されています。	フロッピー ドライブを切断します。	ホストの仮想マシンにフロッピー ドライブまたは取り外し可能デバイスが接続されていると、そのホストをメンテナンス モードに切り替えることができない場合があります。修正操作を開始するときに、ホスト上の仮想マシンに取り外し可能デバイスが接続されていると、そのホストは修正されません。
ESXi ホスト上の仮想マシンに対して Fault Tolerance (FT) が有効になっています。	なし。 Update Manager は FT を自動的に無効にします。	ホスト上のいずれかの仮想マシンで FT が有効になっている場合、Update Manager はそのホストを修正できません。
ESXi ホストの仮想マシンに VMware vCenter Server がインストールされていて、クラスタで DRS が無効になっています。	クラスタで DRS を有効にして、vSphere vMotion によって仮想マシンを移行できることを確認してください。	クラスタ内のいずれかの仮想マシンで、現在使用している vCenter Server インスタンスが実行されています。クラスタで DRS を有効にした場合は、vSphere vMotion によって vCenter Server が実行されている仮想マシンを移行して、ホストの修正が確実に成功するようにできます。
仮想マシンに VMware vSphere Update Manager がインストールされており、クラスタで DRS が無効になっています。	クラスタで DRS を有効にして、vMotion によって仮想マシンを移行できることを確認してください。	クラスタ内のいずれかの仮想マシンで、現在使用している Update Manager インスタンスが実行されています。クラスタで DRS を有効にした場合は、vMotion によって Update Manager が実行されている仮想マシンを移行して、クラスタ内のホストの修正プロセスが確実に成功するようにできます。

ホストの修正

ホストの修正方法は、添付するベースラインのタイプおよびホストがクラスタ内にあるかどうかによって異なります。

クラスタ内のホストの修正

クラスタ内の複数の ESXi ホストは、デフォルトで順次修正されます。Update Manager では、ホストの修正を並行して実行することもできます。

ホストのクラスタを順次修正する場合、ホストの1台がメンテナンスモードに入れないと、Update Manager はエラーを報告し、プロセスが停止して失敗します。クラスタ内で修正されたホストは、修正後のアップデートレベルが維持されます。ホストの修正に失敗した後、修正されなかったホストはアップデートが適用されません。DRS 対応クラスタ内のホストで Update Manager または vCenter Server がインストールされた仮想マシンが実行されている場合、DRS は修正を正常に行うため、最初に vCenter Server または Update Manager を実行している仮想マシンを別のホストに移行します。仮想マシンを別のホストに移行できない場合、そのホストの修正は失敗しますが、プロセスは停止しません。Update Manager は、クラスタにある次のホストの修正に進みます。

クラスタ内の ESXi ホストのアップグレード修正は、クラスタ内のすべてのホストがアップグレード可能な場合のみ続行されます。

クラスタ内のホストを修正する場合は、VMware DPM、HA アドミッションコントロールなどのクラスタ機能を一時的に無効にする必要があります。さらに、ホストのいずれかの仮想マシンで Fault Tolerance が有効な場合は、それをオフにし、ホストの仮想マシンに接続されているリムーバブルデバイスを切断して、vMotion で移行できるようにします。修正プロセスを開始する前に、クラスタ機能が有効になっているクラスタ、ホスト、または仮想マシンを示すレポートを生成できます。詳細については、[修正の事前チェックレポート](#)を参照してください。

注： 2 台以下のホストで構成されたクラスタで修正を実行する場合、修正を確実に成功させるには、HA のアドミッションコントロールを無効にするだけでは不十分な可能性があります。クラスタで vSphere Availability (HA) を無効にしなければならない可能性があります。HA を有効のまま維持した場合は、HA がいずれかのホストをメンテナンスモードにするための推奨情報を Update Manager に提供できないため、クラスタ内のホストを修復しようとしても失敗します。これは、2 台のホストのいずれかがメンテナンスモードになった場合、クラスタで使用可能なフェイルオーバーホストがなくなることが原因です。2 ノードのクラスタで修正を確実に成功させるには、クラスタで HA を無効にするか、またはホストを手動でメンテナンスモードにしてから、クラスタ内の 2 台のホストに修正を実行します。

ホストのクラスタを並行して修正する場合、Update Manager は同時に複数のホストを修正します。並行修正中にホストの修正エラーが発生すると、Update Manager はそのホストを無視し、クラスタ内の他のホストに対して修正を続行します。Update Manager は、DRS 設定に影響を与えずに同時に修正できるホストの最大数を継続的に評価します。同時に修正されるホスト数は、特定の数に指定できます。

vSAN クラスタの一部であるホストの場合、並行して修正するオプションを選択しても、Update Manager はホストを順次修正します。これは、vSAN クラスタの設計上、同時に 1 台のホストしかメンテナンスモードにできないためです。

1 つのデータセンターに複数のクラスタがある場合、修正プロセスは並行して実行されます。データセンターのいずれかのクラスタで修正プロセスが失敗しても、残りのクラスタは引き続き修正されます。

複数のベースラインまたはベースライングループに対する修正

vCenter Server 6.7 Update 2 以降では、複数のベースラインを最初にベースライングループにグループ分けするのではなく、選択します。アップグレードベースラインおよびパッチまたは拡張機能のベースラインを含む複数のベースラインまたはベースライングループに対してホストを修正する場合は、まずアップグレードが実行されます。

ホストのアップグレードの修正

ESXi 6.0 ホストと ESXi6.5 ホストを ESXi6.7 にアップグレードする場合、インストーラ ISO に VIB が含まれているかどうかにかかわらず、サポートされているすべてのカスタム VIB は、アップグレード後にホスト上でそのまま維持されます。これは、ESXi 6.x ホストがバイナリ互換であるためです。

ESXi 6.7 のサードパーティ製モジュールを含むカスタム ESXi イメージを使用して、ホストをアップグレードできます。この場合、ESXi6.7 と互換性があるサードパーティ製モジュールは、アップグレード後のホストでも利用できます。

Update Manager とホストが異なる場所に存在し、遅延が大きいネットワークでホストをアップグレードする場合は、アップグレード前にアップグレード ファイルが Update Manager サーバのリポジトリからホストにコピーされるため、数時間かかることがあります。その間、ホストはメンテナンス モードのままになります。

Update Manager 6.7 は、ESXi 6.0.x および ESXi6.5.x から ESXi6.7 へのアップグレードをサポートします。

重要： ホストを ESXi6.7 にアップグレードすると、バージョン ESXi 6.0.x または ESXi6.5.x のソフトウェアにロールバックできません。ホストのアップグレードを実行する前に、ホストの構成をバックアップしてください。アップグレードに失敗した場合は、アップグレード元の ESXi 6.0.x または ESXi6.5.x ソフトウェアを再インストールし、ホスト構成をリストアできます。ESXi 構成のバックアップとリストアの詳細については、『vSphere のアップグレード』を参照してください。

ホストのパッチの修正

Update Manager は、次の方法でホスト パッチを処理します。

- パッチ ベースラインに、別のパッチの適用が必要となるパッチが含まれている場合、Update Manager はパッチ リポジトリ内の前提条件を検出し、選択したパッチとともに別のパッチを適用します。
- パッチがホストにインストールされている他のパッチと競合する場合、競合するパッチはステージングまたはインストールされないことがあります。ただし、ベースラインの別のパッチによって競合が解決される場合、競合するパッチは適用されます。たとえば、パッチ A とパッチ C を含むベースラインがあり、パッチ A がすでにホストに適用されているパッチ B と競合するとします。パッチ C がパッチ B に置き代わり、パッチ A と競合しなくなると、修正プロセスによってパッチ A とパッチ C が適用されます。
- Update Manager のパッチ リポジトリのパッチと競合するパッチがホストと競合しない場合、Update Manager はスキャン後にこのパッチを競合パッチとしてレポートします。このパッチは、ステージングしてホストに適用できます。
- 同じパッチの複数のバージョンを選択すると、Update Manager は最新バージョンのパッチを適用し、それ以前のバージョンをスキップします。

パッチ修正中に、Update Manager はパッチの前提条件を自動的にインストールします。

Update Manager 6.7 では、手動でインポートしたオフラインバンドルに対して、ESXi 6.0 と ESXi6.5 のバージョンのホストを修正できます。

修正の前にパッチをステージングすることで、ホストのダウンタイムを短縮できます。

ホストの拡張機能の修正

Update Manager は、拡張機能の修正中にその前提条件を自動的にインストールしません。このため、一部の修正操作が失敗することがあります。不足している前提条件がパッチの場合は、不足しているパッチをパッチ ベースラインに追加できます。不足している前提条件が拡張機能の場合は不足している拡張機能を、同じ拡張機能ベースラインまたは別のベースラインに追加できます。その後、前提条件と元の拡張機能を含む 1 つまたは複数のベースラインに対してホストを修正できます。

PXE ブートの ESXi ホストの修正

Update Manager では、PXE ブートの ESXi ホストを修正できます。Update Manager は、PXE ブートの ESXi ホストの再起動が必要なパッチは適用しません。

PXE ブートの ESXi ホストに追加のソフトウェアがインストールされている場合、ホストを再起動するとソフトウェアが失われることがあります。再起動後に追加のソフトウェアを維持するには、追加のソフトウェアを含めてイメージ プロファイルを更新します。

ESXi ホストの修正の詳細

ESXi ホストの場合、アップデートにすべて含まれます。最新のアップデートに、その前のすべてのリリースのパッチが含まれます。

ホスト上の ESXi メージには、2 つのコピーが維持されます。最初のコピーはアクティブ ブート、2 番目のコピーはスタンバイ ブートです。ESXi ホストにパッチを適用するとき、アクティブ ブートの内容とパッチの内容に基づいて、Update Manager によってイメージが作成されます。その後、新しい ESXi イメージがスタンバイ ブートに配置され、Update Manager によってアクティブ ブートがスタンバイ ブートに指定されてからホストが再起動されます。ESXi ホストが再起動される時、パッチが適用されたイメージがアクティブ ブートに含まれ、ESXi ホストの前バージョンのイメージがスタンバイ ブートに含まれます。

ESXi ホストをアップグレードするときは、Update Manager によって、ホストのバックアップ イメージが新しいイメージに置き換えられ、アクティブ ブートとスタンバイ ブートが置き換えられます。アップグレード中に、ブートのホストとなっているディスクのレイアウトが変更されます。ESXi ホストの合計ディスク容量は 1 GB のままで、その 1 GB のディスク容量内のディスク パーティション レイアウトが、ESXi 6.0 のイメージが保存されるブートの新しいサイズに合わせて変更されます。

ロールバックの場面では、アップデートという用語は ESXi のパッチ、アップデート、およびアップグレードを指します。ESXi ホストをアップデートするたびに、ESXi の以前のビルドのコピーがホストに保存されます。

アップデートに失敗し、ESXi6.7 ホストを新しいビルドから起動できない場合、ホストは元のブート ビルドから起動する状態に戻ります。ESXi では、1 レベルのロールバックのみ行えます。以前のビルドを一度に 1 つだけ保存できます。実際には、各 ESXi6.7 ホストでは、ブート ビルド 1 つとスタンバイ ビルド 1 つの最大 2 つのビルドが保存されます。

ESXi 6.0 および 6.5 ホストからそれぞれの ESXi アップデート リリースへの修正はパッチ処理、バージョン 6.0 または 6.5 から 6.7 への ESXi ホストの修正はアップグレード処理です。

Update Manager 6.7 は、ESXi 6.0.x および ESXi6.5.x から ESXi6.7 へのアップグレードをサポートします。

ホストをアップグレードするには、VMware から VMware-VMvisor-Installer-6.7.0-build_number.x86_64.iso の名前で配布されている ESXi インストーラ イメージ、または vSphere ESXi Image Builder を使用して作成されたカスタム イメージを使用します。

ESXi 6.7 ホスト上のサードパーティ製ソフトウェア モジュールは、ESXi 6.5 にアップグレードしてもそのままです。

注： ESXi 6.0 または ESXi6.5 から ESXi6.7 へのアップグレードに失敗した場合、以前の ESXi 6.0 または ESXi6.5 インスタンスにロールバックすることはできません。

Update Manager 設定から、ホストのパッチおよびホストのアップグレード処理中に、ホストの再起動をスキップするホストの修正プロセスを構成できます。この構成はクイック ブートに設定されています。この設定は、Update Manager のホストおよびクラスタの設定内で使用できます。

サードパーティ製ソフトウェアを含むホストの修正

ホストには、Cisco Nexus 1000V VEM、EMC PowerPath モジュールなどのサードパーティ製ソフトウェアが含まれる場合があります。ESXi 6.0 ホストまたは ESXi6.5 ホストを ESXi 6.5 にアップグレードする場合、インストーラ ISO に VIB が含まれているかどうかにかかわらず、サポートされているすべてのカスタム VIB が移行されます。

ホストまたはインストーラ ISO イメージに、競合をもたらし、アップグレードを妨げる VIB が含まれる場合、エラー メッセージに競合している VIB が示されます。

アップグレード操作の前にサードパーティ製ソフトウェアの潜在的な問題を検出するには、アップグレード ベースラインに対してホストをスキャンし、Update Manager コンプライアンス画面でスキャン メッセージを確認します。Update Manager でのホストのアップグレード スキャン メッセージおよび Cisco Nexus 1000V が存在する場合の、ホストのアップグレード スキャン メッセージを参照してください。

サードパーティ関連のカスタマイズを使用したアップグレードの詳細については、『vSphere のアップグレード』を参照してください。vSphere ESXi Image Builder を使用してカスタム ISO を作成する方法については、『vSphere のインストールとセットアップ』を参照してください。

ESXi 6.7 イメージを基準にした ESXi 6.0 ホストまたは ESXi6.5 ホストの修正

ESXi 6.0 ホストまたは ESXi6.5 ホストを ESXi6.7 にアップグレードする場合、インストーラ ISO に VIB が含まれているかどうかにかかわらず、サポートされているすべてのカスタム VIB は、アップグレード後にホスト上でそのまま維持されます。

ホスト スキャンを実行すると、ターゲット ホストをアップグレード イメージの VIB セットを基準にスキャンします。ターゲット ホストと同じバージョンの ISO イメージを含むアップグレード ベースラインを基準にホストをスキャンすると、Update Manager はスキャンの結果として「準拠」または「非準拠」を表示します。アップグレード イメージが VMware が配布する基本イメージ、またはターゲット ホストにすでにインストールされている VIB と同じセットの VIB を含むカスタム ISO イメージである場合は、スキャンの結果は「準拠」になります。アップグレード ISO にターゲット ホストとは異なる種類やバージョンの VIB が含まれている場合、スキャンの結果は「非準拠」になります。

ESXi 6.0 ホストまたは ESXi6.5 ホストの ESXi 6.5 イメージに対する修正処理は、アップグレード処理です。

ESXi 6.5 ホストのアップグレード操作で ISO 6.7 イメージを使用することもできます。追加 VIB を含む ESXi6.7 イメージを使って ESXi6.7 ホストを修正する処理はパッチ処理に相当します。アップグレード イメージはターゲット ホストと同じバージョンであるため、アップグレード操作が終了すると、追加の VIB がターゲット ホストに追加されます。

表 10-3. ESXi 6.7 イメージを基準にした ESXi 6.0 ホストおよび ESXi6.5 ホストのスキャンおよび修正の状況

アクション	説明
ターゲット ホストとの競合がなく廃止されていない追加 VIB を含む ESXi6.7 イメージを基準にした ESXi 6.0 ホストまたは ESXi6.5 ホストのスキャンおよび修正。	Update Manager は、スキャンの結果として「非準拠」を表示します。修正は成功します。ターゲット ホストの修正前の VIB すべてがホストに残ります。修正前にターゲット ホストに存在しなかったアップグレード イメージのすべての VIB がホストに追加されます。
ターゲット ホストの同じ VIB より新しいバージョンの VIB を含む ESXi6.7 イメージを基準にした ESXi 6.0 ホストまたは ESXi6.5 ホストのスキャンおよび修正。	Update Manager は、スキャンの結果として「非準拠」を表示します。修正は成功します。ターゲット ホスト上の VIB は新しいバージョンにアップデートされます。
ターゲット ホストと競合する VIB を含む ESXi6.7 イメージを基準にした ESXi 6.0 ホストまたは ESXi6.5 ホストのスキャンおよび修正。	Update Manager は、スキャンの結果として「互換性なし」を表示します。修正は失敗します。ホストはそのままです。
ベンダーのタグ付き VIB を含む ESXi6.7 イメージを基準にした ESXi 6.0 ホストまたは ESXi6.5 ホストのスキャンおよび修正。	<ul style="list-style-type: none"> ■ ベンダーのタグ付き VIB がホストのハードウェアと一致しない場合、Update Manager はスキャンの結果として「互換性なし」を表示します。修正は失敗します。 ■ ベンダーのタグ付き VIB がホストのハードウェアと一致する場合、Update Manager はスキャンの結果として「非準拠」を表示し、修正は成功します。
ホストにインストールされている VIB を廃止する VIB を含む ESXi6.7 イメージを基準にした ESXi 6.0 ホストまたは ESXi6.5 ホストのスキャンと修正。	修正は成功します。修正前にターゲット ホストにインストールされているすべての VIB が ESXi イメージの新しい VIB に置換されます。

単一または複数のベースラインを基準にした ESXi ホストの修正

接続されたパッチ、アップグレード、および拡張ベースラインまたはベースライン グループを基準にしてホストを修正できます。

1つのベースライン、同じ種類の複数のベースライン、またはベースライン グループを基準にして、ホストを修正できます。異なる種類のベースラインを基準に修正を行う場合は、ベースライン グループを作成する必要があります。ベースライン グループには、複数のパッチ ベースラインと拡張機能ベースライン、または複数のパッチ ベースラインと拡張機能ベースラインが組み合わされた1つのアップグレード ベースラインが含まれます。

一度につき1つの添付されたアップグレード ベースラインを基準に、ESXi ホストを修正できます。ESXi6.7 イメージが含まれる単一のアップグレード ベースラインを使用して、vSphere インベントリ内のすべてのホストをアップグレードできます。

単一の ESXi ホスト、またはフォルダ、クラスタ、データセンターなどのコンテナ オブジェクト内の ESXi ホストのグループを修正できます。また、vCenter Server レベルで修正を開始することもできます。

注： クラスタの修正中に vCenter HA フェイルオーバーが開始されると、修正タスクはキャンセルされます。フェイルオーバーが完了したら、新しいノードで修正タスクを再起動する必要があります。

前提条件

- 必須権限 : VMware vSphere Update Manager.パッチおよびアップグレードの管理.修正してパッチ、拡張機能、アップグレードを適用。
- パッチ ベースライン、アップグレード ベースライン、または拡張機能ベースライン、あるいはパッチ、アップグレード、および拡張機能が含まれているベースライン グループをホストに接続します。
- 修正前チェックで発生した問題を解決します。
- アップグレードの場合、アップグレードする ESXi ホストに少なくとも 4 GB の起動ディスクがあることを確認します。ローカル ディスク、SAN、または iSCSI LUN から起動する場合、ESXi システム パーティションを作成するために最大 128 GB のディスク容量が使用されます。128 GB を超える起動ディスク上に VMFS データストアを作成できます。

手順

- 1 vSphere Client で、個々のホストまたはコンテナ オブジェクトの vSphere Lifecycle Manager コンプライアンス ビューに移動します。
 - a ホスト、クラスタ、またはコンテナ オブジェクトに移動します。
 - b [アップデート] タブをクリックします。
- 2 [ホスト] - [ベースライン] を選択します。
- 3 [添付されたベースラインおよびベースライン グループ] ペインで、修正に使用するベースラインおよびベースライン グループを選択します。

単一のベースラインまたはベースライン グループを選択できます。複数のベースラインおよびベースライン グループを選択することもできます。選択したベースラインおよびベースライン グループには、1つのアップグレード ベースラインのみを含める必要があります。
- 4 [修正] をクリックします。

選択したベースラインおよびベースライン グループにアップグレード イメージが含まれていない場合は、[修正] ダイアログ ボックスが開きます。

選択したベースラインおよびベースライン グループにアップグレード イメージが含まれている場合は、[エンドユーザー使用許諾契約書] ダイアログ ボックスが開きます。
- 5 選択したベースラインおよびベースライン グループにアップグレード ベースラインが含まれている場合は、[エンドユーザー使用許諾契約書] ダイアログ ボックスで使用許諾契約書の条項に同意します。

契約書に同意し、[OK] をクリックしてダイアログ ボックスを閉じると、[修正] ダイアログ ボックスが開きます。

6 [修正] ダイアログ ボックスで、修正の設定を確認し、必要に応じて変更を加えます。

- a 修正を確実に成功させるために vSphere Lifecycle Manager が実行する必要があるアクションのリストを確認します。
- b (オプション) 完全な修正前チェック レポートを生成するには、[完全な事前修正チェック レポートを表示します] をクリックします。

このオプションを選択した場合、[修正] ダイアログ ボックスが閉じ、vSphere Lifecycle Manager は修正プロセスを続行しません。代わりに、[修正事前チェック] ダイアログ ボックスが開きます。修正前チェックの結果を確認したら、修正を再度開始する必要があります。

- c 修正するホストのリストを確認し、修正する必要のないホストを選択解除します。

リストには、選択したベースラインおよびベースライン グループが添付されているすべてのホストが含まれています。修正を開始する前に 1 台のホストに移動した場合でも、リストには修正対象の複数のホストが表示されることがあります。デフォルトでは、リスト内のすべてのホストが選択されています。リストからホストを選択解除すると、修正対象のホストの全体的な数を変更されます。

7 (オプション) 修正中にインストールされるアップデートに関する情報を表示するには、[インストール] リストを展開します。

選択したベースラインおよびベースライン グループにアップグレード ベースラインが含まれている場合は、ESXi イメージに関する情報も表示されます。

8 (オプション) 後で実行するように修正タスクをスケジュール設定するには、[スケジュール オプション] を展開して、スケジュール設定タスクを構成します。

デフォルトでは、修正タスクは、[修正] ダイアログ ボックスを閉じた直後に開始されます。

9 [修正の設定] を展開し、修正の設定を確認します。

- クイック ブートを無効にするには、表の該当するチェック ボックスを選択解除します。
- 修正後の健全性チェックを無効にするには、表の該当するチェック ボックスを無効にします。
- サポート対象外のハードウェア デバイスに関する警告を無視するには、表の該当するチェック ボックスを選択します。
- その他の修正設定を変更するには、表の上にある [ダイアログを閉じて設定に移動] リンクをクリックします。

このオプションを選択した場合、[修正] ダイアログ ボックスが閉じ、vSphere Lifecycle Manager は修正プロセスを続行しません。代わりに、vSphere Lifecycle Manager のホーム ビューの [設定] タブにある [ベースライン修正の設定] ペインにリダイレクトされます。修正設定のいずれかを変更するには、[編集] ボタンをクリックします。修正は自動的に再開されません。必要な変更を行ったら、修正を再度開始する必要があります。

10 [修正] をクリックします。**結果**

修正スケジュールにより、修正タスクがすぐに開始されるか、後で実行されます。

vSphere Web Client でのパッチ ベースラインまたは拡張機能ベースラインを基準にしたホストの修正

接続されたパッチまたは拡張機能のベースラインを基準に、ホストを修正できます。

ホスト拡張機能ベースラインを基準とした修正処理は、ホスト パッチ ベースラインを基準とした修正処理と似ています。1つのベースラインまたは同じ種類の複数のベースラインを基準にして、ホストを修正できます。異なる種類のベースラインを基準に修正を行う場合は、ベースライン グループを作成する必要があります。ホストのアップグレード ベースライン、パッチ ベースライン、および拡張機能ベースラインが含まれているベースライン グループを基準にしたホストの修正の詳細については、[vSphere Web Client でのベースライン グループを基準にしたホストの修正](#)を参照してください。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 [ホーム] - [ホストおよびクラスタ] の順に選択します。
- 3 インベントリ オブジェクト ナビゲータで、データセンター、クラスタ、またはホストを選択し、[Update Manager] タブをクリックします。
- 4 [修正] をクリックします。
コンテナ オブジェクトを選択した場合、選択したオブジェクトのすべてのホストが修正されます。
[修正] ウィザードが開きます。
- 5 [種類別の個々のベースライン] で、ホストで実行するアップデートの種類に応じて、[パッチ ベースライン] または [拡張機能ベースライン] を選択します。
- 6 修正するターゲット ホストを選択し、[次へ] をクリックします。
コンテナ オブジェクトを修正するのではなく、1台のホストを修正するように指定すると、そのホストはデフォルトで選択されます。
- 7 (オプション) パッチと拡張機能ページで、修正対象から除外する特定のパッチまたは拡張機能を選択解除して、[次へ] をクリックします。
- 8 (オプション) 詳細オプション ページで、修正を後で実行するようにスケジュールするオプションを選択し、タスクの一意の名前と説明 (説明は任意) を入力します。
スケジュール設定済みのタスクに対して設定した時刻は、Update Manager が接続される vCenter Server インスタンスの時刻です。
- 9 (オプション) 詳細オプション ページで、ホスト上のサポートされていないデバイス、または現在サポートされていない VMFS データストアについての警告を無視するオプションを選択して修正を続行します。
- 10 [次へ] をクリックします。

- 11 (オプション) 修正後にホストのハードウェアの再起動をスキップする場合は、Quick Boot を有効にします。ハードウェアを再起動する場合は、チェック ボックスをオフにします。

Quick Boot の設定は、Update Manager ホストおよびクラスタ設定からデフォルトで有効にすることができます。

注： Quick Boot は、一部のハードウェア構成でサポートされています。詳細については、<https://kb.vmware.com/s/article/52477> を参照してください。

- 12 ホストの修正オプション ページの [電源状態] ドロップダウン メニューで、修正するホストで実行中の仮想マシンの電源状態を変更できます。

オプション	説明
仮想マシンのパワーオフ	修正を行う前に、すべての仮想マシンをパワーオフします。
仮想マシンのサスペンド	修正を行う前に、すべての実行中の仮想マシンをサスペンドします。
仮想マシンの電源状態を変更しない	仮想マシンを現在の電源状態のままにします。 ホスト上の仮想マシンがパワーオフまたはサスペンドの状態になるか、DRS クラスタ内のほかのホストに vMotion で移行されない限り、ホストはメンテナンス モードを開始できません。

アップデートの一部では、修正の前にホストをメンテナンス モードにすることが求められます。ホストがメンテナンス モードのときには、仮想マシンは実行できません。

仮想マシンの可用性を犠牲にしてホスト修正時のダウンタイムを短縮するため、修正の前に仮想マシンをシャットダウンまたはサスペンドするように選択できます。DRS クラスタで仮想マシンをパワーオフしない場合、仮想マシンが vMotion によってほかのホストに移行されるため、修正に時間がかかりますが、修正プロセス全体にわたって仮想マシンを使用できます。

- 13 (オプション) [ホスト上の仮想マシンに接続されているすべてのリムーバブル メディア デバイスを無効にします] を選択します。

Update Manager は、CD ドライブ、DVD ドライブまたはフロッピー ドライブが接続されている仮想マシンが配置されたホストを修正しません。クラスタ環境で vMotion を行う際、移行先のホストに移行元のホストと同じメディア デバイスか ISO イメージがマウントされていないと、vMotion が行われな可能性もあります。この場合、移行元のホストをメンテナンス モードにすることはできません。

修正後に、リムーバブル メディア デバイスが引き続き利用可能な場合、Update Manager はそれらのデバイスを再接続します。

- 14 (オプション) [失敗した場合はメンテナンス モードの開始を再試行] を選択し、再試行の回数を指定して、次の再試行までの待機時間を指定します。

再試行遅延時間の経過後、Update Manager が再度ホストをメンテナンス モードにしようと試みます。これは、[再試行回数] フィールドで指定された回数に応じて実行されます。

- 15 (オプション) [PXE ブートされたホスト] のチェック ボックスを選択して、Update Manager が PXE ブートされたパワーオン状態の ESXi ホストにパッチを適用できるようにします。

このオプションは、パッチ ベースラインまたは拡張機能ベースラインを基準にホストを修正する場合にのみ表示されます。

16 (オプション) 選択したホスト修正オプションをデフォルトとして保存します。

現在の選択内容が保存され、次のホスト修正操作の際に事前選択されます。

17 [次へ] をクリックします。

18 クラスタのホストを修正する場合は、クラスタの修正オプションを編集し、[次へ] をクリックします。

クラスタ修正オプション ページを使用できるのは、クラスタを修正する場合のみです。

オプション	詳細
選択したクラスタのいずれかで DPM (Distributed Power Management) が有効になっている場合は無効にする	Update Manager は、DPM がアクティブになっているクラスタを修正しません。DPM は、クラスタ内で実行中の仮想マシンのリソース使用状況を監視します。十分なキャパシティがある場合、DPM は、クラスタ内のほかのホストへ仮想マシンを移動して、元のホストをスタンバイ モードにして節電することを推奨します。ホストをスタンバイ モードに切り替えると、修正が中断する場合があります。
選択したクラスタのいずれかで High Availability のアドミッション コントロールが有効になっている場合は無効にする	Update Manager は、HA のアドミッション コントロールがアクティブになっているクラスタを修正しません。アドミッション コントロールは vSphere HA が使用するポリシーです。これにより、クラスタ内のフェイルオーバーのキャパシティが確保されます。修正時に HA のアドミッション コントロールが有効になっている場合、クラスタ内の仮想マシンが vMotion で移行されない場合があります。
Fault Tolerance (FT) が有効になっている場合は、これを無効にする。これは、選択したクラスタにあるすべての Fault Tolerance 対応の仮想マシンに影響を与えます。	ホスト上のいずれかの仮想マシンで FT がオンになっている場合、Update Manager はそのホストを修正しません。FT を有効にするには、プライマリ仮想マシンとセカンダリ仮想マシンを実行するホストが同じバージョンであり、それらのホストに同じパッチを適用する必要があります。それらのホストに異なるパッチを適用すると、FT を再度有効にすることができません。
選択したクラスタ内にあるホストの並行修正を有効にする	クラスタ内の各ホストを並行修正します。この設定が選択されていない場合は、Update Manager はクラスタ内の各ホストを順次修正します。並行修正には次のいずれかのオプションを選択することができます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ DRS 設定に影響を与えずに同時に修正できるホストの最大数を Update Manager が継続的に確認するよう指定できます。 ■ 修正する各クラスタ内で同時に修正されるホストの数の上限を指定できます。 <p>注： Update Manager は、仮想マシンがパワーオフ状態またはサスペンド状態のホストのみを同時に修正します。ホストの修正オプション ページのメンテナンス モード オプション ペインにある [仮想マシンのパワー状態] メニューから、仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするように選択できます。</p> <p>設計上、vSAN クラスタの 1 台のホストのみをいつでもメンテナンス モードにすることができます。並行して修正するオプションを選択した場合でも、Update Manager は、vSAN クラスタの一部であるホストを順次修正します。</p>
ホストをメンテナンス モードにする必要がある場合は、パワーオフおよびサスペンド状態の仮想マシンをクラスタ内のほかのホストに移行する	Update Manager は、サスペンド状態およびパワーオフ状態の仮想マシンを、メンテナンス モードに切り替える必要があるホストから、クラスタ内のほかのホストに移行します。修正を行う前に、メンテナンス モードの設定ペインで仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするように選択できます。

19 (オプション) 選択したクラスタ修正オプションをデフォルトとして保存します。

現在の選択内容が保存され、次のクラスタ修正操作の際に事前選択されます。

20 (オプション) 設定内容の確認ページで、[修正の事前チェック] をクリックしてクラスタ修正オプション レポートを生成し、[OK] をクリックします。

クラスタ修正オプションのレポート ダイアログ ボックスが開きます。このレポートをエクスポートしたり、自分の記録用にエントリをコピーしたりすることができます。

21 [設定の確認] ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

vSphere Web Client でのアップグレード ベースラインを基準にしたホストの修正

一度につき 1 つの添付されたアップグレード ベースラインを基準に、ESXi ホストを修正できます。ESXi6.7 イメージが含まれる単一のアップグレード ベースラインを使用して、vSphere インベントリ内のすべてのホストをアップグレードできます。

注： または、ベースライン グループを使用してホストをアップグレードすることもできます。 [vSphere Web Client でのベースライン グループを基準にしたホストの修正](#)を参照してください。

Update Manager 6.7 は、ESXi 6.0.x および ESXi6.5.x から ESXi6.7 へのアップグレードをサポートします。

ホストをアップグレードするには、VMware から VMware-VMvisor-Installer-6.7.0-build_number.x86_64.iso の名前で配布されている ESXi インストーラ イメージ、または vSphere ESXi Image Builder を使用して作成されたカスタム イメージを使用します。

ESXi 6.7 ホスト上のサードパーティ製ソフトウェア モジュールは、ESXi 6.5 にアップグレードしてもそのままです。

注： ESXi 6.0 または ESXi6.5 から ESXi6.7 へのアップグレードに失敗した場合、以前の ESXi 6.0 または ESXi6.5 インスタンスにロールバックすることはできません。

前提条件

アップグレード ベースラインを基準にホストを修正するには、ホストにそのベースラインを添付します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。
- 2 [ホーム] - [ホストおよびクラスタ] の順に選択します。
- 3 インベントリ オブジェクト ナビゲータで、データセンター、クラスタ、またはホストを選択し、[Update Manager] タブをクリックします。
- 4 [修正] をクリックします。
コンテナ オブジェクトを選択した場合、選択したオブジェクトのすべてのホストが修正されます。
[修正] ウィザードが開きます。
- 5 修正ウィザードの [ベースラインの選択] ページの [種類別の個々のベースライン] セクションで、[アップグレード ベースライン] を選択し、適用するアップグレード ベースラインを選択します。

- 6 修正するターゲット ホストを選択し、[次へ] をクリックします。

コンテナ オブジェクトを修正するのではなく、1 台のホストを修正するように指定すると、そのホストはデフォルトで選択されます。

- 7 エンド ユーザー使用許諾契約書ページで条項に同意して、[次へ] をクリックします。

- 8 (オプション) 詳細オプション ページで、修正を後で実行するようにスケジュールするオプションを選択し、タスクの一意の名前と説明 (説明は任意) を入力します。

スケジュール設定済みのタスクに対して設定した時刻は、Update Manager が接続される vCenter Server インスタンスの時刻です。

- 9 (オプション) 詳細オプション ページで、ホスト上のサポートされていないデバイス、または現在サポートされていない VMFS データストアについての警告を無視するオプションを選択して修正を続行します。

- 10 [次へ] をクリックします。

- 11 (オプション) 修正後にホストのハードウェアの再起動をスキップする場合は、Quick Boot を有効にします。ハードウェアを再起動する場合は、チェック ボックスをオフにします。

Quick Boot の設定は、Update Manager ホストおよびクラスタ設定からデフォルトで有効にすることができます。

注： Quick Boot は、一部のハードウェア構成でサポートされています。詳細については、<https://kb.vmware.com/s/article/52477> を参照してください。

- 12 ホストの修正オプション ページの [電源状態] ドロップダウン メニューで、修正するホストで実行中の仮想マシンの電源状態を変更できます。

オプション	説明
仮想マシンのパワーオフ	修正を行う前に、すべての仮想マシンをパワーオフします。
仮想マシンのサスペンド	修正を行う前に、すべての実行中の仮想マシンをサスペンドします。
仮想マシンの電源状態を変更しない	仮想マシンを現在の電源状態のままにします。 ホスト上の仮想マシンがパワーオフまたはサスペンドの状態になるか、DRS クラスタ内のほかのホストに vMotion で移行されない限り、ホストはメンテナンス モードを開始できません。

アップデートの一部では、修正の前にホストをメンテナンス モードにすることが求められます。ホストがメンテナンス モードのときには、仮想マシンは実行できません。

仮想マシンの可用性を犠牲にしてホスト修正時のダウンタイムを短縮するため、修正の前に仮想マシンをシャットダウンまたはサスペンドするように選択できます。DRS クラスタで仮想マシンをパワーオフしない場合、仮想マシンが vMotion によってほかのホストに移行されるため、修正に時間がかかりますが、修正プロセス全体にわたって仮想マシンを使用できます。

- 13 (オプション) [ホスト上の仮想マシンに接続されているすべてのリムーバブル メディア デバイスを無効にします] を選択します。

Update Manager は、CD ドライブ、DVD ドライブまたはフロッピー ドライブが接続されている仮想マシンが配置されたホストを修正しません。クラスタ環境で vMotion を行う際、移行先のホストに移行元のホストと同じメディア デバイスか ISO イメージがマウントされていないと、vMotion が行われな可能性もあります。この場合、移行元のホストをメンテナンス モードにすることはできません。

修正後に、リムーバブル メディア デバイスが引き続き利用可能な場合、Update Manager はそれらのデバイスを再接続します。

- 14 (オプション) [失敗した場合はメンテナンス モードの開始を再試行] を選択し、再試行の回数を指定して、次の再試行までの待機時間を指定します。

再試行遅延時間の経過後、Update Manager が再度ホストをメンテナンス モードにしようと試みます。これは、[再試行回数] フィールドで指定された回数に応じて実行されます。

- 15 (オプション) [PXE ブートされたホスト] のチェック ボックスを選択して、Update Manager が PXE ブートされたパワーオン状態の ESXi ホストにパッチを適用できるようにします。

このオプションは、パッチ ベースラインまたは拡張機能ベースラインを基準にホストを修正する場合にのみ表示されます。

- 16 (オプション) 選択したホスト修正オプションをデフォルトとして保存します。

現在の選択内容が保存され、次のホスト修正操作の際に事前選択されます。

- 17 [次へ] をクリックします。

- 18 クラスタのホストを修正する場合は、クラスタの修正オプションを編集し、[次へ] をクリックします。

クラスタ修正オプション ページを使用できるのは、クラスタを修正する場合のみです。

オプション	詳細
選択したクラスタのいずれかで DPM (Distributed Power Management) が有効になっている場合は無効にする	Update Manager は、DPM がアクティブになっているクラスタを修正しません。DPM は、クラスタ内で実行中の仮想マシンのリソース使用状況を監視します。十分なキャパシティがある場合、DPM は、クラスタ内のほかのホストへ仮想マシンを移動して、元のホストをスタンバイ モードにして節電することを推奨します。ホストをスタンバイ モードに切り替えると、修正が中断する場合があります。
選択したクラスタのいずれかで High Availability のアドミッション コントロールが有効になっている場合は無効にする	Update Manager は、HA のアドミッション コントロールがアクティブになっているクラスタを修正しません。アドミッション コントロールは vSphere HA が使用するポリシーです。これにより、クラスタ内のフェイルオーバーのキャパシティが確保されます。修正時に HA のアドミッション コントロールが有効になっている場合、クラスタ内の仮想マシンが vMotion で移行されない場合があります。
Fault Tolerance (FT) が有効になっている場合は、これを無効にする。これは、選択したクラスタにあるすべての Fault Tolerance 対応の仮想マシンに影響を与えます。	ホスト上のいずれかの仮想マシンで FT がオンになっている場合、Update Manager はそのホストを修正しません。FT を有効にするには、プライマリ仮想マシンとセカンダリ仮想マシンを実行するホストが同じバージョンであり、それらのホストに同じパッチを適用する必要があります。それらのホストに異なるパッチを適用すると、FT を再度有効にすることができません。

オプション	詳細
選択したクラスタ内にあるホストの並行修正を有効にする	<p>クラスタ内の各ホストを並行修正します。この設定が選択されていない場合は、Update Manager はクラスタ内の各ホストを順次修正します。</p> <p>並行修正には次のいずれかのオプションを選択することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ DRS 設定に影響を与えずに同時に修正できるホストの最大数を Update Manager が継続的に確認するよう指定できます。 ■ 修正する各クラスタ内で同時に修正されるホストの数の上限を指定できます。 <p>注： Update Manager は、仮想マシンがパワーオフ状態またはサスペンド状態のホストのみを同時に修正します。ホストの修正オプション ページのメンテナンス モード オプション ペインにある [仮想マシンのパワー状態] メニューから、仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするように選択できます。</p> <p>設計上、vSAN クラスタの 1 台のホストのみをいつでもメンテナンス モードにすることができます。並行して修正するオプションを選択した場合でも、Update Manager は、vSAN クラスタの一部であるホストを順次修正します。</p>
ホストをメンテナンス モードにする必要がある場合は、パワーオフおよびサスペンド状態の仮想マシンをクラスタ内のほかのホストに移行する	<p>Update Manager は、サスペンド状態およびパワーオフ状態の仮想マシンを、メンテナンス モードに切り替える必要があるホストから、クラスタ内のほかのホストに移行します。修正を行う前に、メンテナンス モードの設定ペインで仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするように選択できます。</p>

19 (オプション) 選択したクラスタ修正オプションをデフォルトとして保存します。

現在の選択内容が保存され、次のクラスタ修正操作の際に事前選択されます。

20 (オプション) 設定内容の確認ページで、[修正の事前チェック] をクリックしてクラスタ修正オプション レポートを生成し、[OK] をクリックします。

クラスタ修正オプションのレポート ダイアログ ボックスが開きます。このレポートをエクスポートしたり、自分の記録用にエントリをコピーしたりすることができます。

21 [設定の確認] ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

例

注： [最近のタスク] ペインに、修正タスクが表示されます。この修正タスクは、プロセスの大部分で約 22% で維持されます。プロセスの完了までにおよそ 15 分かかります。

vSphere Web Client でのベースライン グループを基準にしたホストの修正

添付されたアップグレード、パッチ、および拡張機能のベースライン グループを基準にホストを修正できます。ベースライン グループには、複数のパッチ ベースラインと拡張機能ベースライン、または複数のパッチ ベースラインと拡張機能ベースラインが組み合わされた 1 つのアップグレード ベースラインが含まれます。

ホスト ベースライン グループを使用して、組織的なアップグレードを実行できます。ベースライン グループのアップグレード ベースラインが最初に実行され、パッチ ベースラインと拡張機能ベースラインが後に続きます。

注： また、単一のアップグレード ベースラインを使用してホストをアップグレードすることもできます。vSphere Web Client でのアップグレード ベースラインを基準にしたホストの修正を参照してください。

前提条件

少なくとも1つのベースライン グループがホストに添付されていることを確認します。

[アップグレードの詳細] ウィンドウでスキャン メッセージを確認し、ESXi6.7 へのアップグレードを妨げる可能性のある、ハードウェア、サードパーティ製ソフトウェア、および構成の潜在的な問題がないかどうかを確認します。

手順

1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムにログインします。

2 [ホーム] - [ホストおよびクラスタ] の順に選択します。

3 インベントリ オブジェクト ナビゲータで、データセンター、クラスタ、またはホストを選択し、[Update Manager] タブをクリックします。

4 [修正] をクリックします。

コンテナ オブジェクトを選択した場合、選択したオブジェクトのすべてのホストが修正されます。

[修正] ウィザードが開きます。

5 [修正] ウィザードのベースラインの選択ページで、適用するベースライン グループおよびベースラインを選択します。

6 修正するターゲット ホストを選択し、[次へ] をクリックします。

コンテナ オブジェクトを修正するのではなく、1台のホストを修正するように指定すると、そのホストはデフォルトで選択されます。

7 エンド ユーザー使用許諾契約書ページで条項に同意して、[次へ] をクリックします。

8 (オプション) パッチと拡張機能ページで、修正対象から除外する特定のパッチまたは拡張機能を選択解除して、[次へ] をクリックします。

9 (オプション) 詳細オプション ページで、修正を後で実行するようにスケジューリングするオプションを選択し、タスクの一意の名前と説明 (説明は任意) を入力します。

スケジューリング設定済みのタスクに対して設定した時刻は、Update Manager が接続される vCenter Server インスタンスの時刻です。

10 (オプション) 詳細オプション ページで、ホスト上のサポートされていないデバイス、または現在サポートされていない VMFS データストアについての警告を無視するオプションを選択して修正を続行します。

11 [次へ] をクリックします。

12 (オプション) 修正後にホストのハードウェアの再起動をスキップする場合は、Quick Boot を有効にします。ハードウェアを再起動する場合は、チェック ボックスをオフにします。

Quick Boot の設定は、Update Manager ホストおよびクラスタ設定からデフォルトで有効にすることができます。

注： Quick Boot は、一部のハードウェア構成でサポートされています。詳細については、<https://kb.vmware.com/s/article/52477> を参照してください。

- 13 ホストの修正オプション ページの [電源状態] ドロップダウン メニューで、修正するホストで実行中の仮想マシンの電源状態を変更できます。

オプション	説明
仮想マシンのパワーオフ	修正を行う前に、すべての仮想マシンをパワーオフします。
仮想マシンのサスペンド	修正を行う前に、すべての実行中の仮想マシンをサスペンドします。
仮想マシンの電源状態を変更しない	仮想マシンを現在の電源状態のままにします。 ホスト上の仮想マシンがパワーオフまたはサスペンドの状態になるか、DRS クラスタ内のほかのホストに vMotion で移行されない限り、ホストはメンテナンス モードを開始できません。

アップデートの一部では、修正の前にホストをメンテナンス モードにすることが求められます。ホストがメンテナンス モードのときには、仮想マシンは実行できません。

仮想マシンの可用性を犠牲にしてホスト修正時のダウンタイムを短縮するため、修正の前に仮想マシンをシャットダウンまたはサスペンドするように選択できます。DRS クラスタで仮想マシンをパワーオフしない場合、仮想マシンが vMotion によってほかのホストに移行されるため、修正に時間がかかりますが、修正プロセス全体にわたって仮想マシンを使用できます。

- 14 (オプション) [失敗した場合はメンテナンス モードの開始を再試行] を選択し、再試行の回数を指定して、次の再試行までの待機時間を指定します。

再試行遅延時間の経過後、Update Manager が再度ホストをメンテナンス モードにしようと試みます。これは、[再試行回数] フィールドで指定された回数に応じて実行されます。

- 15 (オプション) [ホスト上の仮想マシンに接続されているすべてのリムーバブル メディア デバイスを無効にします] を選択します。

Update Manager は、CD ドライブ、DVD ドライブまたはフロッピー ドライブが接続されている仮想マシンが配置されたホストを修正しません。クラスタ環境で vMotion を行う際、移行先のホストに移行元のホストと同じメディア デバイスか ISO イメージがマウントされていないと、vMotion が行われられない可能性があります。この場合、移行元のホストをメンテナンス モードにすることはできません。

修正後に、リムーバブル メディア デバイスが引き続き利用可能な場合、Update Manager はそれらのデバイスを再接続します。

- 16 (オプション) [PXE ブートされたホスト] のチェック ボックスを選択して、Update Manager が PXE ブートされたパワーオン状態の ESXi ホストにパッチを適用できるようにします。

このオプションは、パッチ ベースラインまたは拡張機能ベースラインを基準にホストを修正する場合にのみ表示されます。

- 17 (オプション) 選択したホスト修正オプションをデフォルトとして保存します。

現在の選択内容が保存され、次のホスト修正操作の際に事前選択されます。

- 18 [次へ] をクリックします。

19 クラスタのホストを修正する場合は、クラスタの修正オプションを編集し、[次へ] をクリックします。

クラスタ修正オプション ページを使用できるのは、クラスタを修正する場合のみです。

オプション	詳細
選択したクラスタのいずれかで DPM (Distributed Power Management) が有効になっている場合は無効にする	Update Manager は、DPM がアクティブになっているクラスタを修正しません。 DPM は、クラスタ内で実行中の仮想マシンのリソース使用状況を監視します。十分なキャパシティがある場合、DPM は、クラスタ内のほかのホストへ仮想マシンを移動して、元のホストをスタンバイ モードにして節電することを推奨します。ホストをスタンバイ モードに切り替えると、修正が中断する場合があります。
選択したクラスタのいずれかで High Availability のアドミッション コントローラが有効になっている場合は無効にする	Update Manager は、HA のアドミッション コントロールがアクティブになっているクラスタを修正しません。 アドミッション コントロールは vSphere HA が使用するポリシーです。これにより、クラスタ内のフェイルオーバーのキャパシティが確保されます。修正時に HA のアドミッション コントロールが有効になっている場合、クラスタ内の仮想マシンが vMotion で移行されない場合があります。
Fault Tolerance (FT) が有効になっている場合は、これを無効にする。これは、選択したクラスタにあるすべての Fault Tolerance 対応の仮想マシンに影響を与えます。	ホスト上のいずれかの仮想マシンで FT がオンになっている場合、Update Manager はそのホストを修正しません。 FT を有効にするには、プライマリ仮想マシンとセカンダリ仮想マシンを実行するホストが同じバージョンであり、それらのホストに同じパッチを適用する必要があります。それらのホストに異なるパッチを適用すると、FT を再度有効にすることができません。
選択したクラスタ内にあるホストの並行修正を有効にする	クラスタ内の各ホストを並行修正します。この設定が選択されていない場合は、Update Manager はクラスタ内の各ホストを順次修正します。 並行修正には次のいずれかのオプションを選択することができます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ DRS 設定に影響を与えずに同時に修正できるホストの最大数を Update Manager が継続的に確認するよう指定できます。 ■ 修正する各クラスタ内で同時に修正されるホストの数の上限を指定できます。 <p>注： Update Manager は、仮想マシンがパワーオフ状態またはサスペンド状態のホストのみを同時に修正します。ホストの修正オプション ページのメンテナンス モード オプション ペインにある [仮想マシンのパワー状態] メニューから、仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするように選択できます。</p> <p>設計上、vSAN クラスタの 1 台のホストのみをいつでもメンテナンス モードにすることができます。並行して修正するオプションを選択した場合でも、Update Manager は、vSAN クラスタの一部であるホストを順次修正します。</p>
ホストをメンテナンス モードにする必要がある場合は、パワーオフおよびサスペンド状態の仮想マシンをクラスタ内のほかのホストに移行する	Update Manager は、サスペンド状態およびパワーオフ状態の仮想マシンを、メンテナンス モードに切り替える必要があるホストから、クラスタ内のほかのホストに移行します。修正を行う前に、メンテナンス モードの設定ペインで仮想マシンをパワーオフまたはサスペンドするように選択できます。

20 (オプション) 選択したクラスタ修正オプションをデフォルトとして保存します。

現在の選択内容が保存され、次のクラスタ修正操作の際に事前選択されます。

21 (オプション) 設定内容の確認ページで、[修正の事前チェック] をクリックしてクラスタ修正オプション レポートを生成し、[OK] をクリックします。

クラスタ修正オプションのレポート ダイアログ ボックスが開きます。このレポートをエクスポートしたり、自分の記録用にエントリをコピーしたりすることができます。

22 [設定の確認] ページの内容を確認して、[終了] をクリックします。

例

注： [最近のタスク] ペインに、修正タスクが表示されます。この修正タスクは、プロセスの大部分で約 22% で維持されます。プロセスの完了までにおよそ 15 分かかります。

vSAN クラスタに含まれるホストの修正の特性

vSAN クラスタに含まれるホストの修正については、いくつかの特性があります。

vSAN クラスタのメンテナンス モードの詳細

設計上、vSAN クラスタの 1 台のホストのみをいつでもメンテナンス モードにすることができます。Update Manager はホストの修正を順次処理する必要があるため、ホストの修正プロセスには膨大な時間がかかることがあります。vSAN クラスタの一部であるホストの場合、並行して修正するオプションを選択しても、Update Manager はホストを順次修正します。

vSAN クラスタにデフォルトでシステム管理のベースラインが関連付けられている場合は、ベースラインを基準にしてクラスタを修正してすべてのホストを準拠状態にし、vSAN が推奨する最新のソフトウェアをインストールできません。

vSAN クラスタに含まれるホストを修正する方法は、ホスト上で仮想マシンを処理する方法によって異なります。

- ホストを手動でメンテナンス モードに切り替え、Update Manager を使用して修正できます。
- Update Manager 修正プロセスでは、ホストをメンテナンス モードにしておくことができます。

vSphere Web Client では、vSAN クラスタのホストをメンテナンス モードに切り替えるとき、アクセシビリティの確保、全データ退避、データ退避なし、などの設定を複数のオプションから選択できます。アクセシビリティの確保オプションはデフォルトのオプションで、ホストをメンテナンス モードに切り替えると、vSAN により、このホスト上のすべてのアクセス可能な仮想マシンがアクセス可能なままにされます。各オプションの詳細については、『vSphere のストレージ』ガイドの「vSAN クラスタのメンバーをメンテナンス モードに切り替える」を参照してください。

vSAN クラスタのホストをメンテナンス モードにすると、メンテナンス モードの警告メッセージを確認する必要があります。メッセージを確認する前に、パワーオフ状態またはサスペンド状態の仮想マシンを、クラスタ内の他のホストに移動するように選択できますが、ホスト上のパワーオン状態の仮想マシンを処理する方法に関するオプションは用意されていません。パワーオン状態の仮想マシンは、デフォルトのアクセシビリティの確保オプションと同じように自動的に処理されます。

Update Manager を使用すると、修正プロセスにより、vSAN クラスタのホストがメンテナンス モードに切り替わることがあります。この場合は、ホスト上の仮想マシンが、デフォルトのアクセシビリティの確保オプションと同じように処理されます。

ホストが vSAN クラスタのメンバーであり、さらにそのホスト上の任意の仮想マシンが「許容する障害の数 = 0」の設定の仮想マシン ストレージ ポリシーを使用している場合、そのホストがメンテナンス モードに入るときに異常な遅延が発生する可能性があります。この遅延は、vSAN データストア クラスタにおいて、vSAN が仮想マシンのデータをディスク間で移行するために発生します。遅延は数時間かかる場合があります。これは、仮想マシン ストレージ ポリシーを「許容する障害の数 = 1」に設定することで回避できます。この設定では、vSAN データストアに仮想マシン ファイルのコピーを 2 つ作成することになります。

vSAN 健全性チェック

Update Manager は、修正を正常に完了できることを確認するために vSAN クラスタの修正前チェックを実行します。vSAN の健全性チェックが正常に完了した場合は、修正処理を続行できます。

vSAN クラスタに対するテストの一部が失敗した場合、Update Manager は、vSAN の健全性チェックが正常に完了しなかったことを修正の事前チェック ダイアログ ボックスに表示し、クラスタの修正前に実行することが推奨されるアクションを表示します。

vSAN の健全性チェックの一部である修正前チェックを実行中でも vSAN クラスタでの修正プロセスを開始することができます。ただし、クラスタで修正プロセスが正常に実行されたことを確認するための追加アクションを実行する必要がある場合は、vSAN の健全性チェックの結果が出るまで待機することをお勧めします。

vSAN から健全性チェックの推奨アクションを実行しない場合でも、クラスタから vSAN クラスタまたはホストを修正できます。Update Manager により、ホストが正常にメンテナンス モードに切り替わり、パッチが適用されるかまたはホストが正常にアップグレードされます。ただし、ホストをメンテナンス モードから切り替えることができないことがあり、修正プロセスは失敗する可能性があります。vSAN クラスタのホストはアップグレードされます。ただし、手動でホストをメンテナンス モードから切り替える必要があります。

アップグレード プロセスの一環として、ホストがメンテナンス モードになる前と、ホストがメンテナンス モードを終了した後で、vSAN の健全性チェックが実行されます。vSphere Client で、修正中に vSAN 健全性チェックを無効にすることができます。

vSAN の健全性の詳細については、vSAN クラスタを選択して、[監視] タブをクリックし、[vSAN] - [健全性] の順にクリックします。

vSphere Web Client の場合、修正の事前チェックは、修正ウィザードの最後のページから実行できます。

vSphere Client の場合、修正の事前チェックは、インベントリからホストまたはクラスタを選択するときに [アップデート] タブから実行できます。

vSAN システム ベースライン グループを基準にした vSAN クラスタの修正

vSAN は Update Manager で使用できるシステム ベースライン グループを作成し、vSAN クラスタのホストをサポートされる最新の ESXi バージョンにアップグレードしたり、重要なパッチをホストに適用したり、ドライバのインストールあるいは vSAN ハードウェア レイヤーのファームウェアをアップデートします。

ESXi バージョン 6.0 Update 2 以降のホストを含む vSAN クラスタを使用している場合、システム管理のベースライン グループは Update Manager のコンプライアンス ビューに自動的に表示されます。vSphere 環境に vSAN クラスタが含まれていない場合は、システム管理のベースラインは生成されません。

vSAN システム ベースライン グループには、次のアップデートを含めることができます。

- ソフトウェアのアップデート：
 - vSAN クラスタが最新のテスト済みかつ推奨されるバージョンであり、認定ベンダーによる ESXi のアップグレード イメージを含むアップグレード ベースライン。
 - vSAN クラスタ内の ESXi バージョンのホストに対して推奨される重要なパッチを含むパッチ ベースライン。
 - vSAN クラスタの ESXi ホストの推奨ドライバ。

- クラスタ内の ESXi バージョンのホストに対応するサポートされている最新の使用可能なファームウェア。

vSAN の推奨エンジンは、vSAN クラスタ内のホストにインストールされているソフトウェアの最新の状態をハードウェア互換性リスト (HCL) と照らして定期的にチェックします。アップデートの推奨事項が検出された場合、エンジンは新しい重要なパッチをすべてダウンロードし、イメージをアップグレードして、vSAN のクラスタレベルのベースラインを生成します。vSAN クラスタを実行する各サーバにインストールされたベンダーのファームウェアツールは、サポートされる最新の使用可能なファームウェアを定期的にチェックします。該当するファームウェアが検出された場合、エンジンは、ファームウェアのアップデートを含む vSAN のクラスタレベルのベースラインを生成します。使用可能なすべてのベースラインは vSAN システム ベースライン グループでパッケージングされ、Update Manager で使用できるようになります。

VMware Cloud には、vSAN のハードウェア互換性リストおよび vSAN リリース カタログが格納されています。vCenter Server システムがインターネットに接続されていない場合は、vSAN リリース カタログを手動でアップロードできます。HCL または vSAN リリース カタログの詳細については、vSAN のドキュメントを参照してください。ベンダーのファームウェア ツールの詳細については、[ベンダーのファームウェア ツールのダウンロード](#) を参照してください。

Update Manager は vSAN からのビルドの推奨事項を含む新しいシステム ベースライン グループがないかを 24 時間に 1 回、自動的にチェックします。新しいシステム ベースライン グループが検出された場合、Update Manager は自動的に vSAN システム ベースライン グループを vSAN クラスタに接続します。

Update Manager は、vSphere インベントリの各 vSAN クラスタに対して 1 つのシステム ベースラインを表示します。システム管理のベースライン グループを編集または削除することはできません。カスタム ベースライン グループに追加することもできません。

vSAN システム ベースライン グループを更新すると、Update Manager は更新されたシステムのベースラインを基準にして、vSAN クラスタにスキャン操作を自動的に実行します。既存の vSAN クラスタへのホストの追加や削除の操作によっても関連付けられている vSAN システム ベースライン グループが更新され、その後にクラスタのスキャン操作が実行されます。

vSAN クラスタが準拠している状態の場合は、アクションを実行する必要はありません。システム ベースライン グループを基準にして vSAN クラスタが非準拠状態の場合、Update Manager は自動的に修正を開始しません。クラスタを vSAN システム ベースライン グループに準拠させるには、修正タスクを手動で開始します。

vSAN システム管理ベースライン グループを使用するためのシステム要件

- vCenter Server 6.5 Update 1 以降が Windows で実行されている。
- Update Manager 6.5 Update 1 以降が Windows で実行されていて、同じバージョンの vCenter Server に接続されている。
- ESXi バージョン 6.0 Update 2 以降のホストを含む vSAN クラスタ。
- Update Manager ホスト マシンのインターネットへの常時アクセス。
- VMware Cloud にアクセスするための My VMware ポータル (my.vmware.com) のアカウント。

vSAN クラスタのファームウェアの更新

vSphere Update Manager を使用して、vSAN クラスタを実行するサーバのファームウェアを更新します。

vSAN クラスタでは、SCSI コントローラ ファームウェアと物理ドライブ ファームウェアがデータ通信の大部分を処理しています。vSAN クラスタの健全性を確保するため、vSphere 6.7 Update 1 以降では、Update Manager を使用してサーバの基盤となるファームウェア バージョンの定期的なチェックを実行し、必要に応じてアップグレードを開始できます。

ファームウェアのアップグレードは vSphere 環境のハードウェア レイヤーに影響するため、通常はまれに発生するイベントです。ファームウェアのアップグレードは、最初の ESXi ホストのセットアップ中、または vSphere または vSAN のメジャー アップデート中に行われます。

vSAN クラスタ内のホスト上でファームウェアをアップグレードするには、最初にベンダーのファームウェア ツールをダウンロードします。ベンダー ツールは、vSAN クラスタ内の ESXi サーバでサポートおよび推奨されるファームウェアを vSAN ファームウェア エンジンが、検出、ダウンロード、およびインストールするために必要です。vCenter Server システムがインターネットに接続されている場合は、ベンダーのファームウェア ツールをデフォルトのデポの場所から直接ダウンロードできます。または、ツールをカスタムの場所からインポートすることもできます。

vSAN クラスタのホストに対するベンダーのファームウェア ツールがダウンロードされているかを判断するには、vSphere Client の [更新] タブの [ホストの更新] に移動します。クラスタ内のホストにベンダーのファームウェア ツールが見つからない場合は、警告メッセージが表示されます。

このツールは、ホストのハードウェア コンポーネントのファームウェア バージョンを検出します。vSAN クラスタのいずれかのホストが、サポートされている最新の使用可能なファームウェアより以前のバージョンを実行している場合、ファームウェア エンジンはファームウェアのアップデートを含むクラスタのベースライン グループを生成し、vSAN クラスタのベースライン グループに追加します。

vSAN クラスタのベースライン グループには、クラスタ内の各ホストに対する単一のファームウェア ベースラインを含めることができます。

vSAN クラスタの ESXi ホストは一度に 1 台ずつアップデートされます。ファームウェア ベースラインのほかに、vSAN ベースライン グループには、ソフトウェアのアップグレード ベースラインにパッケージングされた ISO イメージ、ドライバ、パッチなどのソフトウェアのアップデート アイテムを含めることができます。vSAN クラスタにインストールされているソフトウェアの最新の状態は、『VMware 互換性ガイド』のハードウェア互換性リスト (HCL) と照らしてチェックされます。ソフトウェア アップグレードの推奨事項が特定されると、vSAN の推奨エンジンは vSAN ソフトウェア ベースラインを作成し、Update Manager が vSAN クラスタのホストのアップグレードに使用できるベースライン グループでファームウェア アップグレード ベースラインをパッケージングします。

ファームウェアのアップグレード処理は、クラスタのベースライン グループが推奨するソフトウェアのアップグレード処理とは別に実行できます。また、vSAN クラスタ内の単一のホストのファームウェアをアップグレードするか、クラスタ全体のファームウェアをアップグレードするかを選択することもできます。

vSAN クラスタのビルドの推奨事項についての詳細は、『VMware vSAN の管理』ドキュメントを参照してください。

Update Manager でファームウェアを更新できるすべての I/O コントローラのリストを表示するには、<https://kb.vmware.com/s/article/60382> を参照してください。

■ ベンダーのファームウェア ツールのダウンロード

Update Manager がインターネットに接続されている場合は、ベンダーのファームウェア ツールを vCenter Server に直接ダウンロードできます。または、ベンダーのファームウェア ツールをカスタムの場所からインポートすることもできます。

■ ファームウェアのインポート

vCenter Server と Update Manager がインターネットに接続している場合は、ベンダー固有のファームウェアとドライバを直接インポートして、vSAN クラスタ内のサーバをアップデートできます。または、ベンダー固有のファームウェアを手動でインポートすることもできます。

■ vSAN クラスタ内のソフトウェアおよびファームウェアのアップデート

ファームウェアのアップデートを vCenter Server にインポートすると、Update Manager を使用して vSAN クラスタを修正できます。

ベンダーのファームウェア ツールのダウンロード

Update Manager がインターネットに接続されている場合は、ベンダーのファームウェア ツールを vCenter Server に直接ダウンロードできます。または、ベンダーのファームウェア ツールをカスタムの場所からインポートすることもできます。

ベンダーのファームウェア ツールは、vSAN クラスタを実行するサーバでサポートされる最新の使用可能なファームウェアのダウンロードを可能にするエンジンです。

使用可能なファームウェア ツールに関する情報は、vSAN HCL .json ファイルにあります。この情報は、自社のハードウェア向けのファームウェア ツールの推奨を担当する各ベンダーによって提供されています。

手順

- 1 vSphere Client で、[ホストおよびクラスタ] を選択し、インベントリから vSAN クラスタを選択します。
- 2 [更新] タブを選択します。
Update Manager のコンプライアンス ビューに移動します。
- 3 [ホストの更新] を選択します。
- 4 警告メッセージが表示されたら、[ベンダーのファームウェア ツールのダウンロード] をクリックします。

5 vCenter Server システムのインターネットへの接続状況に応じて、次のどちらかのタスクを実行します。

オプション	説明
デフォルトのデポからダウンロード	<p>vCenter Server がインターネットに接続されている場合は、ファームウェア ツールを直接ダウンロードできます。</p> <p>a ドロップダウン メニューから、個別のエンドユーザー使用許諾契約書を選択してご確認ください。</p> <p>注： vSAN クラスタ内の複数のホストのファームウェアをインポートする場合は、[ベンダーのファームウェア ツールのダウンロード] ダイアログ ボックスに、複数のエンドユーザー使用許諾契約書が表示されます。</p> <p>b EULA の下にあるチェック ボックスを選択してすべてのエンドユーザー使用許諾契約に同意します。</p> <p>c [インポート] をクリックします。</p>
インポート先の場所を入力	<p>vCenter Server がインターネットに接続されていない場合は、ファームウェア ツールを手動でアップロードする必要があります。</p> <p>a [参照] をクリックし、ベンダーのファームウェア ツールを選択します。</p> <p>注： アップロードするファイルは、HCL に準拠している必要があります。</p> <p>b [閉じる] をクリックします。</p>

結果

ベンダーのファームウェア ツールがインストールされ、使用可能になります。

ファームウェアのインポート

vCenter Server と Update Manager がインターネットに接続している場合は、ベンダー固有のファームウェアとドライバを直接インポートして、vSAN クラスタ内のサーバをアップデートできます。または、ベンダー固有のファームウェアを手動でインポートすることもできます。

前提条件

- vSAN クラスタ内のサーバに対するベンダー固有のファームウェア ツールをダウンロードします。

手順

- 1 vSphere Client で、[ホストおよびクラスタ] を選択し、インベントリから vSAN クラスタを選択します。
- 2 [更新] タブを選択します。
Update Manager のコンプライアンス ビューに移動します。
- 3 [ホストの更新] を選択します。
- 4 [添付されたベースラインおよびベースライン グループ] で、vSAN クラスタのグループ ベースラインを選択し、[ファームウェアのインポート] をクリックします。
[ファームウェアのインポート] ダイアログ ボックスが表示されます。

5 vCenter Server システムのインターネットへの接続状況に応じて、次のどちらかのタスクを実行します。

オプション	説明
デフォルトのデポからダウンロード	<p>vCenter Server がインターネットに接続されている場合は、ファームウェアを直接ダウンロードできます。</p> <p>a ドロップダウン メニューから、個別のエンドユーザー使用許諾契約書を選択してご確認ください。</p> <hr/> <p>注： vSAN クラスタ内の複数のホストのファームウェアをインポートする場合は、[ファームウェアのインポート] ダイアログ ボックスに、複数のエンドユーザー使用許諾契約書が表示されます。</p> <p>b EULA の下にあるチェック ボックスを選択してすべてのエンドユーザー使用許諾契約に同意します。</p> <p>c [インポート] をクリックします。</p>
インポート先の場所を入力	<p>vCenter Server がインターネットに接続されていない場合は、ファームウェアを手動でアップロードする必要があります。</p> <p>a [参照] をクリックし、ファームウェア パッケージを選択します。</p> <hr/> <p>注： アップロードするファイルは、ハードウェア互換性リスト (HCL) に準拠している必要があります。</p> <p>b [閉じる] をクリックします。</p>

結果

Update Manager は選択されたファームウェア パッケージを確認してインポートします。

vSAN クラスタ内のソフトウェアおよびファームウェアのアップデート

ファームウェアのアップデートを vCenter Server にインポートすると、Update Manager を使用して vSAN クラスタを修正できます。

vSAN クラスタのファームウェアをアップデートするには、ファームウェアのアップデートが含まれている vSAN システム ベースライン グループに合わせてクラスタを修正する必要があります。リスクを軽減するため、ファームウェアとソフトウェアのアップデートは個別に実行できます。あるいは、メンテナンス ウィンドウを短縮するために、単一のアップデートでファームウェアとソフトウェアの両方を更新することもできます。

前提条件

- ベンダーのファームウェア ツールがインストールされていることを確認します。
- サポートされる最新の使用可能なファームウェアをインポートします。
- Update Manager は、クラスタの vSAN システム ベースライン グループを表示します。
- 失敗した vSAN の健全性チェックがないことを確認します。
- <https://kb.vmware.com/s/article/60382> でサポートされている I/O コントローラのリストを確認します。

手順

- 1 vSphere Client で、[ホストおよびクラスタ] を選択し、インベントリから vSAN クラスタを選択します。

- 2 [更新] タブを選択します。

Update Manager のコンプライアンス ビューに移動します。

- 3 [ホストの更新] を選択します。

- 4 [添付されたベースラインおよびベースライン グループ] リストから、vSAN クラスタ ベースライン グループを選択します。

- 5 [修正] をクリックします。

[修正] ダイアログ ボックスが開きます。

- 6 (オプション) エンドユーザー使用許諾契約書に同意するには、チェック ボックスを選択して [OK] をクリックします。

- 7 (オプション) 修正前チェックで発生した問題を解決します。

vSAN クラスタの問題の数が [修正] ダイアログ ボックスの上部に表示されます。詳細および必要なアクションについては、[完全な事前修正チェック レポートを表示します] をクリックしてください。

- 8 実行するアップデートの種類を選択します。

表 10-4. 修正オプション

オプション	結果
ソフトウェアとファームウェアをアップデート	ホストは推奨される最新の ESXi バージョンおよびサポートされる最新のパッチにアップグレードされます。またファームウェアは、サポートされる最新の使用可能なバージョンにもアップデートされます。修正はソフトウェアのアップグレードから開始し、その後ファームウェアのアップデートへと続きます。
ソフトウェアのみをアップデート	ホストは推奨される最新の ESXi バージョンおよびサポートされる最新のパッチにアップグレードされます。
ファームウェアのみをアップデート	ホストは、サポートされる最新の使用可能なファームウェア バージョンにもアップデートされます。

- 9 (オプション) ベースラインまたはベースライン グループの内容を表示するには、[インストール] リストを展開します。

- 10 (オプション) [スケジュール オプション] を展開して、[この修正を後で実行するようスケジューリングする] を有効にします。

- 11 (オプション) [修正の設定] を展開し、[ダイアログを閉じて設定に移動] をクリックし、デフォルトのホストの修正設定を編集します。

- 12 (オプション) [修正の設定] を展開し、[インストール後にホストの健全性を確認] チェック ボックスを選択解除します。

vSAN 健全性チェックで問題が検出されると、クラスタ全体の修正に失敗し、アップグレードされた ESXi ホストがメンテナンス モードのままになることがあります。このオプションを無効にすると、vSAN の健全性チェックが実行されなくなります。

- 13 [修正] をクリックしてプロセスを開始します。

結果

修正プロセスが完了すると、vSAN クラスタはサポートされる最新の使用可能なファームウェア バージョンおよび推奨されるソフトウェア バージョンを実行します。

仮想マシンのアップグレードおよび修正

事前定義済みの個別の仮想マシン ベースライン、または VMware Tools と仮想マシンのハードウェアのアップグレード ベースラインを含む仮想マシン ベースライン グループを基準にして、仮想マシンを手動で修正することができます。また、修正処理のスケジュールを自由に設定できます。

複数の仮想マシンを同時に修正するには、それらがフォルダ、vApp、データセンターなどの1つのコンテナに含まれている必要があります。そのコンテナに、ベースライン グループか、個々の仮想マシン ベースラインのセットを添付します。

vSphere Client では、仮想マシンを修正する代わりにアップグレードします。VMware Tools および仮想マシンのハードウェアをアップグレードできます。

Update Manager を使用すると、テンプレートを修正できます。テンプレートは、新規仮想マシンの作成およびプロビジョニングに使用できる、仮想マシンのコピーです。

仮想マシンの電源入れなおし時に自動的に VMware Tools をアップグレードするように設定できます。詳細については、「[vSphere Web Client の電源の入れ直し時の VMware Tools のアップグレード](#)」および「[再起動時の VMware Tools の自動アップグレード](#)」を参照してください。

注： Update Manager は、仮想マシン パッチ ベースラインをサポートしていません。

ホストが IPv6 アドレスを使用して vCenter Server に接続している場合、そのホスト上で実行される仮想マシンのスキャンや修正は実行できません。

旧バージョンへのロールバック

修正が失敗した場合は、仮想マシンおよびアプライアンスを以前の状態にロールバックできます。

Update Manager を設定して、仮想マシンおよびアプライアンスのスナップショットを作成し、それらのスナップショットを無期限または一定期間保持できます。修正の完了後、修正を検証でき、不要な場合はスナップショットを削除できます。

注： 選択した仮想マシンでの電源の入れ直し時に VMware Tools をアップグレードするとき、Update Manager は修正前に仮想マシンのスナップショットを作成せず、ロールバックはできません。Update Manager は、フォールト トレランス対応の仮想マシンのスナップショットを作成しません。

仮想マシンの仮想マシン ハードウェア互換性のアップグレード

仮想マシンのハードウェアは手動ですぐにアップグレードするか、アップグレードのスケジュールを自由に設定することができます。

Update Manager を使用して、1つまたは複数の仮想マシンのハードウェア バージョンをホストがサポートする最新のハードウェア バージョンにアップグレードします。

手順

- 1 [メニュー] - [ホストおよびクラスタ] の順に移動します。
- 2 インベントリからホストまたはクラスタを選択し、[[更新]] タブをクリックします。
- 3 [仮想マシンのハードウェア] を選択します。

初回使用時に 仮想マシン ハードウェアのバージョンのアップグレードを有効にする必要があります。

ホストまたはクラスタ上の仮想マシンが表示されます。



- 4 [有効] をクリックします。
- 5 (オプション) 仮想マシンの互換性および現在のステータスを更新するには、[今すぐスキャン] をクリックします。
- 6 ハードウェア バージョンをアップグレードする仮想マシンを選択して、[ホストと整合するようにアップグレード] をクリックします。
[ホストと整合するように仮想マシン ハードウェアをアップグレード] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 7 (オプション) [スケジュール オプション] を展開して、アップグレードを延期します。
パワーオン状態、パワーオフ状態、またはサスペンド状態の仮想マシンのオプションから選択できます。

注： デフォルトでは、アップグレードはすぐに実行されます。

- 8 (オプション) スナップショットの使用を構成するには、[ロールバック オプション] を展開して、デフォルト設定を変更します。
 - a 仮想マシンのスナップショットをアップグレードする前に、これらのスナップショットの作成を有効または無効にするには、[仮想マシンのスナップショットの作成] チェック ボックスを選択または選択解除します。
デフォルトでは、スナップショットを作成するオプションが設定されています。
 - b スナップショットを保持する期間を選択します。
 - スナップショットを無期限に維持します。
 - スナップショットを一定期間維持します。
 - c スナップショットの名前と、必要に応じて説明を入力します。
 - d 該当するチェック ボックスを選択して、仮想マシンのメモリをスナップショットに含めます。
- 9 [ホストと整合するようにアップグレード] をクリックします。
選択した仮想マシンがアップグレードされて、[最近のタスク] ペインにステータスが表示されます。

仮想マシンの VMware Tools のアップグレード

VMware Tools は手動ですぐにアップグレードするか、アップグレードのスケジュールを自由に設定することができます。

.Update Manager を使用して、VMware Tools をホストがサポートする最新バージョンにアップグレードします。

手順

- 1 [メニュー] - [ホストおよびクラスタ] の順に移動します。
- 2 インベントリからホストまたはクラスタを選択し、[[更新]] タブをクリックします。
- 3 [VMware Tools] を選択します。

初回使用時に VMware Tools のバージョンのアップグレードを有効にする必要があります。

ホストまたはクラスタ上の仮想マシンが表示されます。



- 4 [有効] をクリックします。
- 5 (オプション) 仮想マシンの互換性および現在のステータスを更新するには、[今すぐスキャン] をクリックします。
- 6 VMware Tools をアップグレードする仮想マシンを選択して、[ホストと整合するようにアップグレード] をクリックします。
[ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 7 (オプション) [スケジュール オプション] を展開して、アップグレードを延期します。
パワーオン状態、パワーオフ状態、またはサスペンド状態の仮想マシンのオプションから選択できます。

注： デフォルトでは、アップグレードはすぐに実行されます。

- 8 (オプション) スナップショットの使用を構成するには、[ロールバック オプション] を展開して、デフォルト設定を変更します。
 - a 仮想マシンのスナップショットをアップグレードする前に、これらのスナップショットの作成を有効または無効にするには、[仮想マシンのスナップショットの作成] チェック ボックスを選択または選択解除します。
デフォルトでは、スナップショットを作成するオプションが設定されています。
 - b スナップショットを保持する期間を選択します。
 - スナップショットを無期限に維持します。
 - スナップショットを一定期間維持します。

- c スナップショットの名前と、必要に応じて説明を入力します。
 - d 該当するチェック ボックスを選択して、仮想マシンのメモリをスナップショットに含めます。
- 9 [ホストと整合するようにアップグレード] をクリックします。
- 選択した仮想マシンがアップグレードされて、[最近のタスク] ペインにステータスが表示されます。

再起動時の VMware Tools の自動アップグレード

インベントリ内の仮想マシンの VMware Tools をアップグレードするプロセスを自動化できます。

マシンの再起動時に VMware Tools のバージョンを確認するように Update Manager を設定することができます。Update Manager は必要に応じて、VMware Tools を、仮想マシンを実行するホストでサポートされる最新のバージョンにアップグレードします。

電源入れ直し時に VMware Tools のアップグレードを実行する場合、Update Manager は仮想マシンのスナップショットを作成しないため、以前のバージョンの仮想マシンにロールバックすることはできません。

手順

- 1 [メニュー] - [ホストおよびクラスタ] の順に移動します。
- 2 インベントリからホストまたはクラスタを選択し、[[更新]] タブをクリックします。
- 3 [VMware Tools] を選択します。
初回使用時に VMware Tools のバージョンのアップグレードを有効にする必要があります。
ホストまたはクラスタ上の仮想マシンが表示されます。
- 4 (オプション) ツールのステータスおよび自動更新の設定を更新するには、[今すぐスキャン] をクリックします。
- 5 再起動時の VMware Tools のアップグレードを有効にする仮想マシンを選択します。
- 6 [自動更新の設定] をクリックして、[オン] を選択します。
新しいステータスは、[自動更新] 列に表示されます。

結果

次の仮想マシンのパワーオン時または再起動に、Update Manager はマシンにインストールされている VMware Tools のバージョンを確認し、必要に応じてアップグレードを実施します。

vSphere Web Client での仮想マシンの修正

仮想マシンの修正は、手動ですぐに実行するか、スケジュールを自由に設定することができます。

仮想マシンのベースライン グループを使用して、組織的なアップグレードを実行できます。VMware Tools のアップグレード ベースラインが最初に実行され、続いて仮想マシンのハードウェアのアップグレード ベースラインが実行されます。

手順

- 1 vCenter Server Appliance、または Update Manager が登録されている vCenter Server システムに vSphere Web Client を接続し、[ホーム] - [vCenter インベントリ リスト] の順に選択します。

- 2 [ホーム] - [仮想マシンとテンプレート] の順に選択します。
- 3 インベントリ オブジェクト ナビゲータで、仮想マシンを選択し、[Update Manager] タブをクリックします。
- 4 [修正] をクリックします。

コンテナ オブジェクトを選択した場合は、コンテナ内の仮想マシンもすべて修正されます。
- 5 [修正]ウィザードのベースラインの選択ページで、適用するベースライン グループおよびアップグレード ベースラインを選択します。
- 6 修正する仮想マシンをすべて選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 スケジュール設定ページで、タスクの名前と説明（説明は任意）を入力します。

スケジュール設定済みのタスクに対して設定した時刻は、Update Manager が接続される vCenter Server インスタンスの時刻です。
- 8 パワーオン、パワーオフ、またはサスペンド状態の仮想マシンに対し、特定の時刻を入力します。あるいは、選択されたオプションを [このアクションを今すぐ実行する] のままにして、ウィザードの完了後にすぐにプロセスを開始します。
- 9 (オプション) 電源入れ直し時に VMware Tools のアップグレードを行うかどうかを選択します。

このオプションは、1つの「ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード」ベースラインを基準にしてアップグレードを行う場合にのみアクティブになります。[修正]ウィザードでは、電源入れ直し時の VMware Tools のアップグレードを有効にできますが、無効にすることはできません。この設定を無効にするには、Update Manager のコンプライアンス ビューの [VMware Tools のアップグレード設定] ボタンをクリックし、[VMware Tools アップグレード設定の編集] ウィンドウで仮想マシンのチェック ボックスを選択解除します。
- 10 (オプション) ロールバック オプションを指定します。

電源入れ直し時に VMware Tools をアップグレードするように選択した場合、このオプションは利用できません。

 - a [修正]ウィザードのロールバック オプション ページで、[ロールバックできるように、修正する前に仮想マシンのスナップショットを作成します] を選択します。

修正の前に仮想マシンのスナップショットが作成されます。仮想マシンをロールバックする必要がある場合は、このスナップショットに戻すことができます。

Update Manager では、フォルト トレランスが有効な仮想マシンのスナップショットは作成されません。

VMware Tools のアップグレードを実行し、電源入れ直し時に VMware Tools をアップグレードするように選択すると、Update Manager では、修正するまで、選択した仮想マシンのスナップショットは作成されません。
 - b スナップショットを削除する時期を指定するか、[スナップショットを削除しない] を選択します。
 - c スナップショットの名前と、必要に応じて説明を入力します。
 - d (オプション) [仮想マシンのメモリのスナップショットを作成します] チェック ボックスを選択します。
- 11 [次へ] をクリックします。

12 [設定の確認] 画面を確認して、[終了] をクリックします。

vSphere Web Client の電源の入れ直し時の VMware Tools のアップグレード

インベントリ内の仮想マシンの VMware Tools をアップグレードするプロセスを自動化できます。

マシンのパワーオン時や再起動時に VMware Tools のバージョンを確認するように、Update Manager を設定することができます。必要に応じて、Update Manager は、仮想マシンを実行しているホストがサポートする最新のバージョンに VMware Tools をアップグレードします。

電源入れ直し時に VMware Tools のアップグレードを実行する場合、Update Manager はその仮想マシンのスナップショットを作成しないため、以前のバージョンにロールバックすることはできません。

手順

- 1 vSphere Web Client で、[ホーム] - [仮想マシンおよびテンプレート] の順に選択し、仮想マシンまたはフォルダを選択します。
- 2 仮想マシンまたはフォルダを右クリックし、[Update Manager] - [VMware Tools のアップグレード設定] を選択します。
[VMware Tools アップグレード設定の編集] ウィザードが表示されます。
- 3 電源入れ直し時の VMware Tools のアップグレードを有効にする仮想マシンを選択し、[OK] をクリックします。

結果

次の仮想マシンの再起動またはパワーオン時に、Update Manager はマシンにインストールされている VMware Tools のバージョンを確認し、必要な場合はアップグレードを実施します。

ホストおよび仮想マシンの修正のスケジュール設定

ホストと仮想マシンの修復処理は、vSphere Web Client と vSphere Client の都合の良い時間にスケジュールできます。

vSphere インベントリのコンテナ オブジェクト内のすべてのホストまたは仮想マシンの修正をスケジュール設定できます。選択したコンテナ オブジェクト内のホストまたは仮想マシンに、スケジュール設定されたアップグレードを実行できます。

修復をスケジュールするには、修復プロセスの時間を指定する必要があります。

vCenter Server では、スケジュール設定されたタスクに vCenter Server ホスト マシン クロックが使用されません。vCenter Server インスタンスのタイムゾーンと異なるタイムゾーンにある ESXi ホストの修復をスケジュールする場合、スケジュールの時刻は、ESXi ホストではなく vCenter Server インスタンスのタイムゾーンで設定されます。

vSphere Web Client で、[スケジュール設定] タスクには、[監視] タブの [タスクおよびイベント] から移動できます。

vSphere Client では、[スケジュール設定タスク] は [構成] タブにあります。

すべてのスケジュール設定タスクは、両方のクライアントの vCenter Server インベントリ レベル、またはタスクが作成されるのと同じオブジェクト レベルで表示できます。たとえば、スケジュールされた仮想マシンの修復は、仮想マシンのインベントリ レベルでは表示されませんが、ホストまたはクラスター レベルでは表示されません。

スケジュールされた既存の修復タスクは編集できませんが、スケジュールされた修復タスクを削除して新しい修復タスクを作成することはできます。

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインによって別の vCenter Server に接続されていて、複数の Update Manager インスタンスがインストールされて登録されている場合は、スケジュール設定されたタスクを vCenter Server インスタンスごとに作成することができます。作成するスケジュール設定タスクは、指定した Update Manager インスタンスに固有のもので、スケジュール設定タスクは、その他の Update Manager インスタンス（vCenter Single Sign-On ドメイン内）には伝達しません。

ホストと仮想マシンの組織的なアップグレード

ベースライン グループを使用して、vSphere インベントリ内のホストまたは仮想マシンを組織的にアップグレードできます。ベースライン グループには、ホストまたは仮想マシンのいずれかのベースラインが含まれます。

組織的なアップグレードは、コンテナ オブジェクト レベルまたは個別のオブジェクト レベルで実行できます。

ホストの組織的なアップグレード

組織的なアップグレードでは、単一のホスト ベースライン グループを使用して、アップグレード、パッチ、およびエクステンションがインベントリ内のホストに適用されます。

ベースライン グループにアップグレード ベースラインが含まれる場合、Update Manager は最初にホストをアップグレードし、続いてパッチ ベースラインまたはエクステンション ベースラインを適用します。最初にアップグレードが実行されてから、ホストの特定のバージョンにパッチが適用可能になるため、組織的なワークフローではアップグレード中にパッチが失われることはありません。

仮想マシンの組織的なアップグレード

組織的なアップグレードを使用すると、vSphere インベントリ内のすべての仮想マシンの仮想マシン ハードウェアと VMware Tools を同時にアップグレードできます。これには、次のベースラインが含まれているベースライン グループを使用します。

- ホストと整合するように仮想マシン ハードウェアをアップグレード
- ホストに適合するよう VMware Tools をアップグレード

仮想マシンの仮想ハードウェアをアップグレードすると、新しいデバイスや機能が、ゲスト OS に公開されます。仮想ハードウェア バージョンをアップグレードする前に VMware Tools をアップグレードして、ゲストに必要なドライバをすべてアップデートする必要があります。VMware Tools がインストールされていないか、最新のものではない、またはサードパーティ製のツールによって管理されている場合、仮想マシンの仮想ハードウェアをアップグレードすることはできません。

「ホストと整合するように仮想マシン ハードウェアをアップグレード」ベースライン、および「ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード」ベースラインが含まれているベースライン グループを基準に仮想マシンをアップグレードする場合、Update Manager はアップグレード処理を正しい順序で行い、最初に VMware Tools をアップグレードします。

VMware Tools のアップグレード中は、仮想マシンをパワーオンしておく必要があります。修正前に仮想マシンがパワーオフ状態またはサスペンド状態の場合は、Update Manager がマシンをパワーオンします。アップグレードが完了したあと、Update Manager はマシンを再起動し、仮想マシンを元の電源状態にリストアします。

仮想ハードウェアのアップグレード中は、仮想マシンをシャットダウンしておく必要があります。仮想マシンがパワーオン状態の場合、Update Manager がマシンをパワーオフして仮想ハードウェアのアップグレードを行い、仮想マシンをパワーオンします。

Update Manager イベントの表示

11

Update Manager は、イベントのデータを保存します。このイベント データを確認することで、進行中の処理、または完了した処理に関する情報を収集できます。

前提条件

vSphere Web Client を Update Manager が登録された vCenter Server システムに接続し、ホーム ページで [Update Manager] アイコンをクリックします。

手順

- ◆ vSphere Web Client および vSphere Client で、Update Manager > [監視] > [イベント] タブに順に移動し、最近のイベントについての情報を取得します。

Update Manager のイベント

Update Manager は、システムによって完了した処理の監視に役立つイベントを表示します。

表 11-1. Update Manager のイベント

タイプ	メッセージ テキスト	操作
情報	ホストのパッチ定義を正常にダウンロードしました。新しいパッチ： <i>number_of_patches</i> 。	
Error	ホストのパッチ定義をダウンロードできませんでした。	ネットワーク接続を確認し、メタデータ ソースに到達可能であることを確認します。
情報	ホストのパッチ パッケージを正常にダウンロードしました。新しいパッケージ： <i>number_of_packages</i> 。	
Error	ホストのパッチ パッケージをダウンロードできませんでした。	ネットワーク接続を確認し、パッチ ソースに到達可能であることを確認します。
情報	正常にダウンロードしたことを示す通知です。新しい通知： <i>number_of_notifications</i> 。	
Error	通知をダウンロードできませんでした。新しい通知: 0	ネットワーク接続を確認します。
情報	<i>vSphere_object_name</i> のスキャンが正常に終了しました。	
情報	オブジェクト <i>vSphere_object_name</i> をスキャンしています。	
Error	<i>vSphereHost</i> アップグレードのスキャンが進行中です。ESX v3 構成から ESX v4 <i>vSphere_object_name</i> への移行はユーザーによってキャンセルされました。	

表 11-1. Update Manager のイベント（続き）

タイプ	メッセージ テキスト	操作
Error	<i>vSphere_object_name</i> をスキャンできませんでした。	Update Manager のログ (vmware-vum-server-log4cpp.log) でスキャンのエラーを確認します。
警告	<i>patch_name</i> のパッチの不足が <i>vSphere_object_name</i> のスキャン中に発見されました。パッチ定義を再度ダウンロードすると問題が解決する可能性があります。	
情報	<i>vSphere_object_name</i> の VMware Tools のアップグレードを正常にスキャンしました。	
Error	<i>vSphere_object_name</i> の VMware Tools アップグレードをスキャンできませんでした。	
警告	<i>vSphere_object_name</i> には VMware Tools がインストールされていません。VMware vSphere Update Manager は、すでにインストールされている VMware Tools のアップグレードのみサポートしています。	
警告	<i>virtual_machine_name</i> の VMware Tools アップグレードのスキャンは実行されませんでした。VMware Tools アップグレードのスキャンは、ESXi 6.0 以降で実行されている仮想マシンに対してのみサポートされます。	
警告	<i>virtual_machine_name</i> の VMware Tools アップグレードは実行されませんでした。VMware Tools アップグレードは、ESXi 6.0 以降で実行されている仮想マシンに対してのみサポートされます。	
Error	仮想マシンの接続状態が無効なため <i>virtual_machine_name</i> をスキャンできませんでした : <i>virtual_machine_connection_state</i> 。	仮想マシンの状態を確認します。スキャンを円滑に行うために仮想マシンを再起動します。
Error	ホストの接続状態が無効なため <i>host_name</i> をスキャンできませんでした : <i>host_connection_state</i> 。	ホストの状態を確認します。スキャンを円滑に行うためにホストを再起動します。
情報	<i>vSphere_object_name</i> の修正に成功しました。	
情報	オブジェクト <i>vSphere_object_name</i> を修正しています。	
Error	<i>vSphere_object_name</i> を修正できませんでした。	Update Manager のログ (vmware-vum-server-log4cpp.log) で修正のエラーを確認します。
情報	<i>vSphere_object_name</i> の VMware Tools が正常にアップグレードされました。	
Error	<i>vSphere_object_name</i> の VMware Tools をアップグレードできませんでした。	
情報	<i>virtual_machine_name</i> の仮想マシン電源入れ直し時に、VMware Tools アップグレードのオプションを正常に有効化しました。	
Error	<i>virtual_machine_name</i> の仮想マシン電源入れ直し時に、VMware Tools アップグレードのオプションを有効にできませんでした。	
情報	<i>virtual_machine_name</i> の仮想マシン電源入れ直し時に、VMware Tools アップグレードのオプションを正常に無効にしました。	
Error	<i>virtual_machine_name</i> の仮想マシン電源入れ直し時に、VMware Tools アップグレードのオプションを無効にできませんでした。	

表 11-1. Update Manager のイベント（続き）

タイプ	メッセージ テキスト	操作
Error	仮想マシンの接続状態が無効なため <i>virtual_machine_name</i> を修正できませんでした : <i>virtual_machine_connection_state</i> .	仮想マシンの状態を確認します。修正を円滑に行うために仮想マシンを再起動します。
Error	ホストの接続状態が無効なため <i>host_name</i> を修正できませんでした : <i>host_connection_state</i> .	ホストの状態を確認します。修正を円滑に行うためにホストを再起動します。
情報	<i>vSphere_object_name</i> が正常にステージングされました。	
Error	<i>vSphere_object_name</i> をステージングできませんでした。 <i>error_message</i> .	
情報	ホスト <i>host_name</i> へのパッチをステージングしています。	
Error	ホストの接続状態が無効なため <i>host_name</i> へのパッチをステージングできませんでした : <i>host_connection_state</i> .	
Error	OS <i>operating_system_name</i> がサポートされていないか、不明なため、 <i>vSphere_object_name</i> でのスキャンまたは修正はサポートされていません。	
情報	VMware vSphere Update Manager ダウンロード アラート (重要/合計) : ESX data.esxCritical/data.esxTotal。	ダウンロードされたパッチの数に関する情報を示しています。
情報	VMware vSphere Update Manager 通知ダウンロード アラート	
情報	VMware vSphere Update Manager リコール アラート	
情報	VMware vSphere Update Manager リコール修正アラート	
情報	VMware vSphere Update Manager 情報通知 (中) アラート	
情報	VMware vSphere Update Manager 情報通知 (重要) アラート	
情報	VMware vSphere Update Manager 情報通知 (最重要) アラート	
Error	<i>virtual_machine_name</i> をスキャンできませんでした。 <i>host_name</i> がサポート対象外のバージョン <i>host_version</i> です。	スキャンできる仮想マシンについての最新の情報は、リリース ノートを参照してください。
Error	<i>virtual_machine_name</i> を修正できませんでした。 <i>host_name</i> がサポート対象外のバージョン <i>host_version</i> です。	スキャンできるホストについての最新の情報は、リリース ノートを参照してください。
Error	<i>host_name</i> のパッチをスキャンできませんでした。サポート対象外のバージョン <i>host_version</i> です。	スキャンできる ESXi ホストについての最新の情報は、リリース ノートを参照してください。
Error	<i>host_name</i> にパッチをステージングできませんでした。サポート対象外のバージョン <i>host_version</i> です。	ESXi5.0 以降を実行しているホストにパッチをステージングできます。
Error	<i>host_name</i> を修正できませんでした。サポート対象外のバージョン <i>host_version</i> です。	修正できる ESXi ホストについての最新の情報は、リリース ノートを参照してください。
Error	実行する操作に必要な <i>vSphere_object_name</i> の VMware vSphere Update Manager ライセンスがありません。	必要なライセンスを取得して、目的のタスクを完了します。
警告	VMware vSphere Update Manager でストレージ容量が不足しています。場所 : <i>path_location</i> 。使用可能な容量 : <i>free_space</i> 。	ストレージを追加します。

表 11-1. Update Manager のイベント（続き）

タイプ	メッセージ テキスト	操作
警告	VMware vSphere Update Manager のストレージ容量が極めて少なくなっています! 場所: <i>path_location</i> 。使用可能な容量: <i>free_space</i> 。	ストレージを追加します。
Error	<i>virtual_machine_name</i> で要求された処理の実行中に不明な内部エラーが発生しました。ログで詳細を確認し、操作をやり直してください。	
Error	<i>vSphere_object_name</i> にパッチをインストールできませんでした。	
情報	パッチ <i>patch_ID</i> のインストールがホスト <i>host_name</i> で開始しました。	
情報	<i>host_name</i> へのパッチ <i>patch_ID</i> のインストールが成功しました。	
情報	次の追加のパッチは、 <i>vSphere_object_name</i> 上のインストールの競合を解決するために含められます: <i>message</i> 。	
情報	<i>vSphere_object_name</i> でのインストールの競合を解決するために、次の追加パッチをベースラインに含める必要がある可能性があります: <i>message</i> 。	
情報	VMware vSphere Update Manager は <i>vSphere_object_name</i> でのインストールの競合を解決するパッチを見つけることができませんでした。	
情報	<i>vSphere_object_name</i> 上のパッチのインストールに成功しました。	
情報	ホスト <i>host_name</i> の再起動を開始します。	
情報	ホスト <i>host_name</i> が再起動するのを待機しています。	
情報	ホスト <i>host_name</i> は正常に再起動しました。	
Error	ホスト <i>host_name</i> を再起動できません。	
Error	パッチ <i>patch_name</i> を <i>host_name</i> にステージングできません。	
情報	<i>host_name</i> へのパッチのステージングに成功しました。	
情報	<i>host_name</i> 上のパッチ <i>patch_IDs</i> のステージングを開始します。	
情報	Sysprep 設定をリストアします。	
情報	修正中は Sysprep を使用できません。	
情報	実態のない仮想マシン <i>virtual_machine_name</i> をスキャンできませんでした。	
情報	実態のない仮想マシン <i>virtual_machine_name</i> を修正できませんでした。	
Error	次のパッチのパッチ パッケージをダウンロードできませんでした: <i>message</i> 。	ネットワーク接続を確認し、パッチ ソースに到達可能であることを確認します。
警告	サポートされていないボリューム <i>volume_label</i> が <i>virtual_machine_name</i> にあります。この仮想マシンのスキャン結果は、不完全な可能性があります。	

表 11-1. Update Manager のイベント（続き）

タイプ	メッセージ テキスト	操作
情報	<i>vSphere_object_name</i> でタスクのキャンセルを開始しています。	
警告	エンティティ <i>vSphere_object_name</i> に、指定時間内に終了できない実行中のタスクがあります。操作は中断されます。	
警告	Linux 仮想マシン <i>virtual_machine_name</i> では、アクションはサポートされていません。VMware Tools がインストールされていないか、マシンを起動できません。	
情報	<i>vSphere_object_name</i> ファイアウォール ポートを開きます。	
情報	<i>vSphere_object_name</i> ファイアウォール ポートを閉じます。	
情報	<i>vSphere_object_name</i> のパッチ定義が見つかりません。パッチ定義を最初にダウンロードしてください。	
情報	<i>vSphere_object_name</i> のパッチ定義が破損しています。ログで詳細を確認してください。パッチ定義を再度ダウンロードすると問題が解決する可能性があります。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：パーティションをクリアしていません。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：物理ハード ドライブのパーティションを作成しています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：仮想ハード ドライブのパーティションを作成しています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：ファイル システムをマウントしています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：パッケージをインストールしています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：ESXi v3 構成を ESXi v4 に移行しています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：ネットワーク構成をインストールしています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：タイムゾーンを設定しています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：キーボードを設定しています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：言語を設定しています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：認証情報を構成しています。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：root パスワードを設定していません。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：起動セットアップ。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です：ポストインストール スクリプトを実行中です。	
情報	ホストのアップグレード インストーラが完了しました。	

表 11-1. Update Manager のイベント（続き）

タイプ	メッセージ テキスト	操作
Error	ホストのアップグレード インストーラが停止しました。	
情報	ホストのアップグレードが進行中です。	
Error	ホスト バージョン <i>host_version</i> については、アップグレードがサポートされていません。	
Error	パーティション レイアウトに互換性がないため、ホストをアップグレードできません。	
Error	アップグレードにはルート パーティションに最低 <i>disk_size</i> MB の空き容量が必要ですが、 <i>disk_size</i> MB しか検出されませんでした。	
Error	アップグレードには起動バンクに最低 <i>disk_size</i> MB の空き容量が必要ですが、 <i>disk_size</i> MB しか検出されませんでした。	
Error	アップグレードには VMFS データストアに最低 <i>disk_size</i> MB の空き容量が必要ですが、 <i>disk_size</i> MB しか検出されませんでした。	
警告	ホストに十分なメモリがありません：必要な容量は <i>memory_size</i> MB です。検出された空き容量は <i>memory_size</i> MB です。	
Error	ESX 構成ファイル <i>configuration_file</i> にエラーがあります。	
Error	パスワード暗号化スキームに互換性がないため、パスワードを移行できません。	
警告	サポートされていないデバイスがホストで見つかりました。	
警告	ホストで見つかったソフトウェア モジュール <i>modules</i> は、アップグレード イメージの一部ではありません。これらのモジュールはアップグレード時に削除されます。	
警告	ホストにインストールされている Cisco Nexus 1000v vNetwork Distributed Switch 機能は、アップグレード時に削除されます。	
警告	アップグレード イメージ内の Cisco Nexus 1000V vNetwork Distributed Switch ソフトウェア パッケージ <i>package_name</i> は、ホストにインストールされている Cisco Nexus 1000v ソフトウェア パッケージ <i>package_name</i> と互換性がありません。ホストをアップグレードすると、この機能がホストから削除されます。	
警告	アップグレード イメージには Cisco Nexus 1000V vNetwork Distributed Switch ソフトウェア パッケージが含まれていません。ホストをアップグレードすると、この機能がホストから削除されます。	
警告	アップグレード イメージ内の Cisco Nexus 1000V vNetwork Distributed Switch ソフトウェア パッケージ <i>package_name</i> は、vDS を管理する Cisco Nexus 1000v VSM と互換性がありません。ホストをアップグレードすると、この機能がホストから削除されます。	
警告	アップグレード イメージには、vDS を管理する Cisco Nexus 1000V VSM と互換性がある Cisco Nexus 1000v vNetwork Distributed Switch ソフトウェア パッケージが含まれていません。ホストをアップグレードすると、この機能がホストから削除されます。	
警告	ホストにインストールされている EMC PowerPath モジュール <i>module</i> は、アップグレード時に削除されます。	

表 11-1. Update Manager のイベント（続き）

タイプ	メッセージ テキスト	操作
Error	アップグレードのプレチェック スクリプト エラー。	
情報	<i>vSphere_object_name</i> の仮想ハードウェア アップグレードを正常にスキャンしました。	
Error	<i>vSphere_object_name</i> の仮想ハードウェア アップグレードをスキャンできませんでした。	
Error	VMware Tools が最新バージョンでないため、 <i>virtual_machine_name</i> の仮想ハードウェア アップグレードを実行できませんでした。仮想ハードウェアをアップグレードするには、最新バージョンの VMware Tools が必要です。	
Error	VMware Tools の状態が不明なため、 <i>virtual_machine_name</i> の仮想ハードウェア アップグレードを実行できませんでした。仮想ハードウェアをアップグレードするには、最新バージョンの VMware Tools が必要です。	
Error	VMware Tools がインストールされていないため、 <i>virtual_machine_name</i> の仮想ハードウェア アップグレードを実行できませんでした。仮想ハードウェアをアップグレードするには、最新バージョンの VMware Tools が必要です。	
Error	VMware Tools の状態が VMware vSphere で管理されていないため、 <i>virtual_machine_name</i> の仮想ハードウェア アップグレードを実行できませんでした。仮想ハードウェアをアップグレードするには、最新バージョンの VMware Tools が必要です。	
警告	<i>virtual_machine_name</i> の仮想ハードウェア アップグレードのスキャンは実行されませんでした。仮想ハードウェア アップグレードのスキャンは、ESXi 6.0 以降で実行されている仮想マシンに対してのみサポートされます。	
警告	<i>virtual_machine_name</i> の仮想ハードウェア アップグレードは実行されませんでした。仮想ハードウェア アップグレードは、ESXi 6.0 以降で実行されている仮想マシンに対してのみサポートされます。	
情報	<i>vSphere_object_name</i> の仮想ハードウェアが正常にアップグレードされました。	
Error	<i>vSphere_object_name</i> の仮想ハードウェアをアップグレードできませんでした。	
Error	仮想マシン <i>virtual_machine_name</i> には、VMware vSphere Update Manager または VMware vCenter Server がインストールされています。この仮想マシンは、スキャンや修正の際に無視されません。	Update Manager または vCenter Server がインストールされている仮想マシンは、スキャンまたは修正されません。
Error	ホスト <i>host_name</i> に存在する仮想マシン <i>virtual_machine_name</i> には VMware vSphere Update Manager または VMware vCenter Server がインストールされています。修正を続行するには、この仮想マシンをほかのホストに移動する必要があります。	Update Manager または vCenter Server がインストールされている仮想マシンが、修正対象のホストに存在している場合、その仮想マシンは別のホストに移行されます。
Error	VMware Tools の応答待機中にエラーが発生しました。仮想マシン <i>virtual_machine_name</i> で VMware Tools が実行されていることを確認してください。	

表 11-1. Update Manager のイベント（続き）

タイプ	メッセージ テキスト	操作
Error	<i>virtual_machine_name</i> にインストールされたバージョンの VMware Tools は、自動アップグレードをサポートしていません。VMware Tools は手動でアップグレードしてください。	
情報	サスペンド中の仮想マシン <i>virtual_machine_name</i> がスキップされました。	
警告	ホスト <i>host_name</i> は VMware DPM 対応クラスタの一部であるため、修正できません。	Update Manager は有効な VMware DPM を持つクラスタ内のホストを修正しません。VMware DPM を無効にします。
警告	ホスト <i>host_name</i> は、VMware DPM が有効になっているクラスタの一部であるため、スキャンできません。	Update Manager は有効な VMware DPM を持つクラスタ内のホストをスキャンしません。VMware DPM を無効にします。
警告	ホスト <i>host_name</i> は、VMware DPM が有効になっているクラスタの一部であるため、ステージングできません。	Update Manager は有効な VMware DPM を持つクラスタ内のホストにパッチをステージングしません。VMware DPM を無効にします。
警告	ホスト <i>host_name</i> は、HA アドミッション コントロールが有効になっているクラスタの一部であるため、修正できません。	Update Manager は有効な HA アドミッション コントロールを持つクラスタ内のホストを修正しません。HA アドミッション コントロールを無効にしてください。
警告	ホスト <i>host_name</i> は、Fault Tolerance が有効なプライマリ仮想マシンまたはセカンダリ仮想マシンを 1 つ以上含んでいるため、修正できません。	Update Manager は、Fault Tolerance が有効な仮想マシンがあるクラスタ内のホストを修正しません。Fault Tolerance を無効にします。
警告	ホスト <i>host_name</i> は DPM 対応クラスタの一部であり、Fault Tolerance が有効になった 1 つ以上のプライマリ仮想マシンまたはセカンダリ仮想マシンを含むため、修正されません。	Update Manager は、有効な VMware DPM を持ち、Fault Tolerance が有効な仮想マシンがあるクラスタ内のホストを修正しません。VMware DPM と Fault Tolerance を無効にします。
警告	ホスト <i>host_name</i> に Fault Tolerance が有効な仮想マシンがあります。異なるパッチをクラスタ内のホストに適用する場合、Fault Tolerance を再度有効にすることはできません。	Update Manager は、Fault Tolerance が有効な仮想マシンがあるクラスタ内のホストを修正しません。Fault Tolerance を無効にします。
警告	ホスト <i>host_name</i> に Fault Tolerance が有効な仮想マシンがあります。セカンダリ仮想マシンがあるホストが修正対象として選択されていません。その結果、Fault Tolerance を再度有効にすることはできません。	Update Manager は、Fault Tolerance が有効な仮想マシンがあるクラスタ内のホストを修正しません。Fault Tolerance を無効にします。
警告	ホスト <i>host_name</i> は PXE 起動の ESXi ホストです。バージョン 4.x の PXE 起動の ESXi ホストでは、スキャン、ステージング、および修正がサポートされません。	
警告	ホスト <i>host_name</i> は PXE 起動の ESXi 5.0 ホストです。このホストの修正を有効にしていません。	PXE 起動のバージョン 5.0 の ESXi ホストの修正を有効にできます。

表 11-1. Update Manager のイベント（続き）

タイプ	メッセージ テキスト	操作
警告	取り外し可能デバイスに接続されている仮想マシンがあるため、ホスト <i>host_name</i> を修正できません。修正の前に、すべての取り外し可能デバイスを切断します。	Update Manager は、CD/DVD またはフロッピー ドライブなどの取り外し可能デバイスに接続されている仮想マシンがあるクラスタ内のホストを修正しません。ホスト上の仮想マシンからすべての取り外し可能デバイスを切断します。
Error	ホスト <i>host_name</i> はメンテナンス モードに切り替えられないため修正できません。	
Error	ホスト <i>host_name</i> はメンテナンス モードに切り替えられないため (<i>reason</i>) 修正できません。	
Error	仮想マシン <i>virtual_machine_name</i> を <i>source_host_name</i> から <i>destination_host_name</i> に移行できません。	仮想マシンを vMotion で移行できず、ホストでメンテナンス モードを開始できない場合、Update Manager はホストを修正しません。
Error	ホスト <i>host_name</i> 上の仮想マシン <i>virtual_machine_name</i> に対して Fault Tolerance を有効にできません。	
Error	ホスト <i>host_name</i> 上の仮想マシン <i>virtual_machine_name</i> に対して Fault Tolerance を無効にできません。	Update Manager は、Fault Tolerance が有効な仮想マシンがあるホストをスキャン、ステージング、または修正しません。
Error	ホスト <i>host_name</i> に対する vMotion での移行のため、仮想マシン <i>virtual_machine_name</i> の互換性を確認できません。	
Error	VMware vSphere Update Manager はクラスタ <i>cluster_name</i> の HA アドミッション コントロール/DPM の設定を元の値にリストアできませんでした。これらの値はパッチ インストールのために変更されています。クラスタ設定を確認し、手動でリストアします。	
Error	VMware vSphere Update Manager は、1 つ以上の仮想マシンの最初の Fault Tolerance 状態をリストアできませんでした。Fault Tolerance の設定を確認し、手動でリストアしてください。	
Error	VMware vSphere Update Manager は、クラスタ <i>cluster_name</i> 内のすべての仮想マシンについて、元の電源状態をリストアできませんでした。これらの値はパッチ インストールのために変更されています。仮想マシンの元の電源状態は、手動でリストアできます。	
Error	VMware vSphere Update Manager は、クラスタ <i>cluster_name</i> 内のすべての仮想マシンについて、元のリムーバブル デバイス接続設定をリストアできませんでした。これらの値はパッチ インストールのために変更されています。仮想マシンの設定は、手動でリストアできます。	
Error	ホストにアップグレード エージェントを展開できません。	
Error	ホストの再起動が確認できません。アップグレードを完了するには、ホスト <i>host_name</i> を手動で再起動してください。	ホストを再起動します。
Error	ホストでアップグレード スクリプトを実行できません。	
Error	ホストのパッチ <i>patch_name</i> が、ベースラインの入力データにあるパッチ <i>patch_name</i> と競合しているため、ステージングができません。いずれかのパッチをベースラインから削除し、ステージング操作を再試行してください。	いずれかの競合するパッチを削除し、ステージング操作を再試行します。

表 11-1. Update Manager のイベント（続き）

タイプ	メッセージ テキスト	操作
Error	ホスト パッチ <i>patch_name</i> はホスト上にインストールされたパッケージ <i>package_name</i> と競合しており、ステージングできません。パッチをベースラインから削除するか、または推奨される追加のパッチをベースラインに含め、ステージング操作を再試行してください。	競合するパッチをベースラインから削除し、ステージングを再試行します。
Error	ホスト パッチ <i>patch_name</i> はベースラインに含まれるパッチ <i>patch_name</i> と競合しており、修正できません。いずれかのパッチをベースラインから削除し、修正を再試行してください。	競合するいずれかのパッチをベースラインから削除し、修正を再試行します。
Error	ホスト パッチ <i>patch_name</i> はホスト上にインストールされたパッケージ <i>package_name</i> と競合しており、修正できません。パッチをベースラインから削除し、または推奨される追加のパッチをベースラインに含め、修正操作を再試行してください。	競合するパッチをベースラインから削除し、修正を再試行します。
情報	パッケージ <i>package_name</i> は正常にインポートされました。	
Error	パッケージ <i>package_name</i> のインポートに失敗しました。	
情報	<i>number_bulletins</i> の新しい通知がオフライン バンドルで正常にアップロードされました。	
Error	ホスト パッチ オフライン バンドルのアップロードに失敗しました。	
情報	ホスト パッチ オフライン バンドルのアップロードがユーザーによってキャンセルされました。	
情報	スキャン、修正、およびステージングは、PXE ブートされた ESXi ホストではサポートされません。	
Error	ホストを修正できません。ホストで実行中の仮想マシンからリムーバブル デバイスを接続解除することはできません。	
Error	PXE 起動の ESXi ホスト <i>host_name</i> ではステージングと修正がサポートされています。	
警告	パッチ <i>patch_name</i> の要件 <i>prerequisite_name</i> がホスト上にインストールされていない、またはベースラインに含まれていないため、このパッチはステージング操作から除外されました。パッチまたは拡張機能ベースラインに要件を含め、ステージング操作を再試行してください。必要に応じてベースライン グループにベースラインを追加し、ステージング操作を実行することもできます。	パッチまたは拡張機能ベースラインに要件を含め、ステージング操作を再試行してください。
警告	パッチ <i>patch_name</i> の要件 <i>prerequisite_name</i> がホスト上にインストールされていない、またはベースラインに含まれていないため、このパッチは修正操作から除外されました。パッチまたは拡張機能ベースラインに要件を含め、修正を再試行してください。必要に応じてベースライン グループにベースラインを追加し、修正を実行することもできます。	パッチまたは拡張機能ベースラインに要件を含め、ステージング操作を再試行してください。
Error	ホスト <i>host_name</i> の電源状態が <i>state</i> のため、このホストをスキャンできません。	
Error	ホスト <i>host_name</i> の電源状態が <i>state</i> のため、このホストにパッチをステージングできません。	
Error	ホスト <i>host_name</i> の電源状態が <i>state</i> のため、このホストを修正できません。	

表 11-1. Update Manager のイベント（続き）

タイプ	メッセージ テキスト	操作
Error	ホスト <i>host_name</i> の電源状態が無効のため、このホストをスキャンできません。このホストはスタンバイ モードにあり、ホストの個別の VMware DPM 設定は無効または手動に設定されています。	ホストを手動でパワーオンします。
Error	ホスト <i>host_name</i> の電源状態が無効なため、このホストにパッチをステージングできませんでした。このホストはスタンバイ モードにあり、ホストの個別の VMware DPM 設定は無効または手動に設定されています。	ホストを手動でパワーオンします。
Error	ホスト <i>host_name</i> の電源状態が無効なため、このホストを修正できませんでした。このホストはスタンバイ モードにあり、ホストの個別の VMware DPM 設定は無効または手動に設定されています。	ホストを手動でパワーオンします。
情報	PXE 起動の ESXi ホスト <i>host_name</i> をスキャンしています。	
警告	PXE 起動の ESXi ホスト <i>host_name</i> へのパッチをステージングしています。ステージングされたパッチを修正する前にホストを再起動すると、これらのパッチのステージングが解除され、パッチが失われます。	
警告	PXE ブートされた ESXi ホスト <i>host_name</i> を修正しています。ホストに関連するイメージ プロファイルを更新する前にホストを再起動すると、適用されたパッチのインストールは残らずに失われます。	
警告	PXE ブートされた ESXi ホスト <i>host_name</i> では、インストール時にホストの再起動を必要とするパッチのステージングがサポートされていません。イメージ プロファイルを更新してください。	
警告	ホストの再起動を必要とするパッチを基準とした、PXE ブートされた ESXi ホスト <i>host_name</i> の修正はサポートされていません。これらのパッチをベースラインから削除して、再起動を必要としないパッチをインストールしてください。再起動を必要とするパッチをインストールする場合は、イメージ プロファイルを更新してください。	
Error	ホスト <i>host_name</i> に VMware vSphere Update Manager のパッチ ストアからファイルをダウンロードできません。ネットワーク接続およびファイアウォールの設定を確認し、構成されているパッチ ストアにホストがアクセスできることを確認してください。	
Error	<i>host_name</i> の修正に失敗しました。ホストをメンテナンス モードに切り替えられませんでした。	
Error	<i>host_name</i> の修正に失敗しました。ホストのメンテナンス モードを終了できませんでした。	
Error	<i>host_name</i> の修正に失敗しました。修正後のホストの再起動が行われていません。	
Error	<i>host_name</i> の修正に失敗しました。VMware vSphere Update Manager がホストの再接続待ちでタイムアウトになりました。	
Error	<i>host_name</i> の修正に失敗しました。VMware vSphere Update Manager が再起動後のホストの再接続待ちでタイムアウトになりました。	
Error	<i>host_name</i> の修正に失敗しました。ホスト上の 1 つ以上の仮想マシンで、電源状態またはデバイス接続状態のリストアに失敗しました。	

表 11-1. Update Manager のイベント（続き）

タイプ	メッセージ テキスト	操作
Error	<i>host_name</i> の修正に失敗しました。パッチ メタデータが破損しています。原因として、メタデータの内容が無効なフォーマットであることが考えられます。パッチを再度ダウンロードしてください。	
Error	<i>host_name</i> の修正に失敗しました。1つ以上のソフトウェア パッケージをダウンロード中にエラーが発生しました。VMware vSphere Update Manager のネットワーク接続設定を確認してください。	
Error	<i>host_name</i> の修正に失敗しました。ホストに、リムーバブル メディア デバイスが接続された仮想マシン <i>machine</i> があります。そのため、ホストをメンテナンス モードに切り替えられません。リムーバブル デバイスの接続を解除してからやり直してください。	
Error	ホスト <i>host_name</i> での修正用に選択されたパッチは、競合がある他のパッチに依存しています。	
Error	<i>host_name</i> の修正に失敗しました。	

Update Manager パッチ リポジトリ

12

Update Manager は、パッチおよび拡張機能のメタデータを格納します。

パッチ リポジトリは、次のようにさまざまなタスクに使用できます。

- パッチおよび拡張機能を管理する
- 新しいパッチおよび拡張機能を確認する
- パッチおよび拡張機能の詳細を表示する
- パッチまたは拡張機能が含まれているベースラインを表示する
- リコールされたパッチを表示する
- パッチをインポートする

使用している vCenter Server システムが共通の vCenter Single Sign-On ドメインによって他の vCenter Server システムに接続されていて、1 つ以上の Update Manager インスタンスがある場合は、表示する Update Manager リポジトリを選択できます。

vSphere Web Client の場合、パッチ リポジトリは、Update Manager の管理画面の [管理] タブにある [パッチ リポジトリ] タブで確認できます。

vSphere Client の場合、パッチ リポジトリは、Update Manager のホーム ビューの [アップデート] タブから使用できます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [ベースラインからのパッチの追加または削除](#)

ベースラインからのパッチの追加または削除

Update Manager の管理ビューからカスタム パッチ ベースラインの内容を編集することができます。

前提条件

必須権限 : VMware vSphere Update Manager. ベースラインの管理

手順

- 1 vSphere Web Client のホーム ビューで Update Manager アイコンを選択します。

- 2 [オブジェクト] タブから、Update Manager インスタンスを選択します。

また [オブジェクト] タブには、Update Manager インスタンスの接続先の vCenter Server システムがすべて表示されます。

- 3 [管理] タブをクリックし、[パッチ リポジトリ] をクリックします。
- 4 リストからパッチを選択し、[ベースラインに追加] をクリックします。

ベースラインを含む [編集] ダイアログ ボックスが開きます。

- 5 パッチを含めるベースラインを選択します。

- ベースラインにパッチを追加するには、リストでそのベースラインを選択します。
- ベースラインからパッチを削除するには、リストでそのベースラインの選択を解除します。

注： ベースラインからパッチを削除する場合を除き、すでに選択されているベースラインの選択は解除しないでください。

- 6 [OK] をクリックします。

トラブルシューティング

13

Update Manager の実行時または使用時に問題が発生した場合は、トラブルシューティングのトピックを参照して問題を理解し、回避策があれば解決できます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- Update Manager サーバをアンインストールした後に Update Manager クライアント インターフェイスが vSphere Web Client に残る
- Update Manager サーバとの接続の切断、または単独 vCenter Server システムでの vCenter Server との接続の切断
- Update Manager ログ バンドルの収集
- Update Manager および vCenter Server ログ バンドルの収集
- ログ バンドルが生成されない
- 要件が満たされていないためにホスト エクステンションの修正またはステージングが失敗する
- 適用可能なベースラインのアップデートがない
- コンプライアンス レポートで、アップデートすべてが「該当なし」
- コンプライアンス レポートで、アップデートすべてが「不明」
- VMware Tools がインストールされていないと VMware Tools のアップグレードが失敗する
- ESXi ホストのスキンの失敗
- ESXi ホストのアップグレードの失敗
- Update Manager リポジトリを削除できない
- コンプライアンス状態が「互換性なし」になる

Update Manager サーバをアンインストールした後に Update Manager クライアント インターフェイスが vSphere Web Client に残る

Update Manager サーバをアンインストールした後、[Update Manager] タブが vSphere Web Client に表示されたままになることがあります。

問題

[スキャン] および [添付] ボタンが有効であるように見えますが、クリックすると次のエラー メッセージが表示されます。

```
VMware vSphere Update Manager への接続中にエラーが発生しました。
```

Update Manager サーバのアンインストール後にも、Update Manager インストール ディレクトリにファイルが残っている場合があります。これは、以降の Update Manager のインストールに影響しません。

解決方法

- ◆ ログアウトし、再度 vSphere Web Client にログインします。

[Update Manager] タブは、vSphere Web Client に表示されなくなります。

Update Manager サーバとの接続の切断、または単独 vCenter Server システムでの vCenter Server との接続の切断

ネットワーク接続に障害が発生したり、サーバが再起動されると、Update Manager プラグインと Update Manager サーバまたは vCenter Server システムの間の接続が中断される場合があります。

問題

サーバが再起動されたり停止されたりすると、Update Manager クライアント プラグインと Update Manager サーバまたは vCenter Server システムの間の接続が中断されます。そのような場合、次のような症状が見られません。

- Update Manager クライアント プラグインにより再接続ダイアログが表示され、15 ～ 20 秒後に接続失敗のメッセージが表示される。プラグインが無効になる。
- Update Manager クライアント プラグインにより再接続ダイアログが表示される。15 ～ 20 秒以内にダイアログが消え、クライアント プラグインが使用可能になる。
- vSphere Client により再接続ダイアログが表示される。しばらくすると、ログイン フォームが表示される。

原因

- Update Manager サーバが停止し、15 ～ 20 秒以上使用できなくなる。
- Update Manager サーバが再起動し、15 ～ 20 秒以内にサービスが利用可能になる。
- vCenter Server が停止する。

解決方法

- ◆ Update Manager サーバが停止している場合は、Update Manager サービスを開始して、Update Manager クライアント プラグインを再度有効にします。
- ◆ Update Manager サーバが再起動中の場合は、サーバが利用可能になるまで待ちます。
- ◆ vCenter Server サービスが停止している場合は、vCenter Server サービスを開始して、Update Manager クライアント プラグインを有効にします。

Update Manager ログバンドルの収集

診断の目的で Update Manager サーバの最近のイベントに関する情報を収集できます。

手順

- 1 Update Manager がインストールされているマシンにログインします。

完全なログセットを取得するには、Update Manager をインストールするときに使ったユーザー名とパスワードでログインします。

- 2 Update Manager ログバンドルを生成します。

- Microsoft Windows Server 2008 の場合は、[スタート] - [すべてのプログラム] - [VMware] - [Update Manager ログバンドルの生成] を選択します。
- Microsoft Windows Server 2012 の場合は、[スタート] をクリックし、[Update Manager ログバンドルの生成] と入力して、Enter キーを押します。

結果

ログファイルは ZIP パッケージとして生成され、現在のユーザーのデスクトップに保存されます。

Update Manager および vCenter Server ログバンドルの収集

Update Manager サーバと vCenter Server が同じコンピュータにインストールされている場合、その Update Manager サーバと vCenter Server システムの最近のイベントに関する情報を診断の目的で収集できます。

手順

- 1 vCenter Server と Update Manager がインストールされているコンピュータに管理者としてログインします。

- 2 vCenter Server ログバンドルを生成します。

- Microsoft Windows Server 2008 の場合は、[スタート] - [すべてのプログラム] - [VMware] - [vCenter Server ログバンドルの生成] を選択します。
- Microsoft Windows Server 2012 の場合は、[スタート] をクリックし、[vCenter Server ログバンドルの生成] と入力して、[Enter] キーを押します。

- 3 Update Manager ログバンドルを生成します。

- Microsoft Windows Server 2008 の場合は、[スタート] - [すべてのプログラム] - [VMware] - [Update Manager ログバンドルの生成] を選択します。
- Microsoft Windows Server 2012 の場合は、[スタート] をクリックし、[Update Manager ログバンドルの生成] と入力して、Enter キーを押します。

結果

vCenter Server と Update Manager のログファイルは ZIP パッケージとして生成され、現在のユーザーのデスクトップに保存されます。

ログバンドルが生成されない

スクリプトは正常に完了したように見えるものの、Update Manager のログバンドルが生成されないことがあります。Update Manager が使用する ZIP ユーティリティの制限により、ログバンドルの累計サイズは 2 GB 以下にする必要があります。ログが 2 GB を超えると、操作が失敗することがあります。

問題

Update Manager は、スクリプトの実行後にログバンドルを生成しません。

解決方法

1 Update Manager を実行するマシンにログインし、コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。

2 Update Manager がインストールされているディレクトリに移動します。

デフォルトの場所は C:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructure\Update Manager です。

3 スクリプトを実行し、vCenter Server ログを除外するには、次のコマンドを入力します。

```
cscript vum-support.wsf /n
```

/n オプションを指定すると、vCenter Server サポート バンドルをスキップし、Update Manager ログバンドルのみを収集するスクリプトを実行できます。

4 Enter を押します。

Update Manager ログバンドルが、ZIP パッケージとして正常に生成されます。

要件が満たされていないためにホスト エクステンションの修正またはステージングが失敗する

一部のホスト エクステンションの修正またはステージング操作は失敗します。これは、要件が満たされていないために、Update Manager が自動的にダウンロードおよびインストールしないためです。

問題

ホスト エクステンションの修正またはステージングが失敗することがあります。

原因

Update Manager はステージングおよび修正操作中に要件を満たしていないエクステンションを検出すると、これらをスキップし、不足している要件をイベントとして一覧表示します。ステージングおよび修正を続行するには、この要件をインストールする必要があります。

解決方法

1 不足している要件を確認するには、[コンプライアンス] ビューで [タスクおよびイベント] - [イベント] を選択します。

2 不足している要件のタイプに応じて、エクステンション ベースラインまたはパッチ ベースラインに不足している要件を手動で追加します。

- 3 (オプション) 新しいベースラインと元のベースラインを含むベースライン グループを作成します。
- 4 2つのベースラインを基準に、ホストを修正します。

適用可能なベースラインのアップデートがない

ベースラインは、VMware およびサードパーティの Web サイトから Update Manager がダウンロードするメタデータに基づきます。

問題

ESXi ホストのアップデートを取得できない場合があります。

原因

- Web サーバ プロキシの構成が正しくない。
- サードパーティのサーバを使用できない。
- VMware のアップデート サービスを使用できない。
- ネットワーク接続に問題がある。

解決方法

- ◆ 接続の設定を確認します。詳細については、[vSphere Web Client](#) での Update Manager ネットワーク設定の変更を参照してください。
- ◆ サードパーティの Web サイトが使用可能かどうかを確認してください。
- ◆ VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com>) が使用可能かどうかを確認してください。
- ◆ ネットワークを使用する別のアプリケーションが、期待どおりに機能するかどうかを確認してください。ネットワーク管理者に連絡して、ネットワークが正常に機能しているかどうかを確認してください。

コンプライアンス レポートで、アップデートすべてが「該当なし」

通常、スキャンの結果には、インストール済み、不足、該当なしという結果が混在しています。該当なしのエントリは、すべての結果が該当なしの場合、または該当するはずのパッチが該当なしになった場合にのみ問題になります。

問題

スキャンした結果、すべてのベースラインが「該当なし」としてマークされる場合があります。

原因

この状況は、通常、スキャン中にエラーが発生していることを示しています。

解決方法

- 1 サーバ ログで、スキャン タスクが失敗としてマークされているかを確認します。
- 2 スキャン操作を再実行します。

コンプライアンス レポートで、アップデートすべてが「不明」

スキャン処理では、添付されたベースラインおよびベースライン グループを基準として vSphere オブジェクトのコンプライアンス情報が生成されます。オブジェクトのコンプライアンス ステータスには、「適用可能なすべて」、「非準拠」、「互換性なし」、「不明」、および「準拠」があります。

問題

スキャンのすべての結果が「不明」として一覧表示されることがあります。

原因

このような状況は、通常スキャン処理の開始時にエラーが発生していることを示しています。または、スキャンがまったく行われていないことや、オブジェクトがスキャンでサポートされていないことを示している場合もあります。

解決方法

スキャンをスケジュール設定するか、手動でスキャンを開始します。

VMware Tools がインストールされていないと VMware Tools のアップグレードが失敗する

Update Manager は、ESXi 5.x 以降のホストで稼動する仮想マシンにインストールされている既存の VMware Tools のみをアップグレードします。

問題

コンプライアンスの状態が互換性のない仮想マシンを修正できないため、VMware Tools をアップグレードできません。

原因

仮想マシンに VMware Tools のインストールが見つからない場合、[ホストに合わせて VMware Tools をアップグレード] ベースライン、またはこのベースラインを含むベースライン グループで仮想マシンをスキャンすると、仮想マシンのコンプライアンスの状態は互換性のない状態になります。

解決方法

VMware Tools を手動でインストールするか、仮想マシンを右クリックし、[ゲスト] - [VMware Tools のインストール/アップグレード] を選択します。

ESXi ホストのスキャンの失敗

スキャン処理では、添付されたベースラインおよびベースライン グループを基準として vSphere オブジェクトのコンプライアンス情報が生成されます。場合によっては、ESXi ホストのスキャンに障害が発生することがあります。

問題

ESXi ホストのスキャン処理に失敗することがあります。

原因

vSphere インベントリにホストを追加したあと、VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクが正常に完了していない場合、ホストのパッチ メタデータはダウンロードされていません。

解決方法

ホストまたは仮想マシンを vSphere インベントリに追加したあと、スキャンを実行する前に、VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクを実行します。詳細については、[VMware vSphere Update Manager の更新ダウンロード タスクの実行](#) を参照してください。

ESXi ホストのアップグレードの失敗

アップグレード ベースラインまたはアップグレード ベースラインを含むベースライン グループを基準とする ESXi ホストの修正プロセスが失敗することがあります。

問題

ESXi ホストのアップグレードに失敗することがあります。

原因

/tmp ディレクトリの空き領域が 10MB 未満の ESXi ホストをアップグレードすると、Update Manager では修正プロセスが正常に完了したと表示されますが、ESXi ホストはアップグレードされません。

解決方法

- 1 Agent のデプロイが失敗した場合は、/tmp ディレクトリの空き領域が 10MB 以上あることを確認します。
- 2 修正プロセスを繰り返し、ホストをアップグレードします。

Update Manager リポジトリを削除できない

Update Manager サーバをアンインストールする場合、Update Manager リポジトリを削除します。

問題

Update Manager リポジトリを削除できない場合があります。

原因

ファイル名（パスを含む）に使用できる最大文字数は、オペレーティング システムのデフォルトで 255 文字に設定されています。

パッチとアップグレードのダウンロード プロセスの一部として、Update Manager が Update Manager リポジトリにダウンロードするファイルには、Windows の `MAX_PATH` よりも深いパスが指定されているものがあります。Windows の `MAX_PATH` よりも深いパスが指定されているファイルは、たとえば Windows Explorer を使用して開いたり、編集したり、削除したりすることはできません。

ネットワーク ドライブを、Update Manager リポジトリのフォルダ ツリーの深さとできるだけ同じ深さをもつフォルダにマッピングしてください。こうすることで、仮想パスが短くなります。

重要： ネットワーク ドライブと Update Manager リポジトリに対する必要な権限が与えられていることを確認してください。必要な権限が与えられていない場合、Update Manager リポジトリからファイルを削除できない場合があります。

解決方法

- ◆ ローカル フォルダをネットワーク ドライブにマッピングするには、コマンド プロンプトで次のコマンドを実行します。

```
subst Z: C:\Documents and Settings\All Users\VMware\VMware Update Manager\Data\hostupdate
```

たとえば、Update Manager がホストのアップグレードを格納する Update Manager リポジトリのフォルダのパスが C:\Documents and Settings\All Users\VMware\VMware Update Manager\Data\hostupdate であり、このパスの全体の長さが 255 文字を超える場合、ネットワーク ドライブを vaupgrade ディレクトリ（これを含む）か、さらに深いディレクトリにマッピングする必要があります。

コンプライアンス状態が「互換性なし」になる

スキャンを実行したあと、添付されたベースラインのコンプライアンス状態の互換性がなくなることがあります。コンプライアンス状態が「互換性なし」の場合は注意が必要で、解決するための操作が必要になります。

「互換性なし」の状態は、ベースライン内のアップデートが次のいずれかの状態であることが原因で発生します。

競合

アップデートが、ホストの既存のアップデートまたは Update Manager のパッチ リポジトリにある別のアップデートのいずれかと競合しています。Update Manager は競合のタイプをレポートします。競合は、ターゲット オブジェクトの問題を示すわけではありません。現在のベースラインを選択することで、競合が発生することのみを示します。ユーザーは、スキャン、修正、およびステージングを実行できます。ほとんどの場合、競合を解決するための操作を実行することが可能です。

競合する新規モジュール

ホストへのアップデートが、初めて提供されるソフトウェアの新しいモジュールですが、ホスト上の既存のアップデートまたは Update Manager リポジトリにある別のアップデートと競合しています。Update Manager は競合のタイプをレポートします。競合は、ターゲット オブジェクトの問題を示すわけではありません。現在のベースラインを選択することで、競合が発生することのみを示します。ユーザーは、スキャン、修正、およびステージングを実行できます。ほとんどの場合、競合を解決するための操作を実行する必要があります。

パッケージの不足

この状態は、アップデートのメタデータがデポにあるものの、対応するバイナリ ペイロードが存在しない場合に発生します。原因としては、特定のロケールのアップデートが製品に含まれていない、Update Manager のパッチ リポジトリが削除されたか破損している、Update Manager がインターネットにアクセスしてアップデートをダウンロードできない、または Update Manager リポジトリからアップグレード パッケージを手動で削除したことが考えられます。

インストール不能

アップデートをインストールできません。ターゲット オブジェクトに対するスキャン操作が成功しても、修正は実行できません。

互換性のないハードウェア

選択したオブジェクトのハードウェアに互換性がないか、またはアップデートのサポートに十分なリソースがありません。たとえば、32 ビットのホストに対してアップグレード スキャンを実行している、またはホストに十分なメモリが搭載されていない場合などです。

サポート対象外のアップグレード

アップグレード パスが正しくありません。たとえば、仮想マシンの現在のハードウェア バージョンが、ホストがサポートするバージョンより高い場合です。

アップデートが競合または競合する新規モジュールの状態にある

アップデートに競合があるため、正常なスキャンを実行したあと、添付されたベースラインのコンプライアンス状態が「互換性なし」となることがあります。アップデートがパッチの場合、アップデートが新規モジュールで「競合する新規モジュール」であると、アップデートの状態が競合します。

問題

ベースライン内のアップデートが Update Manager パッチ リポジトリ内の別のアップデートまたはホストの既存のアップデートと競合しているため、添付されたベースラインのステータスが「互換性なし」になります。

原因

- ベースラインに含まれているホスト アップデートが、すでにホストにインストールされている別のアップデートと競合する。
- ベースラインに含まれているホスト アップデートが、Update Manager リポジトリ内の他のアップデートと競合する。
- 動的ベースラインの条件によって、競合セットが発生する。
- コンテナ オブジェクトに添付されているベースラインが、フォルダ内の 1 つ以上のインベントリ オブジェクトと競合している。これは、間接的競合です。

解決方法

- ◆ ベースラインに含まれているアップデートが、すでにホストにインストールされている別のアップデートと競合する場合は、そのベースラインを分離するか、削除します。

アップデートの競合の解決方法が Update Manager によって示される場合は、その解決アップデートをベースラインに追加し、スキャン操作を再試行します。

- ◆ [パッチの詳細]ウィンドウまたは[エクステンションの詳細]ウィンドウを開き、競合に関する詳細と、選択したアップデートと競合しているもう一方のアップデートに関する詳細を参照します。
 - 競合するアップデートが同じベースラインにある場合、ベースラインから競合するアップデートを削除してから、スキャンをもう一度実行します。
 - 競合するアップデートが同じベースラインにない場合、競合を無視し、修正を開始することで、アップデートのインストールを続行します。
- ◆ 動的ベースラインの条件を編集するか、競合するパッチを除外して、もう一度スキャンします。

パッチの競合の解決方法が Update Manager によって示される場合は、その解決パッチをベースラインに追加し、スキャン操作を再実行します。
- ◆ 競合が間接的な場合、コンテナ オブジェクトを修正することはできますが、修正されるのは競合していないオブジェクトだけです。競合を解決するか、競合しているインベントリ オブジェクトを移動してから修正する必要があります。

アップデートがパッケージの不足状態にある

アップデートのパッケージが不足していると、添付されたベースラインのコンプライアンス状態が「互換性なし」となることがあります。

問題

ホストのアップグレード スキャンを実行したときに、そのホスト用のバイナリ パッケージが不足しているか、アップロードされていないか、または間違ったバイナリ パッケージがアップロードされていると、スキャンは失敗します。

解決方法

- 1 ホストのアップグレード ベースラインを編集し、必要なパッケージをインポートします。
- 2 スキャンを繰り返します。

アップデートがインストール不能状態にある

アップデートをオブジェクトにインストールできないため、スキャンを実行したあと、添付されたベースラインのコンプライアンス状態が「互換性なし」と表示されることがあります。

問題

インストールできないアップデートが含まれているため、添付されたベースラインのステータスが「互換性なし」になります。

原因

- VMware Tools がインストールされていない仮想マシンに「ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード」ベースラインが添付されている。[アップグレードの詳細] ウィンドウに、ステータスが「互換性なし」になる実際の原因が表示されます。

- VMware vSphere プラットフォームで管理されていない VMware Tools がある仮想マシンに、「ホストと整合するように VMware Tools をアップグレード」ベースラインが添付されている。[アップグレードの詳細] ウィンドウに、ステータスが「互換性なし」になる実際の原因が表示されます。

解決方法

- ◆ VMware Tools が仮想マシンにインストールされていない場合、VMware Tools のバージョンをインストールして、スキャン操作を再試行します。
- ◆ 仮想マシンの VMware Tools が VMware vSphere プラットフォームで管理されていない場合、ベースラインを分離し、アップグレードを手動で実行する必要があります。VMware Tools が OSP としてパッケージおよび配布されている場合に、VMware Tools をアップグレードする詳細については、『VMware Tools Installation Guide for Operating System Specific Packages』を参照してください。

アップデートがサポートされていないアップグレード状態にある

アップグレードがサポートされていないため、正常にスキャンを実行したあと、添付されたベースラインのコンプライアンス状態が「互換性なし」となることがあります。

問題

アップグレードがサポートされていないため、添付されたベースラインのステータスは「互換性なし」となります。

原因

現在のハードウェアバージョンが、ホストでサポートされる最新バージョンよりも高いため、仮想マシンの仮想ハードウェアのアップグレードパスが不可能です。[アップグレードの詳細]ウィンドウに、実際のハードウェアバージョンが表示されます。

解決方法

回避策はありません。アップグレードの詳細を確認し、現在のハードウェアバージョンを確認します。

Update Manager は、Microsoft SQL Server データベースおよび Oracle データベースを使用して、情報を格納します。Microsoft SQL Server データベースと Oracle データベースのデータベース ビューは同じです。

この章には、次のトピックが含まれています。

- VUMV_VERSION
- VUMV_UPDATES
- VUMV_HOST_UPGRADES
- VUMV_PATCHES
- VUMV_BASELINES
- VUMV_BASELINE_GROUPS
- VUMV_BASELINE_GROUP_MEMBERS
- VUMV_PRODUCTS
- VUMV_BASELINE_ENTITY
- VUMV_UPDATE_PATCHES
- VUMV_UPDATE_PRODUCT
- VUMV_ENTITY_SCAN_HISTORY
- VUMV_ENTITY_REMEDIATION_HIST
- VUMV_UPDATE_PRODUCT_DETAILS
- VUMV_BASELINE_UPDATE_DETAILS
- VUMV_ENTITY_SCAN_RESULTS
- VUMV_VMTOOLS_SCAN_RESULTS
- VUMV_VMHW_SCAN_RESULTS

VUMV_VERSION

このデータベース ビューには、Update Manager のバージョン情報が含まれています。

表 14-1. VUMV_VERSION

フィールド	説明
VERSION	x.y.z 形式の Update Manager のバージョン (1.0.0 など)
DATABASE_SCHEMA_VERSION	Update Manager データベース スキーマのバージョン (増加する整数値)。1 など

VUMV_UPDATES

このデータベース ビューには、ソフトウェア アップデートのメタデータが含まれます。

表 14-2. VUMV_UPDATES

フィールド	メモ
UPDATE_ID	Update Manager によって生成された一意の ID
TYPE	エンティティのタイプ: 仮想マシンまたはホスト
TITLE	タイトル
DESCRIPTION	説明
META_UID	このアップデートのベンダーが提供する一意の ID (たとえば、Microsoft アップデートの場合、MS12444 など)
SEVERITY	更新の重要度情報: 該当なし、低、中程度、重要、最重要、全体的 (ホスト)、セキュリティ (ホスト)
RELEASE_DATE	このアップデートがベンダーからリリースされた日付
DOWNLOAD_TIME	このアップデートが Update Manager サーバによって Update Manager データベースにダウンロードされた日付と時刻
SPECIAL_ATTRIBUTE	このアップデートに関連付けられている特別な属性 (たとえば、すべての Microsoft サービス パックには、Service Pack というマークが付けられている)
COMPONENT	HOST_GENERAL、VM_GENERAL、VM_TOOLS、VM_HARDWAREVERSION などのターゲット コンポーネント
UPDATECATEGORY	アップデートがパッチとアップグレードのどちらであるかの指定

VUMV_HOST_UPGRADES

このデータベース ビューは、ホスト アップグレード パッケージに関する詳細情報を提供します。

表 14-3. VUMV_HOST_UPGRADES

フィールド	説明
RELEASE_ID	VUMV_UPDATES と UPDATES_ID を参照するデータベース生成 ID
PRODUCT	ESXi ホスト

表 14-3. VUMV_HOST_UPGRADES (続き)

フィールド	説明
VERSION	x.y.z 形式で表されるバージョン番号
BUILD_NUMBER	ESXi ホスト バージョンのビルド番号
DISPLAY_NAME	ユーザーに表示される名前
FILE_NAME	アップグレード ファイルの名前

VUMV_PATCHES

このデータベース ビューには、パッチ バイナリのメタデータが含まれます。

表 14-4. VUMV_PATCHES

フィールド	説明
DOWNLOAD_URL	パッチ バイナリの URL
PATCH_ID	Update Manager サーバが生成した、現在のパッチの一意の ID
TYPE	パッチのタイプ：仮想マシンまたはホスト
NAME	パッチの名前
DOWNLOAD_TIME	Update Manager サーバがこのパッチを Update Manager データベースにダウンロードした日時
PATCH_SIZE	パッチのサイズ (KB 単位)

VUMV_BASELINES

このデータベース ビューには、特定の Update Manager ベースラインの詳細が含まれています。

表 14-5. VUMV_BASELINES

フィールド	メモ
BASELINE_ID	Update Manager サーバがこのベースラインに生成した一意の ID
NAME	ベースラインの名前
BASELINE_VERSION	ベースラインが変更された時間に関する履歴 (古いバージョンはデータベースに保持される)
TYPE	ベースラインのタイプ：仮想マシンまたはホスト
BASELINE_UPDATE_TYPE	ベースラインのタイプ：固定または動的
TARGET_COMPONENT	HOST_GENERAL、VM_GENERAL、VM_TOOLS、VM_HARDWAREVERSION などのターゲット コンポーネント
BASELINE_CATEGORY	ベースライン カテゴリ (パッチ、アップグレードなど)

VUMV_BASELINE_GROUPS

このデータベース ビューには、特定の Update Manager ベースライン グループの詳細が含まれています。

表 14-6. VUMV_BASELINE_GROUPS

フィールド	メモ
BASELINE_GROUP_ID	Update Manager サーバがこのベースライン グループに生成した一意の ID
VERSION	ベースライン グループのバージョン
NAME	ベースライン グループの名前
TYPE	このベースラインを適用するターゲットのタイプ：仮想マシンまたは ESXi ホスト
DESCRIPTION	ベースライン グループの説明
DELETED	削除された場合、ベースライン グループの削除に関する情報
LASTUPDATED	ベースライン グループが最後に更新された時刻に関する情報

VUMV_BASELINE_GROUP_MEMBERS

このデータベース ビューには、ベースラインとそのベースラインが含まれているベースライン グループとの関係に関する情報が含まれています。

表 14-7. VUMV_BASELINE_GROUP_MEMBERS

フィールド	説明
BASELINE_GROUP_ID	Update Manager サーバがこのベースライン グループに生成した一意の ID
BASELINE_GROUP_VERSION	ベースライン グループのバージョン
BASELINE_ID	ベースライン グループに含まれるベースラインの名前

VUMV_PRODUCTS

このデータベース ビューには、オペレーティング システムやアプリケーションなどについての製品のメタデータが含まれています。

表 14-8. VUMV_PRODUCTS

フィールド	説明
PRODUCT_ID	Update Manager サーバが生成した一意の製品 ID
NAME	製品の名前
VERSION	製品のバージョン
FAMILY	Windows、Linux、ESX ホスト、または Embedded ESXi ホスト、インストール可能な ESXi ホスト

VUMV_BASELINE_ENTITY

このデータベース ビューには、特定のベースラインが添付されているオブジェクトが含まれています。

表 14-9. VUMV_BASELINE_ENTITY

フィールド	説明
BASELINE_ID	ベースライン ID (外部キー、VUMV_BASELINES)
ENTITY_UID	エンティティの一意の ID (vCenter Server が生成した管理対象オブジェクト ID)

VUMV_UPDATE_PATCHES

このデータベース ビューには、ソフトウェア アップデートに対応するパッチ バイナリが含まれています。

表 14-10. VUMV_UPDATE_PATCHES

フィールド	説明
UPDATE_ID	ソフトウェア アップデート ID (外部キー、VUMV_UPDATES)
PATCH_ID	パッチ ID (外部キー、VUMV_PATCHES)

VUMV_UPDATE_PRODUCT

このデータベース ビューには、特定のソフトウェア アップデートを適用する製品 (オペレーティング システムとアプリケーション) が含まれています。

表 14-11. VUMV_UPDATE_PRODUCT

フィールド	説明
UPDATE_ID	ソフトウェア アップデート ID (外部キー、VUMV_UPDATES)
PRODUCT_ID	製品 ID (外部キー、VUMV_PRODUCTS)

VUMV_ENTITY_SCAN_HISTORY

このデータベース ビューには、スキャン操作の履歴が含まれています。

表 14-12. VUMV_ENTITY_SCAN_HISTORY

フィールド	メモ
SCAN_ID	Update Manager サーバが生成した一意の ID
ENTITY_UID	スキャンが開始されたエンティティの一意の ID
START_TIME	スキャン操作の開始時刻
END_TIME	スキャン操作の終了時刻

表 14-12. VUMV_ENTITY_SCAN_HISTORY (続き)

フィールド	メモ
SCAN_STATUS	スキャン操作の結果 (成功、失敗、キャンセルなど)
FAILURE_REASON	失敗の原因を説明するエラー メッセージ
SCAN_TYPE	スキャンのタイプ: バッチまたはアップグレード
TARGET_COMPONENT	HOST_GENERAL、VM_GENERAL、VM_TOOLS、VM_HARDWAREVERSION などのターゲット コンポーネント

VUMV_ENTITY_REMEDIATION_HIST

このデータベース ビューには、修正操作の履歴が含まれています。

表 14-13. VUMV_ENTITY_REMEDIATION_HIST

フィールド	メモ
REMEDICATION_ID	Update Manager サーバが生成した一意の ID
ENTITY_UID	修正が開始されたエンティティの一意の ID
START_TIME	修正の開始時刻
END_TIME	修正の終了時刻
REMEDICATION_STATUS	修正操作の結果 (成功、失敗、キャンセルなど)
IS_SNAPSHOT_TAKEN	修正前にスナップショットが作成されたかどうか

VUMV_UPDATE_PRODUCT_DETAILS

このデータベース ビューには、特定のソフトウェア アップデートを適用する製品 (オペレーティング システムとアプリケーション) に関する情報が含まれています。

表 14-14. VUMV_UPDATE_PRODUCT_DETAILS

フィールド	説明
UPDATE_METAUID	ソフトウェア アップデート ID (外部キー、VUMV_UPDATES)
UPDATE_TITLE	アップデートのタイトル
UPDATE_SEVERITY	更新の影響情報: 該当なし、低、中程度、重要、最重要、全体的 (ホスト)、セキュリティ (ホスト)
PRODUCT_NAME	製品の名前
PRODUCT_VERSION	製品のバージョン

VUMV_BASELINE_UPDATE_DETAILS

このデータベース ビューには、ベースラインの一部であるソフトウェア アップデートに関する情報が含まれます。

表 14-15. VUMV_BASELINE_UPDATE_DETAILS

フィールド	メモ
BASELINE_NAME	ベースラインの名前
BASELINE_ID	Update Manager サーバがこのベースラインに生成した一意の ID
BASELINE_VERSION	ベースラインが変更された時間に関する履歴 (古いバージョンはデータベースに保持される)
TYPE	ベースラインのタイプ: 仮想マシンまたはホスト
TARGET_COMPONENT	このベースラインを適用するターゲットのタイプ: 仮想マシンまたはホスト
BASELINE_UPDATE_TYPE	ベースラインのタイプ: 固定または動的
UPDATE_METAUID	アップデートのメタ ID
TITLE	アップデートのタイトル
SEVERITY	更新の重要度: 該当なし、低、中程度、重要、最重要、全体的 (ホスト)、セキュリティ (ホスト)
ID	データベースで生成された一意の ID: アップデートおよびバッチの場合は UPDATE_ID、ホストのアップグレードの場合は RELEASE_ID

VUMV_ENTITY_SCAN_RESULTS

このデータベース ビューには、特定のエンティティのアップデートに関するステータス履歴が含まれます。

表 14-16. VUMV_ENTITY_SCAN_RESULTS

フィールド	メモ
SCANH_ID	データベースが生成したスキャンの一意の ID
ENTITY_UID	エンティティの一意の ID (vCenter Server が割り当てた管理対象オブジェクト ID)
SCAN_START_TIME	スキャン プロセスの開始時刻
SCAN_END_TIME	スキャン プロセスの終了時刻
UPDATE_METAUID	アップデートの一意のメタ ID
UPDATE_TITLE	アップデートのタイトル

表 14-16. VUMV_ENTITY_SCAN_RESULTS (続き)

フィールド	メモ
UPDATE_SEVERITY	更新の重要度：該当なし、低、中程度、重要、最重要、全体的（ホスト）、セキュリティ（ホスト）
ENTITY_STATUS	アップデートに関連するエンティティのステータス：不足、インストール済み、該当なし、不明、ステージング済み、競合、ホストにサポートされない旧式、パッケージの不足、インストール不能、新規モジュール、サポートされていないアップグレード、互換性のないハードウェア

VUMV_VMTOOLS_SCAN_RESULTS

このデータベース ビューには、VMware Tools のスキャンの最新の結果に関する情報が表示されます。

表 14-17. VUMV_VMTOOLS_SCAN_RESULTS

フィールド	メモ
SCANH_ID	データベースが生成したスキャンの一意の ID
ENTITY_UID	エンティティの一意の ID (vCenter Server が割り当てた管理対象オブジェクト ID)
SCAN_START_TIME	スキャン プロセスの開始時刻
SCAN_END_TIME	スキャン プロセスの終了時刻
ENTITY_STATUS	最新の VMware Tools バージョンを基準としたエンティティのステータス

VUMV_VMHW_SCAN_RESULTS

このデータベース ビューには、仮想マシンのハードウェア スキャンの最新の結果に関する情報が表示されます。

表 14-18. VUMV_VMHW_SCAN_RESULTS

フィールド	メモ
SCANH_ID	データベースが生成したスキャンの一意の ID
ENTITY_UID	エンティティの一意の ID (vCenter Server が割り当てた管理対象オブジェクト ID)
SCAN_START_TIME	スキャン プロセスの開始時刻
SCAN_END_TIME	スキャン プロセスの終了時刻
VM_HW_VERSION	仮想マシン ハードウェア バージョン
HOST_HW_VERSION	ホストで推奨されるハードウェア バージョン